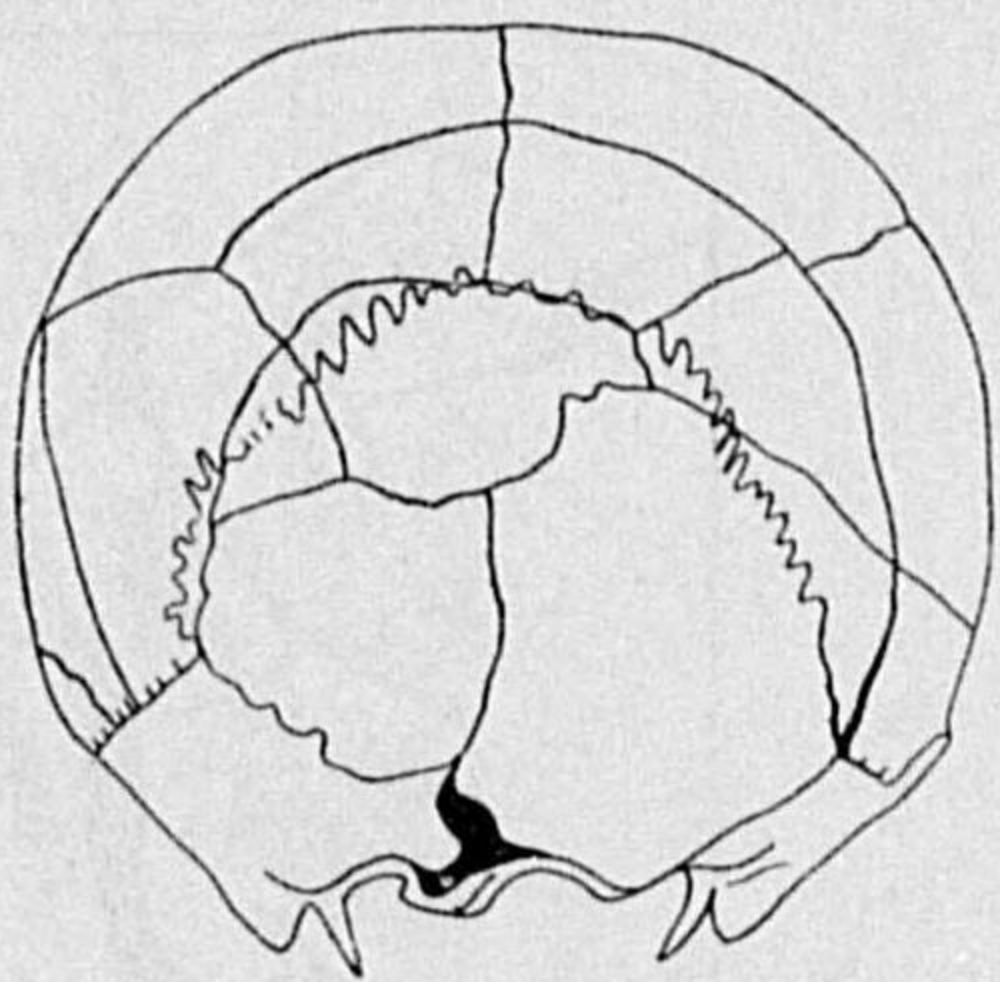


破裂端ニテ頭皮ヲ切り、恰モ他人ニ切ラレタルガ如ク見ユルコトアリ、又骨折ガ被害ノ反側部ニモ生ジ、時トシテ却テ外力ノ直接作用セシ所ニハ破裂少キ場合アリ。有稜ノ鈍器ニテ毆打サルル時ハ頭骨ハ其形ニ從ヒテ陥凹ス、例之金槌ニテ打タレタル時ニハ金槌ノ底部ト同様ノ穿孔骨折ヲ作ルガ如キハソノ例ナリ。

圖二百五十五



ノモル七裂破骨頭テシ突衝ニ車働自

有刃ノ鈍器ニヨル頭皮ノ損傷ニハ比較的皮下出血少ク頭骨切痕ノ長サハ、多クハ頭皮損傷ヨリ短クモシ鈍器ガ重キカ、或ハ強力ニテ作用スル時ハ骨破裂ヲ伴フ。頭骨ノ内最モ破

裂頻度ノ多キハ顛頂骨、顛頂骨等ナリ。

頭骨破裂乃至腦質損傷後ノ生存時間ハ暴力ノ強弱ニヨリテ一定セザレドモ、強キ時ハ即死シ被害中等度ノ時ハ二、三時間生存シ、輕度ナル時ハ二、三日乃至數日生存スルコトアリ。

時間意識清明ニシテ、随分複雑ナル行動或ハ思考ヲナスコトヲ得ルモノナリ。例ヘバえむめると氏ニ依レバ或朝深サ百八十糎ノ溝中ニ一男子徘徊セルヲ認メ、之ヲ呼ビタルニ同人ハ自力ニテ溝ヨリ登リ來リ蹣跚タル歩行ヲナシ、某家ニ伴ヒ行カレタルガ其日ノ内ニ死亡セリ、之ヲ剖檢シタルニ右顛頂骨ヨリ左顛頂骨ヲ經テ土耳其鞍ニ達スル骨破裂及強度ノ腦膜間出血ヲ發見シ、尙左顛頂葉ノ裂傷第四乃至第七肋骨及右腎ノ小破裂ヲ伴ヘルヲ見タリ、又ち一む氏ニ依レバ午後六時左顛頂上ニ石塊ニテ打撃ヲ受ケタル一男子、其神識ヲ失フコトナクシテ歸家シ、家族ト共ニ晚餐ヲ喫シテ後劇場ニ赴キ十一時頃迄場内ニ止マリテ後歸宅シタルニ、翌午前二時ニ至リ初メテ疾苦ヲ訴ヘ拂曉四時死亡シタレバ、ソノ死體ヲ剖檢シタルニ左顛頂骨鱗狀部ニ陥凹ヲ兼ネタル骨折及頭蓋骨竝ニ硬腦膜間ニ多量ノ溢血アルヲ發見シタリト云フ。又顛頂部ヲ射撃シテ自殺スル際、往々反射的ニ第二發ヲ加フルヲ得、甚シキニ至リテハ自己ノ手ニテ第五發迄射撃シタルモノモアリ。予モ亦之ニ類スル例二、三ニ遭遇セリ、一例ハ頭部及顔面ニ金槌ヲ以テ強打ヲ被リタルモノニシテ、顔面ノ裂傷ヨリハ腦質ヲ溢出シ一時人事不省ニ陥リタルヲ以テ、加害者ハ既ニ被害者ガ死亡セシモノト思ヒ其儘犯行現場ヲ立去リタルニ、間モナ

各部ニ於ケル損傷検査

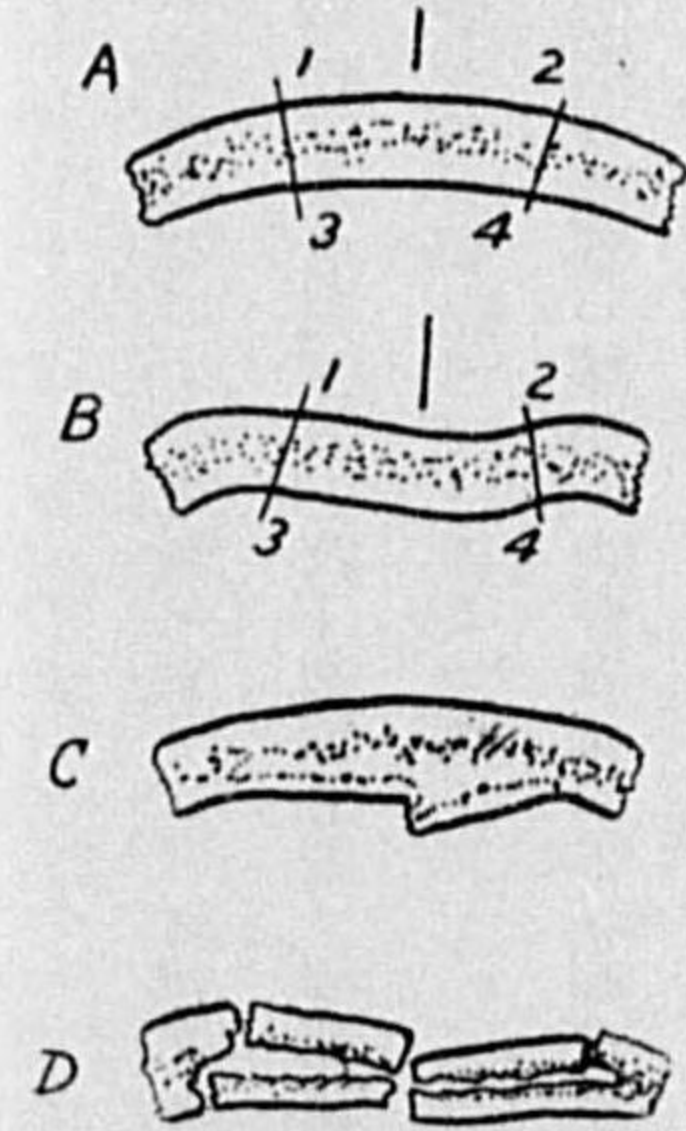
圖三百五十五



ルヨニ來襲ノ體鈍ルナ大重 裂破底蓋頭

(口) 腦損傷 腦ノ損傷方無菌性ナル時ハ意外ニ早ク痕跡ヲ殘サズ治癒スルコトアレドモ、モシ有菌性トナルカ樞要部ヲ害セシ時ハ、腦膜炎、膿瘍、癰疽、糖尿病等ヲ來シ或ハ精神病者トナリ、ソノ經過甚ダ不良ナルモノナリ。 腦ハ吾人ノ生命ニ甚ダ重要ナル臟器ナレバ、腦ニ相當ナル損傷ヲ被レバ殆ンド

圖四百五十五 法方ノ裂破骨頭



圖型模ノ折骨骨頭

瞬時ニ死亡スルモノノ如ク考ヘラルレド實ハ然ラズ、受傷後相當ノ

ク被害者ハ生氣ヲ恢復シ甚シク出血シツツ數回ヲ這ヒ廻リ、遂ニ出血死ニ陥リ居レルモノニシテ、他ノ一例ハ炭山ノ一工夫同僚數人ノ爲メ甚ダシク頭部及背面ヲ毆打セラレテ自家ニ歸リ、苦惱ヲ訴ヘツツアリシガ、受傷後六時間ニシテ痙攣ヲ發シ死亡セリ、剖檢ノ結果腦膜ニ輕微ナル溢血點アルノミニシテ、身體何處ニモ死因トナル程ノ病的變化ナカリシ。

(ハ) 顔面ノ損傷 ニテ外科學的ニハ意味少ナキモノモ、時々醜貌ノ原因トナリ、小ナル癢痕ヲ結ブ場合ト雖法醫學的ニハ重大ナル意味ヲ有スル事アリ、ソノ他ノ損傷ニ就テハ、略頭部ニ於ケル關係ト相同ジ。

(ニ) 眼ノ損傷 眼球ニ鈍器襲來シテ挫傷ヲ來シ或ハ脈絡膜破裂ヲ伴ヒ、網膜剝離ヲ招來スルコトアリ、時トシテ諸種異物眼球内ニ入り種々ノ障礙ヲ來ス、往々視力障礙ヲ訴ヘテ詐病シ兵役ヲ免レ或ハ自己ノ利益ヲ謀ラント企ツル患者アリ、コノ時ハすきやすこび1、視野、眼底検査ニヨリテソガ詐病ナルヤ否ヤヲ鑑定スベシ、即ち實際ノ疾病アルモノニハ多クハ一、二ノ客觀的所見ヲ發見スルモノナレバ、之レナキニ於テハ詐病ナラントノ疑ヲ持シ、周圍ノ狀況ヲ併セ考ヘ注意シテ診定スベシ、何トナレバ全ク客觀的病



の所見ナクシテ、實際視力障礙ノ存スルニ、三ノ眼疾病アレバナリ。職業ノ關係上、色盲或ハ偽色盲ヲ檢定スル必要アルコトアリ、此時ハ諸種ノ色彩ヲ有スル紙片又ハ毛絲類ヲ用ヒ、テ或ハ色盲検査ノ目的ニ製造シタル色彩表ヲ用ヒテ検査ヲ施行スベシ。

(ホ)耳ノ損傷 耳鼓ヲ失フコトハ聽力ニハ左シタル障礙ナシ、多クハ外貌ノ關係上問題トナル、時トシテ下顎骨ヲ強ク打タレン爲メニ、外聽道ヲ損傷スルコトアリ。次ニ鼓膜ノ破裂ハ直達性或ハ介達性ノ原因ニヨリテ來ル、前者ハ燐寸ノ軸或ハ耳搔等ノ如キモノヲ外聽道ニ入レ、誤ツテ鼓膜ヲ害スルモノニシテ、後者ハ大爆發ノ如キモノアリテ來ル空氣ノ振動乃至耳打等ニヨル外聽道内ニ於ケル氣壓ノ急激ナル變化ニヨリテ生ズルモノニシテ、此時ニ見ル裂孔ハ多クハ線狀或ハ破裂狀ニシテ邊緣ハ鋭ク、新鮮ナル場合ニハ少シク出血シ或ハ溢血アルヲ常トス。然ルニ病的ノ鼓膜穿孔ハ圓形乃至橢圓形ヲナシ分泌物アリ出血ヲ見ザルガ故ニ、ソノ何レナルカヲ鑑別スルコトヲ得ルモノナリ。

病的穿孔

外傷性穿孔

- 一、部位一定セズ、鼓膜ノ前下部或ハ後下部ニ多シ、
二、形狀ハ通常圓形或ハ橢圓 細長ニシテ線狀或ハ紡錘形ヲ爲シ、

(三)耳部ノ拳打、銃砲ノ發射、火藥ノ爆發等ニ因リ殊ニ鼓膜破裂セザルトキニ多ク發生ス、即チ高壓ニ由リ鑛骨ヲ内方ニ壓シ、迷路内壓力亢進シ、淋巴液劇シク動搖シ微細ノ聽神經終末器破壊セラシルニ至ル、(四)潜水作業者、氣球操縦者等モ身體内外ノ氣壓劇變スルトキハ本症ヲ發スルコトアリ

症狀ハ頭部外傷或ハ氣壓劇變ニ因ル者ニ在テハ、初メ人事不省ニ陥リ、醒覺後惡心、嘔吐、眩暈、均衡障礙、眼球震盪症、頭痛、難聽、耳鳴等ヲ發シ、鼓膜ハ變化ナキカ或ハ僅ニ充血スルノミ、聽覺試験上偏側ノ迷路震盪症ニ在テハウヘーベ氏(Weber) 法健側ニ偏シ(C音又ハ一秒時間約百二十八振動)ヲ強ク打チテ發音セシメ、被檢者ノ頭蓋正中線ノ一點ニ置キ若シ患側ニ強ク感ズルトキハ、ウヘーベ氏法患側ニ偏スト云ヒ、之ニ反(骨導短縮)シ高音ヲ聽取スルノ能不良トナリ、りんね氏 Rinne(C)法多クハ陽性ナリ、(C音又ハ發音セシメテ乳嘴ルニ至リ被檢者ヲシテ合圖ヲナサシメ、之ヲ直ニ同側外聽道口ノ近傍ニ把持スルトキハ、生理的ニ氣導ハ骨導ニ比シ佳良ナルヲ以テ、尙數秒間音ヲ聽クコトヲ得、此現象ヲりん)經過ハ輕症者ニ在テハ、數時或ハ數日ニシテ治ス、中等度ノ者ハ通常一乃至四月ニシテ聽力恢復スルモ耳鳴ヲ貽ス、重症者ハ耳鳴難聽等ノ症候減退セザルノミナラズ終ニハ聾トナル。時トシテ眞ノ聾者ニアラズシテ聾ヲ裝ヒ、或ハ利益ヲ得ントシテ聾ヲ隱匿スルコトアリ、此觀破ニ就テハ後出詐病論ニ於テ詳述セン。

各部ニ於ケル損傷検査

形時トシテ心臟或ハ腎臟形 多クハ放線狀纖維ノ方向ニ從フ、ナリ 時トシテハ不正形瓣狀ヲナス、

三、邊緣鈍ニシテ肥厚シ出血 邊緣銳利ニシ 凝血ヲ附着ス、點ナシ

四、粘膜腫脹充血シ、屢分泌 鼓室粘膜黃色ヲ呈シ、腫脹充血等物ヲ附着ス ナシ

五、概シテ溢血ナシ 穿孔ノ周圍ニハ溢血點ヲ見ル 迷路ノ損傷モ亦直達性ト介達性ニ區別ス、前者ニ在テハ外力強制ナルトキ他ノ重要臟器ノ損傷ヲ兼ネ即死スル場合多ケレドモ、迷路ノミニ限局セル直達性損傷ハ外聽道ヨリ直接ニ銳利ナル器具ヲ以テ之ヲ損傷スルカ或ハ鈍創等ニ於テ見ルコトアリ、其症狀ハ眩暈、身體均衡障礙、眼球震盪症、惡心、嘔吐、耳鳴、其他難聽若クハ聾ナリ、又外聽道ト迷路腔ト交通スルトキハ迷路内淋巴液流出ス、豫後ハ概シテ良ナラズ。

後者ハ所謂迷路震盪症ニシテ原因ハ(一)頭部ノ打撲衝突ニ由テ生ズ外力輕微ナルモ既ニ之ヲ發スルコトアリ、又外力強キトキハ腦震盪ト共ニ之ヲ發ス、(二)墜落等ニ由リ劇シク臀部足部ヲ衝突スルトキ、脊柱ヲ介シテ間接ニ此症ヲ發スルコトアリ。

(ハ)頭部損傷 頸部ニハ生命保持ニ大切ナル大血管或ハ神經走行スルヲ以テ、此部ニ於ケル損傷ハ屢々人ヲ死ニ致スモノナリ、喉頭ヲ挫傷スレバしよつく或ハ聲帶痙攣ニ因リテ死シ、氣管ヲ損傷スレバ呼吸困難ヲ來シ或ハ嚥下肺炎ヲ起シ易ク、迷走神經、頸動脈或ハ頸靜脈ヲ傷ケバ、容易ニ出血著クハ栓塞等ニヨリテ死ニ至ル、頸部ハ重荷ヲ支フル所ナル故往々暴力ヲ受ケ、爲メニ頸部椎骨ノ脫臼又ハ頸髓ノ震盪症等ヲ來ス。

(ト)胸部及背部ニ於ケル損傷 前胸部或ハ胃部ニ鈍器ノ襲來ヲ被ル時ハ、しよつくニヨリ瞬時ニ斃ルルコトアリ、此時ハ被害部ニ何等損傷ノ痕跡ナキカ或ハ輕微ノ損傷ヲ有スルノミニテ、解剖上特有ナル所見ナク窒息急死ニ見ルガ如キ所見アルノミナリ。

胸部ニ鈍器ノ襲來ヲ受ケ肋膜炎或ハ外傷性肺炎ノ惹起スルコトハ内科學ノ教ユル所ナリ。肺ノ破裂ハ非常ニ少ナキモノナレドモ、外傷ニ依リテ心筋炎、瓣膜疾患、心臟破裂等ハ比較的容易ニ來ルコトアリ。

胸部ニ強大ナル暴力ノ作用シタル際、或ハ非常ナル高所ヨリ墜落シテ胸部ニ大震盪ヲ與ヘタル際、若クハ心臟ニ瘀痕等アルモノ、重荷ヲ學上セントスル際等ニ突然心臟破裂ヲ來スコトアリ、心臟破裂



セバ殆ンド破格ナク即時ニ死亡スルモノナレドモ、ソノ破裂口ノ小ナル場合ニハ一、二時間以上モ生命ヲ保ツコトヲ得、しゆする氏ニヨレバ心臟破裂ノ八十二例中二十四例ハ即時ニ死亡シ、二十九例ハ二、三分ノ後ニ死ヲ來シ、ソノ他ノ小數ハ或ハ長距離ヲ歩行シ、或ハ數時間乃至數日ニシテ死ニ至リシモノスラアリ。

心臟ニ刺創ヲ受クル時モ亦意外ニ長時間生存スルコトアリ、コレ創管ノ斜走セル時ハ創瓣五ニ相密着シテ辨狀ノ作用ヲナシ、且血液ハ創ノ内口ニ凝着シテ、創口ヲ一定度迄閉鎖シ、以テ血液ノ溢血ヲ防ギ血液ノ心囊たんぼヲ作ルヲ防止スルニ由ル、一般ニ云ヘバ創口大ニシテ創管筋層内ヲ直行セルモノ、心囊たんぼヲ作レルモノ及心臟ノ神経装置ヲ害シタルモノハ、ソノ死ニ至ル時間短シ、即チ心耳ニ於ケル損傷ニテハ死ニ至ル迄ノ時間短キガ如シ、例ヘバ心臟ニ刺創ヲ被リ殆ド即時ニ一言モ發セズ死亡スルモノアルカト思ヘバ、受傷後相當ニ良ク生存シ随分複雑ナル行動ヲ取り得ルモノアリ。

背部ニ於ケル鈍器損傷ニテ脊髄震盪ノ來ルコトアリ、列車衝突ノ際ニ起ルレ一るうえ一すばいんハ外傷性神経病トシテ注意スベキモノナリ。

胸部背部ニモ切、刺傷ノヨク來ルコトハ云フ迄モナキコトナル

於ケル合式ノ切腹ニ非ラズト云フ。而シテ切腹ヲ仰セ付ケラレタル際、死因トナルハソノ介錯ニヨレル打首或ハ頸部刺創ニ由來スル出血或ハしよつく等ナリトス、彼ノ四十七士方切腹ヲナシタル記載ヲ讀ムニ、僅ニ短刀ヲ腹部ニ擬スレバ己ニ首ハ前ニ落ちタリト云フヲ見ルモ、ソノ大體ヲ察知スルコトヲ得ン、即チ剛膽ナル武士方腹眞一文字ニ搔キ切り、而シテ後介錯ヲ受クルハ云ハバ覺悟ノ上ノ死ナリトノ證左ニ過ギズ、腹部ニ於ケル淺キ皮切ニ依リテ直ニ死ニ至ルコトハ到底考ヘ得ルコトニ非ズ、此合式ノ切腹法ヲ知ラズシテ腹壁ニ皮切ヲ施シ自殺ヲ企ツルモノアルモ、ソノ皮創ニハ逡巡ノ跡ナル數多ノ小皮切ヲ伴ヒ居ルコトハ已ニ前述セルガ如シ。而シテ自殺者ハ此切腹ニ因リテ直ニ死ニ切レザルコトハ、數多ノ實例ガ之レヲ實示スルニヨリテ明ナリ。次ニ解剖検査ヲ行ハズ單ニ外表検査ノミニテ死體ヲ所置セントスル場合ニハ、肛門或ハ陰門等ヲモ注意シテ検査スベシ、何トナレバ此部ヨリ種々ノ損傷ヲ腹腔臟器ニ加ヘ、或ハ毒物ヲ挿入シテ死ニ至ラシムルコトアレバナリ。

第廿九例 合式切腹者検査記録

赤坂區新坂町五十五番地

華族 乃木 希典

嘉永二年十一月十一日生

死體ハ左側ヲ下ニセル半俯臥ノ位置ニアリテ左上肢ハ左胸側ニ沿ヒ肘關節ヲ

各部ニ於ケル損傷検査

ガ、時トシテ胸部ノ刺創ニ依リテ肺心ヲ傷ケ或ハ氣胸、膿胸ヲ惹起スルコトアリ。

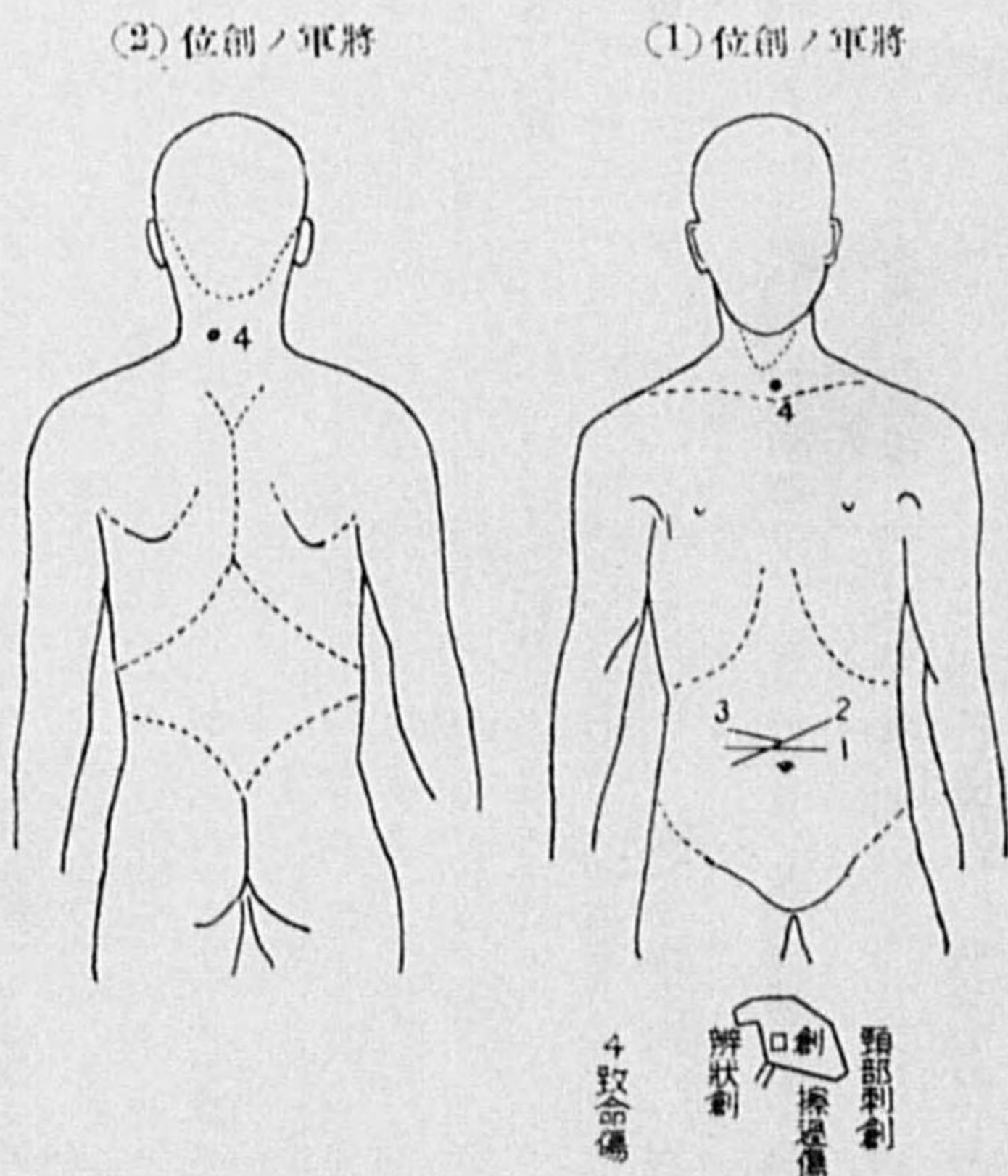
(子)腹部ニ於ケル損傷 腹壁ニ鈍體ノ襲來ヲ被リ外皮ニ何等ノ損傷ヲ與ヘズシテ、しよつくヲ起シ或ハ内臟破裂ヲ來シ、内出血ニ依リテ死ニ至ルコトアリ、内臟中肝臟ハ最モ破裂シ易キモノニシテ膀胱ノ之ニ反スルコトハ前述スルガ如シ、胃腸ガ破裂シソノ内容腹腔内ニ漏ルレバ腹膜炎ヲ惹起シテ死ニ至ルコトアルハ自明ノ理ナリ、時トシテ大ナル暴力ニ因リテ腰椎ノ脱臼ヲ來スコトアリ、往々外力ノミニ因リテへるにあヲ生成スルヤ否ヤガ問題トナルコトアリ、一般ノ學者ノ信ズル所ニ依レバコハ殆ンド不能ノコトニシテ、へるにあヲ來シ易キ體質アル人ガ暴力ヲ被リテ初メテへるにあヲ惹起スル場合多シト云フ。

腹部ニ種々ノ鈍器損傷ノ來ルハ云フ迄モナキコトニシテ、腹壁ニ於ケル大ナル血管ヲ切レバ出血ニ依リテ生命ニ危険ヲ及ボシ、モシ該傷ガ腹膜腔ニ達シ或ハ内臟ヲ害スレバ更ニ危険ヲ増加スルモノナリ、我邦ニ於テ古來正式ノ切腹トシテ知ラレタルハ、日本刀ヲ以テ前腹壁ヲ僅ニ筋層ニ達スル迄切傷スルモノニシテ、之ニ依リテ大ナル出血ヲ見或ハ腸管等ヲ露出セシメテ醜態ヲ演ズルハ、眞ノ武士道ニ

屈シ半握ノ手掌ヲ左胸部ニ當テ右四肢ハ伸展シ半開ノ手掌ヲ兩大腿ノ間ニ置ク左下肢ハ少シク屈曲シ右下肢ハ伸展シテ左下肢ノ上ニ在リ。體格榮養共ニ中等ニシテ皮下脂肪組織ニ乏シ全身諸關節未ダ死後強直ヲ發セズ

頭部毛髮ハ長サ約二仙達、半白ニシテ粗ナラズ頭部損傷ヲ認メズ。顔面蒼白、兩頬、鼻下、頰部殆ド白髯ニ被ハレ左頰ハ凝血ヲ附ス、兩眼結膜蒼白色ニシテ角膜透明瞳孔ハ左右共ニ散大シ兩鼻腔内異狀ナシ兩耳孔亦然リ。上下齒共ニ義齒ニシテ舌ハ齒列ノ後方ニ在リ口腔内少量ノ暗紅色血液ヲ含ム前頭部甲狀軟骨ト環狀軟骨ト間ニ横徑五仙達ノ不正形ニ開口セル刺創ハ即チ軍刀ノ刺入口ニシテ創内ニ在リテハ氣管、食道、左總動靜脈達走神經等

第五百五十五圖





各部ニ於ケル損傷検査

ヲ切斷シ第三頸椎左横突起ヲ離斷シ左項部ニ貫通ス項部創口ハ左乳頭突起ノ下方約七左仙迷項部正中線ヨリ外方二・五仙迷ノ處ニアリテ横行ス、長徑二・五仙迷創縁銳利ナリ。

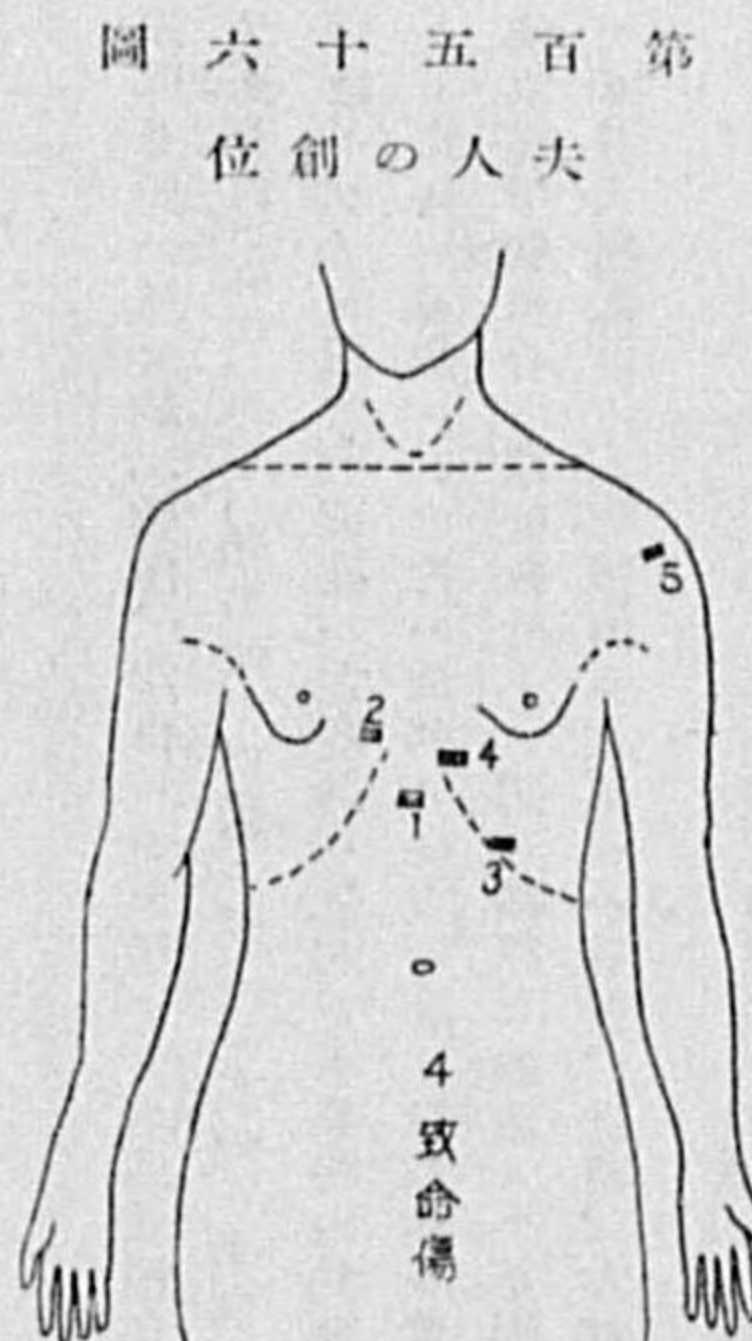
第三十例 合式自害者検査記録

乃木 靜子

安政六年十一月二十七日生

夫人ノ遺骸ヲ檢スルニ東方ヲ背ニシ正坐シテ頭部ヲ西方ニ垂レ將軍ノ遺骸ト相對向シ面部ヲ敷物ニ接シ兩頭部ノ間約五寸許リ、軀幹ハ白布ニ被ヘルハ机ノ右前方約一尺五寸乃至二尺許リノ處ニ在リ、頭髮ハ下ゲ髪ニシテ右側ヨリ垂レテ敷物ノ上ニ達シ身體ヲ前ニ屈シ兩上肢ヲ胸及腹部ニ當テ兩膝ヲ折り兩趾ヲ併ヘ端坐俯伏ノ態位ニアリテ衣裳等毫モ亂レズ。

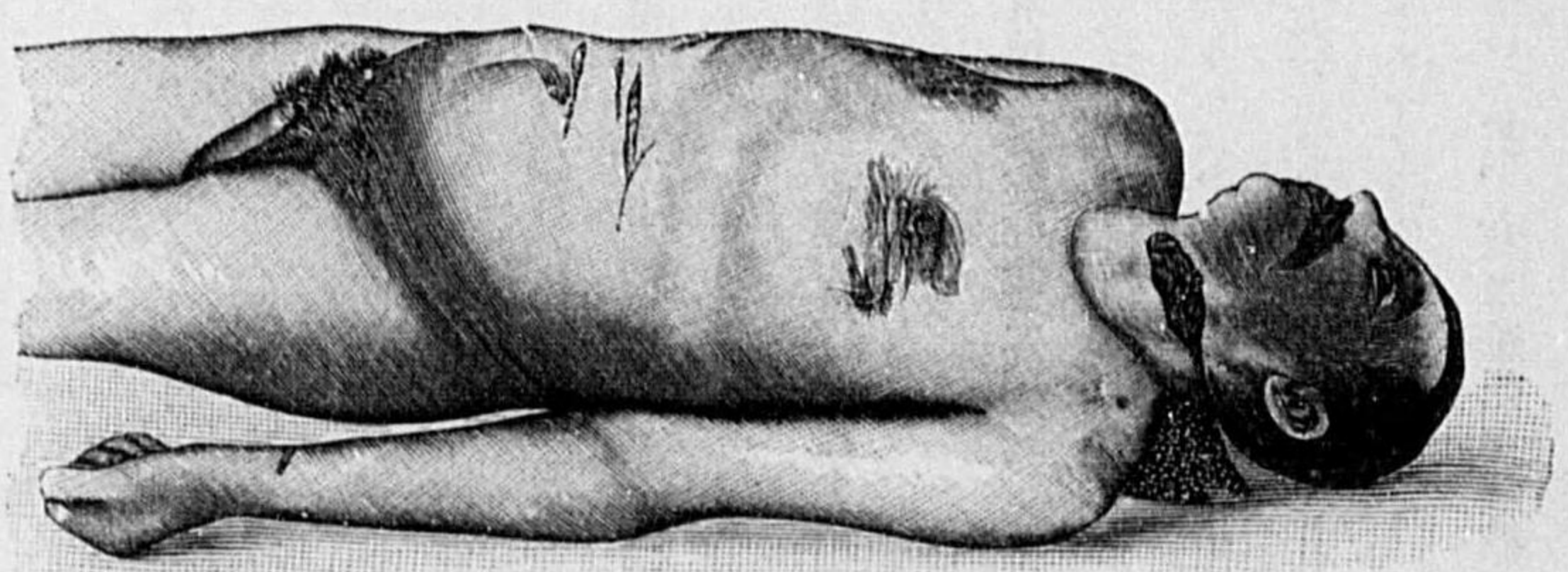
ラレタル一仙迷許リヲ除キテ全長胸内ニ刺入シ刀尖微ニ虧ケタリ漸次衣服ヲ脱却シテ檢スルニ創傷ニ一致スル部位ニ數所ノ切痕アリ。



頭部毛髮ハ黑色密生長サ二尺餘頭部ニ損傷ヲ認メズ。一、胸骨下端即劍尖ニ當ル部ニ長サ一仙迷深サ胸骨ニ達スル刺創アリ。

(ル)四肢ニ於ケル損傷

四肢ハ吾人ノ身體中最長ク外界ニ突出シ、且使用繁多ナル所ナルヲ以テ種々ノ損傷來ルコト多キモ、創傷傳染或ハ多大ノ出血ヲ來サザルニ於テハ直接ノ死因トナルコト少ク、四肢ノ一二或ハソノ全部ヲ缺クモ、生命ニハ毫モ障礙ヲ及ボサズ、只治療後、職業上ノ障礙ヲ殘スヲ以テ、工場法案ノ發布セラレタル今日、甚ダ屢法醫學的問題



上ノ部曲屈節關手左及創切ノ徑横ルケ於ニ部腹 殺自ノ所ル因ニ頭斷ルニ兼ヲ創切一ルケ於ニ方

各部ニ於ケル損傷検査

二、右胸骨第四肋間ノ胸骨右緣ニ長サ二仙迷深サ右肺ニ刺入スル横行ノ刺創アリ。

各部ニ於ケル損傷検査

三、右肋骨弓ノ上部左乳腺ノ内方ニ長サ一仙迷深サ皮下組織ニ達スル刺創アリ。

各部ニ於ケル損傷検査

四、左胸第五肋間胸骨左緣ヨリ外下方ニ向ヒ長サ三仙迷深サ約二十仙迷心臟右室ヲ貫通スル刺創アリ。

各部ニ於ケル損傷検査

五、左上膊ノ前外側ノ上部ニ前内下方ヨリ後外上方ニ向フ長サ一仙迷深サ皮下組織ニ達スル刺創アリ。

各部ニ於ケル損傷検査

六、左示指ト拇指トノ間ニ長サ四仙迷手背ヨリ手掌ニ達スル切創アリ深サ第一掌骨基底ニ達ス。

各部ニ於ケル損傷検査

右六個ノ創傷ハ何レモ創縁銳利ニシテ血液ヲ附着スルモ殊ニ第四創口ヨリハ半流動血液多量ヲ出ス、是レ即チ致命傷タリシモノナリ。

各部ニ於ケル損傷検査

背部、腹部、下肢總テ異常ヲ認メズ。

各部ニ於ケル損傷検査

此二例ヲ見バ武士ノ合式自殺法ノ如何ヲ知ルヲ得ン。

各部ニ於ケル損傷検査

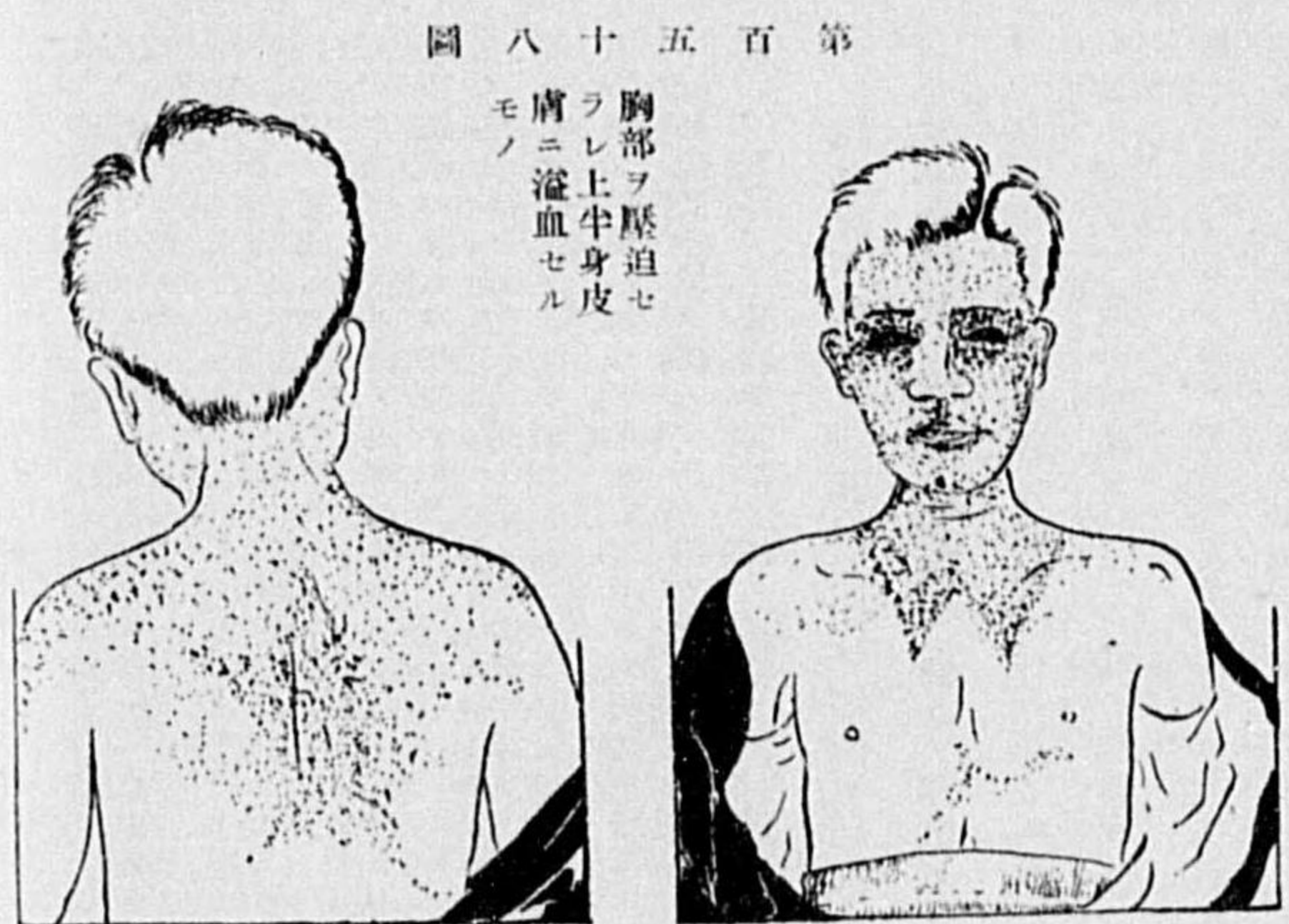
(リ)男子生殖器ニ於ケル損傷 辜丸ノ挫傷ニヨリテしよつく或ハ辜丸炎ヲ起シ、辜丸炎ノ爲メニ生殖腺萎縮退化シ遂ニ生殖力ヲ失フコトアリ、或ハ陰囊ヲ打チシ爲メ陰囊水腫ヲ來シ、若クハ夜尿ヲ戒ムル目的ニテ、陰莖ヲ緊縛シタル爲メ壞疽ニ陥リシコトアリ、ソノ他色情倒錯ノ爲メ此部ニ意外ノ損傷ヲ見ル場合アリ。

各部ニ於ケル損傷検査

(ヌ)女子生殖器ニ於ケル損傷 暴行ヲ受ケテ或ハ性交ニヨリ陰乃至會陰破裂ヲ來スコトアリ、此部ハ血管ニ富メル所ナルヲ以テ非常ノ出血ヲナシ生命ニ危険ヲ及ボス場合アリ。又色情倒錯或ハ墮胎ヲ試ミタル爲メ、種々ノ損傷ヲ内部生殖器ニ惹起スルコトアリ。



トナルコアリ、茲ニ最も多ク問題トナルハ骨折及脱臼ナリ。  
骨折ノ治癒スル日數ハ個人的或ハ骨折ノ狀況ニ依リ大ナル差異アリ  
レドモ、一般ニ外科學ノ教ユル所ニヨレバ、指骨二週、掌骨肋骨及趾  
骨三週、鎖骨四週、前膊骨五週、上膊骨及腓骨六週、上膊骨頭及脛骨七  
週、下腿骨八週、



大腿骨十週、大腿骨頭十二週ナリト云フト雖、コハ一概ニ然リト斷言スルコト能ハズ、複雑ナル骨折或ハ組織挫滅ノ際ハ甚シク治癒モ遅延シ、且ソノ時骨髓或ハ皮下脂肪、又ハ實質組織ノ小片ガ血行中ニ移行シ、遂ニ肺ニ達シ小血管

ヲ栓塞シ窒息死ニ至ラシムルコトアリ。  
コハ他面ニハ肺ニ甚シキ栓塞ヲ發見スレバ、該屍ハ生前ニソノ損傷ヲ被リタルモノナルコトヲ推定スルヲ得ベシ、大ナル車輪ノ轆過ニ由來スル大挫傷ノ如キハソノ損傷ノ餘リ大ナル爲メ、損傷部位ニ於ケル生活反應ノ顯著ナラザル場合アリ、即チ此際肺ニ於ケル脂肪栓塞ノ檢出ハ損傷ノ生前或ハ死後ノ何レニ附加セラレタルカヲ知ルニ大切ナル徵標ノ一ツナリ。但シ死後少許ノ栓塞起ルコトアリ。  
(ヲ) 惡性腫瘍 ガ損傷或ハソノ癥痕ニ伴ヒテ生ズルコトアルハ事實ナリ、コハ特ニ肉腫ニ於テ屢々遭遇スルコトアリ、但シ此損傷ト腫瘍トガ、直接因果ノ關係アルヤ否ヤヲ斷定スルニハ十二分ノ注意ヲ要ス。

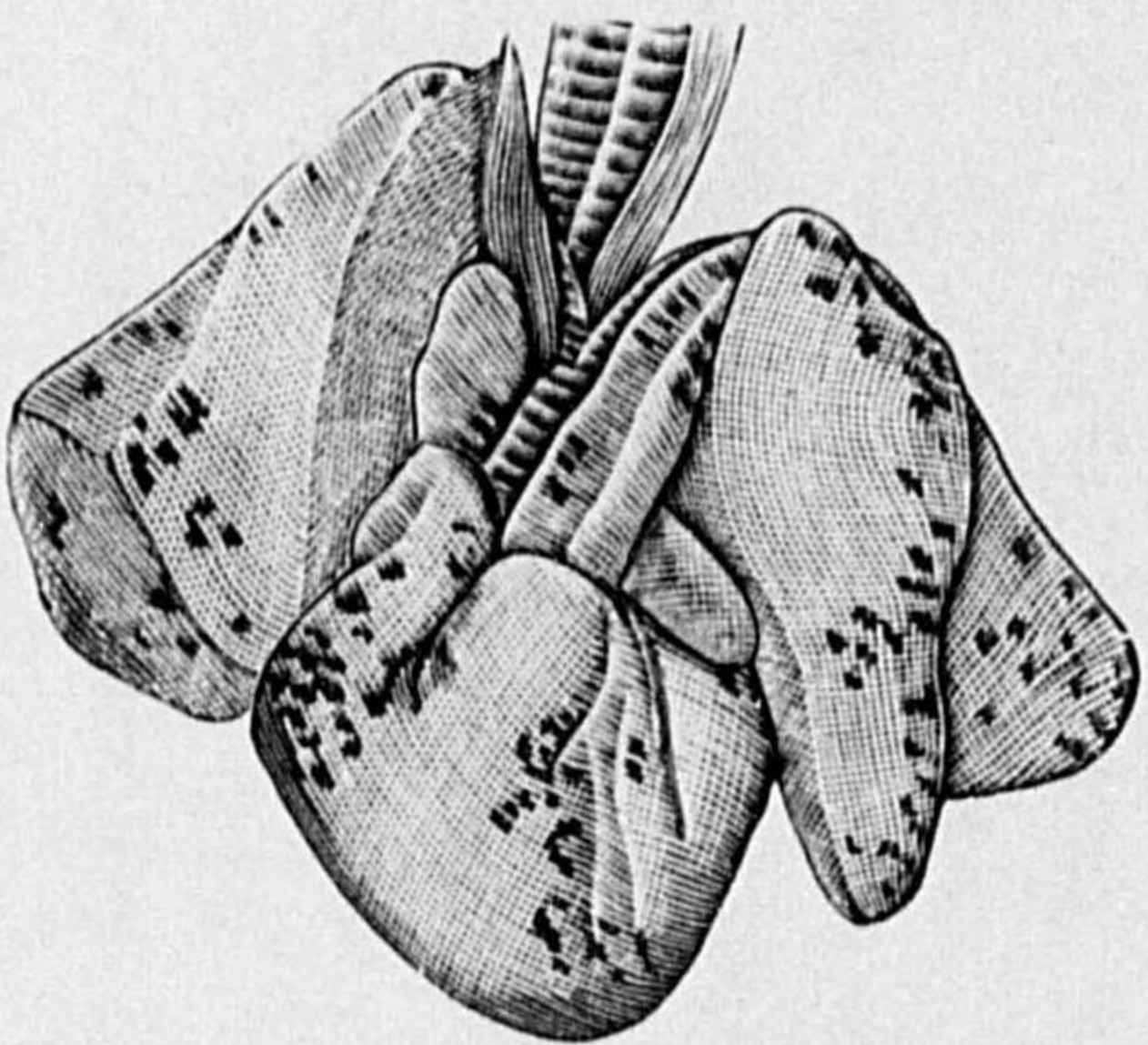
(ワ) 外傷性神經病竝ニ精神病 外傷ノ後ニ種々ノ神經病及精神病ノ來ルコトハ、已ニ學者ノ一致スル所ナルモ、コハ甚ダ詐病ノ多キモノナレバ、特ニ弔慰金或ハ損害賠償事件ニ關係アル時ハ、患者ヲ充分永ク且緻密ニ觀察シタル後、一定ノ外傷性神經病ニ一致スルヤ否ヤヲ診定スベシ。

### 三、窒息急死々體検査

#### 甲、一般所見

茲ニ窒息急死ト云フハ機械的ニ呼吸作用ヲ障礙セラレ卒然死ニ至ルヲ云ヒ、ソハ氣道ノ交通ヲ遮斷サルルカ、呼吸運動ノ障礙ヲ來ス時ニ發來スルモノヲ指スモ、化學的乃至生理的ニハ或ハ空氣ノ成分不純トナリ、若クハ血液ノ作用不充足ニシテ瓦斯交換ヲ完全ニナシ能ハザル場合ニモ來ルモノニシテ、

第五百九十九圖

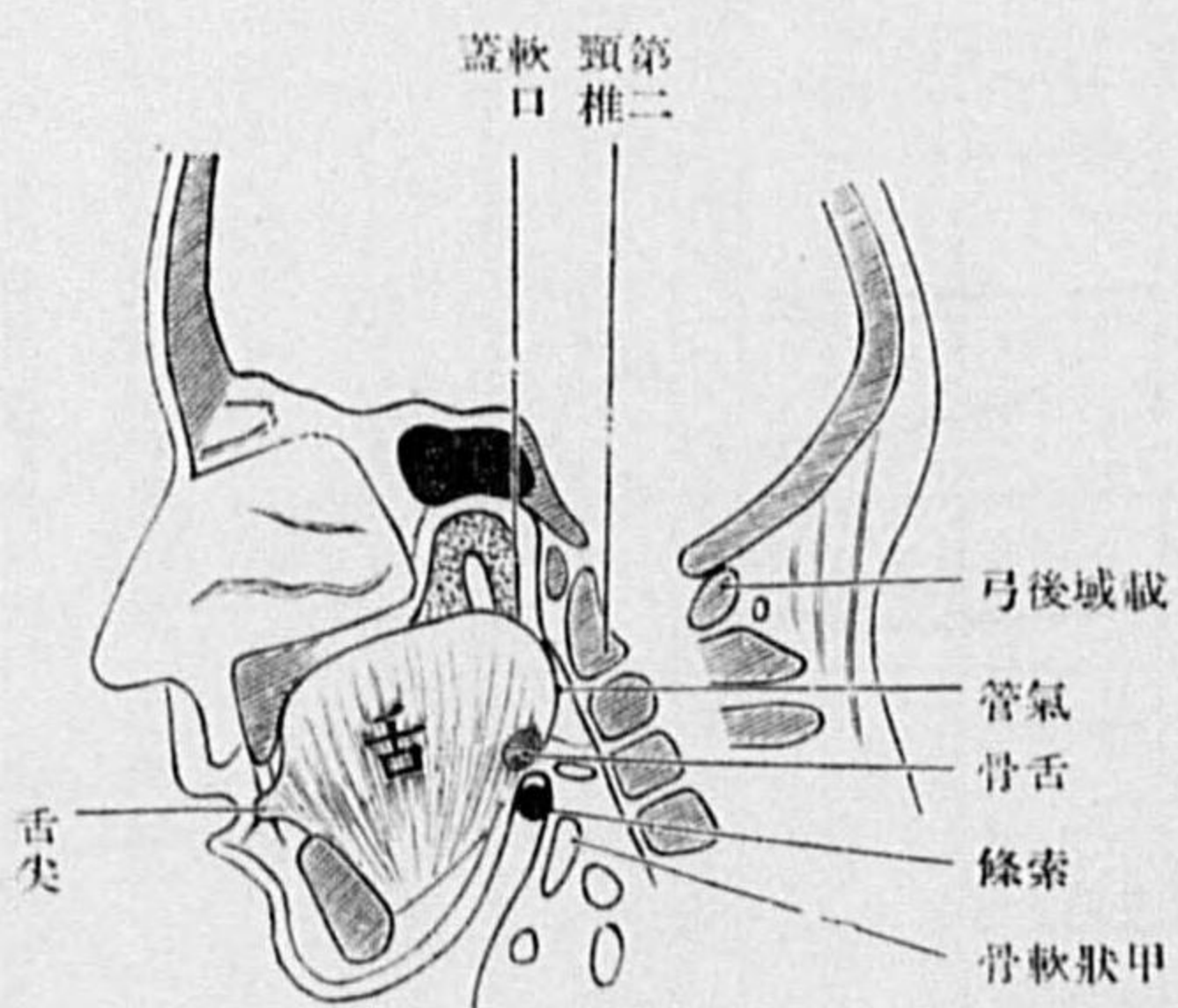


肺心表面ノ縮血點  
ニハ或ハ空氣ノ成分不純トナリ、若クハ血液ノ作用不充足ニシテ瓦斯交換ヲ完全ニナシ能ハザル場合ニモ來ルモノニシテ、

今機械的ニ來ル窒息急死ヲ例示スレバ左ノ如シ。  
イ、外部ヨリ手或ハ繩等ヲ以テ氣道ヲ壓スルモノ、即チ絞死、絞死、扼死  
ロ、呼吸運動ヲ機械的ニ妨害スルモノ、即チ土中埋没、群集中ニ於ケル胸部壓迫(昭和九年一月八日夜京都驛ニ於テ海兵團入營者見

窒息急死々體検査

第六百一十圖



送リノ群衆押合ヒタル爲メ、七十餘名壓死シタル例アリ、死者ノ身體ニハ殆ンド特記スベキ所見ナク、只第五百十八圖ニ示スガ如上半身ハ鬱血シ且溢血點多數アリキ) 氣胸、膿胸等  
ハ、異物ヲ以テ氣道ヲ塞グモノ、即チ胸腺ノ大ナルコト、聲帶浮腫、くるゝぶ、ぢふてりあ、溺死、及鼻腔内ノ異物等  
二、呼吸筋ノ麻痺、破傷風、くられ及すとりにひにん中毒  
一般ニ人類ハ呼吸阻止サルレバ間モナクソノ數ヲ増加シテ之ヲ補ハントシ、遂ニ呼吸運動ニ努力シ、第二分時ノ始メニハ已ニ意識ヲ失ヒ、第二分時ノ半バニ至リ反射性深呼吸及種々ノ程度痙攣ヲ發シ、次第至ルカ、或ハ所謂終末呼吸ヲ營ミテ



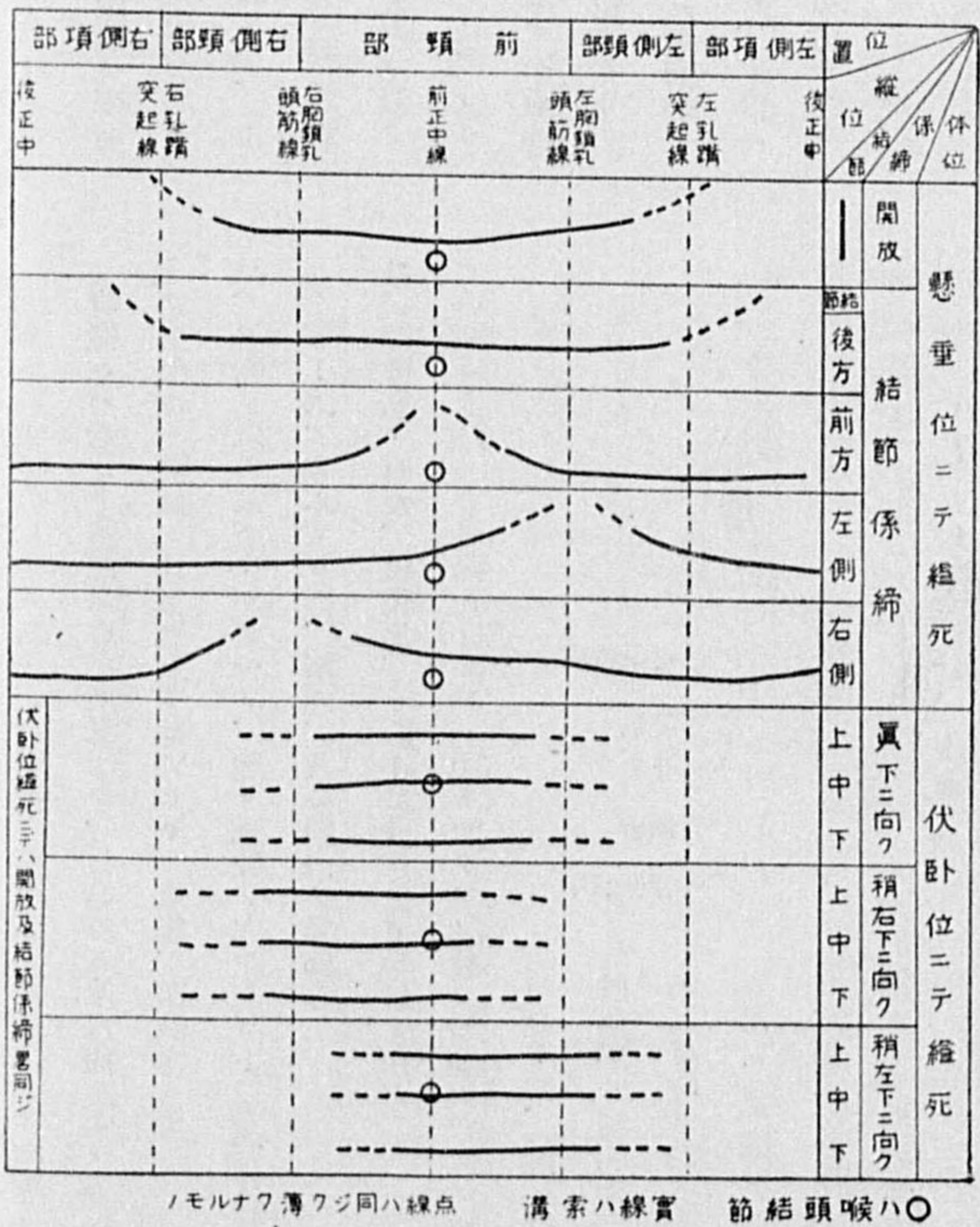
後死ニ至ル。然レドモ心臟ハ尙通常七、八分間、最長十五分間位搏動ヲ續ク、故ニ此間ヲ利用シテ蘇生術ヲ行ハバ生還セシムルヲ得ルモノアリ。而シテ人類ガ實際呼吸ヲ隨意的ニ停止シ得ル時間ハ、通常三十秒乃至四十秒ニシテ常ニ之ヲ練習セル潛水業者ノ如キモノニテモ、一分間以上呼吸ヲ隨意的ニ停止シ得ルモノハ移有ニシテ、「スポーツ」ニテ練習シタルモノニテモ約三分三十秒ノ呼吸停止ヲ以テソノ極度トナスト云フ。

外表所見 窒息急死體ノ外表ニハソレニ特有ナル所見ナシ、但シ一般ニ云ヘバ死體ノ冷却ハ遅ク、死斑ノ發生早ク、且著大ニシテ、死後強直早ク起リ、腐敗現象速カナリ、顔面淡紫赤色ニシテ膨大シ眼球凸凹、眼結膜ノ血管充盈シ、粘膜及漿膜ニ溢血點アリ、瞳孔散大シ、舌尖ハ齒間ニ凸出ス、大小便及精液ヲ漏出シ居ルコトアリ。是等ハ只死體ノ血液ガ流動性ナルコト及死時痙攣來リシ等ニ起因ス。

内景所見 窒息急死々々體ニ最モ著明ナル所見

圖一十六百第

(合場ルヨニ條索ノ硬細シ但)圖型模溝索



見ハ、(一)血液ガ身體到ル所暗赤色流動性ニシテ凝固セザルコト多ク、(二)粘膜及漿膜面等ニ屢々溢血點アリ、(三)内臟ハ鬱血シ肺ニハ靜脈血多ク腫大シ重クナリ、断面ヨリハ暗赤色流動血及小泡沫液多量ニ流出シ、心臟及大血管ニモ鬱血シテ暗赤色流動血ヲ容レ

氣管及喉頭粘膜モ亦血管充盈シ、且氣道内ニ小泡沫液ヲ有スルコトアリ、腦及腹腔臟器モ亦血量ニ富ムモ脾臟ハ多ク貧血シ、眼結膜、肋膜及心臟表面ニ帽針頭大乃至麻仁大ノ小溢血點ヲ生ジ居ルコトアリ。而シテ他ノ疾病等ノ際ニモ溢血點ヲ生ズルコトアレバ彼此相混同スベカラズ。但シ此窒息急死ニ於ケル三大徵候ハ單ニ急死セリトノ證左ニ過ギズシテ、窒息死ガ比較的徐々ニ來リシモノニテハ少シク血液凝固シ居リ、甚シキニ至リテハ心内ニ脈脂樣凝固ヲスラ見ル場合アリ、即チ此窒息急死ノ三大特徵モソガ各個ニ存在セル時ハ、之ヲ以テ實際窒息急死ナルヤ否ヤヲ判定スルコト困難ナレバ、十分注意シテ診斷ヲナスベキモノニシテ、此三大徵候ト窒息ノ原因トガ併存スルコトニヨリテ、初メテソノ診斷的價値大トナル。

前述ノ如ク窒息急死々々體ニ屍斑ノ發生及腐敗現象ノ早ク來ルハ、内部ニ於テ血液ガ流動性ナルニ依ルモノニシテ、鼻汁或ハ月經大小便ヲ漏出シ或ハ溢血シ居ルハ、全身痙攣ニ伴ヒテ小血管及大腸、子宮、膀胱等ニ痙攣ノ來ルガ爲ナリ。故ニ痙攣少クシテ死ニ至レルモノニハ此等ノ所見明カナラズ。

故ニ上述所見ノ一、二ガ存在スレバトテ、直ニ窒息急死セシモノナリト斷定スル能ハズ、即チ此際最モ注意シテ檢査スベキハ、ソガ絞

頸セシトカ溺死セシトカノ直接原因ニシテ、之ヲ發見スレバ直ニ機械的窒息急死ナルコトヲ斷定スルヲ得。而シテ此直接原因ニシテ發見スルコト能ハザル時ハ機械的窒息急死ナル診斷ハ餘程考慮スベキモノナリ、何トナレバ人ノ死スルヤ病死ニセヨ、災害死ニセヨ、如何ナル原因ニヨルモ最後ハ肺心ノ作用停止シ、窒息ニ依リテ死ニ至ルモノニシテ、只原因ノ如何ニヨリ窒息急死ニ至ル時間ニ遲速アルノミナレバナリ。

茲ニ予ハ法醫學ニ必要ナル暴力ニ由ル機械的窒息急死ノ二、三ヲ述ベントス。

乙、縊死

縊死トハ索條體ヲ頸圍ニ纏ヒ其兩端ヲ一定ノ場所ニ固定シ、自己ノ體重(身體重キモノ程確實)ヲ以テ前頸部ヲ緊縮シ、一、二分ニシテ意識ヲ失ヒ、窒息死ニ至ルモノナルガ、先ヅ懸垂スルヤ主觀的ニハ頭部ニ熱感アリ、奇聲ヲ聞キ、次デ眼前ニ閃光ヲ見、手足重クナリ意識ヲ失ヒ痙攣ヲ伴フヲ常トシ、此際索條體ハ舌根部ヲ咽頭ノ後壁ニ壓シ、氣道ヲ塞ギ、同時ニ頸部ヲ走レル大血管及神經ヲ強壓シテ、腦ニ向ヘル血液ノ出入ハ二、三分ニシテ止ミ、迷走神經ノ心臟ニ對スル作用ヲ妨ゲ、呼吸停止、人事不省乃至痙攣等ヲ起シテ死ニ



至ルモノニシテ、縊死程安樂ニ且容易ニ死ニ至ルモノハ甚ダ少ク、時トシテハ末期ノ痙攣ヲ見ザルコトアリ。故ニ安死ノ原因トシテ第二頸推齒狀突起ガ呼吸中樞ヲ壓スルニ由ルト云フモノスラアリ。即チ頸動脈、迷走神經及氣管ノ三者ヲ同時ニ強壓スル爲メ急死スルモノニシテ、是等ヲ別々ニ壓スルモノ、縊死時ノ如ク容易ニ死ニ至ラズ又縊頸ノ際通常懸垂後六、七分（稀ニ十五分位）ハ尙心臟ノ搏動アリ、此間ニ人工呼吸ヲ行ハバ生還スルコトアリト雖、ソノ後腦作用ノ障害ニヨリ、或ハ往々肺炎ヲ來シテ病死スルコトアリ。

縊頸ニヨル一死刑囚ノ致死症候。（立會觀察者五名ノ一致セル所見）三十五歳ノ男子、身長一六〇〇〇、體重五八〇、胸圍八八〇、腕、觀力及聽力ニ異常ナク、關節運動尋常、身體何處ニモ特記スベキ疾病ヲ發見スルコト能ハズ、死刑ヲ宣告セラレタル罪名ハ殺人及殺人未遂ナリ。

死刑執行ノ言渡シ、及ソノ際ニ於ケル身體檢査ニ於テ該囚人ハ總ベテ靜肅、ヨク教師ノ説示ヲ聞キ、實父ニ面會セズシテ死ニ至ルハ殘念ナルモ、今日アルハ己ニ覺悟シ居ルト云ヒ死體ノ所置ヲ依頼シタル後、目かくしヲ掛ケラレ導カレテ自ら死刑執行臺上ニ歩ヲ運ビ毫モ喪力乃至喪心ノ狀ナク、又身體四肢ニ振顫ヲ見ズ。

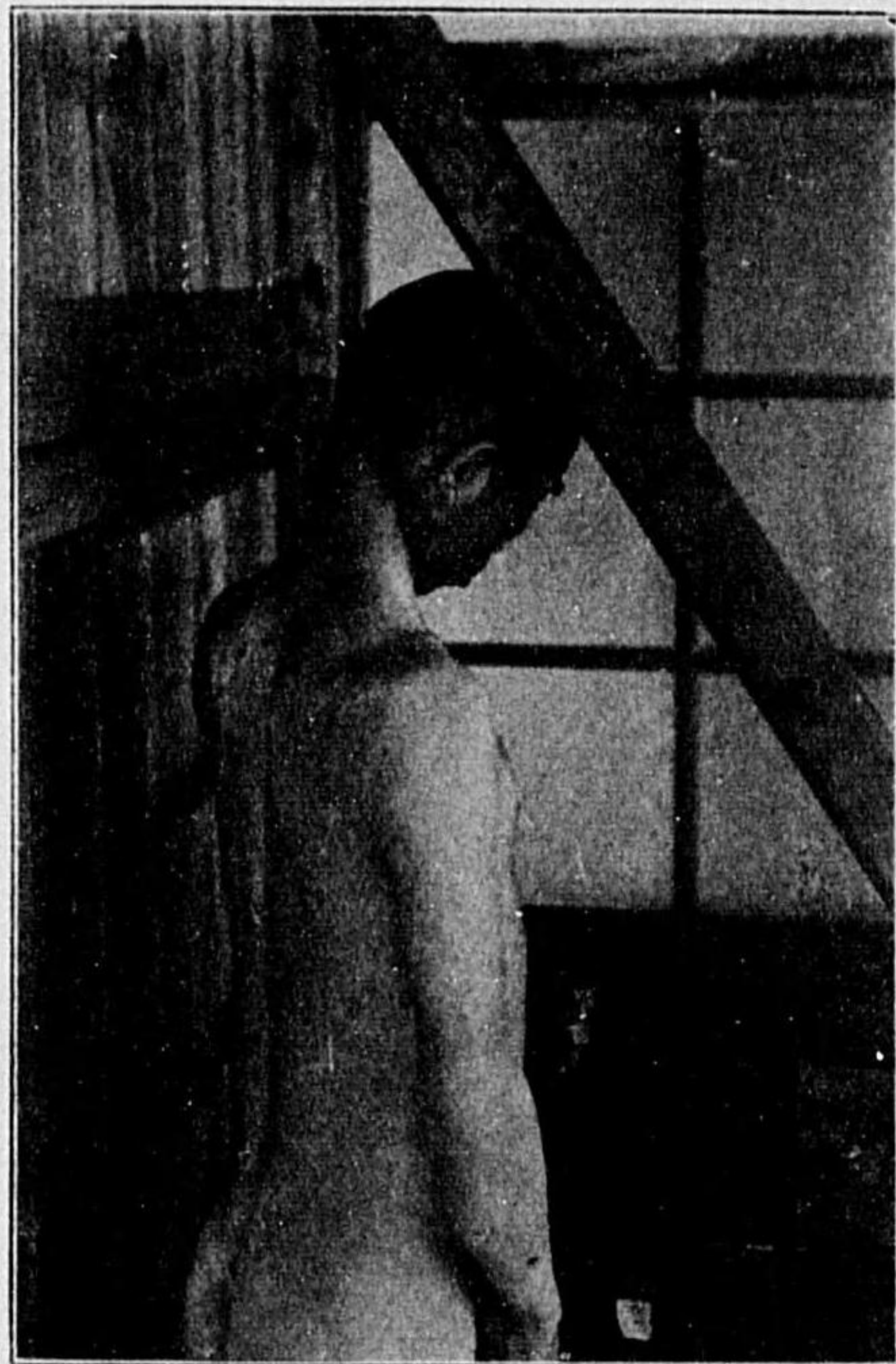
死刑執行直前ノ脈搏一分時九〇至、即チ午後二時十分、死刑執行、懸垂後七分間ハ脈搏一分時八〇乃至九〇ヲ數ヘシガ第七分時急ニ二十秒間二〇トナリシモ、再ビ搏數前ノ如クナリ、懸垂後第九分十秒ヨリ亦急ニ十秒間脈搏二十有餘ヲ算シ、同第十分後初メテ脈搏不正トナリ、殆ンド數ノルコト能ハザリシ方、此頃ヨリ心音稍微弱ヲ來シ懸垂後第十一分時ニハ脈搏一分時約七〇至、

同十二分時ニハ心音益々微弱トナリシモ、脈搏同五十四ヲ算シ、第十三分時ヨリ次第ニ遲脈ヲ來シ且微弱トナリ心音延長シ、第十四分三十秒ニシテ心音幽微ノ極ニ達シ遂ニ消失ス。懸垂ヨリ死ニ至ルマデ見得ベキ體動ナシ。死後身體ヲ檢スルニ、耳孔鼻孔等ヨリ毫モ出血ナク、鼻汁流出セズ大便ヲ漏サザルモ、尿ハ少シク失禁セルモノ、如ク、舌ハ稍伸出シ居ルモ嚙絞スルコトナク、瞳孔ハ中等大ニ散大シ、前頸部ニハ定型ノ索溝ヲ見タリ。

此ノ如ク少シモ死ヲ恐レズ、從容トシテ死ニ就クハ稀有ナル例ナランモ、縊頸ニヨル窒息ノ際、此ノ如キ死ニ方アルハ、法醫學上亦注意スベキコトナリト信ズ。

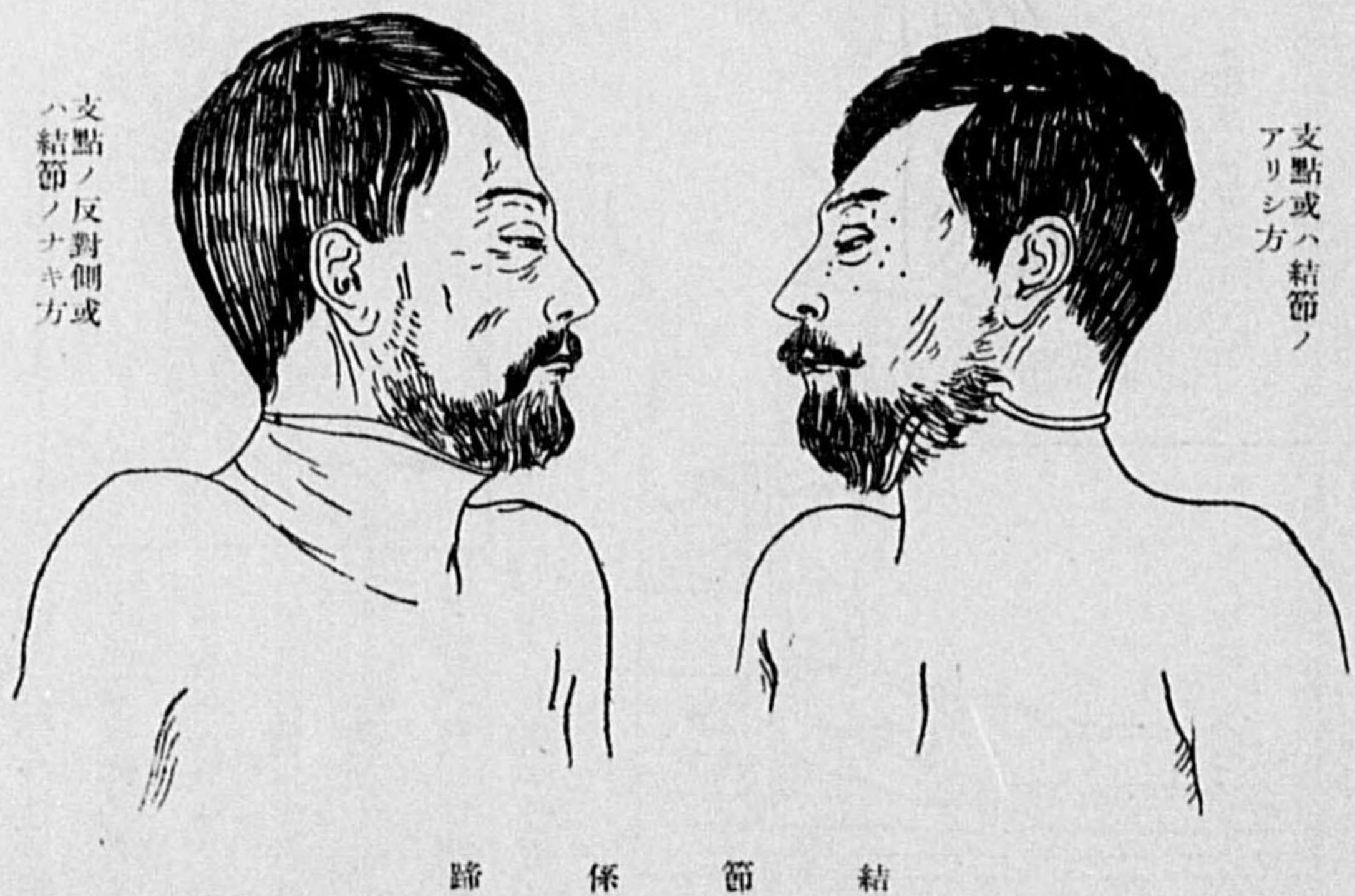
外表所見 死體方甚シク俯向カザル限り、顔面ハ通常蒼白ニシテ眼結膜ニモ溢血點少ナク、時トシテ鼻汁ヲ漏出シ、舌ヲ挺出シ、久シク懸垂セルモノニアリテハ死斑ハ下半身ニ生ズ、精液或ハ大小便ヲ漏ラシ居ルコトアレドモ、是等ハ特ニ縊死ニ特有ナル所見ニハアラズ。ソノ他外表所見ニ就テモ内景檢査ニ於テモ、一般窒息急死ニ見ル徵候アリ。然リ而シテ縊死ニ於テ特有ナルハ、頸部ニ於ケル索溝ナリ。而シテ頸部ヲ絞壓セル索條ガ結目ナキ時ハ開放係蹄、結目アル時ハ結節係蹄ニテ縊死セリト云ヒ、又係蹄左右對稱的ニカ、ル時ハ定型ノ縊死ト云ヒ、左右何レカニ偏在スル時ハ非定型性縊死ト云フ、而シテ定型性開放係蹄ニ於テハ、索溝ハ前頸部ヲ喉頭結節ノ上方ニテ下顎角ニ沿ヒ斜ニ後上方ニ走り、乳嘴突起後部ニ至リ頭毛内ニ入り不明トナリ、外後頭結節部ニ至リテハ全ク消失ス。結節係蹄ニ在リテハ索溝ハ結節部ニ近ク交叉セントスル傾向トナル、一般

圖 二 十 六 百 第



ス示ヲ行進條索ノ者死縊

圖 三 十 六 百 第



蹄 係 節 結

支點或ハ結節ノアリシ方

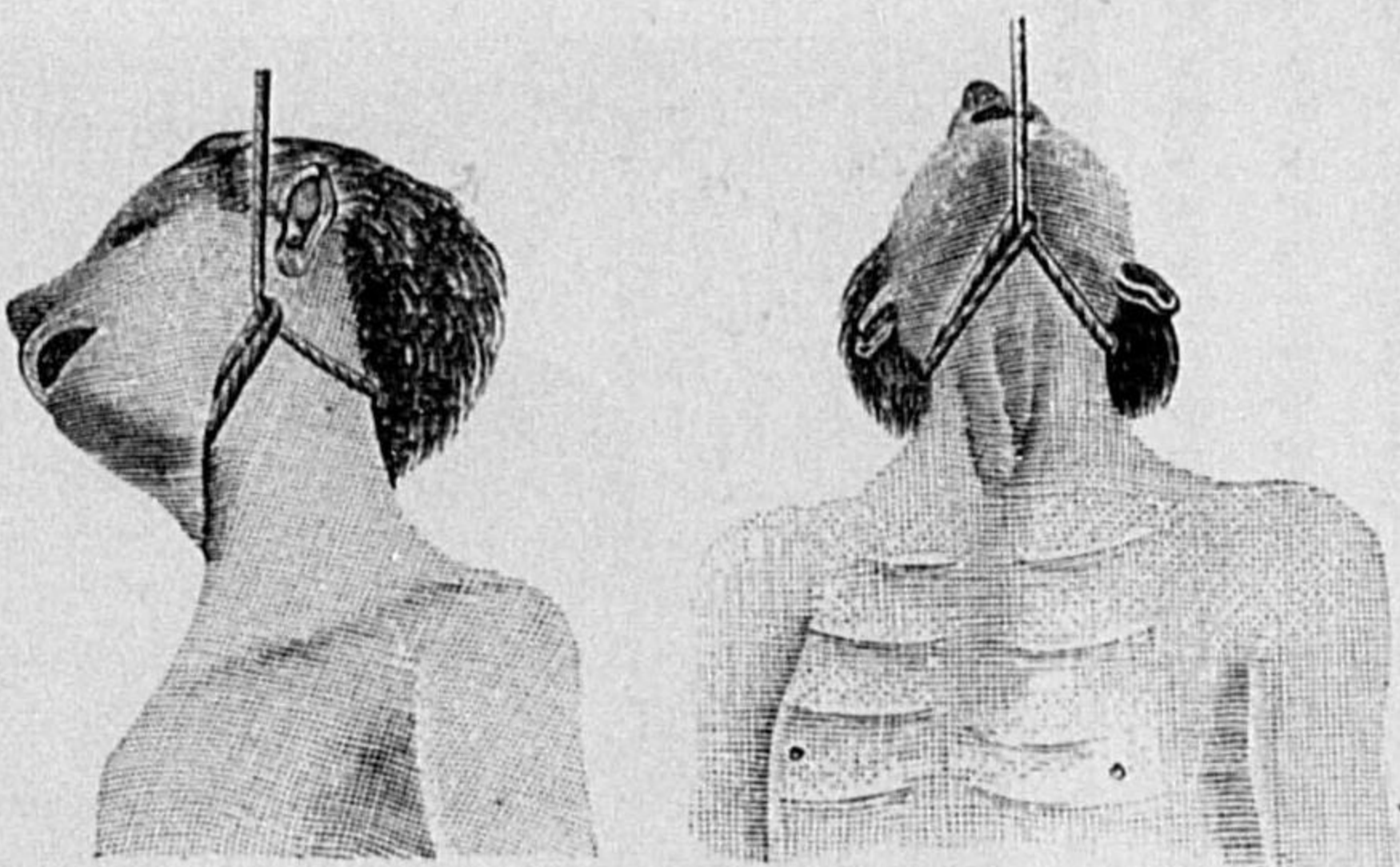
支點ノ反對側或ハ結節ノナキ方

ニ索溝ハ索條體ノ支點ノアル反對側ニ於テ最モ著シク、其走行ハ死體ノ體位及支點ノ位置ニヨリテ甚ダ種々ナリ、即チ第六百六十一圖ヲ參照セラレタシ。コハ又用ヒタル索條體ノ性狀ニモ大ナル關係アリ、細クシテ硬キモノナルホド索溝愈著シク、柔カクシテ太キモノ

程索溝ハ益不明トナリ、手拭、扱帶ノ如キモノヲ用ヒタル時ハ索溝ヲ見ル能ハザルコト多シ。又縊絡二、三回ニ及ブ時ハ二、三條ノ索溝アルコトアリ。次ニ非定型性縊死ノ際ニハ索條ノ支點アル反對側ニ於テ、索溝ハ著明且水平ニ走り、支點ノ存在側ニ向ツニ從ツテ不



第百六十四圖



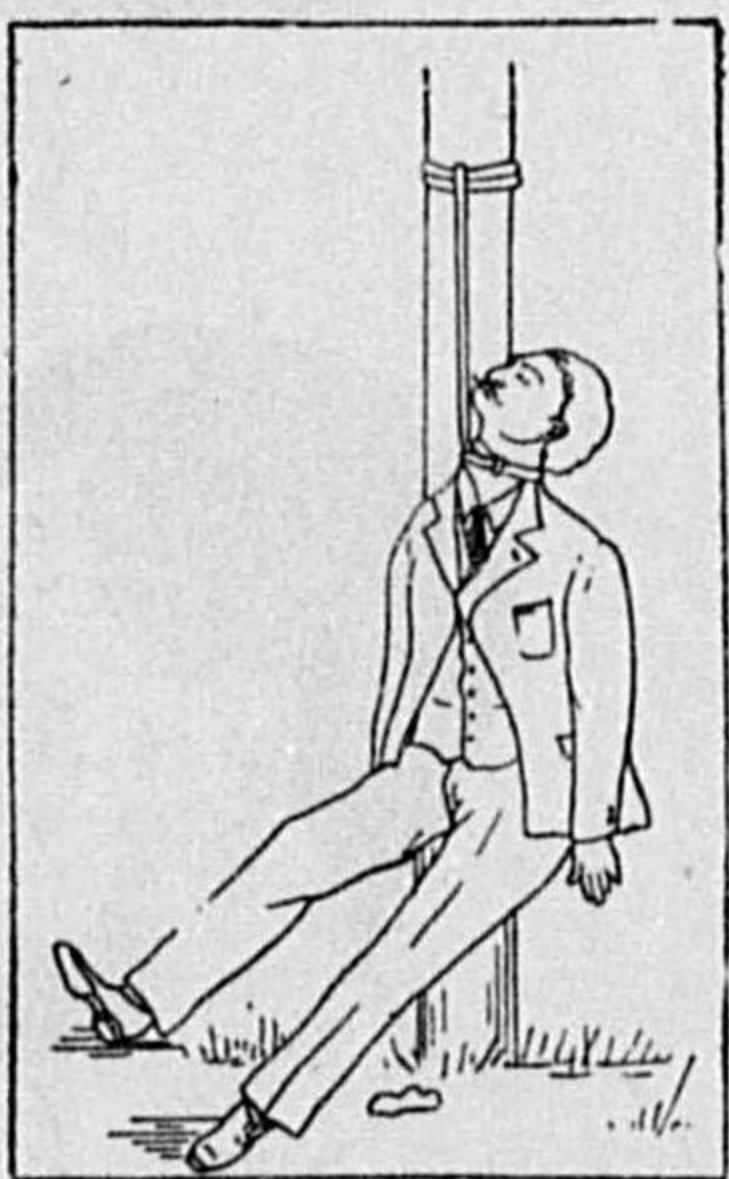
縊死

タルノミニテ皮膚ニ變色ナキ時ハ、死後索條體ヲ取り去ル後消失スルカ、或ハ見得難クナル故注意スベシ。  
**内景所見**、索溝ノ皮下ヲ切檢スレバ皮下結締織ハ乾燥シ、且屢々貧血シ從ツテ出血少ク、時トシテ溢血アリ、胸鎖乳頭筋、胸骨舌骨

異常ナル索條ノ行走

明トナル。尙索條ノ結び方ニモ種々アリ、ソノ大體ハ第百七十一圖ニ見ルガ如シ。  
 索溝部ノ皮膚ハ通常索條ニ相當セル陷凹アリ、且乾燥シテ革皮狀ヲナシ堅クナリ、黄褐色又ハ汚褐色或ハ汚青色ヲ呈シ輕キ表皮剝脫アリ、モシ索溝ガ陷凹シ

第百六十五圖



三八四

筋胸、骨甲狀腺筋等ニ裂傷ヲ來シ、或ハ溢血ヲ伴フ、此部ニ於ケル

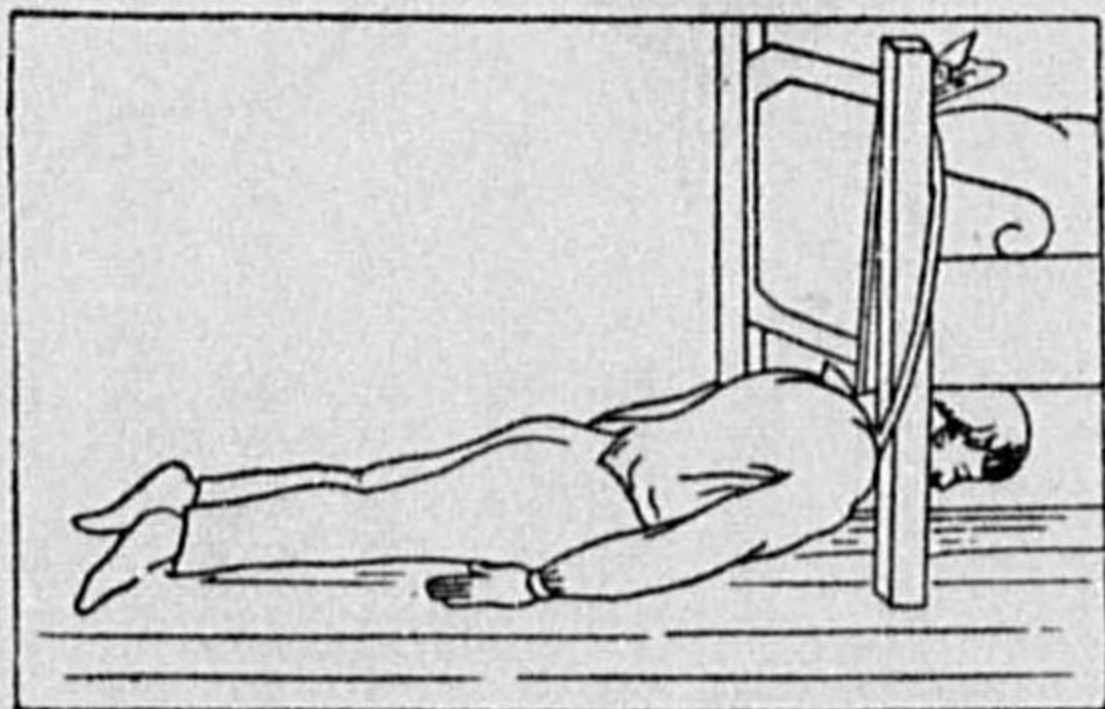
筋肉裂傷ハ往々死後死體取扱ノタメニ生ズルコトアレバ其鑑別ニ注意ヲ拂フベシ。又稀ニ舌骨大角、甲狀軟骨ノ上角ニ骨折ヲ

第百六十六圖



坐位ノマ、縊死

第百六十七圖



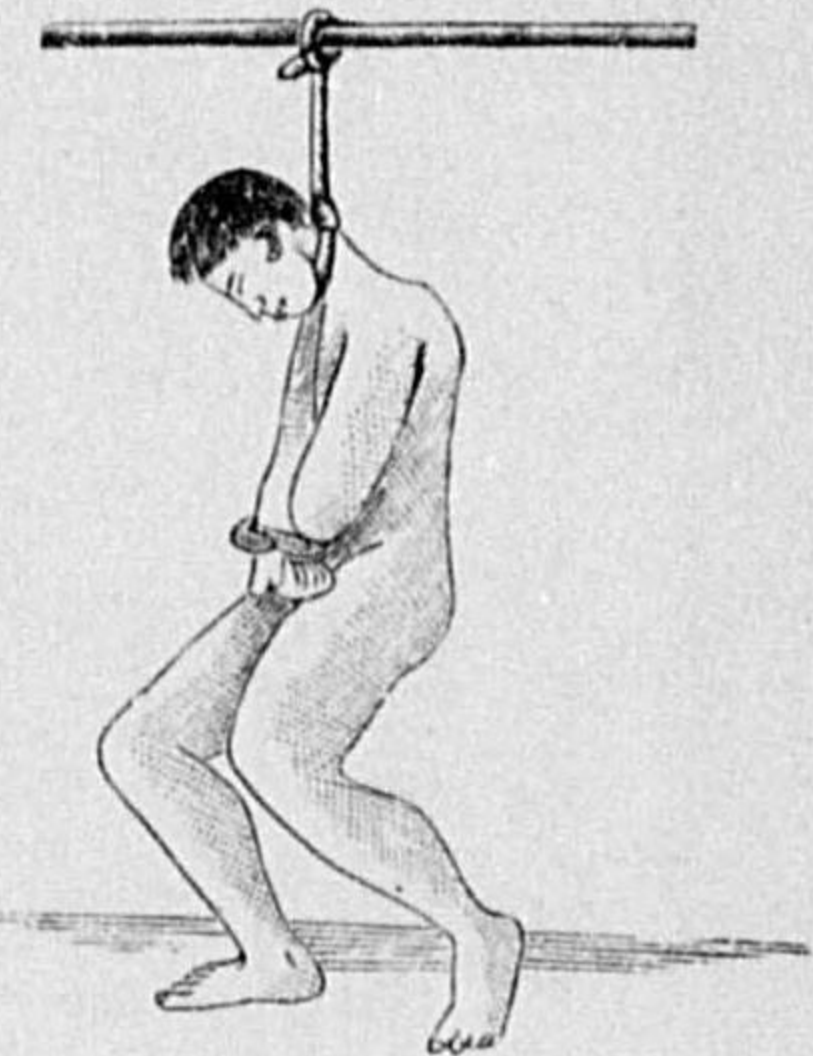
第百六十八圖



奇異ナル縊死

來シ、ソノ他頸動脈内膜ノ裂傷及溢血ヲ見ルコトアリ。茲ニ注意スベキハ、廣キ柔カナル索條體ヲ以テ或ハ索條ト頸皮トノ間ニ柔キモノヲ挟ミ縊死シタル場合ニハ、一般窒息急死ノ徵標アルノ他、頸部ニハ外見上及剖檢上何等ノ異狀所見ヲ來サズ、即チ生前ニ生ジタル索溝ニテモ、毫モ其直下ニ皮下溢血ナキ爲メ、之ヲ死後ニ生ジタルモノト錯誤スルノ虞アルコトナリ。

第百六十九圖



半バ屈膝シタル姿勢ニテ縊死

第百七十圖

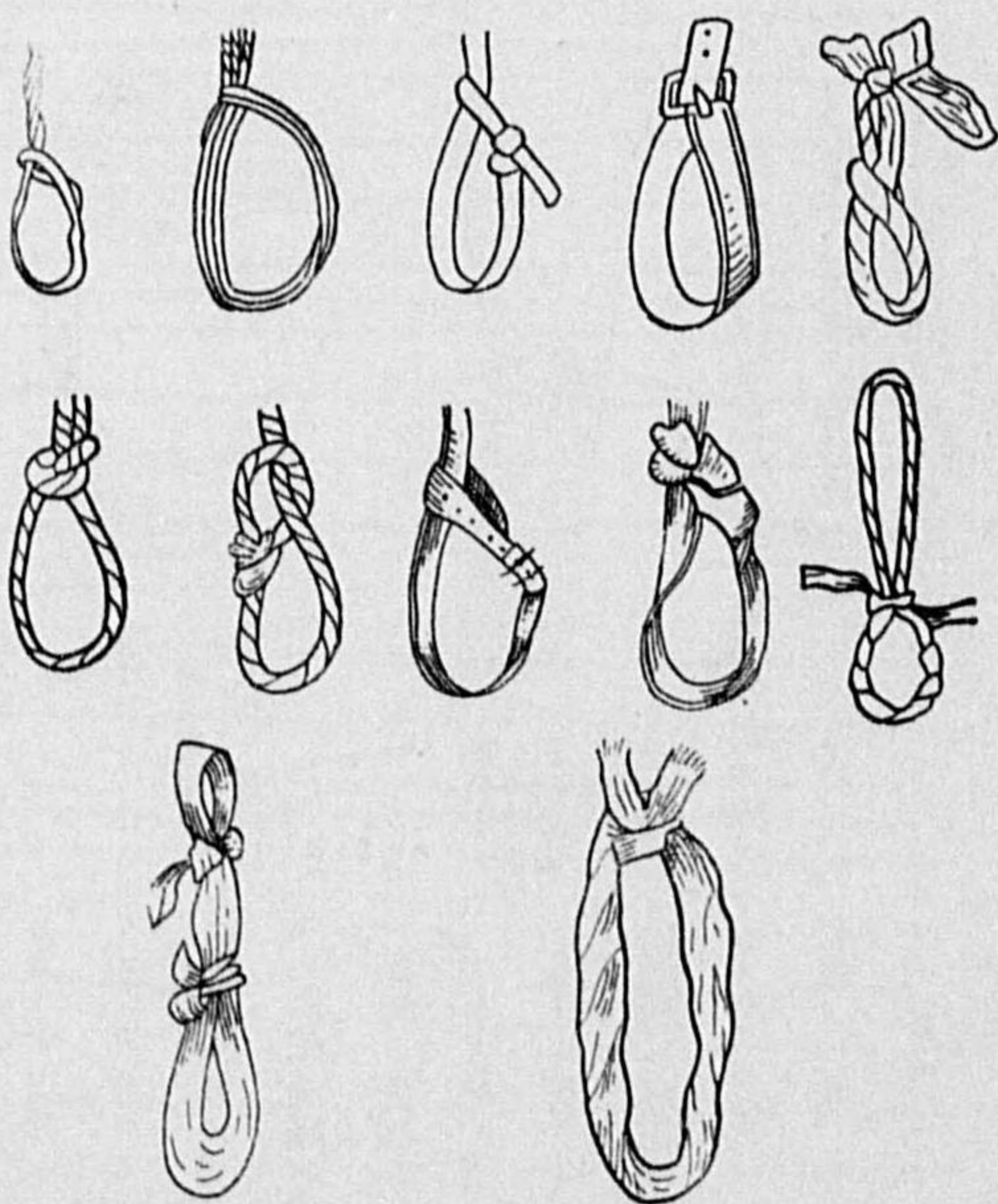


廣ク開脚シ足床板ニ觸レテ縊死ス

縊死

縊死體ガ自殺ナルカ、將タ他殺ナルカト云フ問題ニ付テハ、稀ニ小兒或ハ人事不省者ハ他爲ニ縊死セシムルコトアレドモ、之ニ非ラズシテ縊死シ居リ而モ身體何レノ部ニモ抵抗セル痕跡、或ハ他ノ死

第百七十一圖



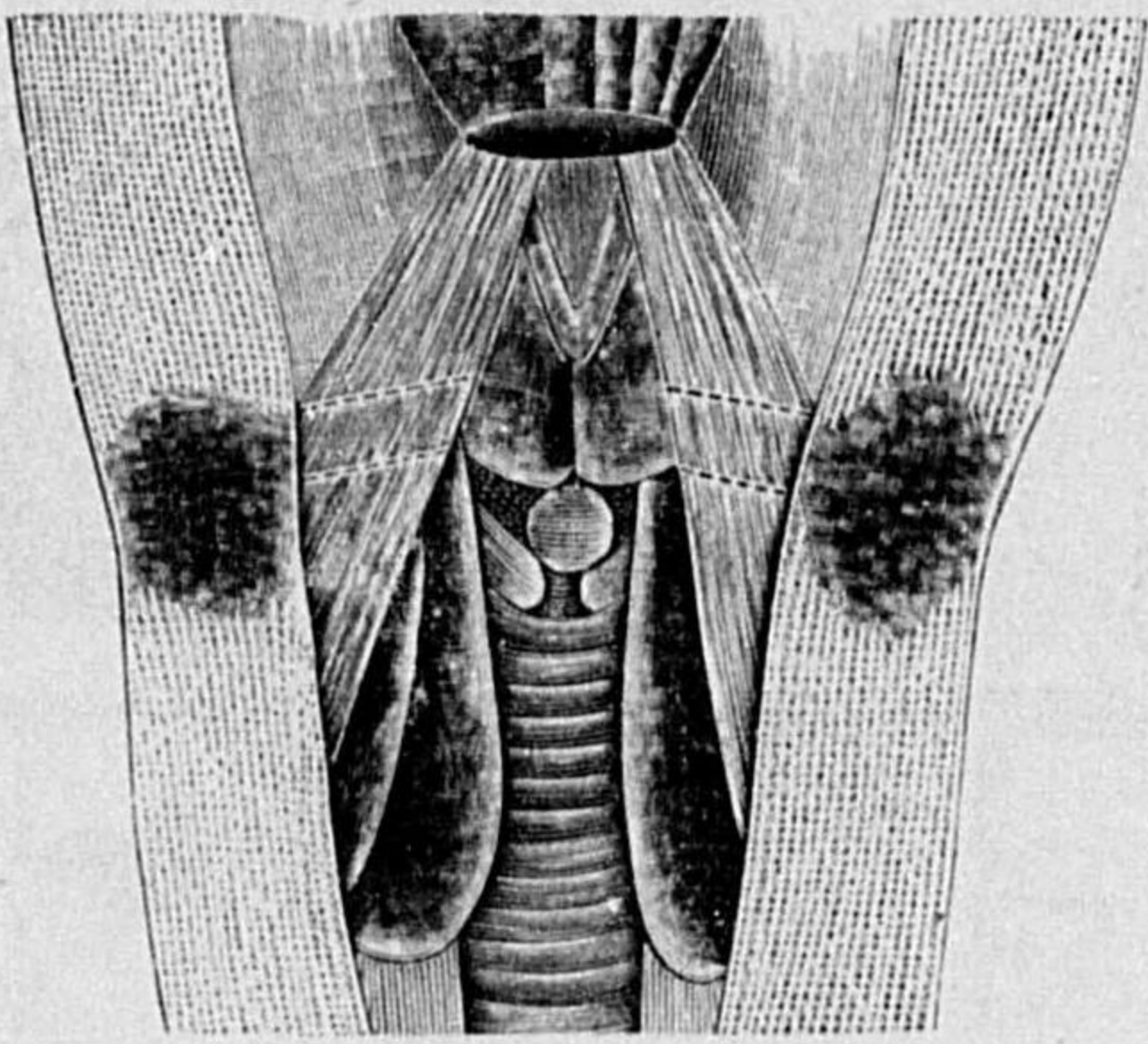
結節種々相

因ト認ムベキモノナキ時ハ殆ンド自殺ト見テ可ナリ。何トナレバ縊死ハ自殺者ノ最モ多ク選ブ所ノモノニシテ、最モ確實ニ且最モ容易



ニ苦痛ナク死ニ至ルコトヲ得ルモノナレバナリ。故ニ障子ノ棧ニ繩ヲカケ、或ハ坐シナガラ、ソノ足ハ地ニツキ居ルモ、或ハべつとノ上ニ在リナガラ頸部ヲ纏絡シテ只體位ヲ變ジタルノミニテモ、容易ニ縊死ニ成功シタル例アリ。故ニ餘リ容易ニ縊死シ居ルヲ以テ自殺ニ

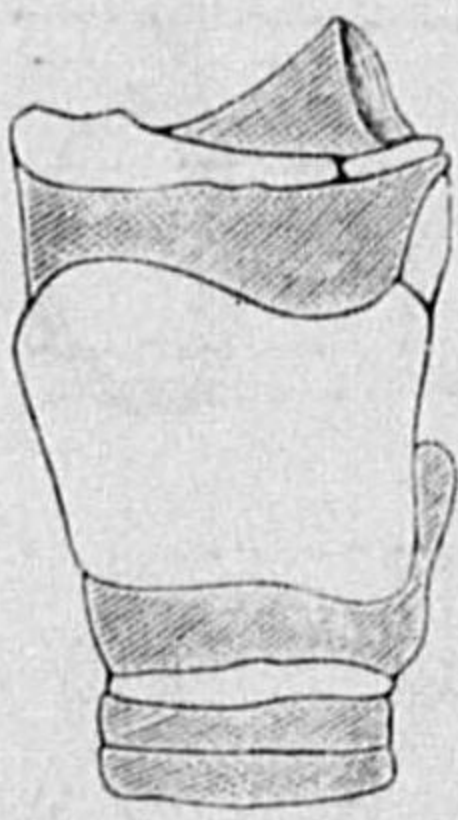
圖 二 十 七 百 第



縊死者ニ於ケル胸鎖乳頭筋ノ破裂、胸骨舌骨筋ニ於ケル輪狀ノ横溝環狀軟骨々折

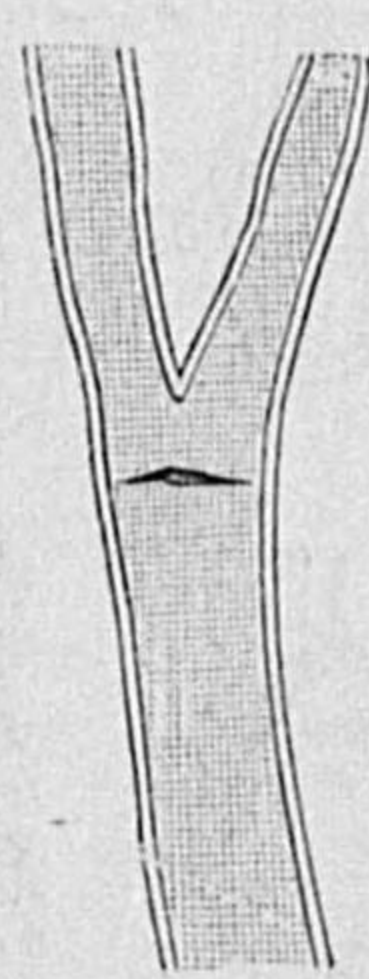
殺セルモノヲ縊死者ニ擬シ懸垂スルモノアレトモ、成人ノ死體ヲ一人ノ手ニテ縊死狀ヲ取ラシムルハ、甚ダ困難ナルコトヲ注意セザルベカラズ。ソノ他死因ト全ク無關係ナル損傷ヲ有スル自縊者、他ノ方法ニテ自殺セントシテ果サズ自縊セルモノ、或ハ偶然兩端ヲ

圖 三 七 十 百 第



縊死者ノ舌骨大角及甲狀軟骨上角ノ骨折

圖 四 十 七 百 第



縊死者ニ於ケル頸靜脈内膜破裂部引カカリ災厄的ニ縊死セ

ルアリ、若クハ縊死體取卸ノ際ニ於テ損傷ノ生ゼルモノ等ヲ鑑別スルニハ、事歴、損傷ノ新舊或ハソノ生前死後ノ別、索痕ノ性状、窒息急死ノ一般徵標乃至他ノ死因アルヤ否ヤ等ニ依リテ考察スベシ。

丙、絞 死

自己ノ身體重量ニ據ラズシテ頸部ヲ索狀體ヲ以テ緊縛シ窒息死ニ至ルヲ絞死ト云フ、絞死ノ外表及内景所見ハ唯索溝ヲ除キ他ハ大體縊死體ニ於ケル所見ト同ジケレドモ、顔面ハ一般ニ紫黑色ヲ呈シ、

第 百 七 十 五 圖

眼結膜ニ鬱血及溢血點多ク鼻口ニ泡沫液少許アルコトアリ。而シテ



(ノモルヨニノモノ硬細ニ但) 圖 痕 絞

Table with 10 columns and 10 rows detailing various anatomical features and their locations on the neck, such as '後正中線', '右乳突', '左乳突', etc.

頸部ノ皮膚ヲ後正中ニテ開キシ圖

細キ索條ニテ成レル索溝ハ地平輪狀ヲナシ、結節ノアル部或ハ索狀

絞死

如キ太クシテ柔キモノニテ絞頸シタル時ハ、索溝ナキカ或ハソガ部

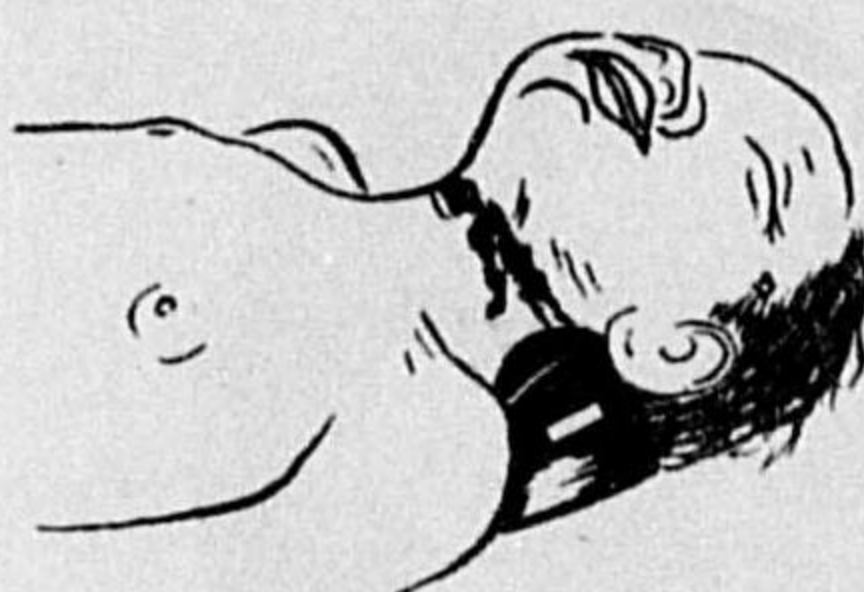


分的乃至點狀ノ表皮剝脫、溢血等ヲナスニ過ギザルコトアリ、次ニ索溝下ノ剖檢所見亦縊死者ノソレト同ジケレドモ、絞死者ガ強ク抵抗シタル場合ニハ索狀部ニ於ケル出血裂傷モ亦強シ、但シ太クシテ系キモノニテ絞頸シタル時ニハ、ソノ内部ニ何等ノ變化ヲ見ザルコト

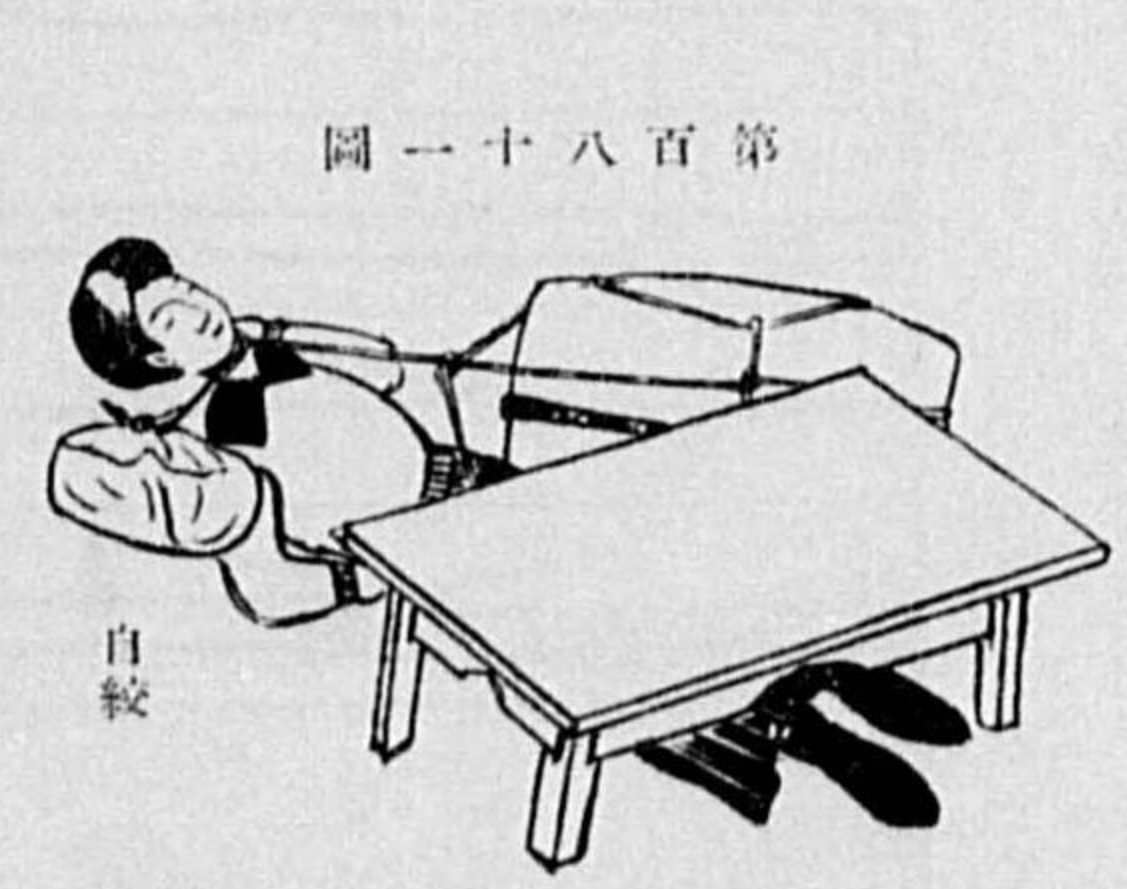
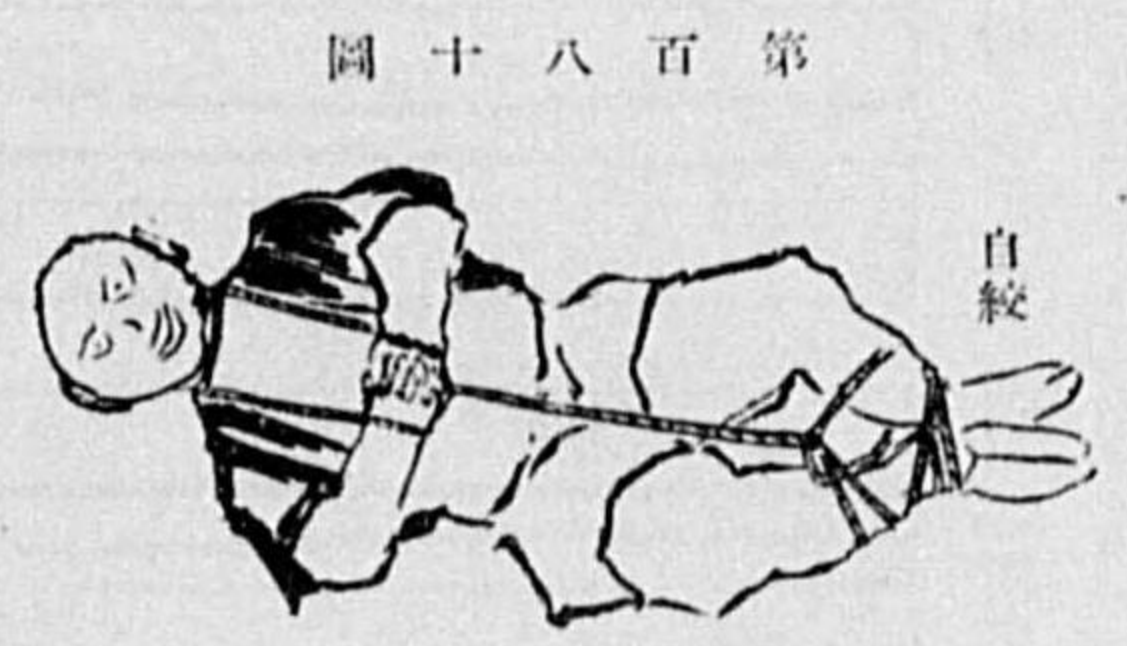


圖八十七百第 絞死 索溝

多シ。我國ニ特有ナル襟絞メニテハ往々前頸部ニノミ絞痕アリ、又假令絞殺サレタルモノニテモソノ索條ヲ取り去レバ、或ハ腐敗等ノ爲メニ索溝消失シ或ハ之ニ反シ、生前頸圍ニ輕ク纏ヒタル手拭或ハカラー等ノ如キ索條物ニヨリ、腐敗ノ爲メ死後索溝様ノモノヲ生ズルコトアレバヨク注意スベキナリ。尚絞殺サレタ



圖九十七百第 絞死 索溝



圖一十八百第 自絞

ルモノハ一般ニ顔面紫赤色ヲ呈スルコト多キモ、時トシテ蒼白ナルモノアリ、從ツテ眼結膜ノ鬱血及溢血モ亦絞死者ニ常存ナリト云フ能ハズ、肛門ノ哆開、舌ノ齒間嵌在等亦然リ、心内ノ血液モ多ク暗赤色流動性ナルモ時トシテ軟凝血ヲ含ム、肺心ノ表面ニ於テモ多ク溢血點ヲ發見スルコトヲ得ト云フニ過ギズ。又絞死者ノ氣管内ニ泡沫液ヲ見ルコトアリ、内臟斷面ノ血量ハ常ニ多シ。絞死ハ多クハ他殺ニシテ尙他ニ暴行ヲ加ハタル痕跡ヲ併有スルト多シ、自殺ノ目的ニハ自己ノ力ニテ絞頸スルモ苦悶人事不省等來レバ、自然ニ壓迫地ミ又蘇生スルモノナリ、然レドモ索狀體ト頸ト

第九十二表

Table with columns for Name, Sex, Age, and various forensic details related to hanging deaths. The table lists several cases with their respective findings and autopsy results.



大○鷓○女○手	大○喜代女○	大○好○女○	鈴○三○男○	鈴○金○男○	杉○新女○	足○久女○	三○仁○郎男○	番○た○子女○	谷○龍○男○	谷○秀○男○
拭	ハ	拭	帯	帯	兵兒帯	黒色交織ノ	錦紗ノ扱帯	ベール	上部モスリ	黒木綿様扱
3	2	5	1	2	1	2	2	2	1	2
頤部ノ直下	左耳垂ノ直下	頤部ノ直下	頤部中央ニ	右頤部	喉頭部	右下顎隅下	右耳垂下	正中	右耳垂下五	左下顎隅
2	1	3	1	1	1	1	1	2	1	1
上溝ハ幅○	二下溝ハ幅○	幅一	二指幅	二指幅	三指幅	幅三	幅二	幅一	幅一	幅二
兩溝ハ頤部ノ前中央ニテ交又シ	右側ノモハ耳垂ノ直下ヨリ起ル	左側ノモハ耳垂ノ直下ヨリ起ル	頤部ヲ水平ニ圍繞ス	喉頭部ヨリ頤部ニ渡リ輪匝ス	喉頭結節ノ高サニテ兩側頤部ニ向ヒ走行ス	前頤部左側ヨリ後方ニ至リ頤部ニ至リ右端ハ頤部中央ニ至ル	右側頤部(ト)ノ如ク點々トシテ一直線上ニ表皮變色部アリ	(天)左胸鎖乳頭ヨリ左後方ニ三個表皮脱シ頤部ニ至リテ右側ニ至ル	喉頭軟骨ノ上ヲ水平ニ左方ニ左耳下ニ走ル	喉頭ノ上ニテ水平ニ約一・五倍長ニ走リ乳嘴突起ノ高サニテ消ユ
一周ス	一周ス	一周ス	一周ス	一周ス	一周ス	一周ス	一周ス	一周ス	一周ス	一周ス
前頤部ノ交又	部前頤部ノ交又	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ

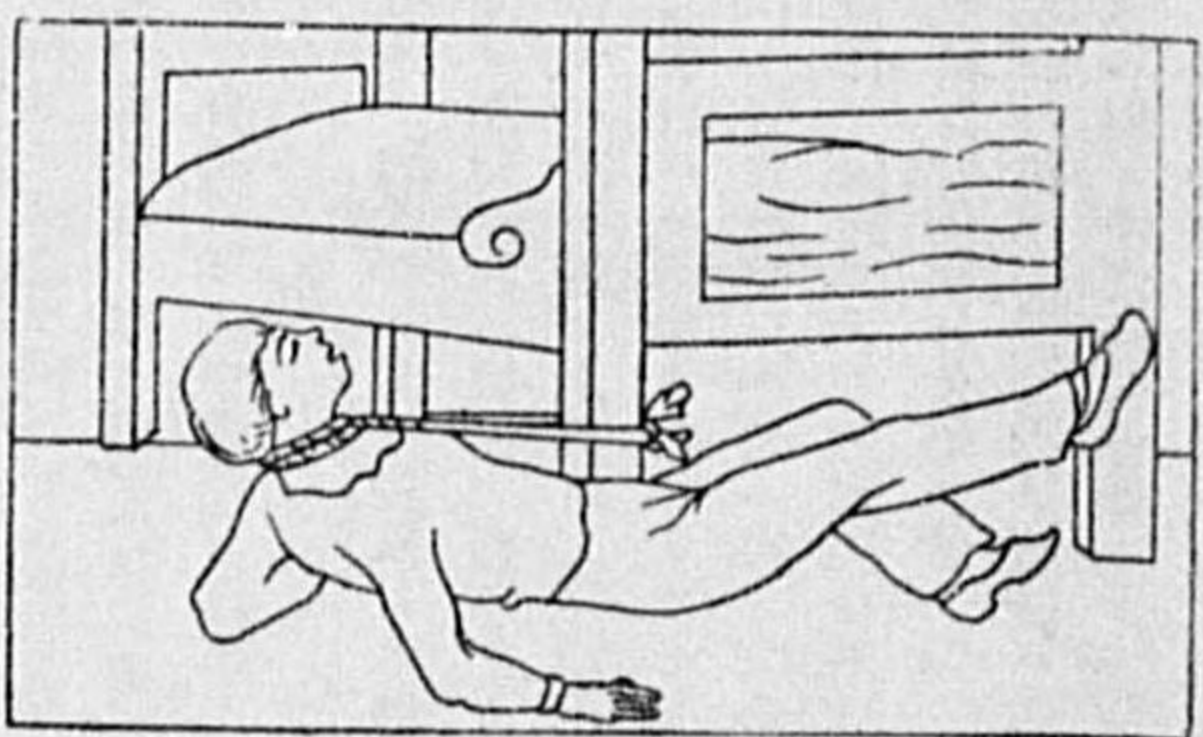
不○詳女○	河○シ○エ女○	山○ス○女○	岩○良○男○	岩○光○女○	岩○イ○女○	岩○ヨ○女○	平○ふ○女○	岩○吉○郎男○
モスリ	縁	木綿ノ細組	白色ノ布片	白色ノ布片	白色ノ布片	汚褐色ニ染メル木綿片	淺葱色ノ布	白木綿布片
2	2	1	7	2	2	2	2	1
前正中ヨリ	前正中ヨリ	喉頭結節部	右頤部	項部	左頤部	下顎右隅ノ直下三分ノ一	右側頤部ノ下部	前頤部
1	1	1	1	1	1	1	1	1
二指幅	一指幅	一・五指幅	四指幅	三指幅	二指幅	一・五指幅	二指幅	二指幅
喉頭軟骨ノ高サニテ水平ニ走リ左側ニ於テハ不鮮ナリ	全頤部ヲ水平ニ圍繞ス	喉頭軟骨ノ高サニテ左右ニ水平ニ走ルニシテ頤部ニ至ルニ從ヒ消ユ	全頤部ヲ水平ニ圍繞ス	全頤部ヲ水平ニ圍繞ス	全頤部ヲ殆ンド水平ニ圍繞ス	喉頭ノ高サニテ頤部ヲ圍繞ス	喉頭ノ高サニテ水平ニ頤部ヲ繞ル	甲状軟骨ト舌角トノ間ヨリ殆ンド水平ニ頤部ヲ圍繞ス
一周ス	一周ス	一周ス	一周ス	一周ス	一周ス	一周ス	一周ス	一周ス
ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ

甲狀軟骨ノ折ス



池○フ○女42	赤色小指頭 大ノ細紐	3項	部2○・五極幅	甲狀軟骨ノ直上二條ノ索溝アリテ 水平ニ頸部ヲ圍繞シ索溝ハ左側ニ ナレハ一條トナリ右側ニテハ三條ト	一周ス	左側頸部ノ 度溝ノ所々アリ	右胸鎖乳 頭筋ノ中 央ヨリ少 シク上方 ニシテ横 ニテ裂ス
谷○ヨ○女58	更紗ノ紐	1	右ノ下頸隅 1 ○・五極幅	喉頭ノ高サニ於テ水水平ニ後方ニ走 ル	一周ス	ナシ	索溝ノ直 下ニ指直 大ノ滲血 大ニ滲血
谷○ハ○子男12	藤色錦紗ノ紐	2	左ノ下頸隅角1 二極幅	喉頭軟骨ノ高サニ水水平ニ左右ニ走 ル	一周ス	左側下頸 部ノ各一 部ノ下下 リノ皮膚 欠損アリ	索溝ノ直 下ニ指直 大ノ滲血 大ニ滲血
桂○良○女40	絹細紐	2	左ノ下頸隅 1 四極幅	左耳垂ヨリ始シテ水水平ニ走リソノ 左側ノ頸部ハ一條ナレドモ右側頸 部ハ下頸隅ニテ一條ニ合ス	一周ス	ナシ	ナシ
白○キ○女51	襟布	1	左頸部ノ約 中央 1 二極幅	同頸部ニ地平輪狀ニ圍繞ス	一周ス	不明	不明
森○よ○男18	眞田組	2	左乳嘴突起 ノ下方六・一 ○・八極幅	前頸部ヨリ左右後方ニ走ル	一周ス	不明	不明
平○小○女46	組	1	不明	喉頭ノ上方ヨリ下頸隅ニ沿ヒ上方 ニ走リ實際部ニテ索溝不明トナル 前頸部ノ正中ニテ上方ニ向ヒ大ナル 鈍角ヲナス	一周ス	不明	不明
鈴○マ○女27	棕櫚繩	3	項部 1 三・五極幅	全頸部ニ斷片的ニ水水平ニ圍繞ス	一周ス	索溝ノ總テニ 渡リテ存ス	筋層ノ深 部ニモ溢 血アリ
鈴○力○女4	藁繩	3	前頸左側 1 三極幅	環狀軟骨ヨリ水水平ニ全頸部ヲ圍繞	一周ス	索溝内所々表 皮剝脱セリ	筋層ノ深 部ニ所々 溢血アリ

圖二百八第



絞 自

ノ間ニ横杆様ノ作用ヲナス  
モノヲ入レ置キ、或ハ濕潤  
セル西洋手拭等ニテ自絞ス  
レバ弛ミノ來ルコトナク、  
之ニテ自殺ヲ遂ゲタル例ア  
リ。第百八十圖乃至第百八  
十二圖ニ示スガ如キ装置ヲ  
ナシテ自絞シタルモノア  
リ。又同意ナクシテ人ヲ絞  
殺セントスル時ハ、ソノ油

セルハ坐位ニテ机ニ向ヒ、麻繩ノ一端ヲ固定シ、他端ニ數貫ノ石ヲ  
附シ而シテソノ麻繩ガ頸圍ニ卷キ、石ヲ机上ヨリ滑ラシテ自絞セル  
モノナリ。

鑑 定 實 例  
第三十一例 鑑 定 書

〇〇市〇區〇〇通〇丁目兩替店  
〇〇〇〇〇〇方雇人  
増 〇 秀 〇

當十七歲

明治〇〇〇年〇月〇日〇〇地方裁判所豫審判事〇〇〇〇ハ〇〇〇〇ニ於テ  
右秀〇ノ局部解剖ヲナシテ

- 一、損傷ノ位置状態
- 二、兇器ノ種類
- 三、死因

甲、解剖検査記録

一、男屍、體格榮養共ニ中等皮色ハ前面一般ニ稍蒼白、背面淡紫紅色ヲ呈シ  
胸部ニハ尙少シク温ヲ感ズ死後強直ハ頸及四肢ノ諸關節ニ強ク存ス  
二、頭皮及顔面ニ損傷ナク顔面暗紫色ヲ帶ビ眼閉チ結膜暗赤色ニシテ血管充  
盈シ數個ノ溢血點アリ角膜透明ニシテ瞳孔廣シ鼻口ヨリハ淡桃色ノ泡沫液  
多量ヲ漏ラシ他ニ異物ナク舌尖ハ齒間ニ凸出ス外耳ニ損傷ナク耳中異物ナ  
シ

斷ヲ見スマシ後方ヨリ頸ニ繩ヲカケ、或ハ熟睡セル人、人事不省  
者、小兒、身體不如意ノモノニ付成巧セル例多々アリ。予ノ見タル  
實例ニテハ大阪ノ或仲買商ノ小僧方一萬圓餘ノ株券ヲ持參センヲ奪  
ハントシ、或宿屋ノ一室ニテ兇漢ハ小僧ニ向フヲ見ヨ面白イモノガ  
通ルトテ、小僧方一心ニソレヲ見居ル間ニ後方ヨリ頸部ニ繩ヲカケ  
絞殺セル一例アリタリ。最後ニ注意スベキハ初生兒、皮下脂肪多キ  
モノ等ニアル頸部自然ノ皮膚皺襞ハ、甚シク絞痕ニ類似スルコトア  
レバ、彼是ヲ見誤ラザル様ニスベキコトナリ。又第百八十一圖ニ示



三、前頭部ニハ甲狀軟骨ノ上縁ノ高さニ於テ約一・七種幅横走ノ微ニ紫褐色ヲ帯ビタル淺キ皮溝アリ此溝ハ右側頭部ニ於テハ著明ナレドモ左側頭部ニ於テハ頗ル不明ナリ而シテ該皮溝中ニ汚褐色ノ表皮剝脫數個アリ即チ  
 (イ)甲狀軟骨ノ左側ニ在ルモノハ細長クシテ内下方ヨリ外上方ニ向ヒコレニ依ツテ皮溝ニ分枝ヲ生ズ  
 (ロ)ハ同軟骨ノ左側ニ位シ不正圓形ニシテ小指頭大ナリ  
 (ハ)ハ胸鎖乳頭筋ニ在リ約五・〇耗長二・〇耗幅ニシテ横走ス  
 (ニ)ハ(ハ)ヨリ少シク後下方ニ在リ小豆大ナリ  
 四、胸腹部、左上肢右下肢及背面ニハ損傷ナク左膝蓋骨ノ内下方ニ小指頭大淡褐色ノ表皮剝脫一個アリ外陰部ニ損傷ナク肛門閉鎖シ周圍ニ汚染ナシ

第二、内景検査

頭 胸 臟 器

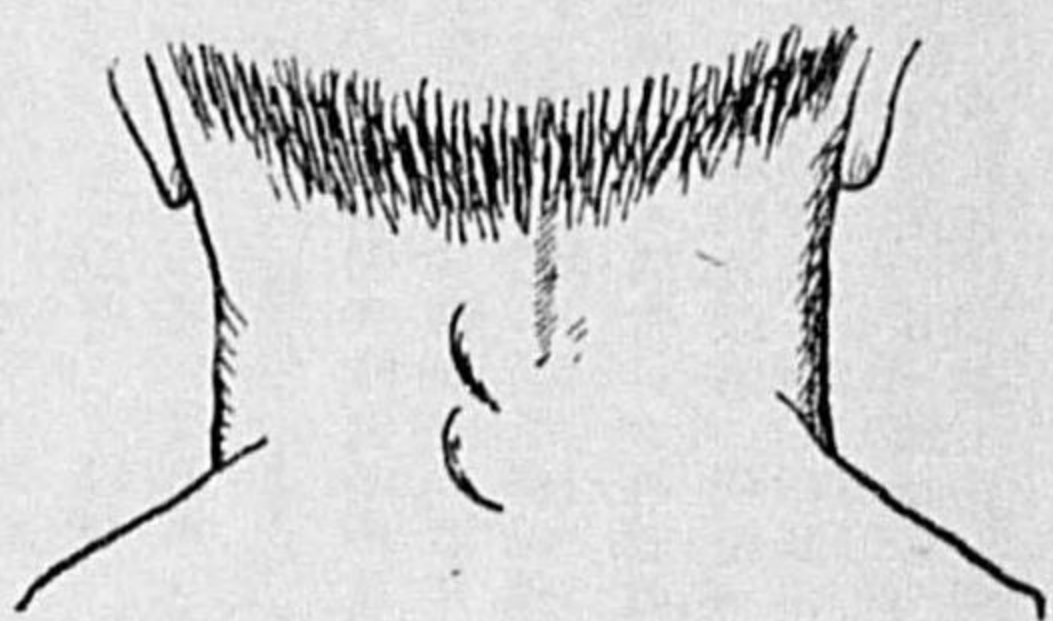
五、頭胸部ノ皮膚ヲ其正中ニ於テ切開スルニ頭部皮下靜脈著シク怒張シ内ニ多量ノ流動血ヲ存ス前記(第三項)索溝部ノ皮下組織ハ周圍ニ比シテ淡紅色ヲ帯ビ右側頭部ノ中央(第三項(ハ)ノ部ニ適ス)ノ皮下ニハ小豆大ノ出血ヲ認ム  
 六、胸骨ヲ肋軟骨ト共ニ切除シテ胸腔ヲ開檢スルニ兩脚ノ前縁ハ心囊ノ一部ヲ掩ヒ左肋膜ニハ輕度ノ癒着アリ右肋膜ハ癒着ナク胸腔内ニハ異常ノ液體ヲ存セズ前縦隔ノ上部ニ天保錢大ノ脂化セル胸腺ヲ見ル  
 七、心囊内ニハ異常ノ内容ナク心臟ノ大サ本屍ノ手季大ニシテ左心軟シ右心内ニハ暗色流動血多量ニ存シ左心亦然リ房室間口ハ容易ニ二指ヲ通ズ表面ニ數個ノ溢血點アリ大動脈口及肺動脈口ノ半月瓣ハ灌水ニ依リ佳ク閉鎖ス内膜滑澤、瓣膜尋常筋色常ノ如シ  
 八、左肺ハ前記(第六項)ノ癒着ニ依リ表面ノ一部ニ纖維様物ヲ附著シ殘餘ノ部ハ一般ニ滑澤暗紫赤色ニシテ肋膜下ニ數多ノ溢血點アリ按壓スルニ硬結ナシ斷面暗赤色ニシテ血液及泡沫液ニ富ミ氣管枝内ニハ淡桃色ノ泡沫液多

量ニ存在シ粘膜淡紅色ナリ右肺ハ表面ニ纖維様物ノ附著ナキ他其性狀略左肺ニ同ジ  
 九、頭部ノ諸臟器ヲ細檢スルニ頸筋ニ破裂出血等ナク左右頭動脈ノ外膜并ニ内膜無疵ナリ咽頭部ニハ氣管ト同様ノ内容少許アリ粘膜一般ニ暗紫色ヲ帯ブ食道空虚粘膜蒼白ナリ喉頭上口附近ノ粘膜ニハ粟粒大乃至針頭大ノ溢血點數多散在シ喉頭氣管内下モ氣管枝ト同様ノ内容少許アリ粘膜一般ニ淡紅色ヲ呈ス喉頭軟骨及舌骨ヲ精密ニ検査スルニ其附近ノ組織間ニ出血ヲ認メズト雖甲狀軟骨ノ右板ハ左側ニ比シ移動シ易ク舌骨體ニ不全骨折アリ(附圖略ス)  
 掛リ官ノ請求ニ依リ解剖検査ヲ以上頭胸臟器ニ止ム

乙、鑑定

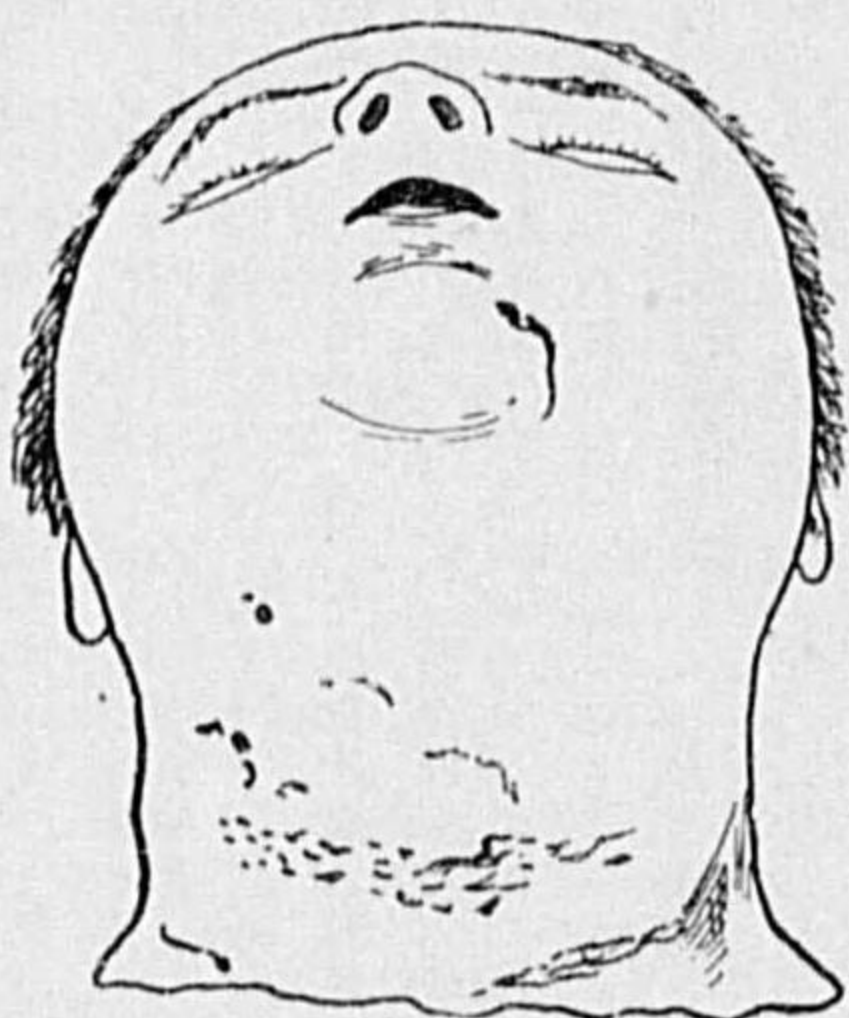
上記ノ解剖所見ニ依リ左ノ如ク鑑定ス  
 一、秀〇ノ頭部ニハ幅約一・七種幅横走ノ淺キ皮溝アリ而シテ溝内竝ニ溝ノ附近ニハ數個ノ表皮剝脫、胸鎖乳頭筋部ニ於ケル皮下出血、甲狀軟骨右板ノ可動容易ナルコト、喉頭上口附近ノ粘膜下ニアル數多ノ溢血點、舌骨體ノ不全骨折等アリ其詳細ハ記録第三、五及九項ノ記載及附圖ニ依リテ承知サレタシ(命令第一問ノ答)  
 二、右記ノ損傷ハソノ位置形狀ニ依リ之ヲ推考スルニ軟ク且ツ細長キ物體(索狀物)ヲ以テ頭部ヲ絞壓セルニ依リ生ジタルモノナリ(命令第二問ノ答)  
 三、前項ニ記載ノ如キ外力ガ頭部ニ襲來スル時ハ人ハ之レガ爲メニ窒息急死スルモノナリ而シテ秀〇ノ身體ハ前第一項ニ既揭セル局部ノ異常ノ他窒息死ノ一般徵候タル血液ノ流動性ナルコト(記録第五、七項)顔面、頭部ノ皮下及肺心ニ鬱血アルコト(記録第二、五、七、八項)眼結膜喉頭上口附近ノ粘膜下肺心ノ漿膜下ニ數多ノ溢血點アルコト(記録第二、七、八、九項)等ヲ具備ス故ニ秀〇ノ死因ハ絞頸ニ依ル窒息ナリト思慮ス(命令第三問ノ答)

圖三十八百第



(面後)場爪壓扼

第百八十四圖



同(右)前面

扼死

此鑑定ハ明治〇〇〇〇年〇月〇〇日著手  
 同年〇月〇〇日結了  
 明治〇年〇〇月〇〇日  
 宿所  
 鑑定人 岡本榮松

丁、扼死

扼死トハ手ヲ以テ喉頭部ヲ後壁ニ壓シ付クルカ、或ハ氣管ヲ兩側ヨリ握縮メテ氣道ヲ塞ギ人ヲ死ニ至ラシムルモノナリ。扼死ノ解剖的異常所見トシテハ、喉頭部ニ爪痕、又ハ指痕ノ存在スルコトアリ、爪痕ハ半月狀ヲナセルガ指痕ハ不正圓形ノ境界明カナラ

ザル表皮剝脫ニシテ、通常被害者ノ左頸部ニ四個、右側頸部ニ一個ヲ見、モシ加害者ガ左利キナルカ、或ハ幼兒ノ後方ヨリ扼シタル時ハ之ニ反ス。而シテソノ部ヲ切檢スレバ皮下溢血アリ。且喉頭軟骨、舌骨等ニ骨折ヲ來スコトアリ、ソノ他ノ解剖所見トシテハ窒息急死ノ一般所見アリ。扼死ハ殆ンド全ク他殺ナリ。一般ニ頸部ノ壓迫ニ依リテ死ニ瀕シタルモノガ蘇生スルモ、喉頭軟

圖五十八百第



(面前)上同

第百八十六圖



扼死ニヨル喉頭部出血

骨或ハ舌骨ニ損傷アルガ爲メニ、三日ノ後死スルカ、或ハ數日間昏



睡ニ陥リ、次デ記憶缺損乃至一種ノ精神病ノ來ルコトアリ。

第三十二例 案 書

他所氏名不詳ノ初生男兒

右者大正〇年四月二日午前八時頃京都府〇〇郡〇〇村〇〇疏水溜中ニ發見セラレタルモノナリト云フ京都府〇〇警察署長警視〇〇〇ハ之ヲ剖檢シテノ發育程度、生死産ノ別、死因及死後ノ經過日數ヲ檢案スベキ旨ヲ示シ囑託セリ依テ同日午後三時五十分乃至同五時三十分京都帝國大學醫學部法醫學教室ニ於テ同署詰査部長巡査〇〇〇立會ノ上之ヲ剖檢セルニソノ所見左ノ如シ

甲、解剖検査記録

第一、外表検査

- 一、皮色ハ顔面及下腹部、外陰部ノ暗紫赤色ヲ帶ブルノ他一般ニ稍蒼白ニシテ皮下脂肪及筋層住ク發育シ死體強直ハ咀嚼筋及四肢ノ諸關節ニ輕ク存ス
- 二、體重 二七五〇瓦 身長 四八・五〇 頭圍 三二・〇〇 横徑 九・〇〇 縦徑 一一・〇〇 斜徑 一三・〇〇 肩幅 一一・〇〇 腕幅 八・〇〇
- 三、頭部ニハ約二・〇〇厘米長ノ毛髮疎生シ頭部顔面ハ著シク紫赤色ヲ呈スト雖損傷ヲ見ズ左右眼閉チ結膜暗赤色ヲ呈シ溢血點ヲ認メズ角膜透明ニシテ瞳孔廣ク左右同大ナリ眼珠尙ホ善ク緊張ス鼻腔内ニハ淡汚赤色ノ粘稠濃厚物少許ヲ存ス口唇粘膜ハ紫赤色ニシテ口腔前庭部ニハ異物ナク舌ハ商離ノ後方ニ存ス兩耳殼ニ異常ナク外聽道内異物ヲ認メズ
- 四、頸部ニハ右胸鎖乳頭筋ノ經路ニ當リ鎖骨ヨリ一横指徑上方ノ所ニ拇指頭大ノ淡赤色斑アリコノ部ヲ切開スルニ周圍部ニ比シ皮下組織微ニ赤色ヲ呈スト雖組織間出血ヲ見ズ此斑ヨリ一横指徑後方ニ偏リ耳殼ノ下端ヨリ約一・五厘米下方ノ所ニ米粒大ノ紫赤色斑アリ切開スルニ同大ノ輕キ皮下出血ヲ見ルソノ他頸部ノ外皮ニ損傷ヲ認メズト雖顔面頸部及胸部上邊ノ皮膚一

- 般ニ紫赤色ヲ帶ビソレ以下ノ若白部ト著シキ色差アリ
- 五、胸腹ノ皮膚ニハ損傷ナク膈窩ハ四〇厘米長ノ太キ水分ニ富メル膈帶ニ依リ胎盤ト連續シ膈帶ハ胎盤ノ中心ヲ少シク外レテ附著ス胎盤ノ重サ四〇・〇〇瓦・大サ一・九〇―一・四〇二厘米徑ヲ算ス缺損ナシ
- 六、外陰部ニ損傷ナク舉丸ハ左右共陰囊内ニ在リ肛門閉鎖シ周圍ニ汚染ナシ腰部及臀部ニハ多量ノ胎垢ヲ附著シ背面ニ損傷ヲ見ズ
- 七、左右上肢ニ損傷ナク指爪ハ指端ニ達シ掌面ノ皮膚ハ少シク白色ヲ呈シ裝縮ス下肢ニモ損傷ナク趾面ノ皮膚ハ掌面ニ同シク趾爪ハ少シク趾端ニ達セズ大腿骨下骨端内ニハ化骨點ナク跟骨内ニハ左右共八・〇―一・六〇厘米ノ化骨點ヲ有ス

第二、内景検査

(以)胸腹腔剖檢

- 八、胸腹ノ皮膚ヲ式ノ如クソノ正中ニ於テ切開スルニ皮下脂肪及筋層ノ發育中等筋色常ノ如シ腹腔ノ上半ニハ紫褐色ノ肝臟ヲ、ソノ以下ニハ善ク膨脹セル淡紫赤色ノ胃腸ヲ見ル、腸管表面ノ血管網著明、大腸内ニハ多量ノ胎便ヲ透見ス腹腔臟器ノ位置尋常腹膜滑澤、腹腔内異常ノ内容ナシ横隔膜ノ高サ左第六肋間右第六肋骨ニ在リ
- (上)頸胸剖檢
- 九、頸部ノ皮下ヲ逐層細檢スルニ左胸鎖乳頭筋ノ前面ニ於テ胸鎖關節ヨリ約一横指徑上方ニ微細ナル筋間溢血二、三個散在シ鎖骨舌骨筋中ニモ喉頭ヨリ一横指徑下方ニ米粒大乃至麥粒大ノ筋間溢血一、二個存在ス
- 十、式ノ如ク胸骨ヲ肋軟骨ト共ニ切除シテ胸腔ヲ開檢スルニ前後隔ノ上半ニハ胸腺ソノ以下ニ心囊ヲ見ル左肺ヲ見ルコト能ハズト雖右肺ハ充分ニ露出シ胸腔内ニハ異常ノ内容ナシ
- 十一、心囊内ニハ異常ノ液體ナク心臟ノ大サ略本屍ノ手拳ニ等シク表面紫赤色滑澤ニシテ微細ナル溢血點一、二個ヲ存ス心室部ヲ缺ヲ以テ横斷スルニ

- 内ニ暗色ノ流動血多量ニ存シ内腔滑澤ニシテ筋質ニ異常ナシ
- 十二、頸部ノ諸臟器ヲ肺臟ト共ニ剔出スルニ舌上及咽頭部ニハ黑色砂粒樣ノ汚物一、二個アリ又前頭部ノ長頸筋中ニハ略喉頭ノ高サニ於テ小豆大ノ出血ヲ見ル食道内空虚、粘膜淡紅色ヲ呈ス、喉頭及氣管内ニハ微細ナル黑色ノ小塊一、二個ト共ニ少許ノ泡沫液ヲ存シ壓肺スルモ殆ソド液體ノ迴流シ來ルヲ見ズ
- 十三、肺ノ表面ハ一般ニ帶紫淡紅色ニシテ滑澤、肋膜下ニハ到ル所粟粟大乃至小豆大ノ溢血點多量ニ在リ且等大ノ小氣泡並列シ(肺胞ノ開張)前線部ニ於テハ最著明ニシテコノ部ハ他ノ部ニ比シ稍淡色ナリ觸ルニ各部共嚙嚙アリ断面ノ色ハ略表面ノ如ク血管ノ斷端ヨリハ暗色ノ流動血ヲ洩シ壓肺スレバ肺門部ノ氣管枝ノ斷端ヨリハ少許ノ泡沫液漏出シ他ノ部ニハ之ヲ見ズ

- 全肺左右肺各葉及ソノ細片ハ悉ク冷水上ニ浮揚シ之ニ加壓シテ再ビ投水スルニ孰レモ皆浮揚ス
- 十四、胸腺ノ大サ左右徑五・三上下徑四・二厚サ一・〇厘米厚質ニ異常ナシ
- (下)腹腔臟器
- 十五、脾臟表面紫褐色滑澤ニシテ硬サ尋常、大サ四・〇―二・五―〇・九厘米、断面ノ色略表面ノ如ク血中中等ナリ
- 十六、左腎莖膜剝離シ易ク表面淡紫赤色ヲ呈シ硬度尋常大サ五・五―二・五―一・三厘米断面ノ色略表面ニ等シク血中中等只乳頭ハ暗赤色ヲ呈ス實質ニ潤濁ナシ、右腎大サ五・八―二・六―一・二厘米ソノ他ノ性状ハ略左腎ニ同シ膀胱内ニハ微量ノ尿ヲ存シ壁質ハ強ク收縮ス
- 十七、胃ヲソノ上下端ニ於テ結紮シ冷水中ニ投ズルニ白ラ冷水上ニ浮揚シ開檢スルニ氣體(空氣)ノ他帶黃淡褐色ノ濃厚物少許アルノミニシテ液體ヲ存セズ粘膜滑澤ニシテ血管充盈ス
- 十八、腸管ヲ剔出シテ冷水中ニ投ズルニ小腸全長ノ約上半部ハ浮揚ス小腸内

ニハ帶赤淡黃色ノ濃厚物少許ヲ存シ粘膜ニ異常ナシト雖血管網著明ナリ大腸内ニハ暗綠色ノ胎便中等量ヲ存シ粘膜面ニハ記スベキ異常ナシ

- 十九、肝臟表面帶紫褐色ニシテ滑澤硬サ尋常大サ一・二〇―一・七―一・二―四厘米断面ノ色略表面ノ如ク著シク血液ニ富ミ洞濁無シ膈囊内ニハ淡黃色ノ膽汁少許ヲ存シ粘膜ノ性状常ノ如シ
- (四)頭腔剖檢
- 二十、頭皮ヲ式ノ如ク切開剝離シテ之ヲ前後ニ翻轉スルニソノ内面一般ニ紫赤色ニシテ顱頂部及後頭上部ニハ矢狀縫合ノ左右ニ沿ヒ指頭大若クハソレヨリモ稍大ナル暗赤色ノ皮下出血數個(産腫)アリ
- 廿一、頭骨ヲソノ縫合ニ沿ヒ剪斷シテ頭腔内ヲ檢スルニ内ニ異常ノ内容ナク穹窿部及底面ノ軟腦膜ハ滑澤透明ニシテ著シク赤色ニ富ム左右側室内異常ノ内容ナク脈絡叢血多量ク質軟ナル爲メ各部ヲ細檢スルコト能ハズト雖ソノ断面一般ニ微ニ紫赤色ヲ帶ビ血中中等量ヲ存シ出血等アリタルノ痕跡ナシ横竇内ニハ暗赤色ノ流動血多量アリ頭骨ニ損傷ナシ
- 乙、檢 案
- 前記解剖検査ノ所見ヲ基礎トシ左ノ如ク檢案ス
- (一)身長、體重、頭首ノ大サ(記錄第一項)頭毛ノ長サ(同第二項)爪甲ノ性状跟骨内ノ化骨點ノ大サ(同第七項)等ニ依レバ本兒ハ略成熟セルモノナリ而シテ別段畸形病的變化コレナキガ故ニ生活機能ヲ有スルコトモ亦明カナリ
- (二)肺ノ性状殊ニ肺胞ノ明カニ開張セルコト、各部ニ嚙嚙ヲ觸知シ得ルコト浮揚試驗陽性ナルコト(同十三項)胃及腸ノ膨脹シ(同第八項)且ソノ冷水上ニ浮揚スルコト(同十八項)等ハ本兒ガ産後呼吸セルコト換言スレバ産兒ナルコトヲ證シ得テ餘リアリ
- (三)右頸部ニハ記錄第四項ニ記載ノ如キ所見アリ而シテ該部ノ筋肉ニハ夥多ノ出血ヲ隨伴ス(同第九及十二項)是レ該部ニ生前鈍體ノ作用セル證據ニシテ其位置形狀ヨリ推察スレバ手指ヲ以テ頸部ヲ扼壓セル痕跡ニシテ本兒ハ



之レガ爲メニ窒息セルモノナリ頭面部頭部以上ハ紫赤色(記録第一、二項)ツレヨリ以下ハ蒼白ニシテ著シキ色差アルコト血液ノ流動性ニシテ肺心等ニ溢血アルコト(同第十一、十二、十三項)肺心及肺肝ノ血液ニ富ムコト(同第十一、十三、十九、廿一項)モ亦コレニ恰適ス

四、輕度ナガラ全身ニ死體強直アリ(同第一項)眼珠ハ著シク緊張シ(同第二項)腐敗ノ微毫モ之レナシ是等ノ所見ト目下ノ季節トヲ綜合スレバ本見ハ死後解剖時迄一日以上ヲ經過セザルモノナルベシ

此檢案ハ大正〇年〇月〇〇日著手

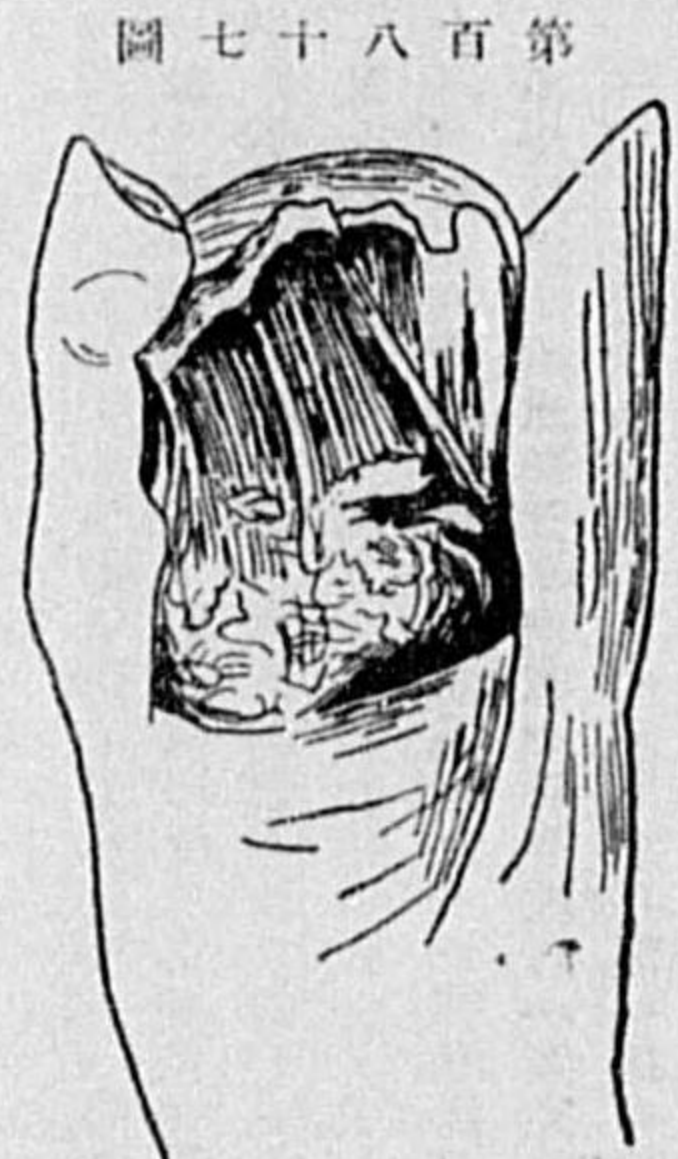
同 年同月〇〇日終了

大正〇年〇月〇〇日

京都帝國大學教授 岡本 榮 松 節

戊、種々の機械的窒息急死

ソノ他機械的ニ呼吸口ヲ閉塞シ窒息急死ニ至ラシムルニ種々ノ方法アリ、例ヘバ小兒ニテハ蒲團、乳房、手、濡レ紙等ニテ鼻口ヲ掩ヒ、痕跡ノ殘存セザル様ニシテ急死セシムルコトアリ、此時ハ窒息



圖七十八百第  
急死ノ所見アルノ他異常所見ナク、之方故意ニ起レルコトナルカ或ハ災厄ニヨリ來レル

カ、醫學上ニハ之ヲ區別スベキ何等據ナキモノトス。然レドモ充分

ニ發育セル小兒ハ生後十ヶ月ニ至レバ、最早蒲團、或ハ乳房等ニテハ災厄的ニ窒息急死スルコトナク、自力ニテソノ障害ヲ排除スルコトヲ得ルモノナリト云フ。

小兒ノ口ニ紙、よだれかけ等ヲ詰メ込ミ、又ハ手指ヲ咽頭ニ挿入シテ窒息急死セシムル事アリ、コハ異物ヲ口中ニ殘シ或ハ損傷ヲ咽喉等ニ生ジ居ルコトアレバ、剖檢上容易ニ發見スルコトヲ得ルモノナリ。

餅、入齒又ハ玩弄物ニテ窒息急死スルコトアリ、ソノ故意ナルヤ災厄ナルヤハ事歴ニ依リテ決定スルノ外ナシ、尙淋巴性體質ノモノガ僅カノ原因ニ依リテ窒息急死スルコトアルハ已ニ述ベタルガ如シ、予ノ遭遇セル一例ニテハ精神病者ガ重キ鐵寢臺ノ一脚ヲ咽頭ニ載セ、ソノ重サニヨリ窒息急死セルモノアリタリ。

巳、溺 死

溺死トハ液體例ヘバ河水、海水、糞汁、尿、乃至羊水等ヲ以テ鼻口或ハ氣道等ヲ閉塞シ窒息急死スルヲ云フ。通常溺死ト云ヘバ全身液體中ニ溺ルルヲ必要トスルガ如ク思ヘ共、然ラズシテ只鼻口氣道ヲ少許ノ液體ニテ塞ゲバ、十分窒息急死スルコトヲ得、例ヘバ酩酊者或ハ癲癩病者等ハ僅ニ一、二升ノ液中ニ鼻口ヲ挿入シ溺死スルコト

アルガ如キ之レナリ。

人モシ冷水中ニ投身スレバソノ皮膚ニ對スル冷感ニヨリ反射的ニ一時呼吸ヲ停止ス、ソノ間ハ凡ソ三、四十秒ナリ(呼吸停止期)。或



圖八十八百第  
ハ此際聲帶痙攣ヲ起シ若クハ精神的しよつくニ陥リ、液體ヲ肺中ニ吸入スルニ先チ窒息急死スルコトアリ。然レドモ一般ニハ投水後間モナク呼吸セン



圖九十八百第  
クシモ袋手膚皮ノ足手(註)ルセ離脱ク如ク袋足ハノモ

吸入運動ヲナシテ液體ヲ吸入シ(呼吸促進期)、次デ人事不省ニ陥リ次ニ反射機能モ減退シ、此時ニモ液體ヲ吸入モシクハ嚙下スルモノノ最モ甚ダシキハ所謂終末呼吸ノ來リシ(麻痺期)ナリ。斯クノ如キ有様ナレバ、溺死者ニ於ケル吸入液體ノ量ニハ甚ダシキ差異アリ

溺 死

リテ、投水後苦悶甚シキ程ソノ量多シ。

溺死者ノ外部所見トシテハ死體ハ割合ニ早ク冷却シ蒼白トナリ、冬時ニ在リテハ死斑鮮紅色ヲ呈シ眼結膜等ニ溢血點アリ、鼻口ヨリ泡沫液ヲ漏出シ鳥肌ヲ呈シ、陰莖、及乳房等收縮シ、手足ノ皮膚ハ白色トナリ且皺襞(之ヲ原形ニ復スルニハ先ヅ乾燥センメ、ばらひんヲ注入スレバ指紋捺捺ノ目的ヲ達スルコトヲ得)ヲ呈ス、之ヲ漂母皮ト云ヒ、稍腐敗スレバコハ手袋狀ニ離脱ス。以上ノ所見ハ溺死體ニ特有ナルモノニ非ラズ、唯死體方液中ニ在リシヲ證明スルノミニシテ、他ノ方法ニテ死亡セシモノヲ液中ニ投ズルモ、一定時間ノ後ハ同様ノ所見ヲ呈スルモノナリ。モシ河底ノ泥砂或ハ水藻等ヲ手中ニ握ミ居ラバ、生前投水セシ一證トモナルコトアルベシ。

内景所見トシテハ一般窒息急死ノ徵候アルノ他、溺死ニ特有ナル所見ハ肺、胃或ハ鼓室乃至循環器中ニ溺死液ノ侵入スルコトナリ。即チ肺ハ非常ニ膨大シ重ク肺緣鈍トナリ、肺ト胸壁肋膜トノ間隙少クナリ、壓肺スレバ小氣泡ヲ有スル無色或ハ淡血液體、氣管内ニ多量迴流シ來リ、肺ノ斷面ヨリハ同狀液多ク流出ス、肺水腫ノ際ニハ斷面ヨリ氣泡ノ混交少キ液ヲ漏出スルヲ以テ、前者ト直ニ鑑別スルコトヲ得ベシ。又死體引上ノ際等ニ液體ノ肺胃或ハ鼓室ニ侵入ス



ルコトアルモ、決シテ溺死ノ際ノ如ク、深ク且多量ニ入り居ルコトナシ。溺死液ガ胃内ニ嚥下サレ往々ニシテ十二指腸ニ迄モ達スルコトアレドモ、茲ハ液質ノ存在スル所ナレバ、特有ナル夾雜物アルニアラザレバ診斷的價値ナシ。而シテモシ死體ガ古クナリ腐敗ニ移行スレバ、溺死液モ次第二血液ト共ニ近傍ノ臟器ニ滲透シテ、遂ニハ之ヲ證明スルコト能ハザルニ至ル。我國盛夏時ニハ已ニ溺死後第二日ニ於テ、肺及胃中ノ水分全ク滲出シ盡ス場合アリ、此際ハ尙溺死液中ノ夾雜物、例ヘバ、水草、海藻、泥砂等ガ肺或ハ胃腸等ニ殘存シ居リテ、診斷ニ對シ大ナル補助ナルコトアレバ、此等ヲ注意シテ検査スベシ。

其他左右心ニ於ケル血液ノ比重、氷結點、或ハ電導力ノ差異ニヨリ、右心ニ水或ハ鹽分ノ侵入セルヲ知り、或ハ肺斷面ヨリ流出スル液體ヲ鏡檢シテ異物ヲ發見シ、溺死ニ對シ種々ノヒントヲ得ルコトアレドモ茲ニ之ヲ略ス。尙投水セシモノガ直ニ少シク冷水ヲ吸入シソノ爲メニ聲帯ニ痙攣ヲ起シ、殆ンド液體ヲ肺ニ吸入スルコトナクシテ窒息死ニ至ルコトアリ。

我教室ニテ實見セル例ニ依レバ、一婦女踪跡ヲ晦マシテヨリ後數十日ニシテ古井戸中ニソノ死體ヲ發見シ、溺死ナルヤ將タ死後茲ニ

Table with 15 columns and 15 rows containing forensic data for drowning cases, including dates, symptoms, and autopsy findings.

一般ニ死體水中ニ入りテ二、三時間ヲ經過スレバ、手足ノ皮膚巴ニ蒼白トナリ皺襞ヲ呈シ、次第ニ全身ニ腐敗瓦斯ヲ生ジテ比重輕クナ

投入セシモノナルヤノ疑問起リ剖檢セルコトアリキ、然ルニ已ニ數十日ヲ經過セシコトナレバ、腐敗ノ進行高度ニシテ肺中ニハ血液或ハ溺死液ノ一滴ガモ見出スコト能ハザリシニ、注意シテ檢セシニ氣管枝分枝部ニ該井水ニ混在セル藥片數條引キカカリ居リ、通常死體ノ所置位ニテハ此ノ如ク藥片ノミ深部ニ達スルモノニ非ザルヲ以テ、此死體ハ遂ニ溺死ナリト診定セシコトアリタリ。一九〇六年ウゐん法醫學教室ノ報告ニヨレバ、溺死者中定型ノ溺死所見ヲ呈セシモノハ全數ノ約八〇%ニシテ、氣管内ニ泡沫液ノアリシハ六五・五%、胃腸内ニ溺死液ノアリシモノ五〇%、脾臟ノ貧血性ナリシモノ五七%、ソノ他通常溺死ノ徵候ト見做サルルモノノ百分率ハ比較的少ク、溺死體ニシテ顔面紫藍色ヲ呈セシモノ四・五%、溢血點アリシモノ七・五%、筋肉出血ノアリシモノ一三・二%ナリシト云フ。尙我教室ニ於テ解剖セル溺死體ニ付、ソノ肺中ニ於ケル液體ノ有無及ソノ他ヲ示セバ第九十三表ノ如シ。

第九十三表

Table with 3 columns: 例年、解剖月日、肺所見及他臓、溺死ノ原因、死後經過時間、其他ノ事項.

リ、夏期ニ於テハ一、二、三日ニシテ、冬季ニ於テハ數週乃至數月ニテ水上ニ浮揚シ、投水後五、六日ニシテ表皮ハ容易ニ剝脱シテ眞皮ヲ露出シ、藻多キ所ニテハ十日内外ニシテ溺死體ニ水藻ヲ生ズ。而シテ此死體現象ニヨリ死後ノ經過日時ヲ判定スルコトハ、季節ト場所ニヨリ大差アレバ甚ダ困難ナリ。溺死ハ多クハ自殺ニシテ小兒ニテハ他殺ナルコトアリ。ソノ他偶然ニヨル災厄ノ爲メニ來レル溺死アリ。又他ノ方法ニテ死ニ致ラシメ後投水シ、或ハ兇器ヲ以テ自殺セントシテ果タサズ、溺死ニテソノ目的ヲ達スル場合アリ。若クハ負傷後誤ツテ溺死スルコトアリ、投身ノ際ニ橋桁等ニ衝突シ或ハ水面ニテ強打シテ受傷後着水死ニ至ルガ如キ之レナリ。又溺死後水底ノ岩石、水車、汽船ノ推進器等ニ衝突シテ受傷シ、或ハ溺死體ガ水鼠、魚類等ニヨリテ咬傷サルルコトアリ、此等ノ際ハ注意シテ負傷ノ状態、生活反應ノ有無ヲ檢査シテ、謬見ニ陥ラザル様注意ヲ怠ルベカラズ。而シテ假令生前ニ生ジタル負傷ト雖、水中ニアル爲メ浸漬ヲ被フ、ソノ生活反應甚ク不明トナルコトアリ。

鑑定實例

第三十三例 檢案書



大正〇年〇月〇日〇〇地方裁判所檢察事〇〇〇ハ左記森〇ヒ〇ノ屍ヲ剖檢シテ損傷ノ有無及ソノ死因ヲ檢案スベキ旨ヲ余ニ囑託セリ依テ同日午後二時乃至同午後四時十五分〇〇縣〇〇郡〇〇村大字大野シヨブ谷ニ於テ檢事正〇〇〇及同檢事立會ノ上右ヒ〇ノ屍ヲ解剖シ其際蒐集シタル檢査材料ハ同日二日乃至十七日ニ互ル期間京都帝國大學法醫學教室ニ於テ檢査シ彼是ヲ綜合シテ此檢案書ヲ作ル

〇〇縣〇〇郡〇〇村大字大野 森 〇 〇 〇

當二十三年

右者行衛不明トナリ居リシ所十月九日前記シヨブ谷ノ一池中ニ死體トナリ浮游シ居ルヲ發見シ直ニ之レヲ引キ上ゲ其池邊ノ土手ニ靜置監視シ居リタルモノナリ該池ハ相當ニ深クシテ二米以上ニ達スル所アリ内ニ枯朽セル樹枝雜草陷リ居リ尙水草及水藻繁茂シ其間ニ多數ノ水棲昆蟲等浮游シ居ルヲ認ムト雖池水ハ濁濁セズ

甲、解剖檢査記録

第一、外表 檢査

一、女屍、著衣尋常、體格中等榮養良、皮下脂肪及筋肉發育又佳良、皮色ハ全身一般ニ蒼白ニシテ特ニ濃色ノ部ナク死體強直ハ下頸關節及四肢ノ諸關節ニ尙強ク存ス  
二、結髮尋常、頭毛及頭皮ニテ血液ヤ多量膠著スト雖毛頭皮ニ損傷異常ナク顔面ニ於テハ兩眼眼瞼ノ部ハ上下其實質缺損シノ中央ニ眼球ヲ見ル邊緣ハ甚不正、所々ニ組織ノ橋架スルヲ認メ、且瓣狀ヲナセル部アリ此缺損部ノ深サハ上顎骨ノ上眼窩緣ヨリ凡ソ二・〇〇〇種ニ達ス眼球ハ硬クシテ角膜透明、瞳孔左右同大圓形ニシテ直徑二・〇〇〇耗鼻腔内ヨリハ白色ノ小泡沫少許ヲ漏ラス、上唇ノ略中央ニ小ナル二大豆大ノ實質缺損アリコレヲ切開スルニ皮下ニ溢血ヲ認メズ、口腔前庭前ニ異物ナク舌ハ齒列ノ間ニ突出ス、

左耳殼ニハ血液ノ乾著スルノ外尙新鮮ナル蛆蟲卵附著ス外聽道内異物ナシ右耳殼異常ナク外聽道内又異常ノ内容ヲ見ズ左耳垂ノ後方ニ小指頭大ノ實質缺損アリ邊緣瓣狀切檢スルニ皮下ハ淡赤色ヲ呈スルモ溢血等ノ異常ヲ認メズ  
三、頸部ノ皮膚ニハ麥粒大乃至大豆大ノ淡黑色斑約八個存在スト雖切檢スルニ皮下ニ溢血其他ノ異常ヲ認メズ  
四、胸腹部ノ皮膚ニ異常ナク外陰部ノ發毛ヤ少ナク、會陰部ニハ小指頭大同上ノ皮質缺損アリト雖モ切檢スルニ直下ノ皮下ニ出血ソノ他ノ異常ナシ肛門少シク哆開シ周圍ニ汚染ナシ  
五、上肢左右手背ニモ同上ナル小米粒大ノ表皮缺損アルモ皮下ニ異常ヲ認メズ左右大腿ノ略々中央ニ同上ノ大豆大ノ皮質缺損アリテ深サ筋肉組織ニ達シ切檢スルニ皮下ニ出血其他ノ異常ナシソノ他略々同性狀ノ創傷左膝關節部ニ三個アリ切檢スルニ皮下ニ溢血等ナシ、ソノ他前記同様缺損ノ淺キモノ兩足關節部膝蓋骨ノ表面ニ各數個アリ右下肢ノ第五趾即小趾ハ一ツノ畸形ヲ呈シ、中節ヲ失ヒ、短ク足背ヨリ上方ニ突出ス  
六、脊面及項部皮膚ニハ損傷其他ノ異常ナシ

第二、内景 檢査

上、胸腹腔開檢

七、頸胸腹部ノ皮膚ヲ式ノ如クソノ正中ニ於テ切開スルニ皮下脂肪組織及ヒ筋肉ノ發育良、腹腔ヲ檢スルニ大網膜脂肪中等、腸管ノ表面ハ一般ニ帶淡赤若白ニシテ肝臟ノ下垂ハ劍狀突起ヨリ約四・〇〇〇種下方ニ達シ、腹膜滑澤腹腔内ニハ淡赤色ノ液中等量ヲ存シ腸管膜腺ハ數大豆大ニ腫脹ス腹腔臓器ノ位置ニ異常ナク橫隔膜ノ高サハ左右第五肋骨ノ下緣ニ在リ

イ、頸 胸 臟 器

八、頸部ノ皮膚ヲ丁字ニ割離シテ檢スルニ直下ノ皮下組織及筋肉ニ異常ナシ胸骨ヲ肋軟骨ト共ニ切除シテ胸腔ヲ開檢スルニ左右肺ハ甚ダ膨大シ、殆ソノ色略ホ表面ノ如シト雖モ皮質ヤ狭ク、腎盂内膜ノ色常ノ如シ  
十四、十二指腸内ニハ淡黄色ノ粘稠物中等量アリ輸膽管通過、胃中ニハ大根ノ細根、黒絲尙未ダ消化セザル飯粒、柄實ノ片等甚多量充滿シ、粘膜一般ニ蒼白ニシテ血管ノ充盈粘膜ノ缺損等ナシ  
十五、肝臟ノ表面ハ少シク橫隔膜ト癒著シ、爲メニ纖維素樣物質ノ附著アリ大サ、二六・五一一・七〇一八・〇〇種徑表面帶褐色ヲ呈シ斷面ノ色略ホ表面ノ如ク血管ノ斷端ヨリハ暗赤色ノ流動血ヤ多量ニ務出ス小葉ノ別不明ナリ  
十六、小腸内ニハ黄色ノ軟便、十數條ノ蠟蟲、不消化ノ食物殘滓アリ粘膜ハ略ホ同色ニ染ムト雖モソノ下部ニ於テハ孤腺集腺著シク腫大ス、大腸内ニハ黄色ノ軟便多量アリ粘膜蒼白ナレドモソノ上部ニ於テハソノ粘膜腫著シク腫大ス、腹部大動脈ニ異常ナシ  
十七、膀胱ハヨク收縮シ血管充盈ス内ニ帶黄白色ノ濃厚液ヲ容ル兩卵巣ハ鳩卵大ニ腫脹シ内ニ膀胱内容ト同性狀ノモノアリ子宮ニモ膀胱ト同様性狀ノ濃厚液少許アリ子宮腔部ノ粘膜充血シ、腔ニモ前記ト同性ノ濃厚液多量ヲ容レ粘膜充血セリ

ト前縦隔ノ全部ヲ掩ヒ、心囊ノ下部僅ニ露出ス、肺ノ膨滿大ナルタメ胸腔内ニ手指ヲ挿入スルコトヤ困難ヲ感ズ胸腔内ニハ汚血血液少許アリ  
九、心囊ノ表面ヤ脂肪ニ富ミ、心囊内ニハ淡赤色透明液約五十鈍アリ、心臟ノ大サハ略々本屍ノ手拳大ニシテ右心房内ニハ暗赤色流動血ヤ多量アリ左右心室空虚、心臟表面脂肪ニ富ミ淡褐色質硬房室間口ハ左右トモ容易ニ二指ヲ通ズ大動脈孔及肺動脈孔ニ灌水スルニヨリ水ヲ保ツ、心内膜褐色ヲ呈シ肉柱稠膜ニ異常ナシ心室ノ厚サ右二・〇〇〇耗、左一・二〇〇種ナリ  
十、左肺、表面帶褐色、滑澤ニシテ觸ルルニ各部トモ嚙嚙アリ肺線甚ダ鈍斷面ノ色、帶紫赤色ニシテ壓肺スルニ血管ノ斷端ヨリハ暗赤色ノ流動血、氣管枝ノ斷端ヨリハ小泡ヲ含メル泡沫液少許ヲ漏ラス氣管枝粘膜淡紫色ニシテ肺門腺ヤ腫大ス、右肺、葉同ニ二、三ノ癒著アリ肋膜滑澤、表面帶褐色按壓スルニ各部トモ嚙嚙ヲ觸レ、硬變ノ部ナシ、斷面ノ色帶紫赤色壓スルニ血管ノ斷端ヨリハ暗赤色ノ血液、氣管枝ノ斷端ヨリハ泡沫液少許ヲ容ル、左右肺ノ氣管枝内ヲ注意シテ剪開シ檢スルモ異物ノ存在ヲ認メズ茲ニ於テ肺ノ小片ヲ鏡檢ノ材料トシテ採集ス  
十一、頸動脈内膜ニ異常ナク、甲狀軟骨骨ニ骨折ナシ咽頭内ニハ異物ナシト雖モ、扁桃腺及舌根部ノ腺ヤ肥大ス食道内ニハ飯粒及柿實及ソノ果皮ノ破片少許アリ粘膜蒼白、喉頭内ニモ異物ナク氣管内又空虚粘膜淡紫色ヲ呈ス

ロ、腹腔 臟 器

十二、脾臟表面滑澤、皮膜厚、淡紫黑色ニシテ質ヤ軟大サ一〇・〇一六・〇一三・五種、斷面赤褐色ニシテ脾材多シ  
十三、左腎莖膜ヤ剥離シガタク、強イテ之レヲ剥離スレバ實質ニ缺損ヲ生ズ斷面帶褐色ニシテ質軟、大サ一・二一〇一六・五一二・五種、皮質ヤ狭ク、皮髓兩質ノ分界不明ナル所アリ腎盂粘膜蒼白、右腎莖膜剥離シ易ク表面滑澤、其色、左腎ヨリハヤヤ濃、大サ一・一五六一・〇一二・八種、斷面

十八、頭皮ヲ式ノ如ク切開割離シコレヲ前後ニ翻轉スルニソノ内面一般ニ蒼白ニシテ乾燥ス皮下ニ溢血其他ノ異常ヲ認メズ前記(第二項)ノ眼窩ノ裂傷部ノ皮下ヲソノ内面ヨリ見ルニ毫モ出血ソノ他ノ異常ヲ認メズ  
十九、頭骨ヲ式ノ如ク鋸斷シ頭腔ヲ開檢スルニ内ニ異常ノ内容ナク硬腦膜ハ尙比較的硬ク頭骨ト癒著ス上縱竇空虚、軟腦膜ハ透明ナレドモ、びびおに氏顆粒著明、血管内血中等、軟腦膜剥離シ昇シ腦室内ニハ異常ノ内容ナシ  
二十、大脳實質ノ血點中等、大脳神經節ニ出血、軟化等ナシ第三第四室空虚、小腦ノ斷面ハ略ホ大脳ニ同ジク、基礎動脈柔軟、松葉腺小、大脚脚、わる



溺 死

る氏橋延髓ノ断面ニ異常ナシ、頭骨ニ骨傷ヲ認メズ

乙、顯微鏡的検査

廿一、膀胱及腔内ニ在リシ濃厚液ヲ鏡檢スルニ多數ノ細菌及一、二ノ扁平上皮細胞ヲ認ムト雖膿球ノ存在ヲ認メズ

廿二、肺ノ小片ヲふおるまりん液ニテ固定シ次デふおるまりんヲ除去後水結みくろーとむニテ薄片ヲ製シ或ハあせとんヲ以テ脱水シ

ろいでいんニテ包埋シ薄片ヲ作り鏡檢スルニ小氣管枝並ニ肺胞中ニ上圖ノ形ヲナセル小蟲淡褐色乃至灰色ノ小塊小許並ニ植物纖維二三存在セルヲ認ム

丙、說明

一、ひ〇ノ身體ニハ記録第二乃至第五項ニ記載ノ如キ損傷アリ而シテ此等ノ創傷ハ何レモ創縁不正創面及創底ニ凹凸ヲ呈シ創内ニ組織ノ橋架セルモノアリ即チ鈍器ノ襲來ニ依テ形成セラレタルモノニシテ皮下ニ溢血等ノ生活反應ナキヲ以テ見レバ死後身體ニ附加セラレタルモノナルベク恐ラクハ水中ニ棲息セル小蟲ノ咬嚼ニ依リテ生ジタルモノナラン、ソノ他ニハ特記スベキ性狀ヲ有スル損傷ナシ

二、死體ハ比較的新鮮ナルニ拘ハラズひ〇ノ肺中ニハ多量ノ溺死液ヲ見出し能ハザリシト雖(記録第十項)肺ノ比較の膨大セルコト(記録第八項)肺胞中ニ異物ヲ發見セルコト(記録第十一項)血液ノ暗赤色流動性ナルコト(記録第十五項)等ヨリ見レバひ〇ノ死因ハ液質ノ吸入ニヨル窒息(溺死)ナリ何トナレバ一面通常ノ呼吸或ハ水中ニテノ死體ノ取扱等位ヒニテハ異物ハ此ノ如ク肺ノ深部迄侵入スルモノニ非ラズ他面ニハひ〇ノ身體諸所ニ淋巴囊置(記録第十、第十六項)腫脹シ居リテ所謂淋巴性體質者ナルベク此體質ヲ有スルモノハ比較的僅少ノ衝動ニ依リテ死ニ至ルモノナレハ彼女ハ投水後シカク多量ノ水ヲ吸入セサルニ先チ死ニ至リシモノナラン之レ解剖ノ際肺中ニ多量ノ溺死液ヲ發見セザリシ所以ナリト信ズ

四〇四

其他本屍ニハ身體中何處ニモ直接死ヲ招來スルガ如キ病變及生前附加セラレタル損傷ヲ發見セザルコトモ彼女ノ直接死因ガ溺死ノ外ニ出テザルコトノ證左トナスヲ得ベシ

丁、檢案

上記解剖的及顯微鏡的検査ノ所見ニ依リテ説明セルガ如クナルヲ以テ左ノ如ク檢案ス

一、ひ〇ノ身體ニハ生前ニ附加セラレタル損傷ヲ認ムルコト能ハズ

二、ひ〇ハ溺死セルモノナリ

此檢案ハ大正七年十月十四日著手

同年同月十八日終了

宿 所

醫師 小南又一 郎

窒息急死ノ診斷 一般ニ機械的ニ窒息急死セルモノナルコトヲ診定センニハ、一般窒息急死ノ三主徵即チ内臟ノ鬱血、粘膜乃至漿膜面ニ於ケル溢血點、血液ノ暗赤色流動性ナルコトノ外ニ、機械的ナル窒息直接原因及他ニ直接死因トナル程ノ病變ナキコトヲ確定セザルベカラズ、而シテ此内一、二ノ主徵ヲ缺クコトアルモ、窒息急死ナリトノ診定ヲナスコト可能ナルモ、單ニ頸部ニ扼痕アリ乃至肺中ニ液體アリト云フガ如キ所見ノミヲ以テ、直ニソガ窒息急死セルモノナリト云フコト能ハズ

四、爾餘ノ變死々體検査

イ、餓 死

刑法第二百十七條 老幼、不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者ヲ遺棄シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

同 第二百十八條 老幼、不具者又ハ病者ヲ保護ス可キ責任アル者之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲ササルトキハ三月以上五年以下ノ役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

同 第二百十九條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

救 護 法

第一章 第一項

左ニ掲クル者貧困ノ爲生活スルコト能ハザルトキハ本法ニ依リ之ヲ救護ス

一、六十五歳以上ノ老弱者

二、十三歳以下ノ幼者

三、妊娠婦

四、不具廢疾、疾病、傷痍其ノ他精神又ハ身體ノ障礙ニ因リ勞務ヲ行フニ故障アル者(略)

第十一條 救護ハ救護ヲ受クル者ノ居宅ニ於テ之ヲ行フ

第十二條 幼者居宅救護ヲ受クヘキ場合ニ於テ市町村長其ノ哺育上必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ幼者ト併セ其ノ母ノ救護ヲ爲スコトヲ得

第十三條 市長村長居宅救護ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ適當ナラスト認ムルトキハ救護ヲ受クル者ヲ救護施設ニ收容シ若ハ適當ナル施設ニ收容委託スルコトヲ得

餓 死

第十六條 第十三條ノ規定ニ依リ收容セラレ又ハ收容ヲ委託セラレタル未成年者ニ付親權者及後見人ノ職務ヲ行フ者ナルトキハ市町村長又ハ其ノ指定シタル者勅令ノ定ムル所ニ依リ後見人ノ職務ヲ行フ

第十八條 救護ヲ受クル者同一市町村ニ一年以上引續キ居住スル者ナルトキハ救護ニ要スル費用ハ其ノ居住地ノ市町村ノ居擔トス

第十九條 救護ヲ受クル者左ノ各號ノ一ニ該當スル者ナルトキハ其ノ居住期間一年ニ滿ササル場合ニ於テモ救護ニ要スル費用ハ其ノ居住地ノ市町村ノ負擔トス

一、夫婦ノ一方居住一年以上ナルトキ同居ノ他ノ一方

二、父母其他ノ直系尊屬居住一年以上ナルトキ同居ノ子其ノ他ノ直系尊屬

三、子其ノ他ノ直系尊屬居住一年以上ナルトキ同居ノ父母其ノ他直系尊屬

第二十條 前二條ニ規定スル期間ノ計算ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

救護法施行令

第一章 被救護者

第一條 救護法第一條第一項第三號ノ妊娠婦ヲ救護スヘキ期間ハ分娩ノ日前七日以内分娩ノ日以後二十一日以内トス、分娩ノ日カソノ豫定日ヨリ後レタルトキハ前項ノ分娩ノ日前ノ期間ヲ七日以内延長スルコトヲ得

第二條 救護法第一條第一項第四號ニ掲クル事由ノ範圍及程度左ノ如シ

一、不具廢疾ニシテ常ニ介護ヲ要スルモノ又ハ自由ヲ辨スルニ過キサルモノ

二、疾病又ハ傷痍ニシテ就床ヲ要シ又ハ長キニ互リ安靜ヲ要スルモノ

三、精神耗弱又ハ身體虛弱ノ著シキモノ

第三章 救護ノ範圍、程度及方法

第七條 生活扶助ハ金錢又ハ物品ノ給與ニ依リ之ヲ行フ

第九條 醫療ハ救護施設又ハ市設又ハ市町村長ノ指定シタル醫師若ハ商科醫師ニ就キ之ヲ受ケシム醫師又ハ商科醫師處方ヲ交付シタルトキハ市町村



長ノ指定シタル藥劑師ニ就キ藥劑ヲ受ケシム  
 第十條 助産ハ救護施設又ハ市町村長ノ指定シタル醫師若ハ産婆ニ就キ之ヲ受ケシム  
 第十一條 救護ヲ受ケ又ハ受タヘキ者急迫ノ事情アルトキハ市町村長ノ指定セサル醫師、齒科醫師又ハ産婆ニ就キ醫療又ハ助産ヲ受クルコトヲ得  
 第十二條 生業扶助ハ生業ニ必要ナル資金、器具又ハ資料ノ給與又ハ貸與ニ依リ之ヲ行フ  
 第十三條 救護法第十一條ノ規定ニ依ル居宅救護ノ場合ニ於テ生活扶助ノ爲支出スル費用ノ限度ハ一人一日二十五錢以内一世帯一日一回以内ニ於テ地方長官之ヲ定ム  
 第十四條 居宅救護ノ場合ニ於テ醫療ノ爲支出スル費用ノ限度ハ内務大臣ノ認可ヲ受ケテ地方長官之ヲ定ム  
 第十五條 居宅救護ノ場合ニ於テ助産ノ爲支出スル費用ノ限度ハ十圓以内ニ於テ地方長官コレヲ定ム  
 第十六條 救護法第十三條ノ規定ニ依ル收容救護ノ場合ニ於テ生活扶助、醫療又ハ助産ノ爲支出スル費用ノ限度ハ内務大臣ノ認可ヲ受ケテ地方長官之ヲ定ム  
 第十八條 生業扶助ノ爲支出スル費用ノ限度ハ一人ニ付三十圓以内ニ於テ地方長官之ヲ定ム  
 第二十條 埋葬ノ爲支出スル費用ノ限度ハ十圓以内ニ於テ地方長官コレヲ定ム  
 第二十一條 特別ノ必要アル場合ニ於テハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ受ケテ  
 第十三條、第十五條、第十九條又ハ前條ニ規定スル制限ヲ超過シ生活扶助、助産、生業扶助又ハ埋葬ノ爲支出スル費用ノ限度ヲ定ムルコトヲ得  
 第二十二條 救護法第十二條ノ規定ニ依リ母ノ救護ヲ爲スハ其ノ子一歳以下タル場合ニ限ル

餓死トハ通常食物ノ攝取缺乏セルコトヲ唯一ノ原因トシ、爲メニ十分ノ榮養ヲ得ル能ハズシテ死ニ至ルヲ云フ、而シテ常人ニ在リテハ自由拘束ノ場合、小兒及重病者ニ在リテハ往々他殺ノ目的ニ飢エシメ、精神病者及囚人等ハ自殺ノ目的ニテ食ヲ拒絕シ、或ハ疾病ノ爲メ食物ヲ取ル能ハザルコトアリ。通常吾人々類ガ絶對ニ食ヲ取ラズシテ生命ヲ保チ得ル最長時間ハソノ個性、榮養、年齢及體動ノ如何ニヨリ一様ナラズ、一般ニ約七、八日ナリト云ハルルモ初生兒ニテハ通常四、五日、ソノ他健康ニシテ體動少キ小兒ニテハ十日内外大人ニテハ約十五日間モ之ニ堪エシ報告アリ、單ニ水ノミヲ與ヘ身ヲ使用セザル時ハ、大人ニテハ六十日餘モ餓餓ニ耐ユルコトヲ得ト云フ。通常最多キ貫子殺シニテハ幼兒ニ食ヲ十分ニ與ヘザルカ、或ハ不良ノ食ヲ攝取セシメ自然ニ死ニ至ラシムルモノ多シ。  
 人モシ飢ユレバ最初一、二日間口渴乃至饑餓ノ感アルモ、コハ一二三日ニシテ止ミ次第ニ全身無力トナリ體温下リ倦思アリ、脈搏及呼吸緩徐トナリ、氣力衰へ、顔面蒼白手足冷エ欠伸來リ尿利及便通ナク、時日ヲ經ルニ從ヒ身體ノ脂肪消耗シ筋肉ハ萎縮シ爲メニ羸瘦次第ニ加ハリ、胃部ニ充盈ノ感アリ嘔氣、粘液様吐物等ヲ見、疲勞感ハ逐次ソノ度ヲ増シ、呼吸及脈搏ハ増加シ體温高マリ、呼吸ニあせ

とん臭ヲ交へ、歩行不確實トナリ、四肢ニ疼痛ヲ伴ヒ睡眠ヲ貪ルコト多ク、次デ意識濁濁シ譫妄様トナリテ死ニ至ル、餓死體ヲ檢スレバ皮膚甚ダシク乾燥シ、皺襞ヲ呈シ皮下脂肪層及筋層薄ク貧血著明、小兒ニ在リテハ胸腺小トナリ、又肝臟乃至脾臟等萎縮シテ血量ニ乏シク、膽囊ハ膨大シ消化管ハ内容ニ乏シク特ニ收縮シ、時トシテ胃中ニ通常食シ能ハザルガ如キ異物ヲ容ルルコトアリ、之ハ飢エテ食ヲ選バズ手ニスルモノヲ直ニ口ニスルガ故ナリ。十數日ニ互リテ少シモ食ヲ取ラザルモノノ胃大腸等モ全ク空虚ナラズシテ小許ノ粘液様物ヲ容ル。

モン不幸ニシテ、災害ニテ食ヲ絶タレシ際ニハ、成ルベク我心身ノえねるぎトテ冗費セザル様ニ心掛クレバ、往々身命ヲ完フスルコトヲ得ルモノナリ。

一死體ヲ餓死ナリト診定センニハ強度ノ羸瘦、乾燥セル蒼白色ノ皮膚、胃腸ノ空虚及收縮、内臓ノ貧血、膽囊ノ怒張、尿ニあせとんノ反應ヲ見。此ノ如キ所見アリ且ソノ他身體ニ死因トナリ得ベキ病變或ハ損傷ナキニ於テハ、此死體ハ餓死ナラントノ診定ヲ附スコトヲ得。

口、火傷死、湯潑死、燒死

火傷ハ燒灼セル固體、氣體或ハ火焰ニ依リテ起リ、湯潑ハ種々ノ蒸氣、或ハ沸騰セル液體ニ觸レテ生ズルモノトス。而シテソノ一般症狀トシテハ、モン廣大ナル火傷ヲナサバ先ヅ甚シキ不安状態ヲ來シ、激烈ナル疼痛及渴感アリ、脈搏モ次第ニ微弱トナリ呼吸淺薄乃至譫語ヲ發シ、遂ニハ人事不省ニ陥リテ死ニ至ル。

燒死トハ猛火中ニ陥リ身體ニ火傷ヲ被ルト同時ニ、呼吸ニ不適當ナル瓦斯即チ一酸化炭素瓦斯ヲ吸入シ窒息急死スルモノヲ云フ。而シテ此際一種特有ノ體位ヲ取リテ死亡シ居レバ、之ヲ死後火中セラレシモノト、容易ニ鑑別スルヲ得ルコトアリ、大正十二年關東地震災ノ際、彼ノ被服廠跡ニテ數萬人ノ燒死セルハ、多クハ大火ノ爲メニ生ゼル一酸化炭素中毒ニヨレルナリ。

次ニ火傷及湯潑ニ於テ、生命ニ對スル危險度ハ、作用セル溫度、場所、廣サ及ビ深サニ關スト雖、最モソノ廣サニ大關係ヲ有シ、通常身體表面ノ三分ノ一以上ヲ火傷スレバ死ニ至ルコト多ク又頭部ノ火傷最モ危險ナリト云ヒ。ソノ死因ハ恐ラク各臟器ニ於ケル破壊セル赤血球ノ栓塞、或ハ蛋白質分解産物ノ中毒等ニ依ルモノナルベシ、小兒ハ比較的小部分ノ火傷ニテモ死ニ至ルコトアリ。又燒死セル死體ノ甚シキ硬直ヲ來シ奇異ナル體位ヲ取ルコトアルハ、筋肉内



ノみえりん方高熱ニヨリ凝固シタル結果ナリ。

火傷死、湯瀝死及燒死々體ノ外表所見トシテ特記スベキハ、身體

各部ニ第一乃至第四度ノ火

傷ヲ有スルコトナリ。通常

第一度皮膚紅斑ハ死後消失

ス。第二度ノ水疱形成ハ内

ニ漿液ヲ含有シ、水泡破壊

後ハ眞皮ヲ露出シ、後ニ至

リテ革皮狀ニ乾固シ、第三

度ニ在リテハ眞皮及筋肉ヲ

強熱破壊シ、第四度ニ至リ

テハ皮膚及筋肉等ヲ炭化ス。

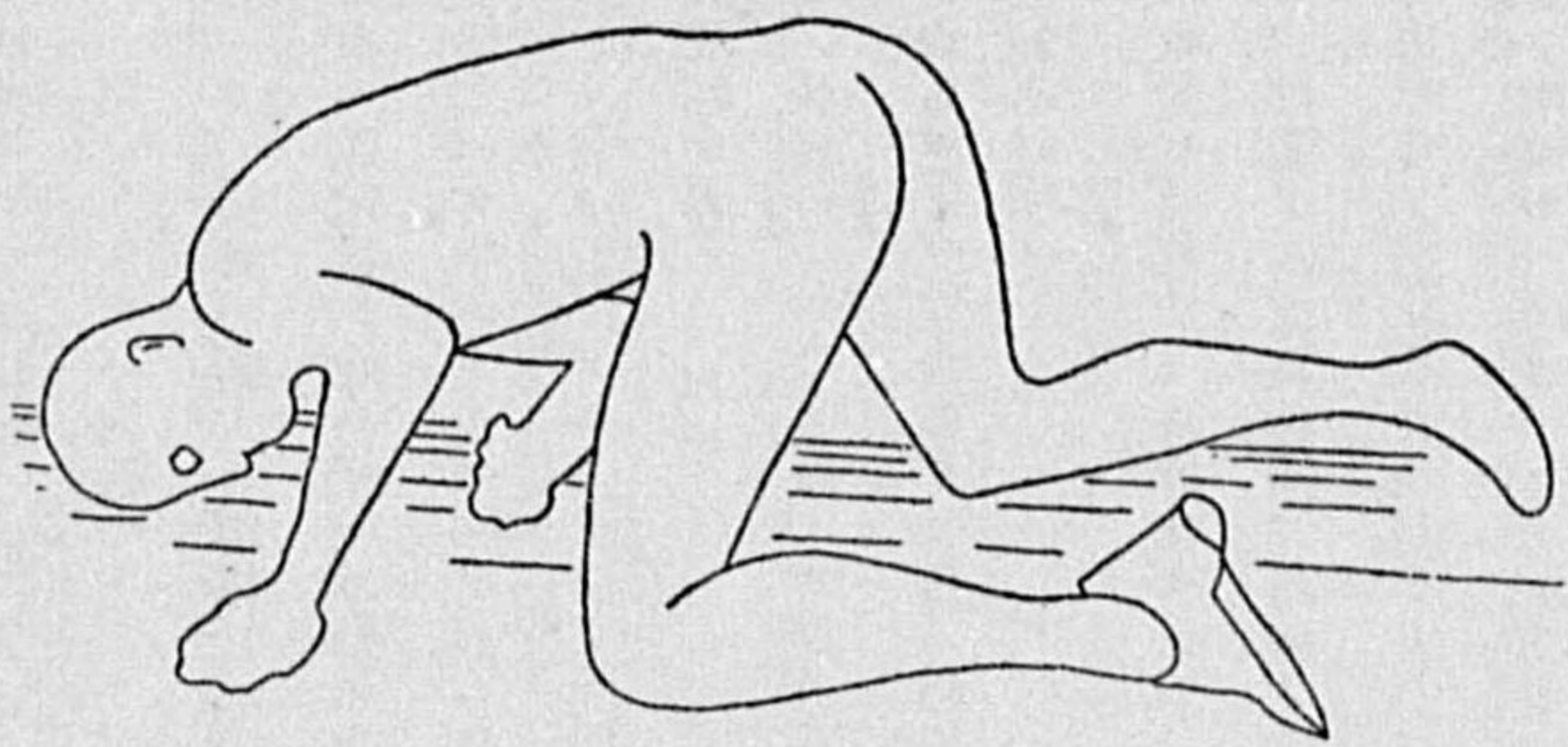
又強酸等ニヨリ腐蝕ヲ火傷

ト見做ス人アリ。

内景所見、急ニ燒死セシ

モノニ在リテハ酸化炭素ニ

ヨル窒息急死ノ徵標アルノ他、特記スベキ異常所見ヲ認メザルアリ。或ハ身體各部ニ種々ノ程度ノ火傷ヲ認ムルコトアリ。



燒死ノ體位

火傷或ハ湯瀝後二、三日ニシテ死亡セルモノハ、所々ノ粘膜或ハ漿膜ニ溢血ヲ生ジ、栓塞性肺炎、肝、腎脾等ニ脂肪變性ヲ來シ、又尿ニ色素ヲ出シ腸出血或ハ血尿等アリ。臟器細尿管内ニハへまといでいんノ結晶ヲ見ルコトアリ。ソノ他腦水腫、胃腸潰瘍ヲ來シ居リ血液ハ暗赤色濃厚ニシテ時トシテ固ク凝固シ、鏡檢スレバ崩解セル血球ヲ含有シ時トシテ血液鮮紅色ヲ呈ス。此時ハ容易ニ酸化炭素へもぐろびんノ吸收線ヲ檢出スルコトヲ得ルモノナリ。

燒死ハ多クハ災厄死ニシテ自殺ニ此方法ヲ取ルハ甚ダ稀ナリ。併シ注意スベキハ皮膚強熱サレテ破裂スル時ハ恰モ切創若クハ裂傷ノ如ク見ユルコト或ハ他ノ方法ヲ以テ人ヲ殺傷シ之ヲ隱蔽センガ爲メ往々火中ニ投ズルコトナリ。此等ノ場合ニハ火傷ノ切創若クハ裂創ト見ユルモノノ生前或ハ死後何レニ生ジタルモノナルカヲ區別セザルベカラズ。

第一度ノ火傷紅斑ハ死後多クハ消失スルヲ以テ、此所ニハ殆ンド問題トナラズ、第二度ノ水疱形成ニ於テ、ソガ生前或ハ死後ノ何レニ生ジタルカヲ鑑別スベキ點ハ、生前ニ生ジタルモノハ周圍ハ引赤シ蛋白質含量多キ漿液ヲ含有シ中ニ淋巴球ヲ混ユ、然ルニ死後生ジタル水疱、例ヘバ腐敗瓦斯胞ノ如キハ周圍ノ引赤ナク、内ニ帶赤淡綠色カラズ。

次ニ火焰ニ依リテノ火傷ハ、皮膚ニ煤煙ヲ附着シ、毛髮ハ焦ゲ且種々ノ程度ノ火傷アリ、湯瀝ノ際ハ煤煙ノ附着ナク、又炭化ヲ見ズ、是等ノ點ヲ注意スレバ、ソガ火傷ナルヤ、湯瀝ナルヤモ鑑別スルコトヲ得ルナリ。

ハ、熱射病死、日射病死及疲勞死

熱射病ハ高濕ニシテ風ナク湿度多キ陰鬱ナル日ニ、強甚ナル筋肉作業ヲ行フ時ニ起ルモノニシテ、體溫變積方原因トナリ、人事不省ニ次テ痙攣來リ死ニ至ルモノヲ熱射病死ト云ヒ、日射病死ハ前者ト相似タルモノナルモ、日光ノ直射ニ依リ中樞神經ヲ犯サレ體溫ノ調節ヲナス能ハズ、心臟硬直ヲ起シテ死ニ至ルモノナリ。此兩者中卒然死ニ至ルモノニハ窒息急死ノ徵標アルモノノ他、特有ナル異常所見ナシト雖、古來ノ記載ニ依レバ死體ノ強直及腐敗早ク來リ腦膜ニハ血液多ク、水腫狀ヲ呈シ往々溢血アリ、左心ハ空虚ニシテ、右心ハ血液ニ滿タサル、時トシテ全身及諸臟器ニ大小種々ノ溢血點存ス

第三百九十一圖



第三度火傷ニヨリ皮膚血管栓塞

ノ蛋白少キ漿液ヲ含有シ更ニ硫化水素ノ少量ヲ含ム。第二度ノ水疱ヲ、繩縛水疱乃至水疱ヲ形成スル諸種ノ皮膚病、例ヘバへんひぐす或ハ發疱性皮膚炎等ト區分セザルベカラズ。而シテ皮膚病ハ自ラソレニ特有ナル經過症狀アリ。繩縛水疱ハソノ位置ニヨリテ之ヲ鑑別スルコトヲ得。次ニ生前ニ生ジタル第三度ノ痂皮ニハ著明ナル血管網アリ栓塞ヲ作り居ルモ死後ノモノニハナシ。第四度ノ炭化ハ夫

レ自身ノミニテハ、到底生前或ハ死後ノ何レニ生ジタルカヲ鑑別スルコト能ハザルモ、他ノ第一乃至第三度ノ火傷ヲ併存スル場合多ケレバ、之ニ依リテソノ區別ヲ附スルコト得。尙人體ヲ生前ニ火中セラルモノナラバ、血液中ニ酸化炭素へもぐろびん、氣管内ニ煤煙ヲ證明スルコト得、或ハ疑シキ部ノ組織學的標本ヲ作りテ檢スレバ、毛細管ノ充盈或ハ血管中ニ血液ヲ栓塞ヲ作り居ル狀態ヲ見ルコトヲ得、

熱射病死、日射病死



ルコトアリト。熱射病或ハ日射病ニ罹ル人ハ、生前已ニ心臓ニ缺陷ヲ有スルモノニ多ク、被服及ソノ他ノ注意十分ナラバ、吾人ハ攝氏五、六十度ノ高溫中ニテモ數時間ハ勞働スルコトヲ得ルモノナリ。甚シキ或ハ急激ナル勞作ヲナス時、體質ノ弱キモノニ於テハ疲勞ノ極、卒倒、失心、冷汗細脈乃至呼吸緩徐等相次イテ至リ爲メニ急死ニ陥ルコトアリ、之ヲ疲勞死ト云ヒ、ソノ解剖所見ハ熱射病死或ハ日射病死ノソレト同様ニシテ之ニ特有ナルモノナシ。

二、凍死

凍死トハ全身ノ體溫甚シク降下スルヲ唯一ノ原因トシテ死ニ至ルヲ云フ。人類ハ被服食料等十分ナレバ零下五、六十度ノ所ニテモ生活スルコトヲ得。最モ凍死シ易キハ被服ノ少キコト、老年者、初生兒、過勞、寒中ノ睡眠、乃至あるこぼるノ使用等ニシテ、初メ皮膚血管收縮シ血液ノ循環少クナリ、内臓ニ於ケル鬱血ヲ來シ、最後ニ神經中樞ノ麻痺ニ依リテ死ニ至ルモノナリ。

一般ニ皮膚ニ甚シキ寒冷作用スル時ハ所謂紅斑性凍傷ヲ生ジ、其部ハ鬱血シ紫赤色ヲ呈シ觸覺鈍麻等ヲ來シ、更ニ進メバ無色モシクハ血色ノ漿液ヲ滿セル水疱ヲ形成シ、遂ニ此水疱破裂シテ潰瘍ヲ作ル之ヲ壞疽性凍傷ト云フ、其關係ハ恰モ火傷ニ於ケルガ如シ。

然リ而シテ此等ノ凍傷ガ一部ニ生ジタル時ハ別ニ人ノ生命ニ影響ナキモ、長時間寒冷全身ニ及ブ時ハ此局所徵候甚シカラザルニ先チ内部血行ノ調和ヲ失ヒ、血液ハ内臓ニ集マリ遂ニ生活作用ノ調整ヲ失シ死ニ至ルコトアリ。而シテ通常體溫廿四、五度迄下降スレバ最早恢復ノ見込ナシト云フ。

凍死ニ陥ラントスル際ニハ人甚シキ眠氣ヲ感ジ、時トシテ多幸性氣分トナリ全身ノ知覺鈍麻シ、瞳孔ノ散大、呼吸減少及心搏緩徐等來リ、遂ニ睡眠ニ陥ルト共ニ凍死ス、故ニ雪中旅行ナドニテ、眠氣ヲ催シタル際ハ大ニ警戒スベキナリ。

剖檢所見、皮膚、蒼白ニシテ身體硬クナリ、全身ニ赤色斑アリ、肺心モ亦一般ニ紅色ヲ呈シ内臓鬱血シ、時トシテ腦室内ニ氷塊ヲ作り、縫合ノ離解セルヲ見ルコトアリ。肺心ニ血液多量ニ存在ス、一般ニ云ヘバ自然ニ來ル窒息死類似ノ徵候ヲ主トシ凍死々體ニハ特有ナル異常所見ナシ。

凍死ナル鑑定ヲ下スニハ醫師自身現場ニ於テ死體ノ状態ヲ檢視シ、且當時ノ氣候ヲ併セ考ヘ凍死セル死體ハ之ヲ溫キ室ニテ充分融解セシメテ解剖ニ着手シ、其所見トソガ凍死シ易キ條件ノ下ニ在リシカヲ併セ考ヘ而シテ後診斷ヲ下スベシ。

第三十四例 死體解剖検査記録

府郡町字中川中洲内ニ於テ発見

族籍住所姓名不詳

男 性 推定年齢六十歳

右死因鑑定ノ爲メ大正八年三月五日午後一時ヨリ東京帝國大學醫學部法醫學教室解剖場ニ於テ小松川警察署龜戸分署勤務警視廳警部補土屋學立會ノ上淺田一執刀古畑種基補助之ヲ解剖スルニソノ所見左ノ如シ

第一、外表 検査

一、一男性屍、體量三八六〇〇瓦身長一五五種全身ノ皮色ハ淡黃白色泥砂及塵埃ヲ以テ汚染セル死後ノ強直ハ牙關節腕關節ニ於テ稍強ク存在シ其他ノ關節ニ於テハ僅ニ殘存ス  
二、頭部約二〇〇種長ニ短截セラレタル大部分白毛ヲ混ズル毛髮ヲ密生シ顛頂部ハ禿ス前額部ヨリ顛頂部ニ互リ約大人兩手掌ノ大部分ハ黑褐色ノ乾血ヲ固著ス

(一)其殆ント中央部ニ於テ矩形(長邊三種短邊二種)ノ部分ハ周圍ノ組織ヨリモ著シク粗糙ニシテ淡赤色ヲ呈シ左右ノ相對スル兩邊ヨリ不規則ナル突起様皮瓣ヲ發スル所ノ皮膚斷裂ヲ存ス之ヲ細檢スルニ左邊ノ中央部ヨリハ幅約三耗ノ皮瓣ヲ混シ其尖端ハ細小トナリ右邊ノ後端ニ終リ右邊ヨリハ後端ヨリ七耗ノ底邊ヲ有スル一〇種長半鳥狀皮瓣ヲ突出シ更ニ其上方ニハ五一〇耗ノ底邊ヲ有スル一五種長半鳥狀皮瓣ヲ突出ス此等皮瓣ニ全ク皮下組織ヨリ離斷セラレ或部ニ於テハ黑褐色ニ稍革皮狀ニ乾固シ大部分ニ於テハ表皮粗糙ニシテ尚濕潤ナリ此等ノ皮瓣ヲ翻轉シテ檢スルニ梯形ノ韌狀膜膜ヲ露出シ少許ノ泥砂塵埃ヲ附著ス韌狀膜ハ損傷ヲ蒙ラズ木割傷ノ邊緣ハ左右及前方ニ於テ稍粗整セラレ前後及後縁ニ稍正銳ナリ邊緣ヲ翻轉スルニ架橋狀組織片ノ多數ニ存スルヲ認ム其部ニ割ヲ加ユルニ割傷ノ皮下約

凍死

鶏卵大ノ部分ハ血液ノ滲潤ヲ存ス創底韌狀膜下ニハ鮮紅色ノ流動半血液ヲ滲潤ス同部ノ骨膜下ニモ淡赤色ノ凝血ヲ存ス  
其他到ル所ノ皮膚汚穢蒼白ニシテ汚穢暗黑色ノ乾血ヲ附著シ該創傷ノ直後方約五〇種後頭筋ノ上方約三指橫徑ノ所ニ小鶏卵大ノ凝塊ヲ附著ス其他ニ損傷異常ナシ

三、顔面

(一)右前額隅ヨリ二指橫徑内下方ニ去リタル所ニ米粒大暗褐色稍々陥凹セル變色部アリ割ヲ加ユルニ皮下ニ出血ヲ存ス  
兩眼ハ閉ズ之ヲ開檢スルニ右上下眼瞼結膜ニハ顆粒狀淡黃色ノ癢痕ヲ存ス眼結膜蒼白、血管ハ僅ニ充盈スルモ溢血點ナシ眼球結膜蒼白角膜透明上縁ニ於テ老人環ヲ存ス瞳孔ハ正常大右眼結膜殆ンド右ニ等シク高度ノ病變ヲ存ス眼球結膜瞳孔ノ性状右ニ等シ鼻翼ヲ壓スルニ異液ヲ漏ラサズ鼻腔内ニハ汚穢暗黑色ノ泥砂ヲ附著ス只僅ニ開ク口唇粘膜帶蒼白、口腔粘膜蒼白、右上前ハ右ノ犬齒第一、第二小臼齒第一大臼齒、左右下顎ハ第二小臼齒第一、第二、第三ノ大臼齒ヲ存スル外其他ノ齒牙ヲ缺如シ舌ハ此等齒槽ノ後ニ在リ口腔内ニハ微細ナル暗黑色泥砂粒ヲ存スル外異常ナシ

(二)上口唇粘膜ノ基底直下ニ於テ小豆大粘膜粗糙面ヲ存シ淡赤褐色ヲ呈ス割ヲ加ユルニ粘膜下ニ薄層ノ出血ヲ存ス  
(三)左頰部ニ米粒大、暗赤褐色ニ透見スル皮膚變色部一個ヲ存ス割ヲ加フルニ同大ノ皮下出血アリ

(四)下口唇粘膜ノ殆ント中央部ニ實質大暗赤色ノ變色部一個ヲ存ス割ヲ加フルニ同大ノ粘膜下出血ヲ存ス  
(五)左口角ヨリ一指橫徑隔リタル所ニ於テ約米粒大皮膚組織面一ヶヲ存ス割ヲ加フルニ皮膚組織間ニ輕微ナル出血ヲ存ス  
(六)右頰部鶏卵大ノ部分ニハ點狀暗紫色ニ透見スル變色部十數ヶヲ存ス割ヲ加ユルニ皮下組織間ニ點狀ノ出血ヲ存ス



左右ノ耳翼ハ暗黒色乃至黒色ノ泥砂ヲ以テ汚染セラシ左外聽道内ニハ暗赤褐色ノ凝血少許ヲ存ス右外聽道内ニハ異物ナシ其他損傷異常ナシ

四、前頸部

(七) 頰部中央ヨリ二指横徑下方ニ於テ上下ニ走ル所ノ八根長一種幅ノ淡褐色表皮剝脫一個ヲ存ス割ヲ加フルニ皮膚組織間ニ薄層ノ出血ヲ存ス

(リ) 之ト殆ント並行シテ更ニ細小ノ同性狀ノ表皮剝脫一ヶヲ存ス

(ハ) あだむ氏果ニ相當シテ鳩卵大ノ部分ハ表皮稍粗糲ニシテ淡赤褐色ヲ呈ス

(ニ) 其右ノ上端ニ麻實大淡褐色表皮剝脫ヲ存ス割ヲ加フルニ皮膚組織間ニ同大薄層ノ出血ヲ存ス

其左端ニ麻實大同性質ノ表皮剝脫皮下出血ヲ存ス其ノ他ノモノハ割ヲ加フルニ皮下ニ出血ヲ認メズ

項部ニ損傷異常ナシ

五、胸腹部 腹部ハ稍陥凹ス之ニ觸ルルニ腹鳴ヲ發ス其他ニ損傷異常ナシ

六、脊部 損傷異常ナシ

七、右上下肢 指間ニハ泥砂塵芥ヲ附著ス

(カ) 手背ニハ米粒大ノ表皮淡褐色ヲ呈スル變色部アリ割ヲ加フルニ出血ナシ左上肢

(ク) 手背ノ第二掌骨中央部ニ相當シテ拇指頭大暗赤色ニ透見セル變色部ヲ存ス割ヲ加フルニ皮下ニ出血アリ

手指掌面ハ殊ニ泥砂ヲ以テ汚染セラシ

八、下肢 左右共ニ損傷異常ナシ

九、外陰部 陰阜ニハ僅ニ白毛ヲ混ズル黒色ノ陰毛ヲ發生ス陰莖ニ異常ナク

陰丸ハ左右共ニ陰囊内ニ在リ

十、肛門ハ閉ス、周圍ニ糞便ノ汚染ナシ

第二、内景検査

甲、頭腔開檢

十一、頭皮ヲ式ノ如ク横斷開檢スルニ其際血液ヲ漏ラサズ軟部組織ハ一般ニ蒼白前創傷ニ相當スル内面ニ於テハ

(カ) 一般ニ著シク暗赤色ヲ呈シ軟部組織間ニ出血ヲ存ス

(キ) 右前額隅ニ相當シテ拇指頭大ノ軟部組織間出血二ヶヲ存ス

其他ニ出血等ノ異常ヲ認メズ

頭蓋骨ヲ鋸斷開檢スルニ其際暗赤色流動性血液稍多量ヲ洩ラス骨ノ厚サ最廣部ハ輕薄部五種板障ノ色淡赤色、血量多カラズ縱竇内ニハ暗赤色流動性血液稍多量ヲ存ス橫竇内ニハ脈脂樣凝塊少許ト暗赤色流動性血液稍多量ヲ存ス軟腦膜ハ骨ニ固著シ内面蒼白髓膜滑澤、血管ノ充盈著シカラズ大腦迴轉ハ稍痲痺ス

十二、側室内ニハ淡黄色透明液稍多量ヲ存ス室壁ノ血管、稍充盈ス脈絡叢ノ血量ハ稍少ク念珠樣小體ヲ多數ニ存ス大脳半球ノ血點著明視神經床線狀體レん子核内囊外囊四疊體之るび一氏導水管菱形窩大脳脚小脳脚小腦之る氏橋及延髓ニ出血其他ノ異常ナシ其硬動脈柔軟變ヲ認メズ底面硬腦膜ノ性状穹窿部ニ等シク頭蓋底ノ骨質ハ損傷異常ナシ

乙、胸腹開檢

十三、胸腹部ノ正中ヲ式ノ如ク縱斷開檢スルニ皮下脂肪組織ノ沈著少ナク筋肉淡褐色濕潤シ發育佳良ナリ腹腔内ニハ殆ンド異常ナク同腔内臓器ノ位置ニ異常ナシ横膈膜ノ高サハ右第四肋骨左ハ第五肋間ニ位ス

其一、胸腔臓器

十四、胸腔ヲ開檢スルニ其際第一肋骨ヲ除ク各肋軟骨ハ剪斷ヲ要セズ左胸腔内ニハ少許ノ纖維性癒著ヲ存シ異液ナシ右胸腔内ニハ全面ニ互リテ高度ノ纖維性癒著ヲ存ス殊ニ第一第二肋骨部ニ於テ甚シク剝離ニ際シテ實質ノ缺損ヲ伴フヲ認ム

十五、胸腺ヲ遺殘シ其重量約四〇瓦ナリ

十六、心囊内ニハ淡黄色稍潤濁セル液約七立方ヲ存ス内面髓膜滑澤著シク肥

厚ス凝血點ナシ

ヲ存ス舌骨鉞ニ喉頭ノ諸軟骨ニ骨折脫臼等ノ異常ナシ

十七、心臟大サ本屍手拳ノ一倍半大、外心膜下脂肪沈著著シク多シ右心室ノ前面ニ於テ鳩卵大ノ凝塊一ヶヲ存ス左心室ハ圓錐形ニ肥厚シ心尖ヲ形成ス

外心膜下ニ蛋刺大ノ凝血點二ヶヲ存ス右心房内ニハ暗赤色流動血約六五、同室内ニハ同様血液約一八立方ヲ含ミ左心房内ニハ脈脂樣凝塊ヲ混ズル稍鮮紅色ヲ帶ブル血液約四五立方ヲ同室内ニハ心房ト同様ノ血液約二〇〇立方ヲ存ス心臓割出ノ際周圍ノ大血管ヨリ脈脂樣凝塊ヲ混ズル

赤色乃至鮮紅色ノ流動血約一〇〇〇立方ヲ漏出ス大動脈及肺動脈瓣ハ灌水ニ依リ能ク閉鎖ス房室間口ハ左ハ三指頭右ハ三指ヲ通ズ心筋ノ色暗褐色透明其厚サ左ハ一・二、右ハ一・三、種内膜ハ左ハ左室ニ於テ一般ニ稍肥厚シ蒼白色ヲ呈ス僧帽瓣ニ於テ麥粒大ノ黄色斑數個ヲ存ス三尖瓣ニ異常ナク

腱索乳質筋肉柱等ニ異常ナシ半月瓣亦然リ大動脈起始部ノ内面殆ンド蒼白平滑異常ナシ其幅七・四、種心臓重量一〇五瓦ナリ

其二、腹腔臓器

二十一、脾臟大サ一〇・一八〇—一・一八〇—一・二八〇種重量一三・四瓦表面帶紫蒼白色、硬膜ハ著シク肥厚シ硬膜ハ弹性軟、断面暗褐色脾胞脾材ノ別ハ明ナリ血管ニ富ム

二十二、左腎大サ一〇・一六五、三・〇種重量一・二〇〇瓦表面帶淡黄白色硬膜ハ弹性硬固莖膜ハ稍剝離シ難シ断面色表面ニ等シク皮質ハ著シク狹隘ニシテ實質ハ一般ニ潤濁ス腎盂狹ク同粘膜下ニ脂肪ヲ多量沈著ス血量多シ

二十三、右腎大サ九・五—一・一六〇—一・三〇種重量一〇〇〇瓦表面ノ性状ハ稍固ナル外凡テ右ニ等シ血液ハ左ヨリ少シ

二十四、膀胱内ニハ淡黄色ノ透明ノ尿約二十五瓦ヲ存在ス酒精臭ヲ放タズ内面殆ンド蒼白、血管稍充盈スルモ凝血點ナシ

二十五、胃内ニハ淡赤褐色ノ流動性液(未消化ノ米飯粒少許ヲ混ズ)約一〇〇〇立リヲ混ズ酒精臭ナシ内面蒼白小彎ニ蛋刺大粘膜下凝血點一ヶヲ存ス其他ニ異常ナシ

二十六、小腸内上部ニハ淡黄蒼白色ノ粘稠ナル内容稍多量ヲ存シ粘膜蒼白、中部ハ未消化ノ米飯粒及小指大ノ大根漬ノ皮ヲ混ズル其粘稠ナル内容ヲ存シ血管稍充盈ス下部ハ淡黄色稍形態ヲ有スル能ク消化セル内容稍多量ヲ存ス盲腸内ニハ淡黄色半流動性ノ内容稍多量ヲ存ス大腸内ニハ汚穢黄灰半流動性内容稍多量ヲ存ス下行結腸及S字狀部ニハ同様色ノ固形糞便ヲ存ス粘膜蒼白出血其他ノ異常ナシ

二十七、肝臟大サ二五〇—一・一三〇—一・六七種重量一八四〇瓦表面淡褐色硬膜弹性硬固斷面色表面ニ等シク小葉ノ分界明カナリ血量多シ膽囊内ニハ帶黄褐色ノ膽汁多量ヲ存ス粘膜同様ニ著色セラレ異常ナシ

二十八、脾臟大サ二二〇—一四〇—一五種重量一〇〇〇瓦體部ノ中央部ニ

十九、右肺重量二九〇〇瓦上半葉ハ著シク硬固ニシテ下葉ハ弹性軟、喘鳴ヲ感ズ其他表面ノ性状左ニ著シ斷面ノ色下葉暗赤色、中葉ハ暗褐色ノ地色ノ上ニ灰白色ノ紋理ヲ存シ大理石樣觀ヲ呈ス乾酪樣變性遺ナリ所々ニ蠶豆大乃至大豆大ノ空洞ヲ存ス其洞壁ハ平滑ナリ氣管枝並ニ血管ハ著シク肥厚シ斷面ハ突出ス(肺微毒?)

二十、頸部器管舌ハ汚穢淡黄色ノ舌苔少許ヲ以テ掩ハル咽頭食道ノ粘膜殆ンド蒼白泥砂粒少許ヲ介在ス喉頭骨ハ著シク化骨ス内面淡紅色少許ノ泥砂粒

凍死

四一三



於テ雀卵大ノ實質間出血ニテヲ存ス  
二十九、胸部及腹部大動脈内ニハ脈脈凝塊ヲ存在ス内面若白稍肥厚シ腹部  
大動脈分岐部約二指横徑上方ニ約蠶豆大ノ瘻痕ヲ存ス幅横隔膜附著部ニ於  
テ五、三種總腸骨動脈分岐部ニ於テ五、五種ナリ  
右ニテ解剖検査終了時ニ午後三時四十分ナリ

說明

一、本屍ハ高老ノ状態ヲ呈シ(解剖検査記録第一、第二、及第九項)外心膜下  
脂肪沈著著シク(同記録第十七項)左右胸腔内ニ纖維性癒着左右兩脚ニ微毒  
性病變(同記録第十四、第十八及第十九項)ヲ存スル等外力又ハ寒氣ニ對シ  
抵抗力減弱セル特異ナル體質ヲ具有シ外表ノ皮膚蒼白ナル内部ニハ充血著  
シク殊ニ心臟内ニハ大量ノ血液ヲ以テ充盈セラレ左右心臟血液ノ左ニ相違  
アルコト(同記録第一及第十七項)等寒冷作用セル證據ヲ有ス其他ニ直接死  
因ト認ムベキ病變ヲ認メザルガ故ニ本屍ノ死因ヲ凍死トス  
二、本屍頭部ニ長徑三〇種短徑二〇種ノ矩形皮膚斷裂一ヶ(同記録第二  
(イ)前額部ニ皮膚變色部ニケ(ウ)上下口唇ニ精膜下出血(ハ)左(ハ)  
右額部ニ皮膚變色部(ニ)左(ニ)左口角ニ表皮粗鬆部表皮剝脫表皮傷損(チ)  
(リ)(ニ)(ウ)左右ノ背ノ背ノ背ニ皮膚變色部(を)(カ)ヲ存ス  
此中ニテ比較的大ナル缺損ハ頭部ニ於ケル皮膚斷裂ニシテ其割線ノ不規則  
半島狀割リ有シ皮膚ニ挫滅ヲ存シ皮下ニ出血アルコト等ハ其發動ガ生前  
長邊二種ノ略矩形ノ硬固ナル鈍器ノ作用セルニ因ルコト明カナルモ創底ノ  
淺クシテ骨膜及骨質ニ損傷ナク骨膜下ニ出血ナキガ故ニ其外力ハ左程強甚  
ニハ非ラザリシモノト認ム  
本屍ト凍死トノ間ニ因果關係ヲ考察スルニ恐ラクハ本屍ニヨリテ腦震盪ヲ  
來シ暫時人事不省状態ニ陥リシコト之ヲ想像スルニ難カラザルガ故ニ其狀  
態ニ於テ發見前後發見場所ニアリシトスレバ恰モ當夜ノ嚴寒ニ遭ヒテ遂ニ  
凍死ニ陥リシモノト推測シ得其他ノ損傷ハ何レモ輕微ナルモノニシテ本屍

直接死因トハ何等ノ關係ナキモノトス其數ノ可ナリ多キニカカハズ發見ノ  
場所附近ニ於テ災害的ニ此等ノ損傷ヲ發見スベキ岩石等ナカリシトセバ此  
等ヲ以テ格闘ノ痕跡ト認メ得ベシ  
三、格闘ノ原因トシテモ凍死ノ一因子トシテモ飲酒ノ痕跡アラバ好都合ナレ  
ドモ本屍胃腸内容及尿中ニハ酒精臭ヲ存セズ(同記録第二十四及第二十五  
項)

鑑定

前記説明ノ理由ニ依リ鑑定スルコト左ノ如シ  
一、本屍ノ死因ヲ凍死トス  
此鑑定日數ハ大正八年三月五日ヨリ同年同月二十四日ニ至ル二十日間トス  
大正八年三月二十五日  
東京地方裁判所醫務囑託  
鑑定人 淺田 一 郎  
東京地方裁判所醫務囑託  
同 古畑 種 基 郎

ホ、雷撃死及電撃死

刑法第十八條 瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷  
シ因テ人ノ生命、身體又ハ財物ニ危險ヲ生ゼシメタル者ハ三年以下ノ懲役  
又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス  
瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ヲ死傷  
ニ致タル者ハ傷害ニ比較シ重キニ從テ處斷ス  
強電流ノ爲メニ死亡スルモノニ二種アリ、一ハ落雷ニヨルモノニ  
シテ之ヲ雷撃死ト云ヒ、他ハ人工高壓電流ニ觸レテ死ニ至ルモノニ  
シテ之ヲ電撃死ト云フ。而シテソノ身體ニ對スル傷害ハ一般ニ云ハ

ハ兩者共略同一ナレドモ、後者ニ於テハ其電流ノ出入セル部分ニ、  
第一度乃至第四度ノ火傷ヲ生ジ、前者ニ於テハ皮膚ニハ往々樹枝狀  
ノ電紋ヲ生ズ。時トシテ強電流ガ身體ヲ通過スレバ角膜ノ潤濁、網  
膜出血、神經系統ノ障害、精神異常乃至筋肉麻痺等ヲ來スモ、時口  
ヲ經過セバ輕快スルコト多シ。

雷撃死ニ於テハ時トシテ身體ニハ何等損傷ナク、只皮膚ニ樹枝樣  
ノ電紋ヲ生ジ居リ或ハ被服燒ケ、時計、ないふ銅貨等ノ融解シ磁化  
サレ居ルコトアリ、或ハ電撃死ト同ジク電流ノ出入口ニ第一乃至第  
四度ノ火傷ヲ作り居ル場合アリ、解剖所見トシテハ前記外表所見ノ  
外窒息急死ノ一般徵標ヲ有シ、各臟器ニ鬱血及溢血ヲ見、特ニ腦ニ  
出血アルコトアリ、或ハ往々肺水腫ヲ來スヲ認ム。一般ニ電壓ニ對  
スル抵抗力ハ各人ノ個性ニヨリテ大ナル差異ヲ見、即チ同時ニ同所  
ニテ雷撃ニ遭遇シテ一人ハ死シ、他ハ何等ノ障礙ヲ被ラザリシガ如  
キ例ニ遭遇シ、或ハ騎者雷撃ニ會シテ騎人死亡シ騎馬害ヲ被ラズ或  
ハ全然之ニ反スルコトアリ。

次ニ工業の高壓電流ノ衝擊ヲ被ルハ多ク手指及足ニシテ、之レ手  
ニテ高壓電流ノ器具ニ觸レタル際、電流ハ此所ヨリ入り大地ニ逃ゲ  
去ルヲ通常トスレバナリ、此際ニハ手袋及靴等ニモ破裂及燒跡等ア

レバ注意シテ之ヲ檢スベク、高壓電流ニ觸レ而モ死ニ至ラザリシ場  
合ニハ神經ヲ犯サルコト強ク、諸種ノ神經障礙ヲ來スコトアリ。

電撃ニヨル致死ハ主トシテ電壓ニ關係スルモノナルガ、ソノ精神  
的抵抗乃至體質ニ依リテモ非常ニ差異アリ、例ヘバ突然電撃ニ遭ハ

第九百九十二圖 電紋



バ一〇〇—二〇〇ヴォルトノ電流ニヨリテ時トシテ死ニ至リシモノ  
アルカト思ヘバ、故意ニ電流ニ觸レ或ハ體質強キ人ニテハ、三〇〇  
〇ヴォルトノ電流中ニ身體ヲ挿入シテ死ニ至ラザリシモノアルガ如  
キ之レナリ、一般ニ直流ヨリモ交流ニ對シ人體ハ抵抗弱キモノナリ  
ト云ヒ、何レニスルモ、通常交流三〇〇或ハ直流五〇〇ヴォルト以



上ノ電壓ハ、已ニ人命ニ危険ナルモノナルガ如シ。  
米國ニテハ死刑ニ電氣椅子ヲ用ヒツツアルガ、死刑施行ノ際ハ通  
常四千ヴォルトノ電流ヲ通ジ、例外ナク人ヲ死ニ致スコトヲ得ト云

第百九十三圖 (高壓線上ニ横臥シ燒死セルモノ)



第百九十四圖 電擊ニヨル皮膚火傷



フ。然レドモ、時トシテ五百ボルトニテモ死ニ至リシ人スラアリシ  
報告アリ。

一般ニ電流ガ皮膚ヨリ出入シ人身ニ障礙ヲ與フルハ外被ノ有無、  
ソノ乾濕等ニヨリ大差アレバ、一概ニ論ズベカラザルモノアリ、常  
ニソノ點ニ注意セザルベカラズ。

**れんとげん線ニヨル障礙**

觸ルル時ハ其紅斑量ニ從ヒ差異アルモ、凡ソ廿四時  
間乃至四十八時間ニシテ急性ノ皮膚炎ヲ來シ淡紅斑  
ヲ呈スルモ、次第ニ慢性ニ移行シ皮膚ハ紫紅色乃至  
淡黒色トナル。時トシテ是等ニ小ナル水泡若クハ潰  
瘍ノ伴フコトアリ。此潰瘍ハ治癒ノ傾向少ナキヲ特  
徴トス、而シテ此障礙ハ次第ニ深部ニ進ミ、特ニ淋  
巴腺乃至生殖腺ヲ犯シ易シ、是等ノ事實ハ職業上ノ  
疾病トシ或ハ醫師ガソノ使用法過誤等ニ關シ、法醫學上複雑ナル問  
題ヲ惹起スルコトアリ。

**らぢうむニヨル障礙**

らぢうむモ亦長時間醫療ニ用ユル時所謂ら  
ぢうむ火傷ヲ來スコトアルヲ以テ、往々醫術過誤ノ問題トナルコト  
アリ、きゆりハ百みりぐらむノらぢうむヲ皮膚上ニ十時間放置スル  
時ハ、已ニ紅斑ヲ有スル皮膚炎ヲ來シ潰瘍ヲ見、全癒ニ至ルマデ六  
ヶ月ヲ要セシコトヲ記載セリ。故ニ醫師ハ克ク此らぢうむノ作用量

ヲ計リテ注意シテ使用スベキモノトス。

**紫外線ニヨル障礙**

人工太陽燈若クハ紫外線分析器等ヲ用ユル際  
ハ、常ニ眼ヲ之ニ對シテ保護スベク、然ラズンバ往々ニシテ角膜炎  
ヲ來スノ虞アリ。

一般ニ此等光線療法ニ用ユルモノノ治療量ヲ不適當ニ用ヒ或ハソ  
ノ防護ヲ怠レル時ハ、皮膚炎ヲ來シ或ハ潛在セル疾病ヲ刺戟シテ活  
動狀況トナスコトアレバ注意ヲ要ス。

**へ、制縛死**

精神病者、痴愚或ハ酩酊者等ノ暴行ヲ防ガントシテ、ソノ手足ヲ  
縛シ長時間放置スル時ハ、不知ノ間ニ往々死亡スルコトアリ、之ヲ  
解剖シテ身體何處ニモ死ヲ來ス程ノ病變乃至損傷ナキニ於テハ、之  
ヲ制縛死ナリト解スルコト多シ。カカル際制縛サレタルモノハソノ  
縛ヲ解カントシ、或ハ無暗ニ手足ヲ動かカスヲ以テ、制縛下ノ筋肉乃  
至皮下組織ハ挫滅サレ、一部ハ血行内ニ移行シテ異種蛋白トシテ作  
用シ或ハ脂肪ガ血栓トナリテ作用シ、死ヲ來スモノナリト解釋サレ  
居レドモ、ソノ眞因ハ尙不明ナリト云フヲ至當トス。

**ト、感動死**

感動死トハ一種ノ「精神的しよつく」死ナレバ、剖檢上窒息急死ノ

感動死

標徴ノ他何等ノ異狀所見ナキモノナルガ、醫師ハソノ身體的及精神  
的素質、生前ニ於ケル諸種ノ病氣及感動死ヲ起スニ至リシ原因ヲ精  
査シ、彼是ヲ綜合シ精神的ニハ大打撃ヲ被リ、身體的ニハ感動死ニ  
陥リ易キ素質ヲ有シ、且剖檢上此他ニハ何等死因トナルベキモノナ  
キ時ニ於テ、始メテ感動死ナリト診定スベキモノトシ、非常ナル注  
意ヲ以テ診斷ヲ下スベキモノナリ。

**五、殺兒死體検査**

我國ノ刑法ニハ殺兒ナル條項ナシ、夫レ人トシテ此世ニ生レ出デ  
タルモノヲ殺害スルニ於テハ、如何ニ産出後間モナキ小兒ナリトテ  
モ、之ヲ殺人罪ニ問フハ理ノ當然ナリ。然レドモ産直後ニ産婦ガ初  
生兒ヲ殺害スル場合ニハ、種々ノ事情ニ依リテ輕期ノ罪ヲ課セラレ  
之レ殺害ノ本體ガ小兒ナリトノ故ニ非ラズシテ、殺兒ハ産婦ガ婉産  
ノ爲メニ興奮シ、或ハ失血ノ爲メニ普通ノ判斷力ヲ缺ケルガ爲メニ  
起ル犯罪ニシテ、情狀酌量スベキモノアレバナリ。獨逸刑法ノ如キ  
ハ殺兒 *Kinderd* ナル文字ヲ有シ、産中或ハ産直後ニ私生兒ヲ殺  
シタル産婦ノ罪ハ輕減サルルコトナリ居レリ。

夫レ殺兒ノ客體トナリ得ルモノハ産中若クハ産直後ノ生存嬰兒ナ  
リ、而シテ單ニ妊娠中ノ胎兒ヲ殺サバ自ラ墮胎罪ヲ構成スルニ過ギ



ズ。故ニ此墮胎罪ト殺兒ノ罪トノ境界ハ何レニアリヤト云フニ、之ニ付テハ種々ノ學說アリ、即チ左ノ如シ。

(イ)陣痛説、コハ母體ニ陣痛起リタル後ニ胎兒ニ死因トナルベキ外力ヲ加フル時ハ、殺兒罪トシテ取扱フベシトスルモノナリ。

(ロ)一部露出説、コハ胎兒ノ身體方産門ヨリ一部ナリトモ露出シタル後ニ、死因ヲ與フル時ハ殺兒ト見做スベシトスルモノナリ。

(ハ)全部露出説、コハ産兒方全部母體外ニ出デタル後ニ、死因ヲ加ユル時ハ殺兒ト見做スモノナリ。而シテ此(ロ)(ハ)ノ場合ニ胎兒方假令、假死ニ陥リ居ルトモ、或ハ呼吸ヲ開始シ居ラズトモ、生存シ居ル以上ハ、殺兒ノ客體トナリ得ルコトハ言フ俟タズ。

然レドモコノ(イ)(ロ)(ハ)ノ場合ハ、後日ニ至リテソノ實證困難ナレバ、胎兒生産ノ確證トナルコト少ナシ、何トナレバ、陣痛ハ主觀的ノモノナレバ他日ニ至リテ産婦之ヲ知ラズト云ハバ、ソノ反證ヲ擧グルニ難ク、又一部乃至全部露出説モ、出産ノ如キ場合ニ之ヲ見居レリト云フ證人ヲ得ルコト困難ナレバ事實不明トナルノ虞アリ。

(ニ)啼鳴説、コハ胎兒方一部乃至全部ノ露出ヲ基本トセズ、ソガ呱呱ノ聲ヲ擧ゲタル以後ニ於テ死因ヲ與フル時ハ殺兒罪ヲ構成ストナスモノナリ。但シ此呱呱ノ聲ハ通常第一呼吸ト合致スルモノナ

レバ、多クノ場合ニ於テハ後述スル(ホ)説ト一致ス、然レドモ此呱呱ノ聲ハ時トシテ第一呼吸ニ遅ルルコトアリ、又微小ナル呱呱ノ聲ハ後日之ヲ證スベキ痕跡ヲ殘サザルコトアレバ、胎兒生産ノ實證トシテハ應用困難ナルコトアリ。

(ホ)第一呼吸説、産兒ハ普通呱呱ノ聲ト共ニ第一呼吸ヲ營ムモノナリ、此際ニハ胎生時ノ小ナル肺方忽チニシテ開大シテ通常ノ肺トナル爲メ、此肺ノ性状ヲ後述スルガ如ク精査スレバ、産兒ノ生死産ヲ全ク客觀的ニ知ルコトヲ得ルヲ以テ、現時胎兒ノ生死産ノ界ハ、多クノ場合、第一呼吸ノ成否ヲ以テス。

而シテ通常成熟胎兒ガ母體ヲ離レ、或ハ精密ニ云ヘバ母體ノ血行循環ヨリ獨立シテ、呼吸ヲ停止シ居ル時間ハ通常二、三十秒ニ過ギズ、或ハ未成熟胎兒ナル時ハ、更ニ其時間長ク、妊娠五ヶ月内外ノ胎兒ナラバ、時トシテ數時間呼吸ヲナサズシテ、母體外ニテ假死ノ状態トナリ、生命ヲ保持スルヲ得ルコトアリ。又成熟兒ニテモ、畸形兒ニシテ、呼吸中樞ノ發育十分ナラザルカ、或ハ其發育十分ナリトモ重産ニシテ頭腔内ニ出血ヲ有シナガラ産出シタルモノハ、假死ノ状態ニテ數分乃至數時間呼吸ヲナサズ、假死ノ状態ニアルコトアリ、カカル狀況ノ下ニアル産兒ニ死因トナルベキ外力ヲ加フルハ時

ハ、勿論殺人罪成立スルモノナリ。而シテ確實ニ死産セルモノヲ生産セリト誤信シ、暴行ヲ加ヘタル時ハ其法律上ノ取扱、自ラ殺兒ト異ナルモノアリ注意セザルベカラズ。

斯クノ如キ有様ナルガ故ニ殺兒ノ際ニ於ケル死體檢査ハ、他ノ解剖檢査ト自ラ異ナル點アルヲ以テ、予モ亦特ニ本章ヲ設ケ之ヲ述ブル必要アルモノト信ズ、此際醫師ガ注意シテ産兒ニ付檢スベキハ次ノ條項ナリ。

- 一、初生兒ノ徴候アルヤ否ヤ
- 二、發育程度即チ母體外ニテ生存機能ヲ營爲シ得ルヤ否ヤ
- 三、生死産ノ別
- 四、死因
- 五、生産ナラバ産後何日間生存セシヤ

イ、初生兒ノ徴候アリヤ否ヤ

出産ノ直後嬰兒ハ血液ヲ以テ掩ハレ、表皮特ニ關節屈面乃至脊面等ニハ乾酪様物即胎垢ヲ附着シ、僅カノ洗滌位ニテハ除去スルコト能ハズ、胎盤及新鮮ナル長キ臍帶ノ尙臍部ニ附着スルハ初生兒ノ徴標ナリ。特ニ臍帶ノ性状ハ注意スベキモノニシテ産後間モナキ時ハ

レバ、多クノ場合ニ於テハ後述スル(ホ)説ト一致ス、然レドモ此呱呱ノ聲ハ時トシテ第一呼吸ニ遅ルルコトアリ、又微小ナル呱呱ノ聲ハ後日之ヲ證スベキ痕跡ヲ殘サザルコトアレバ、胎兒生産ノ實證トシテハ應用困難ナルコトアリ。

(ホ)第一呼吸説、産兒ハ普通呱呱ノ聲ト共ニ第一呼吸ヲ營ムモノナリ、此際ニハ胎生時ノ小ナル肺方忽チニシテ開大シテ通常ノ肺トナル爲メ、此肺ノ性状ヲ後述スルガ如ク精査スレバ、産兒ノ生死産ヲ全ク客觀的ニ知ルコトヲ得ルヲ以テ、現時胎兒ノ生死産ノ界ハ、多クノ場合、第一呼吸ノ成否ヲ以テス。

而シテ通常成熟胎兒ガ母體ヲ離レ、或ハ精密ニ云ヘバ母體ノ血行循環ヨリ獨立シテ、呼吸ヲ停止シ居ル時間ハ通常二、三十秒ニ過ギズ、或ハ未成熟胎兒ナル時ハ、更ニ其時間長ク、妊娠五ヶ月内外ノ胎兒ナラバ、時トシテ數時間呼吸ヲナサズシテ、母體外ニテ假死ノ状態トナリ、生命ヲ保持スルヲ得ルコトアリ。又成熟兒ニテモ、畸形兒ニシテ、呼吸中樞ノ發育十分ナラザルカ、或ハ其發育十分ナリトモ重産ニシテ頭腔内ニ出血ヲ有シナガラ産出シタルモノハ、假死ノ状態ニテ數分乃至數時間呼吸ヲナサズ、假死ノ状態ニアルコトアリ、カカル狀況ノ下ニアル産兒ニ死因トナルベキ外力ヲ加フルハ時

臍帶ハ液質ニ富ミ、強ク緊張シ、外面ハ白クシテ光澤ヲ有ス、産後時日ヲ經過スルニ從ヒ、臍帶ハ次第ニ乾燥シ、赤褐色次イデ淡黒色トナリ、枯稠シ四、五日ニシテ脱落スルヲ常トス。次ニ胃ノ空虚ナルコトモ亦初生兒ノ徴標ニシテ、普通成熟胎兒ノ胃中ニハ粘キ硝子様ノ淡赤色粘液少許アルノミナルガ、時トシテ此中ニ白キ胎垢ノ混ズルコトアリ、コレト凝固セル乳汁トハ一見類似ノ點アルヲ以テ混同スベカラズ、ソノ一部ヲ取りテ鏡檢スレバ、已ニ物品檢査ノ部ニ於テ述べタルガ如ク、一見ソノ何レナルカヲ鑑別スルコトヲ得。

次ニ胎便ハ産後凡ソ四、五日ニシテ、全部排泄サルルモノナレバ、大腸内ニソガ殘存セルコトヲ知レバ、産後數日ヲ出デザルコトヲ知リ、又産瘤ノ存在モ産出後間モナキヲ證スルモノニシテ、ソノ發生部位ニヨリ胎兒出産時ノ體位ヲ知ルコトヲ得ル場合アリ、次表ヲ參照スベシ。

第九十四表 産瘤發生部位前頭位

前頭位	第一	右側前顳頂部(左大顳門ノ附近)
前額位	第一	左同
前額位	第二	右前額側
前額位	第二	左同
後頭位	第一	右顳頂部ノ後上隔
後頭位	第二	左同



腎位 第一 左側腎位部及ビ外陰部  
第二 右同  
顔面位 第一 右口角及右頰部  
第二 左同 及右同

口、發育程度

産出兒方成熟ナルカ若クハ少クトモ母體外ニ於テ獨立ニ生存スル  
コトヲ得ルヤ否ヤヲ決定スルコトハ甚ダ必要ニシテ、胎兒ガ普通妊  
娠三十週ヲ經過スレバ、母體外ニ於テ生存スルコトヲ得ルモノト見  
做シテ可ナリ、但シ疾病アル小兒或ハ發育不全ノモノハ此限りニ非  
ラズ、母體外ニ於テ生活機能ヲ有ストハ呼吸筋充分ニ發育シ、且消  
化器方食物ヲ攝取スルコトヲ得ル程度ニ發育スルヲ云フモノニシ  
テ、然ラザレバ、假令、十分ナル妊娠月數ヲ經ルモ母體外ニ生存機  
能ヲ營爲スルコト困難ナリ。

出産兒ガ妊娠何ヶ月ヲ經過セシカヲ知ルニハ、ソノ身長、體重、  
頭首ノ大サ、瞳孔膜ノ有様及諸所ノ骨端軟骨ニ於ケル化骨核ノ大サ  
指趾ニ於ケル爪甲發育ノ程度及大顎門ノ大サ等ニ依ルモノトス、今  
妊娠三十週以後ノ胎兒ノ特徴ヲ示セバ大約左ノ如シ。

○八ヶ月—三十週ノ胎兒、身長四十糎、體重一五〇〇乃至二〇〇  
○〇瓦、表皮ハ赤クシテ毳毛ヲ以テ掩ハレ、頭毛ハ少クシテ短ク、

瞳孔膜ハ全ク消失セルカ或ハ少シク痕跡アリ、睾丸ハ已ニ陰囊内ニ  
下降シ、女兒ニ於テハ陰核ハ尙大陰唇ノ間ニ突出ス。腦ニハ著シキ  
皺襞アリ、大腸中ニハ胎糞ヲ存ス、爪甲ハ殆ンド指端ニ達シ、跟骨  
内ニハ三耗徑ノ化骨核アリ、臍帶ハ長サ約四十六糎ニシテ、胎盤ハ  
約四百五十五瓦ヲ算ス。

○九ヶ月—三十六週ノ胎兒、身長四十五糎、體重二〇〇〇〇瓦  
内外ヲ算シ、顔面ハ丸味ヲ帯ビ、皮膚ハ淡赤色ニシテ、頭毛ハ一糎  
長餘ヲ算シ、毳毛ハ少クナリ、跟骨内ノ化骨核ノ大サハ五〇—六〇  
○耗ヲ算ス。

○成熟兒、皮下脂肪層増加シ、毳毛ハ肩胛部、鼠蹊部ニ殘存スル  
ノミ、頭毛ハ密生シテ約二・五糎長トナリ、睾丸ハ陰囊中ニ存シ大  
陰唇ハ小陰唇ヲ掩ヒ、指爪ハ指端ヲ越エ、趾爪ハ趾端ニ達ス、大腿  
骨下骨端内ノ化骨核ハ三乃至五耗徑ヲ算シ、瞳孔膜全ク消失ス。

尙初生兒ノ死體ニ就テ、注意スベキハ畸形或ハ病的變化ノ有無ナ  
リ。是等ヲ有スル初生兒ハ出産後往々二、三日ニシテ死亡スルコト  
アレバナリ。  
今胎兒及成熟兒ノ數字的大サヲ示セバ概ネ左ノ如シ。

第九十五表 平均重量(單位瓦)概表  
胎兒計測表 (Zangemeister = 瓦)

Table with columns for pregnancy month (妊娠月齡), weight (體重), liver (肝臟), kidney (腎臟), lung (肺臟), heart (心臟), brain (腦), spleen (脾臟), placenta (胎盤). Rows for months IX to I.

備考 肺、腎共ニ左右ヲ合セタルモノニシテ腎ハ莖膜ヲ除去ス。心臟ハ血液ヲ除キ、胎盤ハ臍帶ヲ除ケルモノナリ。

第九十六表 平均長(糎)概表

Table with columns for pregnancy month (妊娠月齡), body length (身長), head circumference (頭圍), head length (頭前後徑), head height (頭高), chest circumference (胸圍), lower limb (下肢), foot (足), and skull (Skull's Nadel Höhe).

殺 兒

第九十七表 成熟兒ノ大サ(平均)  
備考 頭高ハ下顎正中下端ヨリ大顎門マデノ距離、胸圍ハ乳房ノ高サニ於テ測ル、足趾ハ踵趾尖端ヨリ踵マデ

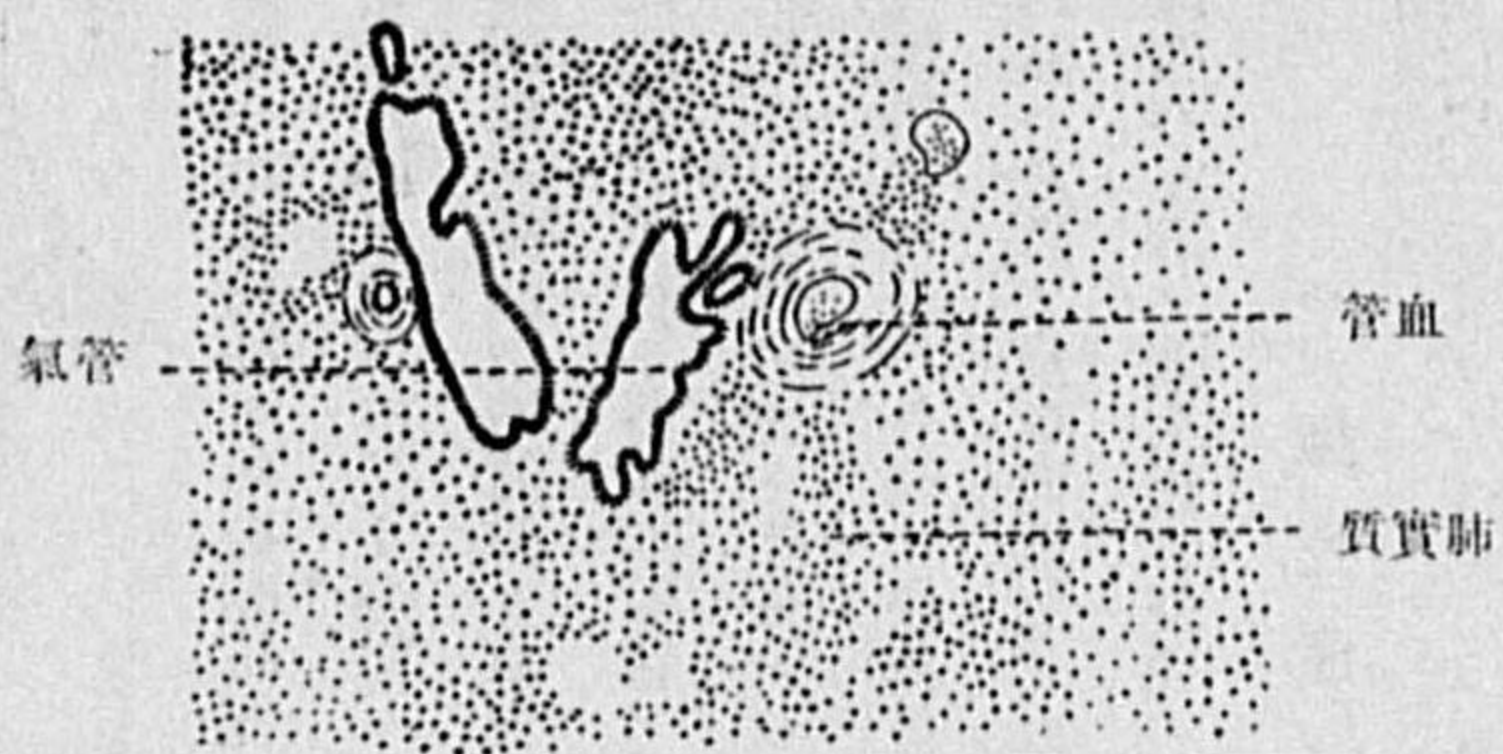
Table comparing body measurements (Body weight, head length, head circumference, etc.) for Japanese people (日本人) and solitary people (獨逸人).







圖一百二第



呼吸セザル肺

テ産聲ヲ發シ第一呼吸ヲ營ムヤ否ヤ、肺ハ一時ニ膨大シテ邊縁鈍トナリ、ソノ前縁ハ心嚢ヲ掩フニ至リ、同時ニ横隔膜ハ押し下ゲラレ初メ第四肋間ニアリシモノガ第五、六肋間ニ至ル、從テ肺ノ表面ハ淡赤色トナリ豊隆シ、るべテ以テ檢スレバ小ナル肺胞ノ開張シ居ルヲ認ム、實質ハ柔ク彈性ヲ帶ビ來リ、指觸スルニ嚙嚙ヲ感ズ斷面ノ色亦表面ノ

如ク變化シ、壓肺スレバ小氣胞ト血液トノ混合液多量ヲ流出スルニ至リ、肺全體ノ重量ハ増加ス、胎生時中ノ肺ノ比重ハ一・〇四五乃至一・〇五六内外ナルガ、一度空氣ヲ吸入スレバ、肺ハ通常水ヨリ輕クナリ、冷水上ニ浮揚スルニ至ル、之レ生死産ヲ區別スルニ最重要ナル肺浮揚検査ノ原現トスル所ニシテ極メテ少許ノ空氣ヲ吸入サルレバ、肺ハ已ニ浮揚スルニ至リ、充分ノ呼吸ヲナシタル肺ハ心

臟等ヲ保持シテ、尙水面上ニ一部ヲ凸出浮上スルニ至ル。而シテ此變化ハ勿論肺ノ組織學的検査ニヨリテモ明白ナリ。(第二百圖及二百一圖參照)

此所ニ於テ生死産ヲ鑑別スル諸種ノ検査法ヲ述べ、且ツ其レニ對スル注意及批評ヲ爲サントス。

**甲、肺浮揚検査**

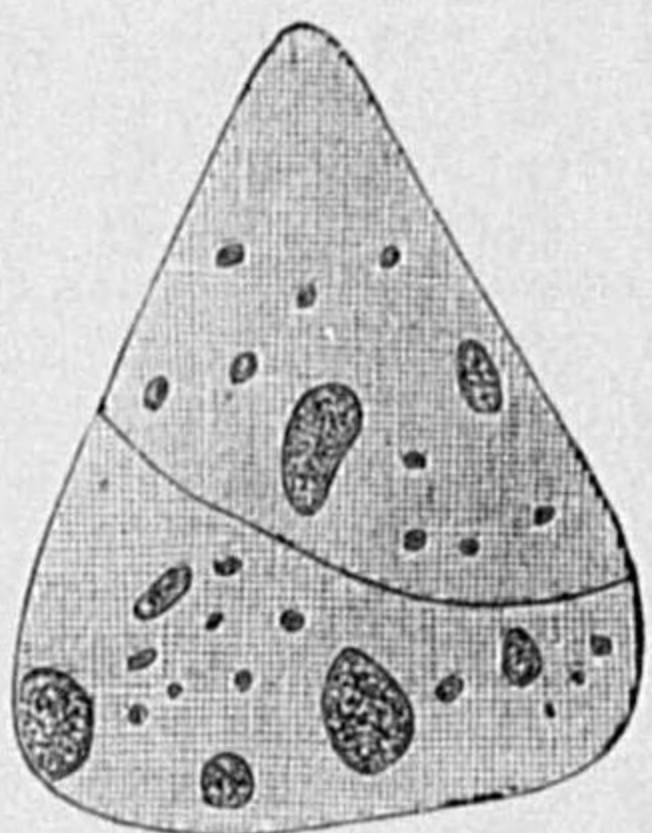
本検査ヲ行フニハ先ヅ頸胸臟器ヲ一連ニ剔出シテ冷水中ニ投ジ、ソガ浮上スルヤ否ヤヲ試ミモン浮上スレバ次ニ心臟、胸腺等ヲ除去シテソノ浮揚力ヲ試ミ、更ニ各肺、次ニ各葉トナシテ投水シ、尙浮上スレバ之ヲ小指頭大ノ切片トナシ投水シ、浮上スレバ更ニ悉ク取出シ指間或ハ板ノ間ニテ強壓ヲ加ヘ、再ビ投水シテ尙浮上スル時ハ肺浮揚試験ハ陽性ナリ、即産出兒ハ呼吸ヲ營ミシモノナルコトヲ知ル、實際呼吸ニヨリテ開張セン肺胞内ノ空氣ハ強壓ヲ加フルモ逸出セザルニ、腐敗瓦斯ナレバ壓力ニ依リテ逃散シ、一見陽性ノ如ク見エシモノモ、直ニ然ラザルコトヲ知ルヲ得。肺浮揚検査ノ成績ヲ判定スルニ際シ次ノ注意ヲ要ス。

(イ) 生活力弱キ小兒、或ハ氣道ガ粘液若クハ血液ヲ以テ充タサレタル時ニ於テハ、呼吸不十分ナル故、肺ノ表面ハ空氣ヲ含メル部ハ

淡紅ニシテ豊隆シ肺胞開張シ、此部ノ切片ハ浮揚検査ノ際水上ニ浮ビ、空氣ヲ含マザル部ハ暗赤色ニシテ觸ルルニ肉様ノ感アリ、嚙嚙ナク此部ノ切片ハ冷水中ニ沈降ス。

(ロ) 呼吸ヲナサザル肺ト雖モ腐敗瓦斯生ズレバ、ソノ爲メニ冷水上ニ浮揚スルニ至ル、然ルニ腐敗瓦斯ハ肋膜下ニ大小不同ノ氣胞トナリテ存在シ且膜下ヲ移動ス、次ニ細片ヲ捻壓シテ水中ニ投ズレバ沈降スルニ至ル、然ルニ實際呼吸ヲナセシ肺ノ表面ニハ、肺胞

圖二百二第



肋膜下ノ腐敗瓦斯

眞珠様均等大ノ小胞トナリテ透見シ、此細片ヲ捻壓シテ投水スルモ沈降セズ、即チ肺浮揚検査ガ實際陽性ナルカ將タ腐敗瓦斯ニ依リテ一時陽性ノ如ク現ハレシカ

ヲ直ニ鑑別スルコトヲ得。

(ハ) 肺ノ腐敗ガ甚シク進行シテソノ切片ヲ指間ニ捻壓スレバ、實質ハ泥様トナリテ流出シ最後ニ殘存スルモノハ、氣管或ハ血管ノ如キ抵抗強ク且比重重キモノノミナレバ、此細片ガ沈降シタリトテ肺浮揚検査ハ陰性ナリト云フコト能ハズ、即チ腐敗甚シク進行セ

ル際ハ肺浮揚検査ノ結果ニ重キヲ置ク能ハズ。斯ル場合ニハ肺胞壁ノ彈力纖維染色ニヨリ鑑別スベシ。

(ニ) 氣候非常ニ寒クシテ肺凍結シ居ル場合ニハ、生死産ノ別ナクソノ切片ハ水上ニ浮揚ス、此際ハ死體ヲヨク融解セシメテ肺浮揚検査ヲ行フベシ。

(ホ) 空氣ヲ死産兒ノ肺中ニ消息子等ニテ吹き込マバ、肺ハ空氣ヲ含ミ水上ニ浮上スルニ至ル、此時ハ通常空氣ガ各肺胞迄行キ居ラズ且消息子ヲ插入シタル痕跡ヲ殘シ居ルモノナレバソノ鑑別スルコトヲ得、又死産兒ノ口ニ術者ノ口ヲツケテ空氣ヲ吹き込マバ空氣ノ大部分ハ胃腸ノ方ニ進入シ、肺ニハ極メテ少量ノ空氣ガ進入シ居ルノミナリ。

(ヘ) 死産兒ニ發啼術或ハ蘇生術ヲ施ス時ト雖、決シテ各肺葉ニ平等ニ空氣ガ進入スルモノニ非ラズ、即チ死産兒ガ呼吸ヲナシタル時ノ如ク各肺胞ガ充分ニ開張ヲ來サズ。又胎兒ヲ子宮内ニテ轉位ナドスル時ハ子宮内ニ進入セル外氣ヲ吸入シ、胎兒ノ肺ガ空氣ヲ含有スルコトアリ注意セザルベカラズ。

(ト) モシ肺浮揚検査ガ陰性ナリトモ小兒ノ氣管、氣管枝、肺等ニ大便ノ成分、塵埃或ハ羊水ノ成分等非常ニ多ク進入シテ居レバ、産



兒ハ産後ニ空氣呼吸ヲナス暇ナクシテ、該異物ヲ混ズル液體中ニ陥リ死ニ至リタルモノナルコトヲ知ルベシ、一般ニ小兒ヲ糞壺中ニ生ミ落ス場合ニ、多ク肺浮揚試験ハ陰性ニシテ氣管、氣管枝等ニ多クノ糞便成分ヲ見出スコトハ、實際甚ダ多ク遭遇スル所ナリ。又胎兒ノ死後、如何ナル關係ガ不明ナレドモ、一旦吸入シタル空氣ガ全ク消失スルコトアリ。

(子)充分發育セザル胎兒ハ生産ニシテ、而モ呼吸スルコト能ハズ死ニ至ルコトアリ、或ハ能ク發育セル成熟兒ニテモ産後假死ニ陥リ呼吸ヲ營マザル間ニ死ニ至ル場合アリ、卵膜羊水ニ鼻口ヲ塞ガレテ呼吸シ能ハザルモノ、故意ニアラズシテ衣服濡圍或ハ産婦ノ大腿部等ニ鼻口ヲ掩ハレ呼吸ヲ開始シ能ハザルモノ、生産後二十四時間確ニ生存シタル小兒ノ肺ニ全ク空氣ヲ存セザリシモノ、胎内ニテ已ニ肺炎ニ罹リ生産後呼吸ヲナシ能ハザルモノ、反之、種々ノ手術ニ依リ子宮ニ空氣ヲ侵入セシメ、未ダ産出ニ至ラズシテ已ニ呼吸ヲ開始シ、子宮内ニテ空氣吸入セルモノ等、實際上ニ於テハ甚ダ種々ノ場合アレバ、肺浮揚検査ノ結果ノミニ偏重シテ初生兒ノ生死産ヲ直ニ決定セントスルハ甚ダ早計ナリ、故ニ仔細ニ之ヲ剖檢シ周圍ノ事情ヲ併セ考ヘテ斷定ヲ下スベシ。予ハ茲ニ肺浮揚

試驗施行法ノ合式ナラザルヨリ誤レル診定ニ陥リシ一例ヲ舉ゲム。一殺兒事件アリ掛リ官ハ或醫師ニ命ジテ、初生兒ノ生産ナルヤ、將タ死産ナルヤヲ鑑定セシメシニ、該醫師現場ニ至ルヤ、僅ニ其兒屍ニ一瞥ヲ與ヘタルノミニシテ、直ニ刀ヲ執リ其胸腔ヲ開キ肺臟ノミヲ剔出シテ、其膨脹ノ度ヲ云々シ直ニ浮揚検査ヲ行ヒ而モ全肺ガ冷水中ニ沈降スルヤ、彼ハ直ニ死産ナリト斷定シ更ニ掛リ官ノ面前ニ於テ肺中ニ硝子管ヲ以テ空氣ヲ吹き込ミ、之ヲ水中ニ投ジテ其浮揚スルヲ見ルヤ得タトシテ曰ク、呼吸センモノノ肺ハ此ノ如ク浮揚シ死産兒ノ肺ハ前ノ如ク沈降スト、其他何等ノ方法ヲ盡サズシテ剖檢ヲ終レリ。然ルニ司法官ハ此醫師ノ鑑定ガ事實ニ符合セザル所アルヲ以テ、當教室(京都)ニ再鑑定ヲ命ゼリ、依リテ再解剖ヲ行ヒ肺ヲ檢スルニ、氣管、氣管枝及細氣管枝ノ末端迄糞便ノ成分ニ滿チ、前鑑定醫ガ空氣ヲ吹き込マザリシ部ハ浮揚試験陰性ナリ、ソノ他全剖檢所見ヲ考慮シテ該兒ハ生産ニシテ産後直ニ糞汁中ニ陥リ、溺死セルモノナリト鑑定セラレタルコトアリ、ソレ兒屍ノ肺臟ノミヲ剔出シ且單ニソガ冷水中ニ沈降センノミヲ以テ、直ニソノ死産ナルコトヲ斷言スルハ思ハザルノ甚シキモノト云フベシ。

乙、胃腸浮揚検査

吸ニ依リテ、直ニ鼓室内ニ空氣ガ侵入スルヤ否ヤハ尙疑問ニシテ、從テ本検査ハ肺浮揚試験程重キヲ措カレズ、且鼓室ヲ檢スルコトハ甚ダ手數多キモノナレバ、普通ハ本法ヲ使用スルコトナシ。

戊、肺鐵検査

生産兒ノ肺乾燥物質中ノ鐵ノ含有量ハ死産兒ノソレニ比シ遙ニ多シ、之レ胎兒生産後直ニ肺循環ヲ初ムルガ故ナリ、此原理ヲ利用シテ初生兒ノ生死産ヲ鑑別セントセリ、コハ肺血量検査ニヨリ生死産ヲ區別セントスルモノト同理ニシテ、肺鐵検査法ハ腐敗ノ程度甚シク肺浮揚検査ヲ行フコト能ハザルモノニ施行シテ效アリト云フ。

ニ、初生兒ノ死因

甲、産前ノ死

妊娠中胎兒ノ死亡スルハ母體ノ重病、子宮及胎兒附屬物ノ病的狀態、母體ノ下腹部ニ加ハル暴力等ニ依ルモノニシテ、鈍力ガ妊娠子宮ニ作用スル時ハ母體ニハ何等ノ損傷ヲ與ヘズシテ、内部ニ在ル胎兒ニ甚シキ障害ヲ附與シ死ニ至ラシムルコトアリ、例ヘバ母體ガ高所ヨリ墜落シタル時ノ如キ之レナリ。子宮内ニテ死亡セル胎兒ハ直ニ産出セララルコトナク、暫時ノ後、所謂浸軟胎兒トシテ産出セララルモノナレバ、産前已ニ死亡シ居タルコトヲ判定スルニ難カラズ

本検査ノ原理トスル所ハ胎兒ガ生産スルヤ直ニ嚥下運動ヲ行ヒテ空氣ヲ胃腸中ニ送入スルモノニシテ、死産兒ニハ決シテ胃腸中ニ空氣ヲ含有セズト云フニ在リ、本検査ヲナスニハ胃ノ兩端及腸ノ諸所ヲ結紮シテ剔出シ、冷水中ニ投ズレバ死産兒ノソレハ沈降シ生産兒ナラバ浮上ス、而シテ腸ノ何レノ部分迄空氣ヲ含有スレバ、略何時間産兒ガ生存セシモノナリトノ診定ヲ下スコトヲ得ト云フト雖、一般ニ胃腸ハ甚ダ早ク腐敗瓦斯ヲ生ズル所ナレバ、コノ爲メ死産兒ノ胃腸モ往々浮上スルニ至リ、本検査法ノ價值ヲ減ジ、肺浮揚検査ノ如ク之ニ重キヲ措ク能ハズ。

丙、大腸膀胱検査

大腸中ニ胎便ナク膀胱中ニ尿ナキ時ハ小兒ハ生産後相當時間生存シタルモノナリトノ検査法ニシテ、コハ悉クハ信ヲ措クニ足ラズ、何トナレバ胎便及尿ハ已ニ産前消失スルコトアレバナリ。

丁、鼓室検査

胎生時中鼓室ハ粘液ヲ以テ滿サルモノナルガ、小兒ガ呼吸シ始ムルヤ嚥下運動ニ伴ヒテ空氣ハ鼓室内ニ入り込ムモノニシテ、コレヲ原理トシテ初生兒ノ鼓室内ニ空氣アレバ生産ニシテ、然ラザレバ死産ナリト診定スルヲ本法ノ大體トス、然レドモ胎兒生産後第一呼

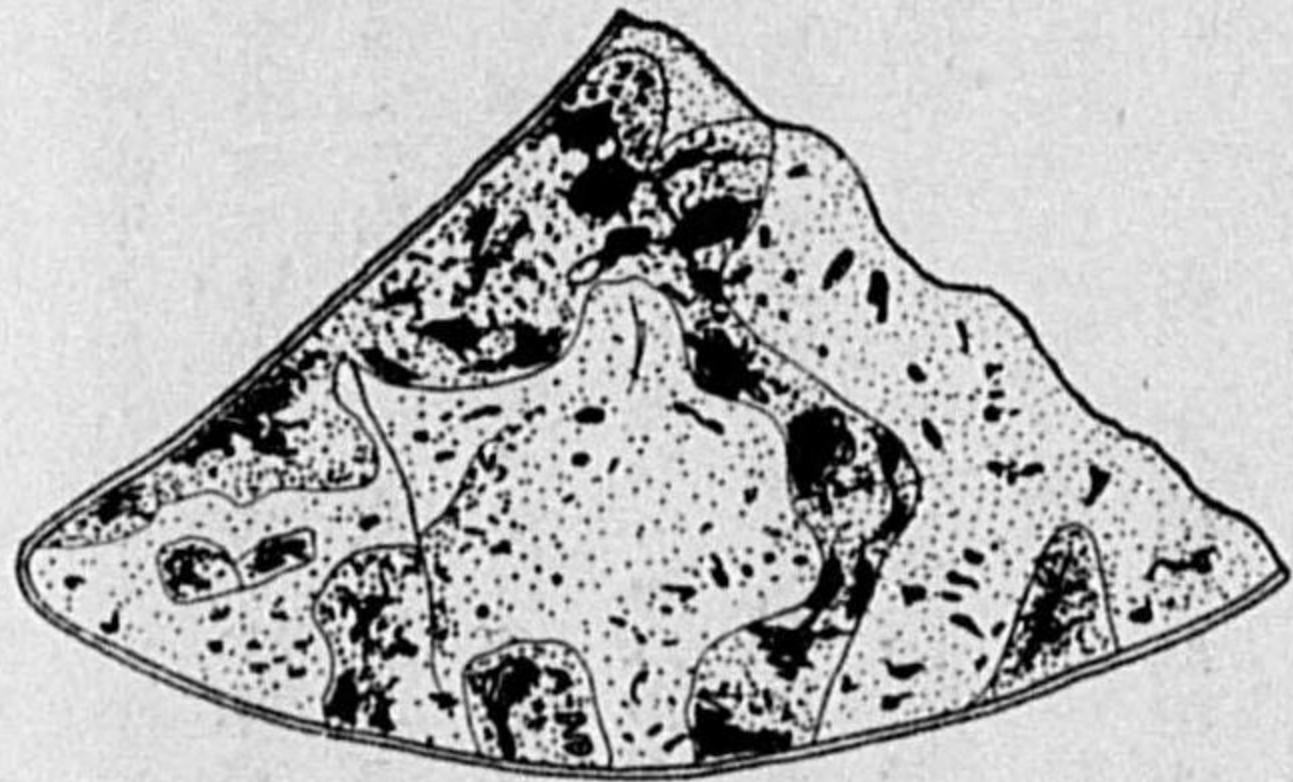


浸軟セル胎兒ハ一種甘味ノ臭ヲ有シ、表皮ハ容易ニ剝脱シテ赤銅色ノ眞皮ノ露出シ、腹部ハ柔軟トナリ頭骨ハ移動シ易ク、頭部ハ扁平トナリ居ルヲ常トス、軟部及軟骨ハ血色素ノ浸潤ニ依リテ淡赤色ヲ呈ス、此状態ニ在ル胎兒ヲ空氣中ニ放置スレバ、其特有ノ所見ヲ失ヒ、通常ノ腐敗ニ移行ス。予ノ實見セル例ニテハ妊婦(第十ヶ月)ガ電車ニ乗ラントシテ、側腹部ヲ強打シタルニ母體ニハ何等ノ障害ヲ與ヘズシテソレヨリ胎動止ミソノ後十三日ニシテ浸軟胎兒ヲ産出セリ。

乙、産中ノ死

普通ノ娩産ニテ小兒ノ生命ヲ脅カスモノハ窒息、頭部壓迫及出血等ナリ、今此等ニ付テハ順次述ブル所アラントス。  
胎内窒息ハ母體ヨリ酸素ニ富メル血液ガ、小兒ノ血行内ニ充分ニ輸入サレザル場合ニ起ルモノニシテ、胎兒ノ血中ニ炭酸多クナレバ

圖 三 百 二 第



面斷ノ肺入吸液中産

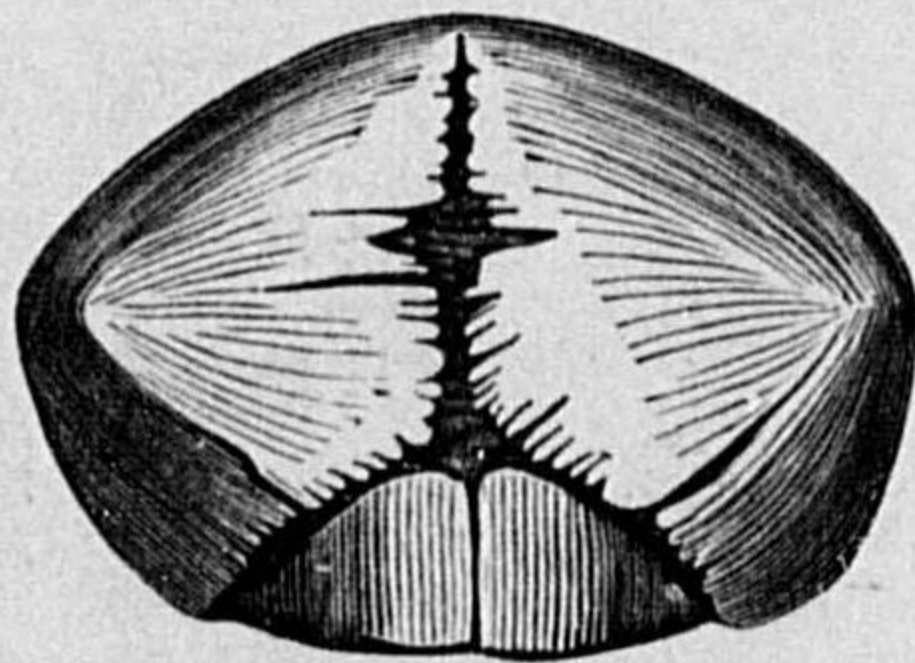
圖 四 百 二 第



二個ノ上下胎生の裂隙ノ結合ニ由テ横斷セラレタル初生兒後頭骨鱗狀部

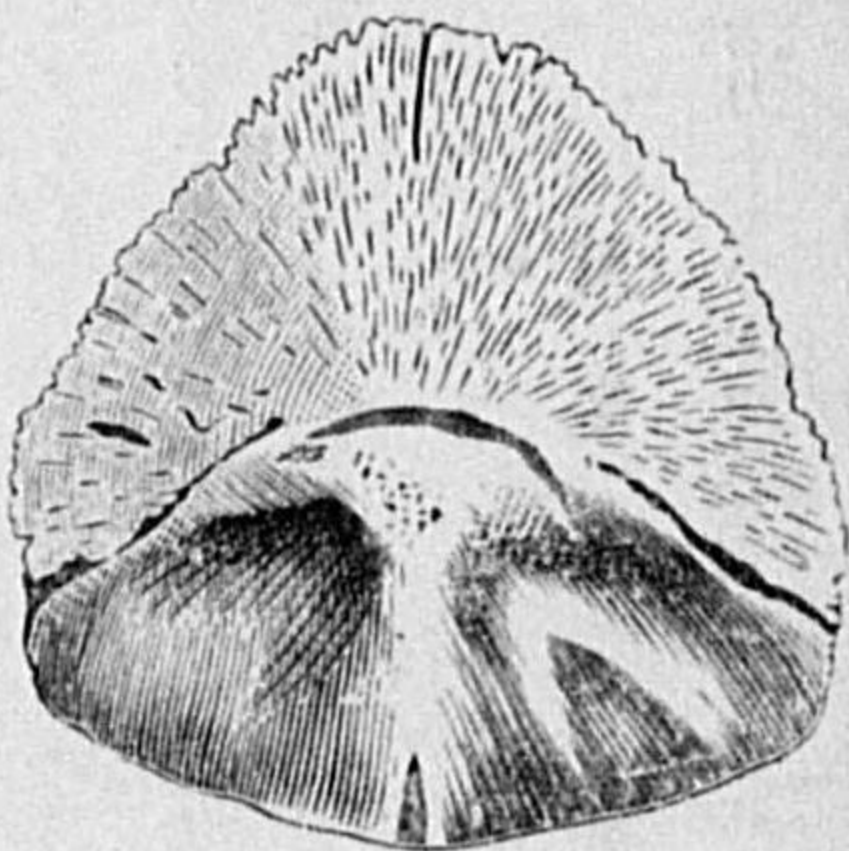
遂ニ呼吸中樞ヲ刺戟シテ呼吸ヲ始ム、然ルニ子宮内ニハ吸入スベキ空氣ナキ爲メ其處ニ存在スル羊水等ヲ吸入シテ遂ニ小兒ハ死亡ス、之ヲ剖檢スレバ細氣管枝ノ末端、及胃中ニ羊水ノ成分ヲ見出シ、モシ破水後窒息スレバ小兒ハ産道内ニ於ケ

圖 五 百 二 第



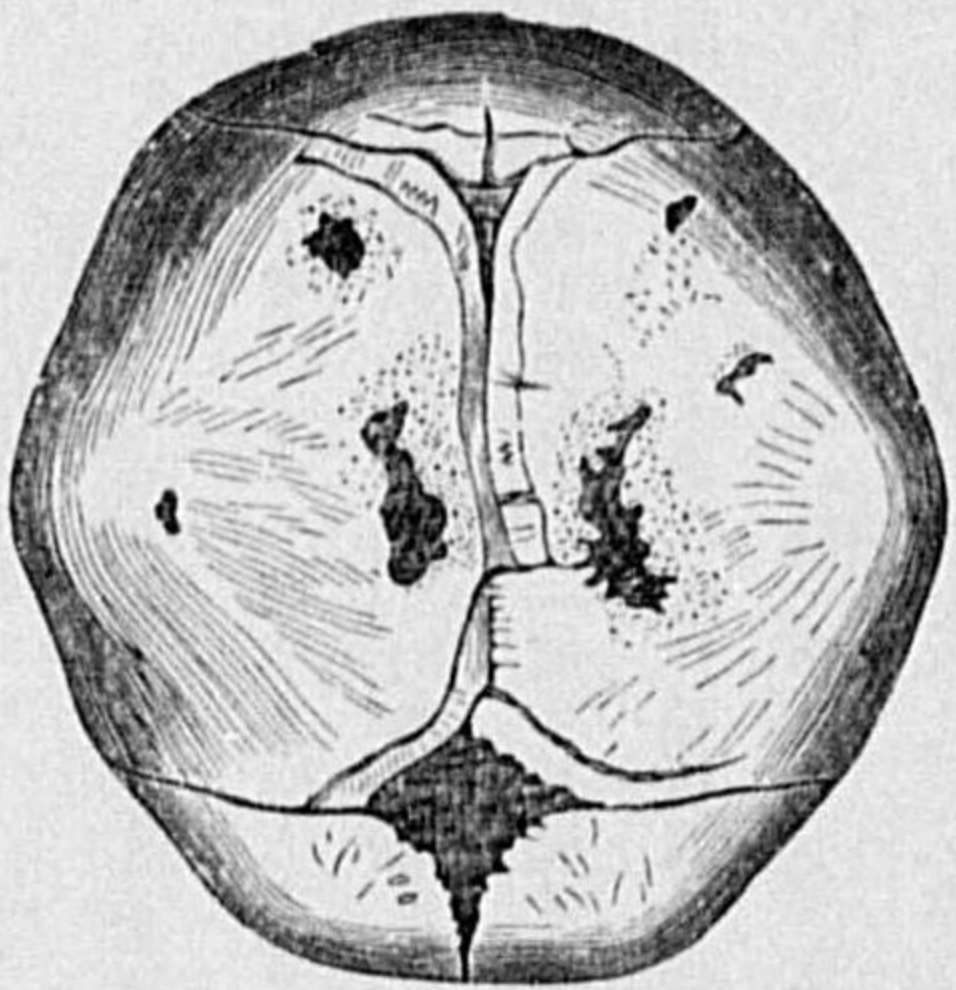
初生兒ノ頭蓋ニシテ副額門及矢狀縫合後三分一部ニ於ケル裂隙並ニ兩額頂骨ノ三角縫合線ニ於ケル左右相稱的胎生の裂隙ヲ有スル者

圖 六 百 二 第



ニ部狀鱗骨頭後兒生初際裂の生胎ルケ於

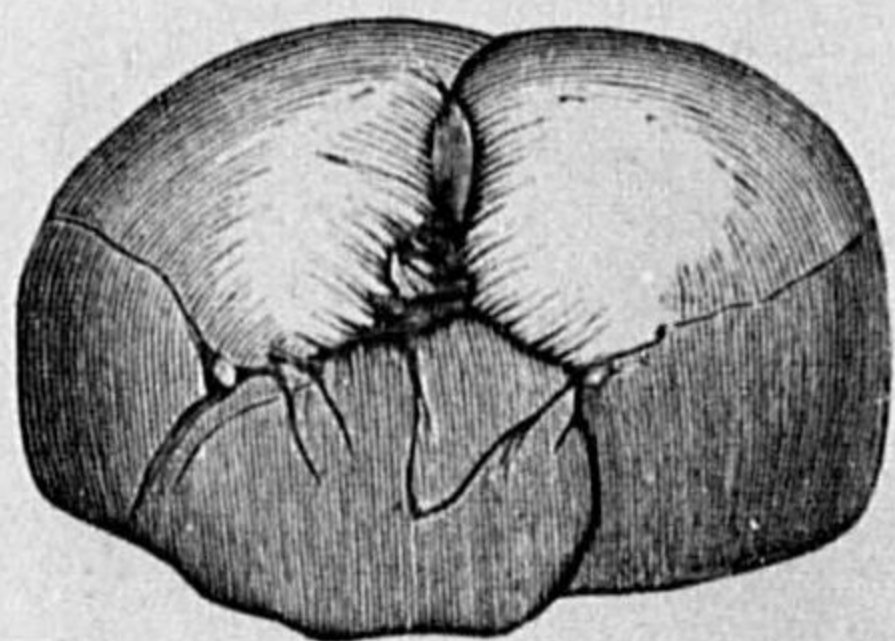
圖 七 百 二 第



損缺骨化ルケ於ニ頂額ノ兒生初

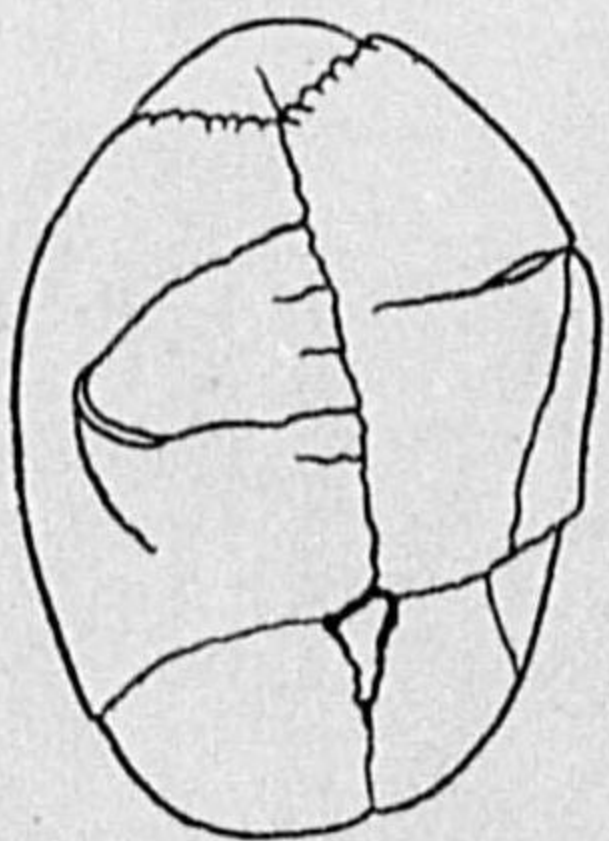
ル血液ノ混ジタル羊水ヲ吸入ス、故ニ此時剖檢スレバ胎兒ノ肺中ニハ小氣管枝内ニ至ルマデ血液ヲ發見スルコトアリ、(第二三圖參照) 尙是等胎兒ノ死體ハ窒息急死ノ一般微標アルハ言フ俟タズ、此ノ如ク胎盤循環ノ中絶スルハ胎盤ノ早期剝離、臍帶ノ壓迫、子宮ノ長期痙攣等ニ依ル。次ニ頭部壓迫ハ胎兒ガ産道ヲ通過ス

圖 八 百 二 第



ルケ於ニ部後骨頂額ノ兒生初際裂性稱相右左ノ高

第 二 百 九 圖



急速ナル頭骨壓迫ニヨル破裂

ル時ニ一程度迄ハ來ルモノナラガ、ソノ度ヲ越エ頭部ノ壓迫甚ダ強クナレバ、頭骨縫合ノ所ニテ頭骨ハ相重疊シ、或程度迄ハ之ニ適應スルコトヲ得ルモ、尙壓力強クナル時ハ遂ニ重疊セル縫合部ノ血管ハ引キチギレ出血ヲ來シ、時トシテ頭骨ニ骨折ヲ伴ヒ或ハ小腦天幕破レ、爲メニ出血シテ其胎兒死ニ至ルコトアリ、或ハ尙僅ニ生命ヲ保チテ出産シ數時間生存シ死亡スル場合アリ、此際ハ胎兒ニ死後暴力ヲ加ヘテ死ニ致シタルモノトノ鑑別甚ダ困難トナル。故ニ産ノ輕重ヲ參考ニ供シ注意シテ判定ヲ定スベシ、ソノ他胎兒ノ頭骨ニハ往々化骨缺損ナルモノ自然ニ存在シ骨折ト錯誤シ易キ故注意スベシ(第二三四圖乃至二百七圖參照)。一般ニ新ラシキ骨折ハ折縁尙銳ニシテ化



骨放線ノ方向ト一致シ居ラザルモ、自然ニ存在スル化骨缺損ハ化骨放線ト一致シ、且折端鈍圓トナルヲ常トス。

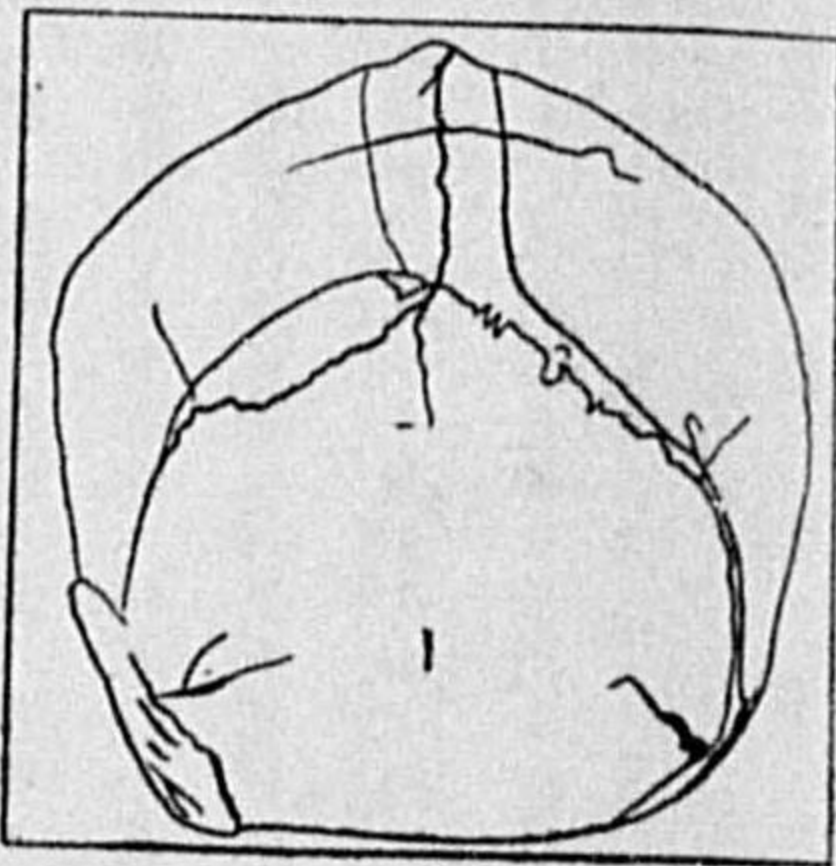
次ニ産中胎兒ノ失血死ニ至ルハ臍帶ノ異常附着或ハソガ非常ニ短キ時ナリ、前者ニ於テハ破水ノ際大血管破砕シテ失血シ、後者ニ於テハ早期胎盤剝離ニ依リテ出血死ニ至ルコトアルモノナリ。

醫師ノ手術不適當ナルニ依リ胎兒ノ死ヲ招クコトアリ、例ヘバ鉗子ヲ用キテ兒頭ニ皮膚剝離、骨折或ハ皮下出血ヲ起シ、又ハ兒頭ノミ外陰部ニ露ハレタル際、取扱ノ不注意ニヨリテ骨折、脱臼等ヲ來スコトアリ、剖檢ノ際吾人ハ此等ノ點ニモ注意ヲ向クル必要アリ、又産婦ガ自身ニ産兒ヲ取上ゲン時ハ、指爪ノ痕跡ガ小兒ノ皮膚ニ殘存スルコトアリ、之ヲ扼死ノ痕跡ト注意シテ鑑別スベシ、産婦ガ産兒ヲ産中ニ殺害スルハ出來得ベキ事ナレドモ、此際産婦ニハ娩産ナル大事業ノ進行中ナレバ、此ノ如キコトヲ試ムルハ非常ニ稀有ナルコトト云フベシ。

丙、産後ノ死

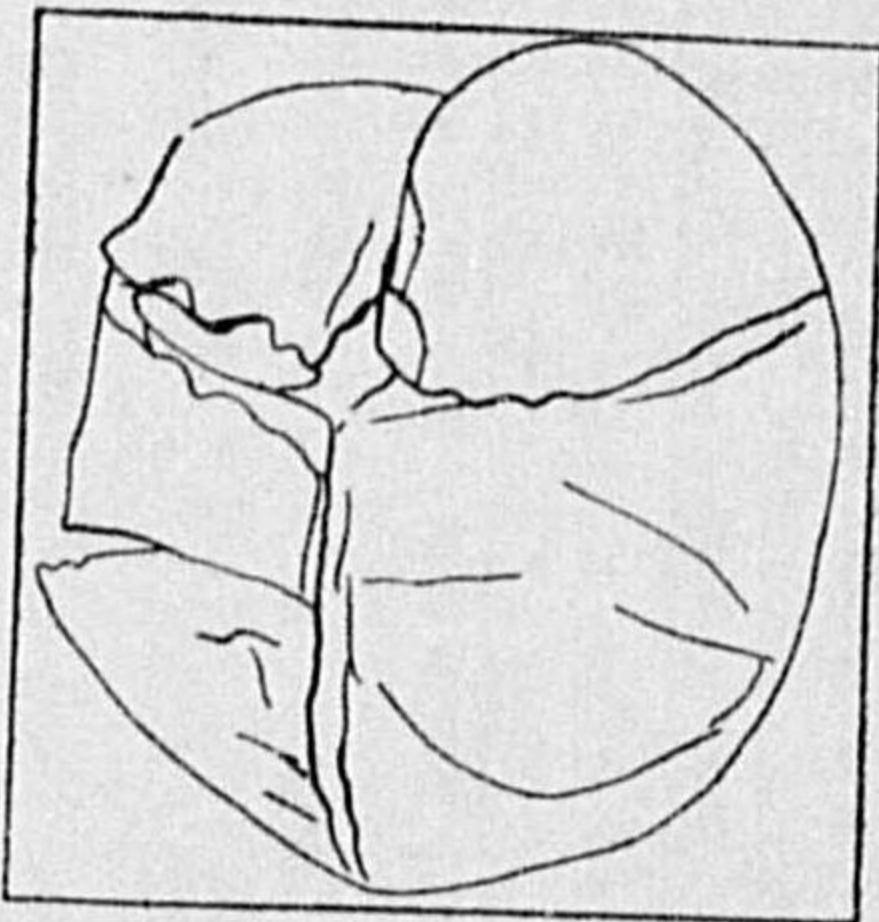
生活力不十分ナル爲メ、畸形或ハ疾病ニヨリ、又ハ妊娠中或ハ産中ニ受ケタル損傷ニ依リ、初生兒ガ産後間モナク死亡スルコトアルハ已述ノ如シ、此所ニハ産後ニ起リシ原因ニヨリテ死ニ至ルモノノ

圖二十百二第



損缺骨頭ルアニ性來生

圖三十百二第



裂破骨頭ルヨニ産落墜

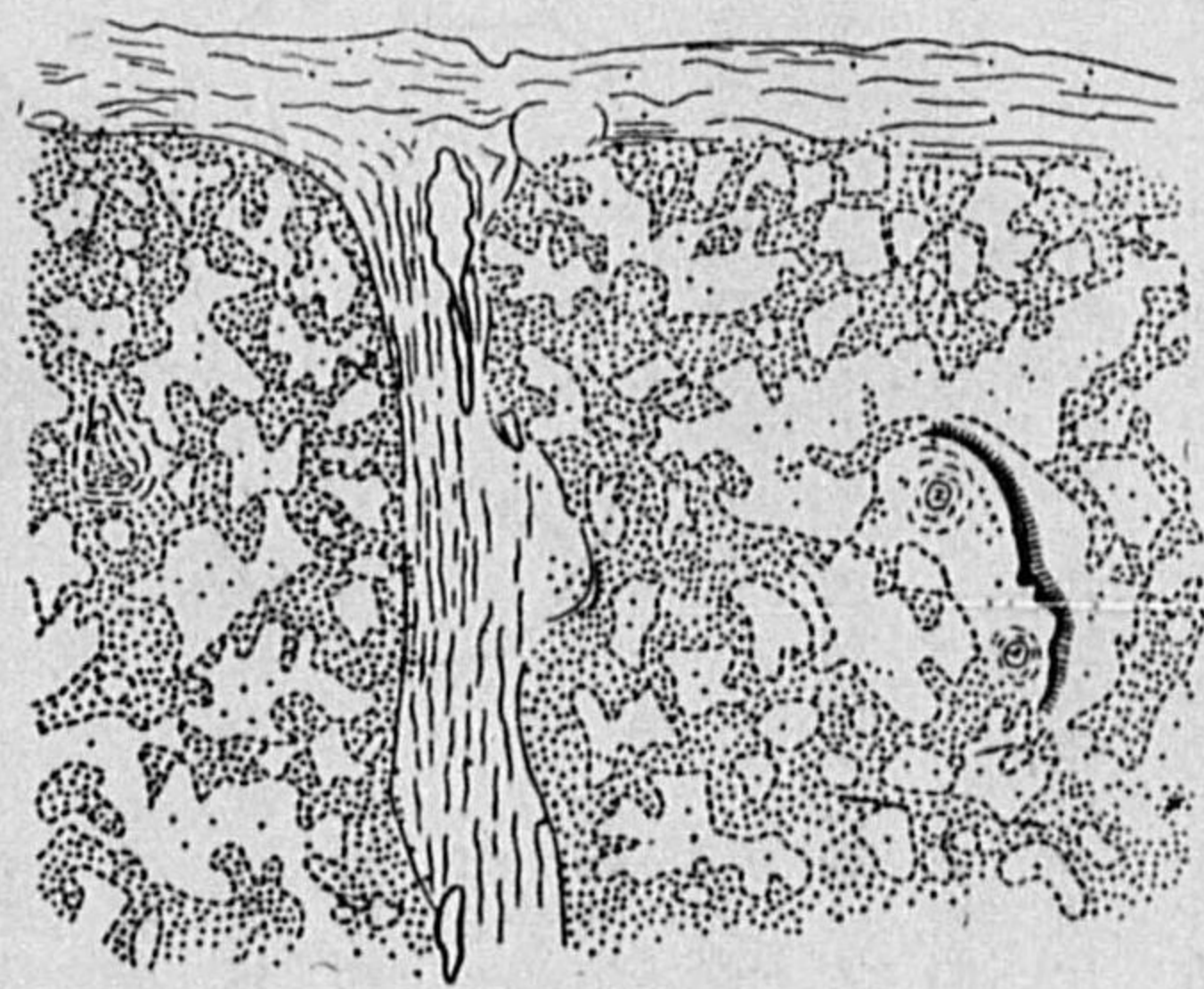
キ骨盤ヲ有スル婦人ガ小サキ胎兒ヲ産出スル場合ニ來ルモノニシテ、經産婦ガ陣痛アリトモ未ダ産ニ至ラズト思ヒ居ル中ニ墜落産ヲ來シ、時トシテ腹工合惡キ爲メ便所ニ行キ急ニ墜落産ヲ來スコトアリ、之ト故意ニ胎兒ヲ便所中ニ産出シテ糞壺中ニ陥ラシメ死ニ至ラシムルモノトハ、剖檢的事實以外ノコトヲモ

圖四十百二第



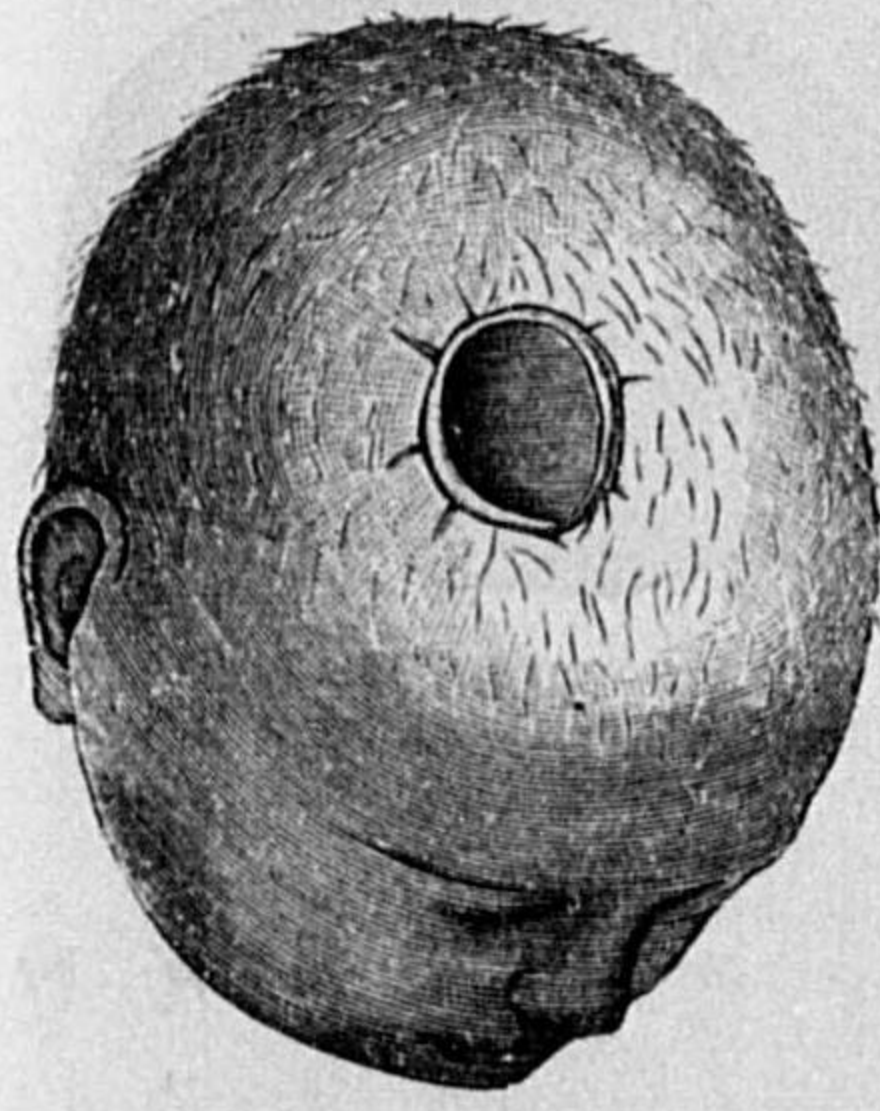
急墜産ニ於テ斷裂セラレタル臍帶ノ胎盤端(自然大)

圖十百二第



腫水肺ノ兒生初

圖一十百二第



頭ルケ於ニ兒胎ルセ産流損缺形圓類性天先皮

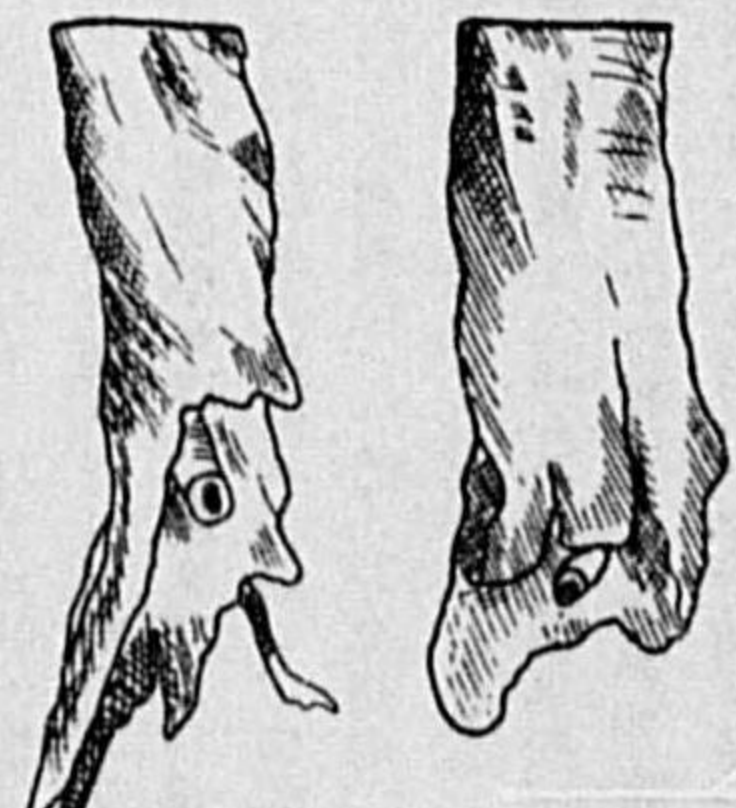
ミニ就テ述ベム。 娩産ニ經驗ナキ婦人又ハ豫想ヨリモ非常ニ早ク來ル 娩産ニ於テハ往々墜落産ヲ來ス、即チ一ハ徹頭徹尾産ノ早ク終ルモノニシテ、他ハ幾分ノ陣痛等アリタル後急ニ産道ヲ胎兒ガ通過シ終ルモノナリ。 墜落産ハ廣

圖五十百二第



剪刀ヲ以テ横ニ且ツ平滑ニ截斷セル臍帶ノ斷離面ノ直上ニ於テ之ト交互ニ並行セル銳線性截痕アリ

圖六十百二第



帶臍ルセ裂斷リヨニ力暴

參考トシテ決定セザルベカラズ。而シテ墜落産ノ際、臍帶ガ産門ヨリ懸垂セル胎兒ヲ支持シ得ルヤ否ヤ、及モソガ自然ニ斷裂スルトセバ如何ナル部分ニ於テスルヤヲ知ルコトハ、往々産兒ヲ故意ニ墜落セシメタルヤ否ヤヲ判別スル補助トナルコトアリ。

けるねる氏ニヨレバ八千四百〇二例ノ分娩者中、墜落分娩ヲ來タセルモノ四十八例ニシテ、其中七例ニ於テ臍帶ノ自然斷裂ヲ來セリト云フ、反之、へるはトク氏ニヨレバ臍帶ノ自然斷裂ニヨル墜落産ハ三十四%ニモ達スト云ヘリ、而シテコハ胎兒ノ重量、陣痛、及腹壓ノ強弱、産ノ難易等ニ大ナル關係アルハ言フ俟タズ。

一般ニ成熟胎兒ノ臍帶ハ靜止状態ニアル重量約五六千瓦ヲ支ユル



ニ足ルモ、落下スル重量等ニ對シテハ僅ニソノ五分ノ一位ニテモ斷裂スルコトアリ、而シテソノ斷裂スル位置モ亦周圍ノ條件ニヨリテ一定セザルガ、くらい氏ニヨレバ百三十四例ノ斷裂自然斷裂例中十九例ハ略中央、胎盤側ニ偏セルモノ九例、胎兒側ニ偏セルモノ九十六例ニシテ、臍帶ノ短キモノハ一般ニ斷裂シ易シト云フ、岡本教授方臍帶ノ耐重性ニツキ研究セル結果ヲ擧グレバ左ノ如シ。

第九十九表 (臍帶ノ耐重表)

懸垂ノ方法	胎兒體重最大限	同最下限	同平均
落下セル重量	一一三〇—一五〇〇瓦	四〇〇瓦	約 六六八
靜止セル重量	一一二五〇〇瓦	四三〇〇瓦	八七五四瓦
斷裂ノ部位	胎兒側 三三・三%	中央 四四・四%	胎盤側 二二・三%

墜落産ニヨリ死亡セル胎兒ノ剖檢所見ハ産瘤小サク前進部ニ大ナル鈍器(稀ニ銳器)損傷ヲ見、臍帶ハ或ハ斷裂シ或ハ然ラザルコトアリ、其斷裂シタル場合ニハ末端ハ甚シク不正トナリ居ルモノナリ、臍帶ヲ産婦等方故意ニ引キチギリタル場合ニハ、多クハソノ中央部ニテ斷裂シ、且手ニ握リタル痕跡アレバ前者ト鑑別スルコトヲ得ルモノナリ、又前述ノ如ク骨折ト化骨ノ缺損トヲ混同セザル様注意ヲ怠ルベカラズ。

第三十五例 鑑定書

胎兒側ニ近キ部

三・三種

ヲ算ス。示サレタル檢査物ノミニテハ臍帶ノ眞ノ全長ハ不明ナレトモ今胎盤面ニ附著セル臍帶ノ長サ九・〇厘米ト、檢査物中ノ臍帶トシテ示サレタルモノニ七・〇厘米ヲ加ヘ三六・〇厘米長ナリ。コレニ胎兒ニ附著セル臍帶ノ長サヲ加ヘテ本胎兒ノ臍帶ノ全長トセザルベカラズ。故ニ此ノ臍帶ノ全長ハ三六・〇厘米以上四五厘米ヲ超エザルモノナリトノ推考セザルベカラズ。

第二、臍帶斷裂ニ對スル記載

一、臍帶ハ果シテ人工操作ノ加ハラザル種々ナル條件ニヨリテ斷裂スルコトアリヤ

臍帶ノ完全ニ自然ニ斷裂スルハ分曉時ニ最も多シ。而シテコハ分曉第二期ノ陣痛、腹痛、及ビ腫ノ收縮等ニヨリテ臍帶自己ノ強キ牽引或ハ他動的ニ突然強大ナル牽引ガ臍帶ニ加ハリタル場合ニ惹起シ得ル現象ナリ。故ニ人工的操作ノ加ハラザル場合ニテモ一定ノ條件ヲ具備セル時即墜落分曉ノ如キ場合ニハ臍帶ノ斷裂ハ屢々見ラルモノナリ、然レドモコレニ反シ墜落分曉ノ起リタル時ハ常ニ必ズ臍帶ノ斷裂ヲ來スモノニアラザルコトモ亦明ナル事ナリ

二、臍帶ノ自然斷裂ノ頻度

臍帶ノ自然斷裂ハ前述ノ如ク種々ノ條件ノ下ニ惹起スルモノナルガ殊ニ墜落分曉ニ因ル場合頗ル多シ、ういんける氏ハ二百十六例ノ分曉中、臍帶ノ自然斷裂ヲ來セルモノ四十二例ヲ報告シ、こつほ氏ハ三十七例中同上六例アルヲ報告セリ、けるねる氏産婆學校ニ於テハ八千四百〇二例ノ分曉者中墜落分曉ヲ來セルモノ四十八例ヲ見其内七例(十五%)ニ於テ臍帶ノ自然斷裂ヲ來セルト報告シ、けるは氏ハ墜落分曉時臍帶自然斷裂ハ約三十四%ノ多數ヲ來スモノナリト云フ。即墜落分曉ノ十五%乃至三十四%ニ於テ臍帶ノ自然斷裂ヲ來スモノナリト報告セラル。其他ノ原因トシテハ多種多様ニシテ一定ノ見解ヲ見ズ

大正十五年十一月二十六日奈良縣五條警察署長警部秋月明ハ一、「フォルマリン」ニ浸漬セル胎盤及ビ臍帶  
二、同様ニ處置セル胸腔内臓器ノ一部  
等ヲ示シテ之ヲ檢査シテ  
一、コハ墜落分曉ニヨル臍帶斷裂ナリヤ  
二、コノ臍帶斷裂ニ人工的操作ノ加ハリシ痕跡ナキヤ  
ニ就キ余ニ鑑定ヲ囑託セリ。依テ大正十五年一月二十六日ヨリ京都帝國大學醫學部法醫學教室ニ於テ前記檢査物ヲ精査シ、其結果ニヨリ此鑑定書ヲ作ル

第一、檢査記録

(イ) 胎盤

提示セラレタル胎盤ハ、「フォルマリン」ニ浸漬セラレ檢査當日迄ニハ分曉後四十六日ヲ経過セルヲ以テ比較的堅ク、組織ハ鞏固トナリテ質脆シ。從ヒテ其大サハ正確ニ計測スルコト能ハズト雖モ大サ直径一七・〇乃至一三・〇厘米厚サ三・〇厘米厚サ三・〇厘米有シ、重量二三・五〇瓦、形狀殆ンド圓形ヲ呈ス。卵膜ハ胎盤ノ周圍ニ萎縮シ、破碎セラレ、不正形ヲナシテ附著ス。而シテ卵膜ト胎盤組織トノ間ニハ母指頭大乃至小指頭大ノ凝血塊一、二個ヲ拵容ス  
胎盤ノ胎兒面ニハ認ムベキ損傷異狀ナク、臍帶ハ殆ンド其中央ニ附著シ、胎盤附著部ヨリ九・〇厘米長ノ部ニ於テ斷端凹凸不正ヲ呈シ、臍帶ノ捻轉ニ沿ヒ紡錘狀ヲ呈シテ斷裂ス。子宮面ニ於テハ子葉ノ別著明ナラズ。胎盤實質ノ缺損又ハ出血等ノ認ムベキモノナク之レヲ指壓スルモ石灰沈著等ヲ認マズ

(ロ) 臍帶

爾余ノ臍帶ハ長サ二七・〇厘米長ヲ有シ、胎兒側ヨリ約二厘米ノ部ヲ麻紐ヲ以テ結紮シ、其斷面ハ明ニ切斷セラル。其周圍ノ大サ

胎盤側ニ近キ部

三・四種

三・三種

三、臍帶ノ自然斷裂ヲ惹起セシムル條件

臍帶ノ自然斷裂ヲ惹起セシムル直接ノ原因タルヤ、之レニ加ハル牽引力ノ強サニ因ルコトハ明ニシテ其他ニハ臍帶自己ノ異常ニ因ルモノナルコトヲ考ヘザルベカラズ。分曉時臍帶ニ加ハル牽引力トシテハ胎兒ノ重量、陣痛、腹壓等ノ強度ニ因ルモノナルガ臍帶ノ自然斷裂ヲ惹起セシムル多クノ墜落分曉ニヨリテハ臍帶斷裂ノ直接原因ハ先ヅ第一ニ胎兒ノ重量ヲ思考セザルベカラズ

古來諸學者ハ臍帶ニ對スル重量關係ヲ研究シ、ねーヴリ、ちありー、ぶらうん、すべーと、しやつ、ねびーれ、かすべる氏等ハ臍帶ニ二千二百五十瓦乃至一萬二千八百瓦ノ重量ヲ加フル時ハ遂ニ斷裂スルコトヲ報告シ其最も普通量トセルル範圍ハ六千五百内外ヲ最多シトナス。而シテねーヴリ氏ハ靜脈張力アルモノハ三千五百ニテ、靜脈張力ナキモノハ五千二百五十瓦ニテ斷裂セリト云ヒ、ねびーれ氏ハ男兒ノ臍帶ハ女兒ノソレニ比シ強靱ナリト云ヒ、かすべる氏ハ徐々ニ牽引スル時ヨリモ急激ニ牽引ヲ加ヘタル場合ニ斷裂シ易シト云ヒ、ばんくち、ぼふまん、あすとん氏等ハ臍帶ノ長サ五十厘米長ノモノハ五百乃至千瓦ニテ、三十厘米長ノモノハ七百乃至千瓦ニテ斷裂スルコトヲ報告シ、ばいえる氏ハ胎盤ノ子宮内附著鞏固キ場合ニハ短小ニテ速度早キ牽引ノ加ハル場合ニ最も臍帶ノ斷裂ヲ來シ易シト云ヘリ

斯クノ如ク臍帶ニ加ハル重量タルヤ其斷裂ニ直接關係ヲ有スルコト當然ナルガ其他分曉時ノ陣痛及ビ腹壓ノ強弱、産道ノ廣狹、胎兒ノ大小、臍帶ノ長短、大小等ヲ考慮スベキハ勿論ナリ、殊ニ臍帶組織中ノ脂肪ノ關係、血管ノ充實セルヤ否ヤ、靜脈ノ蛇行狀態等ヲモ亦注意セザルベカラザルナリ

四、臍帶ノ自然斷裂ヲ來ス部位

臍帶ノ自然斷裂ノ部位ハ周圍ノ情況ニ支配セラレ其部位モ亦種々ナルカくらいん氏ハ百三十四例ノ斷裂例中臍帶ノ中央斷裂十九例、胎盤側ニ偏セ



ルモノ九例、胎兒側ニ偏セルモノ九十六例ニテ胎盤ニ近ク斷裂セルモノ六・七%ヲ算ス、而シテ比較的臍帶ノ短キモノハ斷裂シ易シト云フ。

第三、說明

以上ノ事實ヲ基礎トシテ本件ヲ案ズルニ提示セラレタル胎盤ハ「フォルマリン」ニ浸漬セラレタルモノニシテ多少縮小セルコトハ勿論ナリト雖モ、コハ妊娠末期ニ見ラレル普通大ノモノヨリ小ナルコトハ事實ナリ。今此ノ胎盤重量ノミニヨリテ妊娠月數ヲ考察スレバ上表ノ如クシテ即六ヶ月ト七ヶ月トノ間ニシテ七ヶ月ニ最モ近キ重量ニアリ

平均例	本例
胎盤ノ重サ gm.	胎盤ノ重サ gm.
二七三・〇	三三五・〇
三七四・〇	
四五一・〇	
五〇〇・〇	
五〇〇・〇	
五〇〇・〇	
五〇〇・〇	
五〇〇・〇	
五〇〇・〇	

今コレヲ各月ノ平均臍帶長ニ比較スル時ハ上ノ如シ。即チ妊娠六ヶ月ト七ヶ月トノ間ニアリテ七ヶ月最モ近シ。以上ノ如ク胎盤ノ重量及ビ臍帶ノ長サヲ精査スルト共ニ妊娠第六ヶ月ト第七ヶ月トノ間ニアリテ第七ヶ月ニ最モ近シ。而シテ胎盤ノ重

平均例	本例
臍帶ノ長サ cm.	臍帶ノ長サ cm.
三七・〇	四一・〇
四二・〇	
四六・〇	
五〇・〇	
五〇・〇	
五〇・〇	
五〇・〇	
五〇・〇	
五〇・〇	

處ニテ切斷スルヲ普通トス。本例ニ於テ本検査臍帶ノ胎兒附著部ノ長サヲ五・〇厘米トスル時ハ胎盤側九・〇厘米、臍帶二七・〇厘米ノ三ツヲ合計スル時ハ四十一厘米トナル。

於テ斷裂セリ。而シテ該部ノ臍帶ノ太サニ異常ノ狭少ヲ認メズシテ却ツテ他ノ部(中央或ハ胎兒側)ヨリ太キノ觀アルノミナラズ、靜脈ノ怒張、強度ノ捻轉、肉眼的組織的變化ヲ見ザル部位ナリ。思フニ胎兒ノミガ母體ヨリ娩出サレ、臍帶ニヨリ子宮内胎盤ト連續セル場合、胎盤側ヨリ九・〇厘米ノ部ニテ斷裂セシニハ此ノ九・〇厘米ノ臍帶ハ胎盤ト共ニ明ニ子宮内ニ存留スベキモノナリ。胎盤ノ附著部ノ異狀アリテ比較的、子宮口ニ近ク附著シ、又胎兒分娩後子宮收縮良好ナル場合ニヨリテモ、臍帶九・〇厘米ノモノニアリテハ漸クニシテ子宮外口ニ達シ得ルヤノ程度ナリ。故ニ娩出セラレタル胎兒ト子宮胎盤トヲ聯結スル臍帶ヲ人工的ニ兩方向ニ牽引シ、本検査物ノ如キ結果ニ來サシムルコトハ考ヘラレザル處ナリ

第四、考察

以上ノ事實ヲ考察シ、又本件ノ傍況ヲモ參照シテ考フルニ、本件ハ強激ナル牽引力ガ臍帶ニ加ハリシコトハ明ニシテ、復本索引ノ加ハリシコトモ分娩第二期ニ起レルモノノ如シ。(傍況參照)然ル時ハ即チ臍帶ノ異常ナク、又人工的操作ノ加ハリシ痕跡ヲ證明セズ。猶斷裂端ノ一般性狀ヨリ考フル時ハ此牽引力ヲ來セル原因ハ墜落分娩ナリト思考スルモノナリ

墜落分娩ハ事實上屢々遭遇スルモノニテ決シテ稀有ノモノニアラズ。從ヒテコノ墜落分娩時ニ於テハ臍帶ノ斷裂モ亦一五乃至三四%ニ於テ見ラレル處ナリ。而シテカカル状態ヲ結果セシムル條件ニ至リテハ、胎兒ノ重量ト臍帶ノ強靱性トノ關係、臍帶靜脈ノ異常、短小急速ナル牽引力、男女兒性ノ異同、胎兒ノ大小、臍帶ノ長短、陣痛又ハ腹壓ノ程度、臍帶組織全脂肪ノ關係、血管ノ状態等種々ノ條件ヲ擧ゲタリ。實ニ本件ハ臍帶稍々短ク、妊娠月數モ胎盤、臍帶ノ状態ヨリ推考シテ小ナルコト等ヲ考フル時ハ、墜落分娩ニ際シ、

量、臍帶ノ長サハ共ニ妊娠第十ヶ月ノソレニ達セザルコト稍々大ナリ。依之考之本件ノ胎兒ハ妊娠月數ハ七ヶ月前後ニシテ妊娠十ヶ月ニ達セザルモノト考察スルヲ適當ナラント思科ス。然レドモ本件ノ胎兒ガ其他ノ種々ノ據點ニヨリ妊娠十ヶ月ヲ經過セルノ確證アルモノトセバ本兒ハ餘程發育不良ナル胎盤及臍帶ヲ有セルモノナリト云ハザルベカラズ

次ニ臍帶ヲ精査スルニ大ナル靜脈怒張、索狀部、血管ノ走行異常、外視シ得ベキ表面ノ損傷等無ク其周圍ノ長サハ胎兒側、中央、胎盤側共ニ三、四乃至三、三厘米ヲ有ス。而シテ胎盤側ニ近ク斷裂部ニ接シテハ寧ろ三、四厘米ノ周圍ヲ有セリ

臍帶斷裂ノ状態ハ紡錘狀ヲ呈シ該部ノ諸組織ノ方向ハ凡テ長軸ニ沿ヒ、捻轉セル部ハ其捻轉ノ經過ニ沿ヒテ索引セラレ破裂ス。而シテ殊ニ斷端ノ尖端ハ稍々鋸齒狀ヲ呈シ、凹凸不正ニシテ斷裂部周圍ノ諸組織ニ挫滅、表面ノ破碎等ノ痕跡ヲ止メズ。中央ニハ血管ノ斷裂セルヲ明ニ認ム。以上ノ状態ヨリ推考セル時ハ本兒ニ於テハ臍帶ノ長軸ニ沿ヒテ一定量ノ強大ナル索引力ノ加ハリシコトハ明ナル事實ニシテ、其牽引力ニヨリテ臍帶ガ一次的ニ斷裂セルモノナルカ、或ハ二次的ニ斷裂セルモノナルカ不明ナリ。殊ニ該検査物ハ「フォルマリン」ヲ以テ硬固セル爲充分ニ斷裂當時ノ状態ヲ知ルコト能ハザルハ勿論ナレドモ臍帶斷裂部ノ周圍又ハ其近傍ノ表面上ニ外視シ得ル損傷又ハ異常ヲ見ザルハ、即チ、該部ニ何等ノ人工的操作ノ加ハラザリシモノト思考スルモノナリ。是レ該臍帶ヲ手ニテ握リ之レヲ斷裂スルニ至ル迄牽引スルニハ前述セルガ如キ五千乃至六千瓦ノ重量ニ相當スルノ強大ナル力ヲ要スル筈ニシテ、カカル場合手ニテ握リタル部ニハ器質的變化ヲ來サヤ明ナル事實ナリト信ズ。即斷裂端ノ状態ヨリ考フル時ハ、本件ハ臍帶ニ一定ノ強大ナル牽引力ノ加ハリタルモノニテ斷裂部ノ狀況ハ一部或ハ全部ニ於テ牽引ニ影響セラレタルノ微標ヲ有スルモノタルコト明ナリ

臍帶斷裂ヲ來セルニアラズヤト推定スルコトハ蓋シ困難ニアラズト思科スルモノナリ。殊ニ臍帶斷裂部ノ一般性狀ヨリ推考スル時ハ益々胎兒墜落、臍帶牽引斷裂ヲ思ハシムルモノナリ

以上ノ事實ヲ參照シコレヲ次ノ如ク鑑定ス  
一、臍帶ノ斷裂端ニ於ケル性狀、斷裂部周圍ノ狀態ニハ何等ノ人工的操作ノ加ハリシ痕跡ヲ證セズシテ強度ノ牽引力ノ加ハリシモノナリ  
二、本件ハ分娩第二期ニ於テ墜落分娩ヲ起シ、ソレガ爲臍帶ハ強度ニ牽引セラレ其結果臍帶ノ自然斷裂ヲ來セルモノナラン  
右鑑定ハ大正十五年十一月二十六日著手  
大正十五年十二月二十一日終了  
大正十五年十二月二十一日  
京都帝國大學醫學部講師 岸 松 郷 郎

第三十六例 鑑定書

那○ヤ○ニ對スル嬰兒殺被疑事件ニ付昭和六年八月三十日○地方裁判所ニ於テ檢事杉○一○ハ裁判所書記川○萬○郎立會ノ上○縣○警署ニ於テ右ヤ○ガ同二十九日○郡○町○寺ニ於テ產出セリト云フ女兒屍ヲ解剖シテ左記事項ヲ鑑定スベキ旨ヲ余ニ命ゼリ

鑑定事項

- 一、成熟兒、早産兒ノ區別
  - 二、生産兒、死産兒ノ區別
  - 三、生産兒トセバ死因及出産ヨリ死亡迄ノ經過時間
  - 四、臍帶ノ切斷方法
  - 五、死後ノ經過時間
- 依テ余ハ同日同署ニ於テ午前十一時四十分乃至午後一時十分同屍ヲ解剖セル



ニ其ノ所見左ノ如シ

甲、解剖検査記録

第一、外表検査

一、女児屍、皮色ハ全身一般ニ蒼白ニシテ只上肢及項部ニ於テ淡紫色ヲ呈シ皮下脂肪層ノ發育良死斑ハ脊面ニ於テ淡色脊面及鼠蹊部ニ多量ノ胎垢ヲ附著シ死體強直ハ頸及四肢ノ諸關節ニ強ク存ス

二、此ノ屍體ヲ測定シテ左ノ數ヲ得タリ

身長	約五〇・〇種	體重	三二・〇〇〇瓦
頭圍	三三・〇種	頭縱徑	九・四種
頭橫徑	八・四種	頭斜徑	一二・八種
肩幅	八・八種	腋幅	七・八種

三、頭部ニハ黒毛ヲ生ジ其ノ最長ナルモノハ二・五種毛間ニハ乾固セル糞便様ノモノ附著シ明ニ糞尿臭ヲ有ス其ノ頭皮ニ外観シ得ベキ損傷ナク又何處ニモ産腫ト思ハルモノヲ發見セズ

四、顔面蒼白兩耳殼紫色ヲ呈シ外聽道内異物ナク顔面ヲ精檢スルモ損傷ヲ見ズ兩眼閉テ結膜ニ於ケル血管充盈シ淡紫色ヲ呈シ粟粒大ノ溢血點多數アリ鼻口腔内ヨリハ糞尿ノ臭アル水様液ヲ漏ラシ舌ハ齒齦ノ間ニ箱在ス

五、頭部ノ皮膚ヲ細檢スルニ毫毛表皮剥脫溢血等ヲ發見セズ胸腹部ノ皮膚亦然リ臍窩ニハ約二・〇種長ノ臍帶ヲ附著シ其ノ斷端ハ約一・〇種斜ニ裂ケ其ノ末端ハ二・三種維様トナリテ垂下ス

六、外陰部ヨリハ水様液少許ヲ漏ラシ大陰唇ハヨク小陰唇ヲ掩ヒ處女膜ノ形尋常此ノ部ニ毫毛損傷ナク肛門略開シ周圍ハ淡褐色胎便ニヨリテ汚サレ唇面ハ前記ノ如ク胎垢ヲ附著又毫毛ヲ存スルノ他損傷異常ヲ認メズ

七、四肢ニ損傷異常ナク指爪ハ良ク指端ヲ越エ趾爪ハ尙ホ未ダ少シク趾端ニ達セズ大腿骨下骨端内ノ化骨核ノ大サハ三・〇―二・〇種徑ヲ算ス

第二、内景検査

十四、左腎莖膜剝離シ易ク尙ホ葉裂ヲ呈シ表面紫褐色ヲ呈シ大サ四・〇―三・〇―一・〇種徑ヲ算シ斷面ノ色略々表面ノ如ク血量多ク皮髓兩質ノ分界明カナリ右腎ノ大サ及性狀略々左腎ノ如ク膀胱内ニハ淡色ノ尿中等量アリ内腔蒼白ナリ

十五、十二指腸ニハ白色ノ粘附物少許アリ粘膜蒼白胃中ニハ糞尿臭ヲ有スル液約三・〇種徑アリ内ニ黒色小塊多數ト無色ノ粘液ヲ交ユ粘膜蒼白ナリ

十六、小腸ノ上部ニハ白色ノ粘附物少許アリ其ノ内容ハ下部ニ至ルニ從ヒ褐色ノ濃度ヲ増セドモ量ヲ増サズ大腸内ノ上部ニハ黄色ノ軟便様物下部ニハ黒褐色ノ胎便様アリ粘膜ハ大小腸ヲ通ジテ蒼白ニシテ異常ナシ

下、頭腔剖檢

十七、頭皮ヲ式ノ如ク切開シテ之ヲ前後ニ翻轉スルニ其内面一般ニ淡紫色ニシテ液質少ク頭頂ニ近キ部ニ於テ小指頭大乃至拇指頭大ノ頭皮間出血數ヶアリ紫赤色ヲ呈ス其ノ他ノ頭皮ニ異常ナク大頸門ノ大サ二・五―二・五種徑ヲ算ス

十八、頭骨ヲ其ノ縫合ニ沿ヒテ剪開シテ頭腔内ヲ檢スルニ異常ノ内容ナク軟腦膜ノ血量稍々多シト雖モ偏在性ナラズ腦ヲ剔出シテ檢スルニ特記スベキ出血等ナク頭骨ニハ何處ニモ出血骨折等ナシ

第三、胎盤検査

十九、胎盤ノ大サ尋常其ノ母體面及胎兒面毫毛缺損若クハ損傷等ナク母體面ニハ凝血稍々多量ヲ附著ス卵膜ニモ亦異常ナク臍帶ハ胎盤ノ略々中央ニ附著シ其ノ長サ約三八・〇種斷端ハ胎兒ニ附著セル斷端ト同性狀ニシテ而モ良ク合致ス其處ニモ特ニ濃色赤塊減セラレタル所アリ白色ニシテ光澤ヲ帯ビ液質ニ富ム即チ此ノ臍帶ニ此ノ兒屍ヲ結合シ之ヲ支持スルヤ否ヤヲ檢スルニ良ク胎兒全重量ヲ支持スルノミナラズ輕度ノ落下狀態ニ於テモ之ヲ支持スルニ足ル事ヲ知レリ

乙、說明

殺 兒

上、胸腔剖檢

八、頭胸腹部ノ皮膚ヲ其ノ正中ニ於テ切開スルニ皮下脂肪層ノ發育尋常筋色無力毫毛皮下溢血ナク頸部ノ皮膚ヲ逐層細檢スルニ毫毛出血乃至筋肉裂傷等ナシ腹腔ヲ檢スルニ大網膜脂肪量少ク其ノ上半ニ赤紫色ノ肝臟ヲ下半ニ蒼白ナル腸管ヲ見ル腹膜滑澤腹腔内ニハ淡色液少許アリ腹腔臟器ノ位置尋常橫隔膜ノ高サハ左右共第五肋骨ニ在リ

伊、頸胸臟器

九、胸骨ヲ肋軟骨ト共ニ切除シテ胸腔ニ開檢スルニ前縱隔ノ上半ニ胸腺下半ニ心囊ヲ見兩肺ハ膨大シテ胸腔ヲ充タシ尙ホ左右胸腔内ニハ淡血色液少許アリ肋膜ニ癒著ヲ認メズ

十、頸胸臟器ヲ一連ニ剔出シテ檢スルニ頸部深部ニモ出血裂傷ナク舌骨ノ大角及甲狀軟骨ノ上角等ノ周圍亦然リ舌根部ニ黒色ノ小塊數個アリ食道及氣管空虚ナレドモ其ノ内面ニ黒色稗粒大ノ小塊數個ヲ附著シ粘膜ハ一般ニ蒼白ニシテ肺スルニ少許ノ泡沫ヲ含メル水様液少シク上昇シ來ルヲ見ル

十一、兩肺ノ表面滑澤、淡紅色部ト淡紫色部ト交在シ質稍々重ク觸ルルニ嚙嚙浮揚シ更ニ各葉細片及ビ加壓シタル細片何レモ冷水上ニ浮揚ス斷面ニ於テハ局限性病竈ナク泡沫ヲ含メル血色液多量ニ流出スル爲メ其ノ血量ノ眞狀ヲ知ル事能ハズ

十二、心囊内ニハ淡血色液少許アリ内面滑澤心臓ノ表面ハ紫赤色ニシテ血管充盈シ小ナル溢血點數ヶアリ大サ本屍ノ手拳ヨリ稍々大心室部ヲ橫斷スルニ暗赤色ノ流動血少許ヲ漏ラス内腔尋常ナリ

呂、腹腔臟器

十三、脾臟大サ三・五―二・〇―一・〇種徑表面紫褐色ヲ呈シ斷面ノ色略々表面ノ如ク血量多ク局限性病竈ナシ肝臟大サ九・〇―一・〇―一・〇種徑ニシテ斷面ノ血量多ク小葉ノ別不明ナリ

廿、身長體重、頭首ノ大サ(記録第二項)頭毛ノ長サ(第三項)外陰具及爪甲發育程度(第六、七項)大腿骨下骨端内ニアル化骨核ノ大サ(第七項)ニ依レバ本兒ハ妊娠第十ヶ月ヲ經テ產出サレタルモノニシテ即チ成熟兒ナリ

廿一、肺ノ性状特ニ其ノ浮揚試驗ノ成績ニ依レバ(第十一項)本兒ハ生産兒ナリ

廿二、本兒ノ眼結膜肺葉間及心臟ノ表面ニ溢血點アル事(第四、十一、十二項)血液暗赤色流動性ナル事(第十二項)等及各内臟髓血セルコト(第十三、十四項)等ニ依レバ本兒ハ窒息急死セルモノニシテ而モ鼻口内ヨリ糞尿臭アル水様液ヲ漏ラシ(第四項)肺中ニハ同上液多量吸入シ居ル事(第十一項)咽頭食道氣管及胃中ニ黒色ノ小塊ノ如キモノ、普通産道中ニ存セザルモノヲ發見(第十、十五項)セルヨリ見レバ本兒ハ糞尿臭ヲ有スル液質ニヨリ鼻口ヲ閉塞セラレ強ク之ヲ吸入シテ窒息急死セルモノ即チ溺死セルモノナリ

廿三、肺ノ狀況(第十一項)及臍帶ガ率引ニヨリテ斷裂セル事(第五、十九項)臍帶ガ通常ヨリ短ク(第十九項)且産腫ガ少ク輕度ナリシ事(第十七項)等ニ依レバ本兒ガ產出後溺死セルマデニハ數分以上ヲ出デザルベシト推定サルト雖モ何分何秒ニテ死亡セリト精確ナル時間ヲ推定スルコト能ハズ

廿四、而シテ本兒ノ臍帶ガソノ斷端不整ニシテ(第五、十九項)無理ニ牽引セラレタルコトハ確實ナレドモソノ牽引力ガ墜落産ニ因ル自然の落下方力ニヨルカ或ハ暴力ニヨルカハ容易ニ斷定シ能ハザルモノアリト雖モ第十九項ニ於テ余ガ實驗セル所ニ依レバ本兒ノ臍帶ハヨクソノ靜止重及ビ落下重ヲ支フル事ヲ得ルヨリ見レバ暴力ニヨリ之ヲ引キ切リタリト思ハルル節多キモノト度ソノ斷裂部位ニ於テ臍帶ガ特別弱キ様ノ事ハ極メテ稀ニ見ル事ナレバ其ノ點ヲ考慮セザルベカラズ而シテ本兒ノ臍帶ガ通常ヨリハ短カカリシ事及輕産ナリシ事等ハ此ノ考ヘ方ノ理由トナルモノナレドモ之ヲ決定スルニハ母體骨盤ノ大サ等ヲモ參考トスルノ必要アリ

廿五、本屍ニ於ケル死體現象進行ノ程度死體ノ有場所當時ノ氣象ニ依レバ本



兒ノ死後余ノ解剖時ニ至ルマデ大約一日内外ヲ經過セルモノナラン。

丙、鑑定

上記ノ事實ト説明ノ如キ理由ニ依リ左ノ如ク鑑定ス

- 一、本兒ハ妊娠十ヶ月ヲ經テ分娩セラレタル成熟兒ナリ。
- 二、本兒ハ生産兒ナリ。
- 三、本兒ハ糞尿汁中ニ溺死セルノニシテ出生ヨリ死亡マデ數分以上ヲ出デザルベシ。
- 四、臍帶ハ強ク牽引斷裂サレタルモノニシテ其ノ牽引力ハ恐ラク暴力ナランモ極メテ稀有ナル場合トシテ墜落産ニ因リ落下力ヲモ考慮ノ内ニ置カザルベカラズ。
- 五、本兒ノ死後余ノ解剖時迄大約一日内外ヲ經過セルモノナラン。

此ノ鑑定ハ昭和六年八月廿日著手  
同年九月十五日終了

住 所 鑑定人 醫師 小南 又一郎

次ニ産兒ノ頭部ヲ故意ニ枕ニテ打チ或ハ柱ニ叩キ付ケナドシテ死亡セシムルコトアリ。此際ハソノ頭首ニ鈍器損傷、骨折乃至出血等ノ痕跡アレバ直ニ鑑別スルコトヲ得、ソノ他内臟ヲ裂キ頭部ヲ切ル等ノコトニ依リテ産兒ヲ殺害スルコトアルモコハ甚ダ稀有ナルコトナリ。

又初生兒ノ産出後直ニ臍帶ヲ結紮セザレバ失血シテ死亡スルカト云フニ、コハ非常ニ稀ナルコトニシテ胎兒方産出セラレ呼吸始マル

刑法第二百七條 老幼、不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者ヲ遺棄シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

刑法第二百八條 老若、幼若、不具者又ハ病者ヲ保護ス可キ責任アル者之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲サバルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

刑法第二百九條 前二條ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

當教室(京都)ニテ遭遇セシ一例ヲ述ブレバ、或醫師ガ一個ノ死因不明ナル初生兒屍ヲ剖檢シテ、窒息急死ナリト鑑定セシモノニ付再鑑定ヲ命ゼラレタルコトアリ、之ヲ剖檢セシニソノ死因ハ確ニ肺炎ナリシコトヲ發見シ、加害者嫌疑者ノ放免サレタルコトアリキ。

ホ、産後ノ生存時間

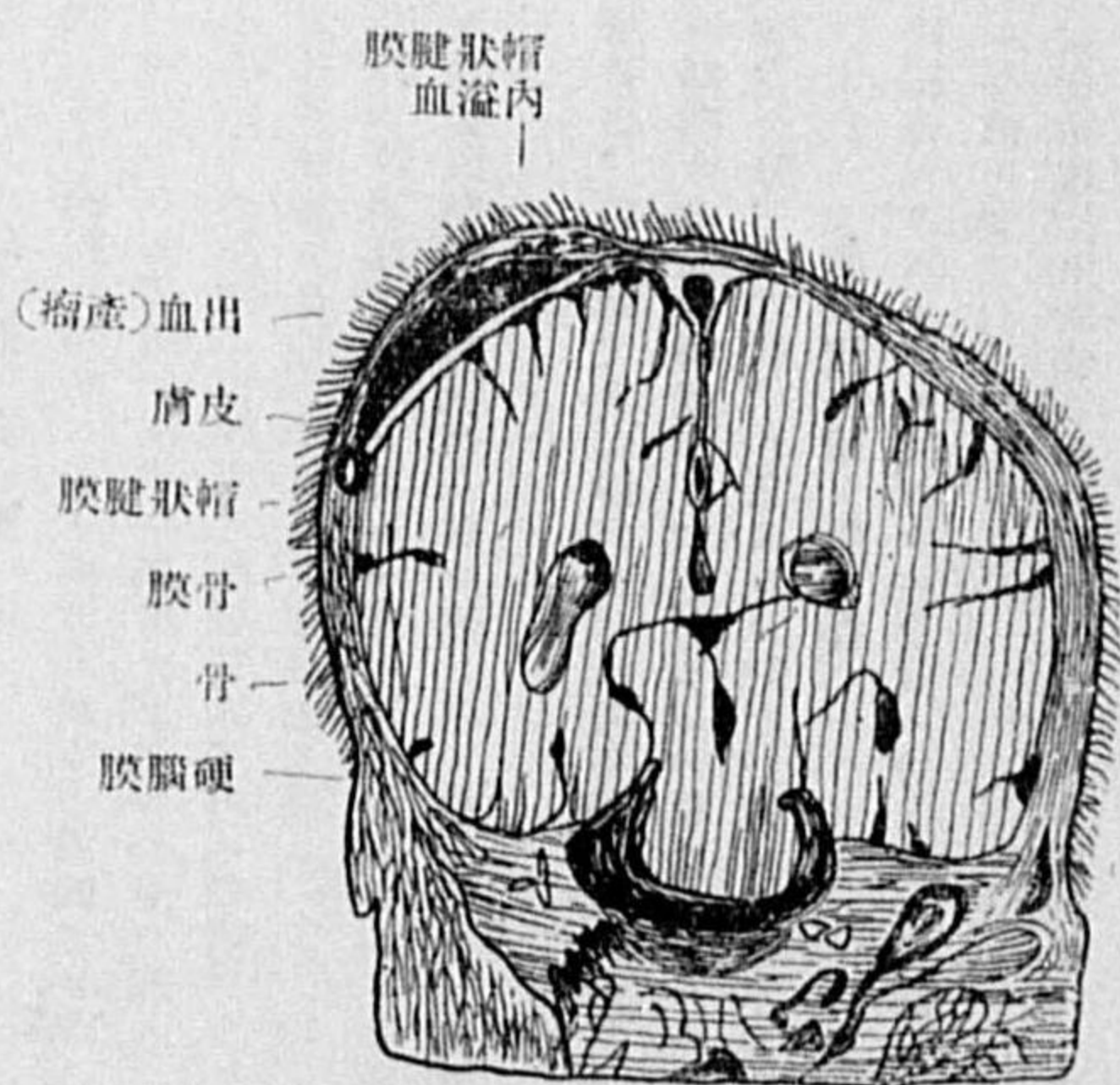
初生兒ガ生産後何時間位生存シタリヤトノ問題ハ往々甚ダ大切ニシテ、ツガ殺兒ナルカ、將タ殺人ナルカノ依テ岐ルル所ナリ、産直後トハ何程位ノ時間ナルカト云フコトハ法官ノ定ムベキ事柄ニシテ、産婦ノ状態ニ依リ或ハ産ノ終レル瞬間ヲ指スコトアリ、或ハ數時間後ヲ云フコトアリ各個ノ場合ニ依リテ異ナルモノナリ。

初生兒ノ産直後ナル徵候ハ已述ノ如ク、臍帶ノ状態、胃腸ガ空氣ヲ上部ヨリ下部ニ次第ニ含有シ行クコト、食物ガ胃中ニ在ルコト、胎便

ト共ニ、血液ノ多クハ肺循環ノ方ニ行キソノ爲メニ産後間モナク臍動脈ハ搏動セザル様ニナルガ故ニ、モシ産兒ニシテ十分ナル呼吸ヲ營ミシナラバ、切斷セル臍帶ヨリ出血シテ死亡スルコトハ殆ンドナキコトナリ、然ルニ若シ呼吸ヲ充分ニ營マザル時ハ血液ハ肺循環ニ移行スルコト少キ故、臍帶ヨリ出血シテ死ニ至ルコトアリ、臍帶ヲ故意ニ結紮セザリシカ、或ハ助産ノ所置十分ナラザリシ爲メ、結紮ガ離脱セシカ、ソレ等ノ點ノ檢査ハ已ニ醫術的檢査ノ範圍外ニ在リ。又死體ノ臍帶ニ結紮ナカリシト直ニ始メヨリ之レナカリシト斷定スルコト能ハズ、何トナレバ臍帶結紮ハ死後ニ至リテ甚ダ離脱シ易キモノナレバナリ。ソノ他初生兒ヲ種々ノ方法ニテ死ニ至ラシムルコトアリ。例ヘバ蒲團、産婦ノ大腿、平手、濕紙等ニテ鼻口ヲ閉チ、或ハ頸部ヲ絞扼シ、ソノ他ノ暴行ヲ加ヘ致死セシムル場合アリ、是等ニハ皆夫レ相當ノ痕跡ヲ殘シ、或ハ全ク何等犯跡ヲ遺サザルコトアリ。

初生兒ノ産出後、相當ノ扶養ヲ怠リテ死ニ至ラシムルモノモ、亦、刑法第二百七條乃至二百九條ノ間ヲ所トナル、例ヘバ初生兒ノ鼻口内ヲ閉塞セル粘液ヲ故意ニ除去セズ、或ハ充分ナル衣服、食物ヲ與ヘザリシ爲メ死ニ至リシ場合ノ如キ之レナリ。

圖 七 十 百 二 第



ガ二日目に已ニ大腸ヲ去ルコト、生後二、三日間ハ尿酸栓塞ガ腎臟ニ存在スルコト、生後一週間位ニシテ卵圓孔、ぼたりー氏管、あらんちー氏管ガ閉塞スルコト、

生後數日間ハ體重ノ減少スルコト、已ニ生後第一日ニハ産瘤ハ外見上消失スルコト等ニ依リテ、大約ノ生産後ノ時間ヲ判定スルヲ得ルモ、是等モ各個人ニ依リテ異ナレバ、一概ニハ論ズベカラザルモノナリ。

ヘ、死後解剖時間迄ノ經過時間

死體ノ在場所、腐敗程度ト其當時氣象トヲ綜合シテ、之ヲ判定スベキモノナルモ、多クハ經驗ニヨリテ之ヲ知ルノ外ナシ、尙注意ス



ベキハ小兒ノ死體ハ大人ノ死體ヨリモ腐敗ノ進行早ク、且小兒腦ノ如キハ最モ腐敗ノ早ク來ルモノナルコトナリ。

ト、鑑定實例

第三十七例 案 書

住所氏名不詳男性兒

右ハ大正〇年十月三十日京都市鴨川ノ三條大橋西詰ヨリ三十間餘ノ下流ノ所ニ浮ビ在リシヲ發見シタルモノニシテ京都府五條警察署長警視Mハ之ヲ解剖シテソノ死因ヲ確定スベキ旨ヲ余ニ命ゼリ依テ翌三十一日午後零時四十分乃至同一時四十五分京都帝國大學醫學科大學法醫學教室ニ於テ同屍ヲ剖檢セルニ所見左ノ如シ

甲、解剖検査記録

第一、外表検査

- 一、男兒身長約三六〇〇(但シ腐敗高度ニシテ頭骨ノ浮動甚シキ爲メ確測スル事能ハズ)頭首ノ大サ不明(同上)肩幅六〇〇(概算)腕幅五〇〇(概算)皮膚色ハ前面汚穢紫赤色ニシテ後面ハ之ニ綠色ヲ帶ブ四肢ニハ汚灰色古綿様ノモノ(水苔)ヲ附着シ皮下脂肪層及筋肉ノ發育實、皮下ニ嚙嚙ヲ觸レ(腐敗瓦斯)表皮ハ容易ニ剝脱シテ汚赤色ノ濕潤セル眞皮ヲ露出ス
- 二、頭毛ノ長サ〇・六(概算)間ニハ灰白色ノ汚物(胎垢)ヲ附着シ頭皮下ニ多量ノ腐敗瓦斯アリ頭骨ハ容易ニ移動ス頭皮及顔面ニ損傷ナク眼閉チ結膜汚赤色、角膜濁濁シテ眼球軟ナリ鼻梁ハ扁平ナリト雖モ内ニ異物ヲ認メズ、口腔前庭内ニモ異物無ク舌ハ齒齦ノ後方ニ在リ耳鼓ニハ未ダ軟骨ヲ觸レズ、外聽道内ニハ灰白色ノ汚物(胎垢)多量アリ
- 三、頸胸及腹部ニハ表皮剝脱シ易キノ他損傷異常無ク臍部ハ四五〇〇(概算)長帶褐色赤色ノ臍帶ニ依テ汚穢紫赤色ノ軟化セル胎盤ト連續ス外陰部ニ損傷ナク陰部ニハ未ダ舉丸ヲ觸レズ肛門略開シ周圍ニ汚染無シ脊面ニ於テハ

表皮容易ニ剝脱シ損傷ナシ

四、四肢ニ損傷ナク指爪ハ爪床ノ中ニ達シ趾爪ハ表皮ト共ニ剝脱シテソノ形ヲ止メズ大腿骨下骨端内ニ化骨點ナシ

第二、内景検査

上、胸膜腔剖檢

- 五、胸腹ノ皮膚ヲ式ノ如クソノ正中ニ於テ切開スルニ皮下脂肪層薄ク筋肉ノ發育少シ腹腔ノ上半ニ肝臓ヲソノ下半ニ腸管ヲ見、臟器ハ一般ニ汚赤色ヲ呈シ(血液浸潤)ソノ位置ニ異常ナシ腹膜モ亦汚赤色ニ染リ到ル所膜下ニ腐敗瓦斯ヲ透見ス腹腔内異常ノ内容ナシ機隔膜ノ高サハ胸腔内瓦斯蓄積ノ爲メ之ヲ確定スル事能ハズ

以、頭胸臟器

- 六、式ノ如ク胸腔ヲ開檢スルニ兩肺共後方ニ退縮シテ視ル事ヲ得ズ胸腔内異常ノ内容ナク前縦隔ノ上半ニ胸腺ヲ下半ニ心嚢ヲ視ル
- 七、心嚢内ニハ異常ノ内容ナク心臓質軟、内ニ嚙嚙アリ心室部ヲ橫斷スルニ泡沫狀ノ血液少許アリ内膜滑澤汚赤色ニ染ム
- 八、頸部ノ諸臟器ヲ肺心ト共ニ一連ニ剔出檢視スルニ咽頭、食道、喉頭、氣管及氣管枝空虛、粘膜ハ一般ニ汚赤色ニ染ミ膜下ニ腐敗瓦斯ヲ存スル所アリ
- 九、兩肺小、肺縁銳、表面汚赤色、滑澤平等ニシテ細胞ノ開張ヲ認メズ觸ル、ニ嚙嚙ナシ断面略表面ノ如ク壓シレバ泡沫ヲ含マザル汚赤色液少許ヲ漏出シ、全肺、左右肺、各葉及ソノ細片ハ何レモ冷水中ニ沈降ス

呂、腹腔臟器

- 十、脾臟著シク軟ニシテ壓スレバ實質ハ汚赤色ノ糊様物トナリテ漏出シ細檢スル事能ハズ
- 十一、腎臟豆大軟化シテ細檢スルニ由ナシ膀胱空虚内膜汚赤色ニ染ム
- 十二、肝臓ハ冷水上ニ浮上シ壓スレバ實質ハ泥様物トナリテ漏出シ細檢スル

事能ハズ

十三、胃腸ハ冷水上ニ浮揚シ胃空虚腸管ハ汚赤色ノ糊様物少許ヲ含ミ粘膜ハ通ジテ汚赤色ナリ

下、頭腔剖檢

十四、頭皮ヲ式ノ如ク切開スル 頭皮ハ易ク頭骨ヨリ剝離シ頭骨ハ容易ニ個々別々ニ離レ腦質ハ汚赤色ノ汁粉様物トナリテ漏出シ細檢スル事能ハズ頭骨ニ損傷ナシ

附記

十五、解剖後遊離セル頭骨四肢骨等ヲ測リ左ノ數ヲ得タリ

顛部	高サ	結節ヲ通ジ上下線ノ距離	右	六・〇〇	左	六・〇〇
	長サ	結節ヲ通ジ前後線ノ距離	右	六・〇〇	左	六・〇〇
	中點ヲ結合セル距離	略	右	六・〇〇	左	六・〇〇
前頭骨鱗狀部	高サ	上眼窩孔ヨリ正中線ニ至ル距離	右	四・五〇	左	四・五〇
	幅	前頭結節ト上線トノ距離	右	四・五〇	左	四・五〇
		中線及外線トノ距離	右	三・八〇	左	三・八〇
顛骨鱗狀部	高サ	顛骨起後根部ヨリ	右	一・六〇	左	一・六〇
	長サ	顛頂ニ上線トノ距離	右	一・四〇	左	一・四〇
		前線トノ距離	右	一・四〇	左	一・四〇
		水平ニ	右	二・二〇	左	二・二〇
		距離	右	二・四〇	左	二・四〇
下顎骨兩隅ノ距離(兩下顎隅迄ノ直徑)	左右共			二・七〇		
肩胛骨(長サ)	左右共			二・二〇		
	幅			一・八〇		
鎖骨長サ	左右共			三・二〇		
上膊骨長サ	左右共			四・四〇		
尺骨長サ	左右共			四・二〇		
橈骨長サ	左右共			三・六〇		
大腿骨長サ	左右共			四・八〇		
脛骨長サ	左右共			四・三〇		

殺 兒

腓骨長サ 左右共 四・二〇

但シ長骨ハ骨端軟骨ヲ除キテ測定セリ

乙、検査

- 上記ノ剖檢所見ニ依リ左ノ如ク檢案ス
- 一、本兒ハ身體ノ發育程度ニ依レバ未ダ成熟ニ至ラズ妊娠第七ヶ月ニ於テ産出セルモノナリ
- 二、本兒ハ産後呼吸ヲ營ミタルハ微標ナシ然レ共コレノミヲ以テ本兒ハ死産ナリト云フ事ヲ得ズ何トナレバ斯ノ如キ未熟兒ハ假令生産ナルモ呼吸ヲ營マズシテ死亡スル事アレバナリ
- 三、本兒ノ死因ハ腐敗顯著ナル爲メ之ヲ確定スル事能ハズ
- 四、本兒ハ産後(死後)約二週間ヲ經過セルモノト推測ス

此檢案ハ大正〇年十月三十一日著手 同 年十二月十一日終了 鑑定人 岡本 梁 松田

第三十八例 鑑定 案 書

大正〇年〇月〇日〇〇地方裁判所豫審判事〇〇〇〇ハ杉〇ツ〇殺人及死體遺棄被告事件ニ付已ニ一度剖檢セラレタル初生兒屍ヲ再檢シテ

- 一、本産兒ノ發育程度
- 二、生死産ノ區別
- 三、死因
- 四、死後ノ經過時間
- 五、産兒ハ母體外ニ於テ獨立呼吸ヲ營ム前手足ヲ動かスコトアリヤアリトセバ其理由及斯ノ如キ場合合生死産ノ孰レニ屬スルヤ
- 六、産兒ガ生活機能ヲ具備シテ母體ヲ脫離シ未ダ獨立呼吸ヲ營マザル前之ヲ不能ナラシムルコトヲ得ルヤ



七、胎兒ハ死亡シタル時ハ直ニ母體ヨリ分離スルモノナリヤヲ鑑定スベキ旨ヲ余ニ命ゼリ依テ余ハ同日午前十時三十分乃至正午同裁判所構内ニ於テ同判事立會ノ上同兒屍ヲ解剖シテ所見ニ依リ此鑑定書ヲ作ル

甲、解剖検査記録

第一、外表検査

- 一、初生女兒屍
黒色ノ土壤ヲ附着セル圓形素燒壺ノ蓋ヲ去レバ最上部ニ破レタル油紙アリ胎盤ハ非常ニ腐敗シテ此油紙片中ニ混在ス次ニ濕潤セル大人ノ衣服二枚ヲ充填シ其下ニ兒屍アリ此兒屍ヲ取出スニ壺底ニ軟化セル腦質ノ少許ト顛頂骨及肺臟ノ一部ヲ殘存セルヲ見ル
二、屍體ハ一般ニ淡紫色トナリ頭面部及胸部等ハ淡暗綠色ヲ呈シ表皮ハ殆ンド剥脫シテ濕潤セル眞皮ヲ露出ス右顛頂部ヨリ顛頂部中央ニ至ル一皮切アリ此皮切ヨリ頭腔内ヲ窺フコトヲ得頭胸部皮膚ニモソノ正中ニ一皮切アリテ尙縫合セラレズシテ存シテ開口ヨリ内臟ヲ露出ス死體強直ナシ此ノ如キ狀態ナルヲ以テソノ身長、體重頭首ノ大サ等ヲ測定スルコト能ハズ
三、頭皮ハ殆ンド剥脫シテ五種長ノ毛髮少許ヲ殘ス顔面ハ一般ニ汚綠色ヲ呈シ眼閉テ結膜蒼白、角膜濁濁シテ瞳孔ヲ透見スルコト能ハズ眼珠甚シク軟化シ袋狀トナル鼻梁ハ壓平セラレ内ヨリ汚血色素少許ヲ漏ラス右頰部ニハ一皮切アリ前鑑定醫ノ施セルモノナリト云フ口腔開シ舌ハ後方ニ退縮ス口腔内ニハ異物ナク咽頭内ニハ汚血色素少許アリ外耳及外聽道ニ異常ナシ
四、頭胸部ノ外表ハ前記一皮切ノ爲メニ檢スルコト能ハズ脊面及四肢ニハ表皮剥脫ノ他損傷ナク外陰部ニモ異常ヲ認メズ大陰唇ハ陰核及小陰唇ヲ掩ヒ肛門開シ汚褐色ノ粘稠物少許ヲ漏ラス爪甲ヲ檢スルニ指爪ハ指端ニ達シ趾爪ハ未ダ少シク趾端ニ達セズ大腸骨下骨端内ノ化骨點ノ大サハ左

右共三〇一〇〇耗徑ヲ算ス

第二、内景検査

上、頭腔剖檢

- 五、前記(第二項)ノ顛頂部ニ於ケル皮切ヲ擴張シテ頭腔内ヲ檢スルニ硬腦膜ハ三指ヲ通ズル位切開セラレ其中ヨリ汁粉様ノ腦質漏出ス之ヲ全部取出シテ檢スルニ軟泥様トナリテ細檢スルコト能ハズト雖ソノ中ニ大出血等アリタルノ痕跡ナシ頭骨ヲ檢スルニ損傷破裂ヲ認メズ脫離セル各頭骨ノ大サハ成熟初生兒ノソレニ相當ス
下、胸腹腔剖檢
い、頭胸臟器
六、食道及氣管ハ尙未檢ノマ、ソノ位置ニ存在スルヲ以テ一連ニ剔出シテ檢スルニ食道氣管共ニ全ク空虚、注意シテ檢スルモ異物ノ存在ヲ認メズ粘膜汚赤色ニ染ム
七、前胸壁ハ肋軟骨部ヲ切斷シ前方ニ翻轉セラレ胸腔ノ中央ニハ軟化シテ殆ンド細檢スルコト能ハザル心臟ヲ存スソノ他ニハ胸腔全ク空虚、胸壁肋膜上ニ大小不同ノ腐敗瓦斯胞多數移動スルヲ認ム
八、壺中ニ在リタル肺臟ヲ檢スルニ表面紫褐色ニシテ二葉ニ分レ(左肺)肋膜下ニ大小不同ノ腐敗瓦斯胞移動スルヲ認ムト雖肺胞ノ開張ナク按壓スルニ哮喘ヲ觸レズ肉様ノ感アリ断面又氣泡ヲ漏ラサズ全肺ヲ冷水中ニ投ズルニ浮上スト雖下葉ニ大ナル腐敗瓦斯胞ヲ剪去シ投水スルニ上部ハ浮上シ下葉ハ沈降ス各葉ヲ細片トナシテ投水スレバ大部分ハ沈降シ、ソノ浮上セルモノニモ輕壓ヲ加ヘテ投水スレバ全部沈降ス肺片一部ヲ檢査材料トシテ採集ス
ろ、腹腔臟器
九、腹腔ヲ檢スルニソノ上半ニ肝臟ヲ下半ニ帶灰褐色ノ腸管ヲ見ル肝臟ハ帶黒綠色ニシテ實質ハ軟泥様トナリテ細檢スルコト能ハズ脾臟ハ甚ダ小、ソ

ノ色及性状ハ略肝臟ノ如シ

- 十、左腎莖膜剝離シ易ク表面紫褐色ニシテ實質ハ軟化シ細檢スルコト能ハズ右腎ハ莖膜下ニ大ナル腐敗瓦斯胞アルノ他性状左腎ノ如シ膀胱ハ已ニ切開セラレテソノ内容ヲ存セズ粘膜蒼白ナリ子宮及腔ノ内面亦蒼白ニシテ異常ヲ認メズ
十一、胃ハ已ニ切開セラレテ内容ナク粘膜濃綠色ニ染ム小腸内ニハ褐色ノ濃稠物少許アリ粘膜同色ニ染ム大腸内ニハ膿褐色ノ胎便稍多量アリ、粘膜同色ニ染ムト雖腐敗高度ノ爲メソノ性状ヲ細檢スルコト能ハズ
乙、顯微鏡検査記録
十二、第二項ニ記載セル咽頭部ニ在タル汚血色素泡沫液ヲ載物硝子板上ニ取り蓋硝子板ヲ被ヒ鏡檢スルニ多數ノ頽廢塊アルノ他異物ノ存在ヲ認メズ
十三、第八項ニ採集セル肺臟片ヲふをるまりんニテ固定シ次ニふをるまりんヲ除去後薄片ヲ作り鏡檢スルニ恰モ退行性變化ヲ被レル實質性組織ヲ見ルガ如クニシテ毫モ肺胞ノ開張スルヲ認メズ切片ノ周邊ニハ赤黒色不正形板狀ノ結晶様物アリコハ血色素ノ變性セルモノナリソノ他肺胞氣管枝内ニハ異物ノ存在スルヲ認メズ

丙、鑑定

上記検査ノ結果ニ依リ左ノ如ク鑑定ス
一、頭毛ノ長サ(第三項)外陰具及爪甲發育程度並ニ大腸骨下骨端内ノ化骨核ノ大サ(第四項)及頭骨ノ大サ(第五項)ニ依レバ本兒ハ妊娠第十ヶ月ニ於テ産出セラレタルモノニシテ腐敗高度ノ爲メ確ニ之ヲ知ルヲ得ズト雖身體ニ病變畸形等ナキニ於テハ(前鑑定醫ノ鑑定ヲ参照スベシ)適當ノ保護ニ依リ母體外ニ於テモ獨立ニ生存スルコトヲ得ルモノナリ
二、肺ノ性状特ニソノ浮揚試験ノ成績(第八項)並ニ顯微鏡的検査ノ結果(第十三項)ニ依レバ本兒ハ産出後呼吸ヲナシタルノ微標ナシサレド之ノミヲ以テ死産ト斷言スルハ聊カ早計ノ嫌ナキニアラズ即チ本兒ノ如ク已ニ一度

剖檢サレ且腐敗高度ナルモノニ在リテハ余ノ得タル所見ノミニテハ生、死産ノ孰レカヲ斷言スルコト能ハズ
三、腐敗高度ナルト全臟器ヲ完全ニ檢査スルコト能ハザリシトヲ以テ本兒ノ死因ハ全ク不明ナリ
四、當時ノ氣象ト腐敗進行ノ狀態ニ依リ本兒ハ死後余ノ剖檢時迄凡ソ二十日内外ヲ經過セルモノナラム
五、一般ニ産兒ハ母體外ニ於テ獨立呼吸ヲ營ム前手足ヲ動かスコトアリ之レ全ク生理的現象ニシテ此ノ如キ場合ハ産兒ガ假死ニ陥リ居ルニセヨ或ハ殆ンド死ニ近キ狀態トナリ居ルニセヨ生命ノ繼續シ居ル限リ肺浮揚試験ノ成績如何ニ拘ハラズ産兒ハ生産ナリト云フベシ
六、通常産兒ガ生活機能ヲ具備シテ母體ヲ脫離後二、三十秒間ハ獨立呼吸ヲ營マザルモノナレバ此期間ヲ極メテ巧ニ利用シ濕潤セル紙或ハ手掌、大腿等ニテ産兒ノ鼻口ヲ閉塞スル時ハ何等暴行ノ痕跡ヲ殘サズシテ呼吸ヲ不能ナラシメ産兒ヲ死ニ致スコトヲ得ルモノニシテ此ノ如キ場合ハ剖檢上肺浮揚試験陰性ナリト雖モ生産ニシテ而モ他人ノ手ニヨリテ致死セシメタルモノナリ
七、胎兒ガ母體内ニテ死亡シタル時ト雖直ニ産出セララル、モノニアラズ多クハ死後數日ニシテ母體ヨリ分離スルモノナレドモ人々ニヨリテソノ時間ヲ一ニセズ胎兒ガ死後二三日乃至二三週間モ母體内ニ止マルコトアリ一概ニ云フベカラズ而シテ胎兒ガ死後長ク母體内ニ止マル時ハ所謂浸軟狀態トナリテ産出セララルヲ以テ産後直ニ兒體ヲ檢スレバ浸軟ノ程度ニ依リ胎兒ガ死後母體内ニ止マリシ時間ノ長短ヲ推定スルコトヲ得ルモノナリ
此鑑定ハ大正〇年〇月〇日著手
同 年同月〇日結了
同日七月
鑑定人 小南又一 郎



六、結婚及離婚

法律的規定

民法第七六五條 男ハ滿十七年女ハ滿十五年ニ至ラザレバ婚姻ヲナスコトヲ得ス

第七六六條 配偶アルモノハ重ネテ婚姻ヲナスコトヲ得ス

第七六七條 女ハ前婚解消又ハ取消ノ日ヨリ六ヶ月ヲ經過シタル後ニ非ラサレハ再婚ヲ爲スコトヲ得ス女カ前婚ノ解消又ハ取消シ前ヨリ懐胎シタル場合ニ於テハ其ノ分娩ノ日ヨリ前項ノ規定ヲ適用セス

第七六八條 姦通ニ因リテ離婚又ハ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ相姦者ト婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第七六九條 直系血族又ハ三等親内ノ傍系血族ノ間ニ於テハ婚姻ヲナスコトヲ得ス。但シ養子養家ノ傍系血族トノ間ハ此ノ限ニ在ラス

第七七〇條 直系血族ノ間ニ於テ婚姻ヲナスコトヲ得ス。第七二九條ノ規定ニヨリ姻族關係カ止ミタル後又同シ

第七二九條 姻族關係及ヒ前條ノ親族關係ハ離婚ニヨリテ止ム。夫婦ノ一方カ死亡シタル場合ニ於テ生存配偶者カ其家ヲ去リタル時モ亦同シ

第七七二條 子ガ婚姻ヲナスニハ其家ニアル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス。但シ男カ滿三十年女カ滿二十五年ニ達シタル後ハ此ノ限リニアラス。父母ノ一方カ知レサル時、家ヲ去リタル時又ハ其ノ意志ヲ表示スルコト能ハサル時ハ他ノ一方ノ同意ノミヲ以テ定ム。父母共ニ知レサル時、死亡シタル時、家ヲ去リタル時、又ハ其意志ヲ表示スルコト能ハサル時ハ未成年者ハ其ノ後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第七七五條 婚姻ハ之ヲ戶籍吏ニ届出ツルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス。前項ノ届出ハ當事者雙方及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ口頭ニテ又ハ署名シタル書面ヲ以テ之レヲ爲ス事ヲ要ス

第七八八條 妻ハ婚姻ニ因ツテ夫ノ家ニ入ル。入夫及ヒ婿養子ハ妻ノ家ニ入ル

第七八九條 妻ハ夫ト同居スル義務ヲ負フ

第七九〇條 夫婦ハ互ニ扶養ヲナス義務ヲ負フ

第七九一條 妻カ未成年ナル時ハ成年ノ夫ハ其ノ後見人ノ職務ヲ行フ

第七九二條 夫婦間ニ於テ契約ヲナシタル時ハ其ノ契約ハ婚姻中何時ニテモ夫婦ノ一方ヨリ之レヲ取消スコトヲ得。但シ第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

以上ハ結婚ニ對スル法律ナルガ離婚ニ關スルモノハ次ノ如シ

第一款 協議上ノ離婚

第八〇八條 夫婦ハ其ノ協議上ヲ以テ離婚ヲ爲スコトヲ得

第八〇九條 滿二十五年ニ達セサル者カ協議上ノ離婚ヲ爲スニハ第七七二條及ヒ第七七三條ノ規定ニ依リ其ノ婚姻ニ付キ同意ヲ爲ス權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第二款 裁判上ノ離婚

第八一三條 夫婦ノ一方ハ左ノ場合ニ限リ離婚ヲ訴テ提起スルコトヲ得

一、配偶者カ重婚ヲ爲シタル時

二、妻カ姦通ヲシタル時

三、夫カ姦淫罪ニ因リテ刑ニ處セラレタル時

四、配偶者カ偽造、賄賂、毀譽、竊盜、強盜、詐欺取財受寄財物費消、藏物ニ關スル罪、若クハ刑法第一七五條、第二六〇條ニ掲ケタル罪ニ因リテ輕罪以上ノ刑ニ處セラレ又ハ其他ノ罪ニ因テリ重禁錮三年以上ノ刑ニ處セラレ又ハ其他ノ罪ニ因リテ重禁錮三年以上ノ刑ニ處セラレタル時

五、配偶者ヨリ同居ニタヘサル虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタル時

六、配偶者ヨリ惡意ヲ以テ遺棄セラレタル時

七、配偶者ノ直系尊屬ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタル時

八、配偶者カ自己ノ直系尊屬ニ對シテ虐待ヲ爲シ又之レニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタル時

九、配偶者ノ生死カ三年以上分明ナラサル時

十、婿養子縁組ノ場合ニ於テ離縁アリタル時、又ハ養子カ家女ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ離縁若クハ縁組ノ取消アリタル時

第八一四條 前條第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ他ノ一方ノ行爲ニ同意シタル時ハ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス。前條第一號乃至第七號ノ場合ニ於テハ夫婦ノ一方カ他ノ一方又ハ其ノ直系尊屬ノ行爲ヲ宥恕シタル時亦同シ

第八一五條 第八一三條第四號ニ掲ケタル處刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其ノ配偶者ニ同一ノ事由アル事ヲ理由トシテ離婚ノ訴ヲ提起スル事ヲ得ス

第八一六條 第八一三條第一號乃至第八號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ之ヲ提起スル權利ヲ有スル者カ離婚ノ原因タル事實ヲ知リタル時ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス。其ノ事實發生ノ時ヨリ十年ヲ經過シタル後亦同シ

第八一七條 第八一三條第九號ノ事由ニ因ル離婚ハ配偶者ノ生死カ分明ト爲リタル後ニ之レヲ提起スルコトヲ得ス

其他婚姻ノ成立、婚姻ノ效力等ニ關スル法律文ハ之レヲ省略ス

結婚ハ國ニヨリテ男女相互間ニ於ケル一種ノ契約ナリト見做ス所アレドモ、我國ニ於テハ結婚ヲ一種ノ法律行爲トナセリ、即チ結婚ニヨリテ夫婦關係生ジ物權債權ノ設定及移動ヲ來シ家庭成立ス、而シテ此家庭ハ社會構成ノ分子ナレバ、社會ノ善惡高下ハ家庭乃至夫婦關係ノソレニ係ルコト多シ、故ニ國家ハ婚姻ニ關スル法規ヲ定メ離婚ノ條文ヲ明カニシ人倫ノ規矩ヲ正セリ。

夫レ結婚ノ目的タルヤ男女兩性ガ夫トナリ妻トナリ、互ニ信實ヲ盡クシ夫婦ノ身分ヲ收得シ、保護、扶養、同居ノ義務ヲ有シ、從ツテ家庭ヲ設ケ子孫ヲ生ミ、善良ナル社會的分子ヲラザルベカラザルモノナリ。即チ吾人醫師ハ斯カル立法者ノ精神ヲ尊重シテ、其ノ意志ヲ透徹セシムルガ爲メニ、醫學上ヨリ男女ノ結婚スベキ若クハ離婚シ得ベキ條件ヲ定ムルコトハ當然ノ緊要事項ナリ。

離婚トハ結婚ニヨリテ生ジタル一切ノ契約解除ニシテ、法律上ノ離婚ニハ協議上ノモノト裁判上ノモノトノ二種アリ、殊ニ吾國ノ如ク「七去三從」等ノ教訓ノ下ニ教養セラレタル國民性ニアリテハ、結婚及離婚ノ諸條件ニ對シ醫學的考察ヲ等閑ニ附スルコトハ、甚ダ遺憾ニ堪ヘザルコトニシテ離婚ノ如キ不幸、不祥事ヲ少ナクシ、優良ナル國民、健康ナル社會ヲ作ラント欲セバ、一般社會ノ之ニ對スル醫學的知識ノ普及ヲ必要トスルコトハ勿論ナリト雖モ、ソノ離婚ナル結果ニ至ラシムル前提タル結婚ニ對シテモ、各人一定ノ理解ヲ持チ果シテ夫トナリ妻トナリ、同居ノ義務ヲ盡シ子孫ヲ作り、幸福ナル生涯ヲ送り得ルヤヲ考慮セザルベカラズ。

余ハ以上ノ如キ目的ノ爲メニ次ノ如キ疾病又ハ異常ヲ有スルモノハ、結婚ニ對シ最モ注意ヲ拂ヒ熟慮シ、果シテ結婚ヲ爲シ得ルノ有



資格者ナリヤ否ヤヲ考慮シ、醫師ノ意見ヲ徴シ以テ各人其ノ行ク所ヲ誤ルコト無カラシムルト共ニ、他面ニ結婚後カカル状態ニ陥ラバ離婚ヲナスノ條件ト見做スト共ニ、法官ニ於テモカカル問題ノ突發シタル時ハ之ヲ參考トナスヲ得ン。

(イ)男女共ニ結婚者トシテ有ルベカラザル疾病トシテハ、遺傳性ノ重キ精神及神経病者、精神病的素質者、精神低格者、癩及ビ重症ナル結核性諸疾患、慢性淋毒、心臟疾患、腎臟疾患、新陳代謝病及ビ内分泌障礙、血液疾患、生殖器ノ諸畸形等ノ高度ナルモノ。(ロ)結婚セントスル女性ニアルベカラザル疾病トシテハ絶對的無月經、高度ノ腔及子宮ノ畸形、子宮發育不全、卵巣喇叭管ノ異常、子宮筋腫及ビ其他ノ子宮腫瘍、内生殖器ノ悪性腫瘍、交接不可能ナル腔状態(狭少、腔瘻、癥瘕、處女膜異常及ビ骨盤狭少等)。(ハ)結婚セントスル男子ニアルベカラザル疾病トシテハ、高度ノ無精症、兩側睪丸炎ヲ經過セルモノ、交媾不可能ナル陰莖(過大、過小、射精不全、勃起不能等)ナリ。而シテ此ノ如キ結婚ニ不當ナル條件ヲ有シナガラ、尙結婚ヲ欲スルモノアリ、ソノ際醫師ハ成ルベク其障礙トナルベキモノヲ除去スルニ努力シ、如何ニシテモ到底排除スベカラザル悪質遺傳等ヲ有

スルモノニ對シテハ、斷種法ヲ施シタル後結婚ヲ許可スルヲ理想トシ、斯クシテ惡質遺傳等ヲ去リ、良質ノ國民ノ増加セシメントスル方法ヲ研究スル學問ヲ優生學ト云フ。今此優生學的斷種法ノ行ハレ居ル國及ソノ大要ヲ示セバ概ネ第百表ノ如シ。

第百表 現行斷種法一覽

Table with columns: 國名 (Country Name), 公布ノ年 (Year of Publication), 法ノ目的 (Purpose of Law), 法ノ形式 (Form of Law), 被斷種者 (Subjects of Sterilization), 判定者 (Determining Authority), 實施人種 (Implementing Race). Rows include USA, Canada, Denmark, etc.

七、妊娠検査

付法醫學上必要ナル部分ヲ述ベム。

妊娠トハ受胎シ生理的ニ發育シツツアル胎兒ヲ婦人ノ生殖器内ニ宿シタルヲ云ヒ、假令、胎兒ノ形態ヲナストモ受胎セズシテ卵巢内ニ發育シ始メタル一種ノ腫瘍ノ如キハ妊娠ト見做スコト能ハズ、從ツテ胎兒トハ母体内ニ於テ生理的ニ發育シツツアル個體ヲ云フ。

夫レ妊娠ハ健康ナル卵ト精子トガ子宮腔喇叭管内若クハ腹腔ニ於テ、生理的ニ結合スルコトニヨリテ始マル。而シテ卵巢ヨリ排卵後卵ノ婦人生殖器内ニ於ケル生存期間ハ平均二、三時間ナルモ、多少ノ長短アルハ數ノ免レザル所、又健康ナル婦人生殖器内ニ於ケル精子ノソレハ約二日間位ト見做サバ大過ナキモ、時トシテ三週間モ生存シ居リタリトノ報告アリ、コハ甚ダ疑ハシト雖一概ニ然ラズトハ論ジ難ク、健康ナル男子ノ一回ノ精液量ハ凡ソ三、四粒ニシテ、其内ノ精子數ハ皆無ナルコトモアレドモ最モ多キ時ハ二億二千萬ニ達スルコトアリト云フ。

然リ而シテ婦人ノ排卵ハ月經開始ノ第一ヨリ起算シテ、第十一乃至第十六日ニ最モ多ク、他説ニヨレバ第六日乃至第十九日、或ハ萩野氏ニヨレバ次ニ來ルベキ月經前第十二日乃至第十六日ニ來ルト云ヒ、ソガ喇叭管ヨリ子宮腔内ニ送ラルル當日内ニ、或ハ約三時

民法第七百六十七條 女ハ前婚ノ解消又ハ取消ノ日ヨリ六ヶ月ヲ經過シタル後ニ非ラザレハ再婚ヲ爲スコトヲ得ス 女カ前婚ノ解消又ハ取消ノ前ヨリ懷胎シタル場合ニ於テハ其分娩ノ日ヨリ前項ノ規定ヲ適用セス 同 第七百六十八條 第七百六十七條ノ規定ニ違反シタル婚姻ハ前婚ノ解消若クハ取消ノ日ヨリ六ヶ月ヲ經過シ又ハ女カ再婚後懷胎シタルトキハ其取消ヲ請求スルコトヲ得ス 同 第八百二十條 妻カ婚姻中ニ懷胎シタル子ハ夫ノ子ト推定ス婚姻成立ノ日ヨリ二百日後又ハ婚姻ノ解消若クハ取消ノ日ヨリ三百日内ニ生シタル子ハ婚姻中ニ懷胎シタルモノト推定ス 同 第八百二十一條 第七百二十七條第一項ノ規定ニ違反シテ再婚ヲ爲シタル女カ分娩シタル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依リ其子ノ父ヲ定ムルコト能ハサルトキハ裁判所之ヲ定ム 同 第八百二十二條 第八百二十條ノ場合ニ於テ夫ハ子ノ嫡出ナルコトヲ否認スルコトヲ得 同 第八百三十一條 父ハ胎内ニ在ル子ト雖モ之ヲ認知スルコトヲ得此場合ニ於テハ母ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス 父又ハ母ハ死亡シタル子ト雖モ其直系卑屬アルトキニ限り之ヲ認知スルコトヲ得此場合ニ於テ其直系卑屬カ成年者ナルトキハ其承諾ヲ得ルコトヲ要ス 同 第九百六十八條 胎兒ハ家督相續ニ付テハ既ニ生マレタルモノト見做ス前項ノ規定ハ胎兒カ死體ニテ生マレタルトキハ之ヲ適用セズ

産兒ノ父ヲ定メ或ハ再婚セントスル婦人ガ妊娠シ居レルヤ否ヤ、或ハ刑法上ノ墮胎罪等ニ關シ婦人ガ妊娠セルモノナルヤ否ヲ決定セザルベカラザル場合アリ、今産婦人科學ノ教ユル所ニ從テ、妊娠ニ



間内ニ健康ナル精子ニ逢着セザレバ多クハ死滅ス、而シテ精子ハ一分時間ニ約三・四耗宛運動スル故、ソガ最も早く喇叭管ニ達スルニハ約一時間ヲ要シ、而モソガ婦人生殖器内ニ於ケル生命持続期間ヲ約三日トスレバ、一月経期間ニ於テ最も婦人ノ妊娠シ易キハ月経開始ヨリ起算シ、第十一日乃至第十五日間殊ニ第十三、四日、又荻野氏ニヨレバ次ノ月経前第十二乃至第十九日ニ於ケル性交ニヨルモノナレドモ、時トシテ精子ノ生存期間三週間ニモ互ルコトアレバ、ソレ以外ノ日ニ於ケル性交ニ於テハ、決シテ妊娠セズトノ保證ヲナスコト能ハズ。

故ニ何等カノ理由ニヨリ妊娠ヲ避ケントスレバ、月経開始ヨリ第十一日乃至第十七日間ノ性交ヲ絶タバ、ソノ目的ヲ達スルニ近シト雖、決シテ絶對的ニ妊娠セズト云フモノニアラズ、反之甚シク妊娠ヲ望マバ、月経開始後第十三日乃至第十六日ノ性交ヲ最も好都合トス。故ニ最良受胎期ハ月経開始後廿六日型月經ノモノニテハ第十一、二日、廿八日型ノモノニテハ第十三、四日、三十日型ノモノニテハ第十五、六日、三十日型ノモノニテハ十八日ニシテ、次ニ來ルベキ月経前十一日間ハ、大體ニ於テ不妊ナリ。

近時我國ニ於テモ人口問題擧頭シ來リ、まるさす説或ハ新まるさ

す説等ヲ稱フルモノアリ、妊娠乃至産兒調節論喧傳セラルニ至リタレバ、茲ニ不妊法乃至避妊法ニ就テ一言スルノ必要ヲ感ズ、尙妊娠中絶ニ至リテハ全ク醫術的適應症ノアル場合ニノミ母體保護ノ爲メニ行ハルルモノナレバ、後章ニ於テ詳述セム。

第一百一表

不妊法	短期 （れんとうげん照射 ほるもんりて使用 手術ニヨリテ輪 長期 （精卵管切除
避妊法	男 （射精中絶 直ニ洗滌シテ精子ヲ去ル 藥物ヲ使用シテ精子ヲ滅ス 器械的 （絕對不妊期利用 絕對不妊期利用

男子ヲシテ婦人ニ授胎セザラレメントスルニハ、兩睾丸ノ剔出及ソノれんとげん及らちゆむ照射、或ハ性交中ニ於テ射精中止、膈外射精等ヲ行ヒ、若クハこんどいむ、るいでさくヲ用ユルニアリ。

次ニ婦人ヲシテ完全ニ受胎セザラシメントスルニハ、兩輸卵管ノ結紮乃至切斷、兩卵巣ノ剔出、子宮ノ切斷、らちうむ及れんとげん照射及性ほるもんノ使用等アリ、避妊ノ目的ニ用ユル通經劑及性交後ノ腔洗滌等ノ效果ハ左程頼ムニ足ラズ。

通俗ニ用キラルル避妊器具モ亦ソノ效果少キモノナルノミナラズ

婦人衛生上有害ナルモノナレバ、我國ニテモ之ヲ公然販賣スルヲ禁止居レリ。今ソノ重ナルモノヲ舉グレバ、概ネ左ノ如シ。

第二百二十八圖 子宮注射器



第二百十九圖 子宮ボタンツノノ挿入器



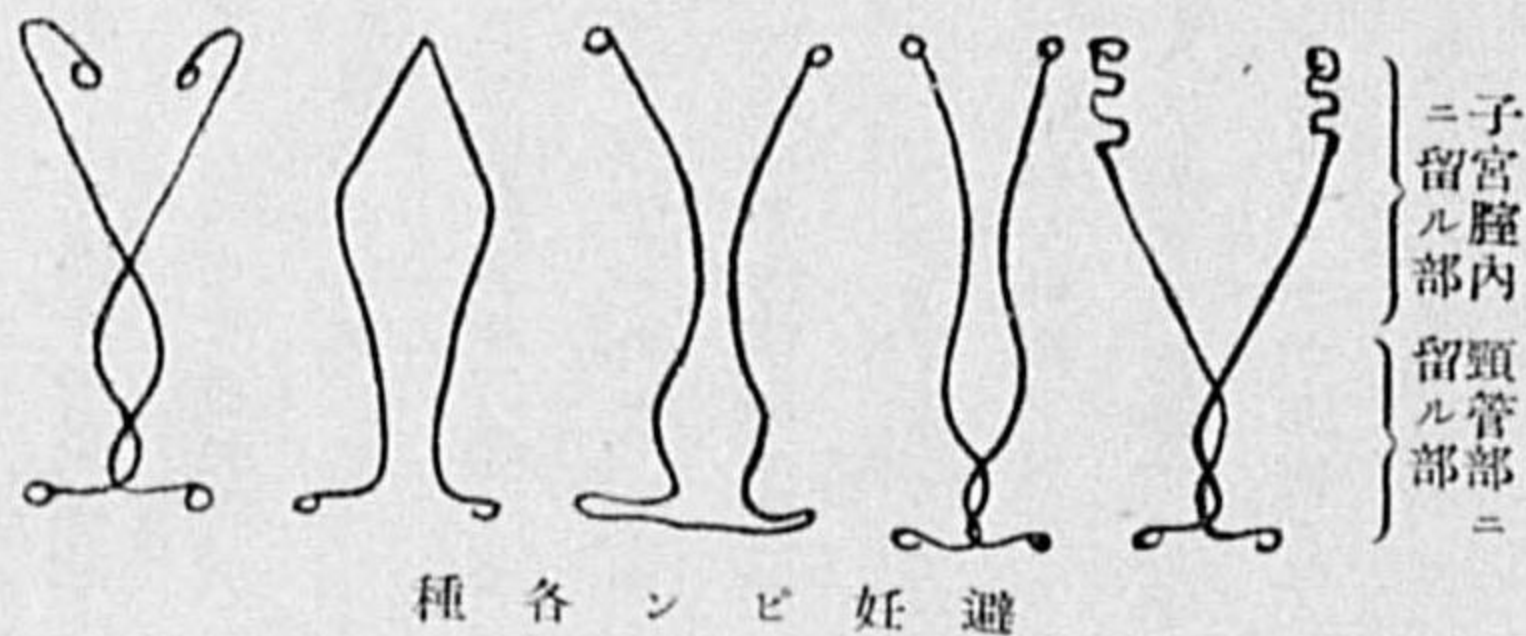
第二百二十圖 避妊スポンヂ



(イ) たんぽん、海綿及忍ビ紙、此等ヲ腔底ニ挿入シ置ク時ハ、機械的ニ受胎ヲ妨グルコトアリ、而モ此等ニ消毒用硼酸乃至くりーむ等ヲ浸シテ、其效ヲ強クセントシ却テ

妊娠検査

第二百二十一圖



各種避妊

第二百二十二圖



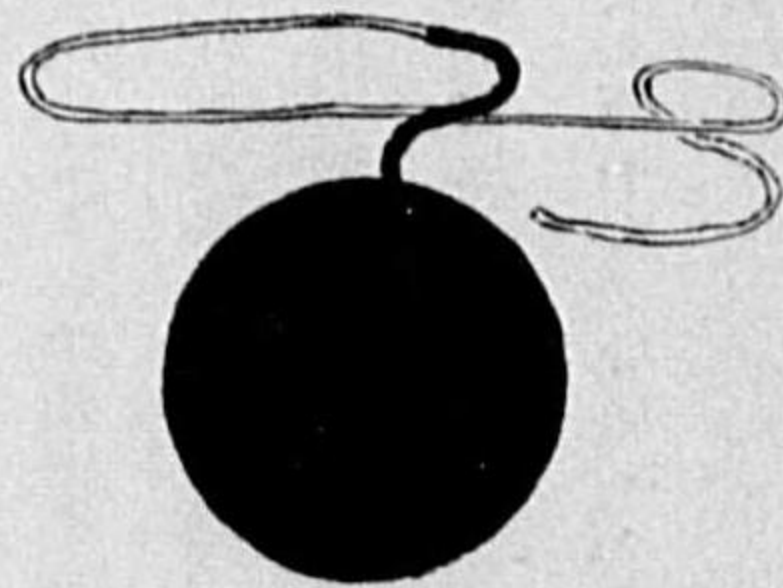
クツサ宮子性屬金

第二百二十三圖



クツサ宮子

第二百二十四圖



エチクツサベリ

中毒ヲ來スコトアリ。

(ロ) 子宮さく、ハ子宮腔部ニ被ラシムルごむさくニシテ避妊ノ效少ク、且長時挿入シ置ク時ハ分泌液ノ漏出ヲ妨ゲ衛生上有害ナリ。

(ハ) 子宮かぶ、コハ子宮腔部ニ適合スル金屬製ノ被覆ナリ、使用部ニ機械的充血等ヲ來シ、有害ニシテ避妊ノ效モ亦完カラズ。



(ニ)子宮びん、一種ノ針金製すぶりんぐニシテ之ヲ子宮頸管ヨリ子宮腔内ニ挿入シ置ク時ハ、往々受胎ヲ妨グルコトヲ得ルモ長期間使用スル時ハ、頸管かたゝる子宮内膜炎ヲ來シ、甚シキニ至リテハ子宮出血ヲ伴ヒ子宮痛ノ原因トナル虞アリ。

(ホ)頸管べつさりー或ハ子宮ぼたん、コハ廣キ笠ヲ有スル釘様ノモノニシテ金屬又ハゴムニテ作り、ソノ棒狀部ヲ頸管ニ入レ、笠ニヨリテ精子ノ進入ヲ妨グルモノナリ、ソノ害毒ハ子宮びんに於ケルト全ク同様ナリ。

(ヘ)子宮洗滌器、一種ノ子宮注入器ニシテ性交後或ハ妊娠ノ疑アル時ニ、之ヲ用キテ子宮腔内ニ硼酸水等ヲ注入スルモノニシテ、子宮傳染ヲ起シ或ハ墮胎ヲ來シ、甚ダ危険ナル器具ニシテ非醫者ノ用ユベキモノニアラス。

(ト)避妊劑、腔内消毒ノ名目ノ下ニ軟膏、膠藥、くりーむ、錠劑等ヲ腔内ニ用ユルモノニシテ、母體ニハ無毒ナル上、精蟲ヲ死滅セシムルモノナリト云フモ往々母體ニモ中毒ス、而シテ之ニ用ユル藥品トシテハ枸橼酸、酒石酸、醋酸、萆酸、磷酸、乳酸、ざりちーる酸、硫酸銅、ひにーん等ニシテ、甚シキニ至リテハ昇汞錠ヲスラ用ヒ、ソノ中毒ニヨリテ死ニ至リシモノアリ。

(チ)通經劑、コハ月經閉止ノ際通經ノ目的ニ用ヒラルト云フモ、多クハ墮胎ノ目的ニ用ヒ俗間ニテ販賣スルノニハ慮會卵巢製劑等ヲ多ク含有ス、コハ後記墮胎ノ章ニ於テ詳述セン。

甲、次ニ婦人ガ妊娠セル疑アル徵標ハ次ノ如シ。

(イ)悪心、嘔吐。コハ惡阻ト稱シ、妊娠ノ時ニ來ル惡心、嘔吐ハ他ノ場合ノモノト自ラ異ナレリ。

(ロ)月經閉止、コハ妊娠ノ大切ナル徵標ナレドモ絶對的價値アルモノニ非ラズ、慢性消耗性疾患、急性傳染病、體質異常、精神病、甚シキ精神感動、或ハ住居職業ノ變更等ニ依ル月經閉止アリ。反

之、妊娠後月經様出血ノアルアリ、妊娠ニ非ラズシテ成熟セル婦人ニ於テ生來規則正シカリシ經行ガ、惡心嘔吐ヲ伴ヒ突然閉止セルコトアリ、其他處女時代ヨリ一度モ月經ヲ見ズシテ妊娠セルモノアリ、或ハ月經ガ一回モ閉止セズシテ妊娠セルモノアル等ノ如キ之レナリ。

(ハ)外陰唇及子宮ノ腔部腫脹シ、或ハ色素ヲ増加シ來ルコト。(ニ)子宮ノ球狀腫大、往々子宮肉腫等ニ依リテ子宮ノ腫脹シ來ルコトアレバ之トモ妊娠ノ確徵ニアラス。

(ホ)乳腺膨大シ色素ヲ増加シ、且初乳様ノモノヲ出スコト。

(一)妊娠ノ生物學的早期診斷法

後述スル妊娠ノ確徵ハ受胎後四、五ヶ月ヲ經ルニアラザレバ顯出セザルヲ以テ、之ヲ早期ニ診定セントシ、妊娠經過中ニ婦人ノ身體ニ顯ハル諸變化ヲ生物學的ニ檢出シテ、妊娠ノ早期診斷トナサント企ツルモノ輩出セリ、而シテソノ原理トスル所ハ主トシテ次ノ三點ナリ。

一、妊娠ハ糖新陳代謝ニ變化ヲ與フル故尿中糖ノ定量

二、妊婦ノ血清内ニ於ケル變化

三、腦下垂體前葉ヨリセルほるもんヲ、妊婦ノ尿及ビ血清中ニ證明スルコト

然レドモ是等ノ妊娠診斷ニ對スル信憑程度ハ、何レモ皆豫備検査ノ域ヲ脫スルコト能ハザルモノ多シ。今此等ノ妊娠早期診斷法中重ナルモノニ付、ソノ大要ヲ記述セム。

A、あぶでるはるでん氏法(一九二二年)、コハ妊婦ノ血清中ニハ一種ノ變化ヲ來シ居ルモノナリト考ヘ方ヲ基礎トシタルモノニシテ、一般ニ生體ハソノ血行中ニ異物進入シ來ルヤ、之ヲ破壊シテ無害トナスカ、或ハ同化シテ自家固有ノ成分トスル力ヲ有スル防禦酵素ヲ生ズルモノナリ。今妊婦ニ付テ考フルニ母體ノ血液ニ對

シ異物タル胎盤組織ヲ破壊同化センガ爲メ、ソノ血清中ニ此胎盤組織ノミニ作用スル特殊防禦酵素ヲ生ズ、即チ此特殊酵素ヲ存在ヲ檢出シ、妊娠診斷ニ資セントスルモノニシテ、此胎盤組織ヲ婦人ノ血清ト混ジ置キ、一定時ノ後此特殊酵素ノ作用ニヨリ分解生成シタル胎盤べぶとんヲ生物化學的ニ證明シテ、妊娠ヲ診定セントスルニアリ。

一、透析法、即チ高級ノ蛋白ヲ通過セシメズ、ソノ分解産物タルべぶとんノミヲ通過セシムル動物膜ヲ選ミ、ソレニ胎盤基體ト婦人ノ血清トヲ入レ、之ヲ一定時間蒸溜水中ニ浸漬シ置キ其内ニべぶとん移行シ來リシヤ否ヤヲにんひどりニテ檢シ、美麗ナル紫色ヲ呈セバ、コレべぶとんノ滲出シ來リタルモノニシテ、即チ妊娠セルモノナリトノ證ナリ。

二、施光法、前ト同様ニ處置シタル透析液ヲ施光器ニカケ施光ノ程度ヲ檢シ、ソガ一定度迄増加スレバべぶとんガ生成シタル證左ニシテ、即チ妊娠ナリト決定スベシ。

此二方法ガあぶでるはるでん氏ニヨリテ提言サレタル際ハ、百發百中妊娠ヲ早期診斷スルコトヲ得ト云ハレシモ、多數ノ學者ノ說ニヨレバ、ソノ適中率ハ七、八十%ナリト云ヒ、消耗性疾患、喇叭管



膜腫、子宮筋腫等ニテモ本法陽性ニ顯出ストノ説ヲナスモノスラアルニ至レリ。

B、つをんでつく、あしゆはいむ氏妊娠診断法、

本法ハ幼弱未成熟ノ雌性まうすニ妊娠ノ尿ヲ注射スレバ、ソノ卵巢内ニ一種特有ナル變化ヲ來スヲ原理トシタルモノニシテ、逆ニ疑問婦人尿ヲまうすニ注射シ、前記ノ特有ナル變化ヲ來ラバ、該婦人ハ妊娠セルモノナリト診断スルニ在リテ、ソノ適中率ハ九八%内外ニ達シ、婦人ノ尿ハ受胎後已ニ十日内外ニシテ本反應陽性トナリ、出産後尙一週間位ハ陽性ナリト云ヘバ、本法ハ非常ニ價値アル妊娠診断法ト云フベシ。

而シテ實際本法ヲ行フニハ大略次ノ如クスベシ。

一、先ヅ被檢者タル婦人ヨリ尿ヲ採集スルニハ、早朝空腹時ノ自然尿ヲ清淨ナル器具ニ取り濾過シ、モシあるかり性ナラバ少許ノ醋酸ヲ加ヘテ弱酸性トナシ、更ニ數滴ノトリクレゾールヲ滴加シテ防腐シ保存ス。

二、試験動物トシテハ體重六乃至八瓦ノ雌性まうす五疋ヲ取ル、而シテ八瓦以上ノモノハ時トシテ已ニ卵巢ニ黃體ヲ發生シ居リテ、實際ニ不適當ナルコトアレバ注意ヲ要ス。

三、斯クテ準備整ヘバ、實驗第一、二、三日ノ各午前十時及ビ午後

斯ニヨリ試験タルまうすヲ窒息死セシメ開腹ヲ行ヒ、ソノ卵巢ニ於テ大濾胞ノ形成、排卵、濾胞内出血乃至黃體ノ形成等アラバ本法ノ陽性ナルヲ示シ、從テ被檢者ハ妊娠ナリト診定スルモノナリ。

ソノ他妊娠ノ早期診断法ハ數多アリト雖、何レモ豫備検査ノ範圍ヲ出デズ、之方陽性ナルヲ以テ直ニ妊娠ナリト診定スルコト能ハズ、但シつをんでつくあしゆはいむ氏法ハ甚ダ信憑スルニ足リ、ソノ操作モ簡單ニシテ檢定ニ至ルマデニ要スル時間モ比較的短シ。

(乙)妊娠ノ確微トシテハ胎兒ヲ直接觸ルルコト、胎兒ノ運動ヲ他覺的ニ感ズルコト、れんとげん光線ニテ胎兒骨ヲ見ルコト、或ハソノ心音及臍帶雜音ヲ聞クコト等ナリ。

(丙)次ニ妊娠月數ヲ定ムルニハ月經閉止、初メテ胎動ヲ感ジタル時期、胎兒ノ大サ竝ニ子宮ノ大サ等ヲ參考シテ診定スベシ、コハ産科學ノ述ブル所ナルモ、ソノ大體ヲ述ブレバ左ノ如シ。

第一月、子宮ハ少シク大トナリ球狀ヲ帶ビ、子宮ノ腔部ハ稍柔軟トナル。

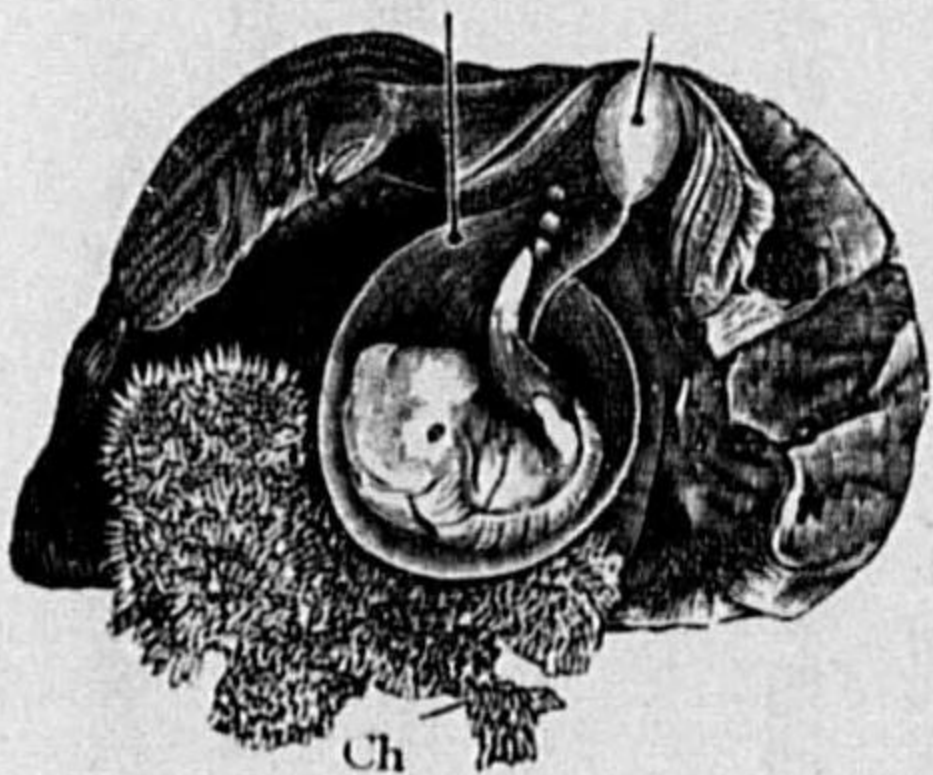
第二月、子宮ハ鷲卵大トナリ、尙稍堅ク子宮口ハ柔軟トナリ、圓形、乳房ハ腫大シ、乳暈及妊娠痕ハ褐色トナリ始ム。

妊娠検査

圖五十二百二第



圖六十二百二第



卵ルケ於ニ期初ノ月二第婦妊  
胞臍(N) 衣胞(Ch) 膜羊(A)

卵人ノ月ケ二約

五時ノ如キヨ  
時間ニ於テ  
前記尿○  
二(一號)  
○・二五(二  
號)○・三三  
及四號)○  
四(五號)宛  
同試獸ニ對  
シ最初ヨリ  
最後迄夫々  
變量セズシテ注  
射シ、第四日ハ  
試獸ヲ休養セン  
ム。  
四、而シテ實驗開  
始後九十六時間  
ニシテ、燈用瓦

第三月、子宮ハ小サキ兒頭大トナリ柔軟トナル。

第四月、子宮ハ兒頭大トナリ耻骨弓ノ上ニ現ハレ、双合診ニヨリ胎兒ヲ觸知シ、子宮雜音ヲ聞キ、胎動ヲ聽取ス。

第百二表

Table with 10 columns: 第一月, 第二月, 第三月, 第四月, 第五月, 第六月, 第七月, 第八月, 第九月, 第十月. Rows include 子宮, 胎兒, 胎動, 胎心, 胎位, 胎音, 胎動, 胎心, 胎位, 胎音.

第五月、子宮底ハ臍高ト耻骨弓トノ中央ニ達シ、妊娠婦ハ胎動ヲ感ズ、此頃ヨリ胎兒ノ心音ヲ聞クコトヲ得。



第六月、子宮底ハ臍窩ニ達シ、胎兒ノ各部分ヲ外診上、明ニ觸知シ得ル様ニナリ、生殖器等ニ色素益々加ハリ、乳房愈々堅クナル。

第七月、子宮底ハ臍窩ヨリ三横指徑上方ニ登リ、臍窩ハ消失シ、

産婦ニテハ内子宮口迄開ク。

第十月、子宮底ハ心窩ト臍窩トノ中央迄下り來リ、稍前方ニ傾キ初産婦ニテハ前腔穹窿部消失シ、經産婦ニテハ内子宮口ニ二指ヲ通ズルニ至ル、腔粘膜ハ柔軟トナリ、粘液ノ分泌多シ。

第三百表 妊娠期間日數

Table with 4 columns: Author Name, Average Days, Range, and Notes. Includes authors like Zingales and others.



子宮腔部ハ短ク、胎兒頭ノ浮動明ナリ。

第八月、子宮底ハ臍窩ト心窩トノ中央ニ達シ、腹壁甚ダ緊張シ來ル。

第九月、子宮底ハ心窩ニ達シ、初産婦ニテハ外子宮口僅ニ開キ經

(丁) 妊娠期間トシテハ平均二百六十七日乃至二百七十日ナリト云フ。一般ニハ二百八十日或ハ四十週モシクハ月齡十ヶ月ト云フヲ普通トス、民法第二十條ニ依レバ婚姻成立ノ日ヨリ二百日後、又ハ婚姻解消若クハ取消ノ日ヨリ三百日内ニ生レタル子ハ、婚姻中ニ懐胎シタルモノト推定シ有リ、獨逸ノ民法ニテハ妊娠ノ最長期限ヲ三百日、若クハ三百二日トセリ。然レドモ實例ニヨレバ三百二十日間妊娠ヲ持續シタルコトアリシト云フ。故ニ婚姻成立前八日間婚姻解消後二十日間ニハソノ父ノ疑ハシキ小兒ノ生ルル虞アリ。而シテ婦人ノ妊娠シ得ル期間ハ月經初期ヨリソノ閉止ニ至ルマデニシテ、通常十六、七歳ヨリ四十五、六歳迄ヲ最多トシ、極端ナル例ヲ擧グレバ已ニ十三歳ニシテ妊娠シ、或ハ五十三歳ニシテ子ヲ産ミタルモノアリト云フ。

第三十九例 鑑定書

住所

梅 〇 ユ 〇

四十五歳

昭和六年一月十九日〇〇地方裁判所〇〇支部豫審判事佐〇米〇氏ハ〇〇刑務支所ニ於テ前記ノ放火被告人梅〇ユ〇余ニ示シ...

一、検査

既往症、生來著患ヲ知ラズト云ヘドモ、非常ニ健康ニシテ如何ナル勞苦ニモ耐ヘ得ルト云フ程ノ程度ニアラズト云フ。月經初潮ハ十六歳ニ於テ見タリト...

妊娠検査

現症、體格大、榮養中等、皮膚一般ニ蒼白ニシテ皮下脂肪層ノ發育中等、筋肉ノ發育尋常ナリ。體温ハ正常脈搏ハ一分中約八十至、其ノ性質整實ナリ。頭型、顔面ニ異常點ナシ。口腔粘膜ニ異常ナシト雖モ、舌尖及ビ上下口唇ハ少シク龜裂又ハ糜爛ヲ生ズ。胸廓ノ形狀正中ニシテ何等疼痛、疼痛點ナシ。乳房ハ小ニシテ萎縮スト雖モ、乳頭及ビ乳暈ニハ輕度ノ著色アルモノ、如ク、コレヲ壓スルモ乳汁ヲ漏出セズ。心臓ノ大サ尋常、ソノ瓣膜ニ異常ノ雜音等ヲ認メズ。肺臟及ビ氣管枝等ニ認ムベキ疾病ナシ。腹部ハ中等大ニ膨隆シ、皮下脂肪層ノ發育良正中線ノ著色ヲ認メズ。肝臟ノ大サ尋常、脾臟ヲ觸知スルコト能ハズ。胃、腸等ニ異常ナク、兩側共ニ腎臟ヲ觸知セズ。陰毛發際ノ上端ニ長サ約五厘米ノ橫置セル痕アリ。舊手術時ノ痕痕ナラン。下肢ハ其ノ形狀尋常ニシテ下腿、及ビ足背等ニ浮腫ヲ認メズ。

二、説明

一、妊娠ヲ診斷確定セントスルニハ、妊娠ニ因テ起ル母體ノ變化及ビ胎兒ノ存在ニヨリテ起ル即チ妊娠徵候ナルモノヲ第一ノ論據トセザルベカラズ。吾人ハ此ノ妊娠徵候ナルモノヲ左ノ三種ニ區別ス。

甲、妊娠不確徵

此ノ徵候ハ生殖器以外ニ來ル變化ニシテ妊娠ニアラザルモ起リ得ルモノナ



唯々妊娠ニ於テ比較的多ク且ツ強ク現ハル、モノニテ

- 一、早朝空腹時ニ於ケル悪心、嘔吐、唾液分泌増加、便秘等
- 二、嗜好品ノ變化、殊ニ酸味ノ嗜好、頭痛、精神状態ノ變化
- 三、皮膚著色、妊娠線、浮腫等

乙、妊娠半確徴

此ノ徴候ハ主トシテ生殖器ニ來ル變化ニシテ甲ニ比シ稍々確實性ヲ有スト雖モ、非妊婦ニ於テモ亦現ハル、モノナリ。

- 一、身體的疾弱又ハ之レガ原因トシテ考フルコト能ハザル場合ノ月經閉止
- 二、子宮變軟トナリ、且ツ經期閉止ニ相當スル子宮ノ増大、及ビ「ビスカツエック」氏、「ヘガール」氏徴候ノ存在
- 三、膈及ビ膈入口及ビ會厭等變軟トナリ且ツ特長アル著色ヲ呈スルコト
- 四、子宮雜音ノ著明ナルコト
- 五、乳房ニ變化ヲ來シ、乳腺ノ増殖、肥火、乳頭、乳暈ノ著色、初乳ノ分泌等

丙、妊娠確徴

胎兒ノ存在ニヨリテ初メテ現ハル、徴候ニシテ、コノ徴候一ツ以上ヲ明ニ證明シ得ルル場合ニハ確實ニ妊娠ヲ判定シ得ルモノナリ。

- 一、胎兒ノ各部分ヲ明ニ觸知スルコト、
- 二、胎動ヲ認知スルコト、
- 三、胎兒心音ヲ聽取スルコト、
- 四、臍帶雜音ヲ聽取スルコト、

以上ノ三徴候ニヨル各條件ヲ綜合シテ以テ吾人ハ妊娠ヲ診斷スルモノナルガ明ニ妊娠ナリト斷定スルコトハ診斷確徴ノ一ツ以上ノ條件ヲ確實ニ知ル時ニ於テノミ斷言シ得ルモノタルヤ明ナリ。而シテ妊娠第四ヶ月迄ハ、子宮ノ發育増大猶小ニシテ、胎兒各部分ヲ觸知スルコト、胎動ヲ確實ニ認知スルコト胎兒心音、臍帶雜音等ヲ聽診スルコト等ハ事實上不可能ニシテ、過敏ナル經

乳房ノ變化ハ殆ンド認ムルコト能ハズト雖モ、乳頭、乳暈ニハ少シク著色アルモノ、如ク、舌尖、上下口唇ニハ輕度ノ龜裂痲癩ヲ生ジ居ルノ他何等諸内臟器ニ病の所見トシテ認ムルモノナシ。

生殖器ヲ檢スルニ子宮ハ手拳大ヨリ稍々大ニシテ壓痛ナク、硬度比較的硬ニシテ「ヘガール」氏「ビスカチエック」氏徴候ヲ缺キ、兩側附屬器ニ異常ナキガ如シ。分泌物充進シ子宮腔部、腔粘膜一般ニ充血ヲ來スト云フ。

以上ノ諸症狀ヲ考フルニ、ソハ凡テ妊娠不確徴又ハ半確徴ニ屬スルモノニシテ、ユ〇ノ最終月經ヲ昭和五年十月二十二日トスレバ、余ノ檢診當時迄ニハ滿三ヶ月ノ終リ若シクハ滿四ヶ月ノ初期ニ相當スルモノニテ、到底妊娠確徴ノ一ツダモ知ルコト能ハザルノ時期ニ在ルモノナルコトハ明ナル事實ナリ。

今ユ〇ガ若シ妊娠セルモノトシテ、十月二十二日ニ現ハレタル最終ノ子宮出血方僅カニ半月位ナリシト云フコトニ因リ、果シテコレガ月經ナリシカ否カニ疑問ヲ置キ其ノ前月ノ九月二十二日ヨリ起算スルヲ正常トスベキカ否カニ就キテモ亦考慮スベキ事柄ナリト雖モ、余ハ十月二十二日ノ月經量ガ例僅少ナリシニセヨ其ノ出血方前月月經來潮ト殆ンド同一ニ來潮シ、爾來全ク子宮出血ヲ見ザリシトノ理由ニヨリテ、寧ロ十月二十二日ノ子宮出血ヲ以テ最終月經ト考察スルヲ正當ナリト思惟スルモノナリ。勿論コノ事ハ子宮ノ大サヲモヨク考慮ノ内ニ加ヘ以テ決定スベキモノナリト信ズ。

斯クノ如ク、ユ〇ノ現狀ヲ妊娠セルモノトシテ、最終月經ヲ昭和五年十二月二十二日ヨリ起算スル時ハ、子宮ノ大サハソノ妊娠月數ト一致スルモノト云ハザルベカラズ。然レドモ子宮ニ於ケル妊娠徴候トシテ「ヘガール」氏及ビ「ビスカチエック」氏徴候ヲ缺キ、尙ホ柔軟トナルベキ子宮硬度方尙ホ硬キハ、最終分娩ヨリ既ニ十數年ヲ經タル事ニ起因スルモノナルカ、或ハ輕度ノ慢性子宮實質炎ノ存在セシニヨルモノナランカト考ヘラル。其ノ他乳房ノ妊娠ニヨル變化トシテハ、僅カニ乳頭及ビ乳暈ニ僅微ノ色素沈著ヲ窺フニ過ギザレドモ、コハ各人ノ身體的徴ニモヨルモノニシテ尙ホ十數年間ノ分娩後ノ期

産婦ニアリテハ、時ニ妊娠第四ヶ月ノ終リニ胎動ヲ感ズルコトアルモ、多クノ妊婦ニ於テハ到底望ムコト能ハザル事柄ナリ。故ニ吾人ハ妊娠第五ヶ月以後ニ於テハコレヲ確診シ得ルモノ、其ノ前半期殊ニ其ノ初期ニ於テハコレガ診斷確定ハ頗ル困難ナルモノニテ、カ、ル場合ニハ、上記不確徴並ニ半確徴ノ諸條件ヲ考慮シ、殊ニ月經ノ閉止、閉經期間ニ相當セル子宮ノ増大、及ビ變軟ノ状態、生殖器部位ノ妊娠性變化、悪心、嘔吐、嗜好ノ變化等ヲ注意シ、數回ノ診斷ニヨリテ初メテコレヲ決定シ得ルモノナリ。

上述セルガ如ク、妊娠ノ早期診斷ハ、比較的困難ナル状態ナルヲ以テ、コレニ對シ、古來ヨリ血清學的診斷法、生化學的診斷法、又木内氏尿診斷法等ヲ唱ヘラル、モ、未ダ醫學界ノ問題ニシテ、コレヲ信ジ、コレヲ應用シテ實際化シ、何等誤謬ヲ見ザル完全ナル方法ノ存在セザルコトハ頗ル遺憾トスル處ナリ。而シテ昨今唱ヘラル、「ホルモン」ニヨル妊娠診斷法ノ如キ約九八%ニ其ノ誤謬ヲ見ザルモノトシテ最モ優秀ナル方法ナリト稱セラル、ト雖モ、葡萄狀鬼胎、糖尿病者及ビ惡性脈絡膜上皮腫ノ場合ニハ、猶且ツ過誤ヲ生ズルモノナリト稱セラル。況ンヤ今コレヲ直ニ鑑定上ニ使用スルガ如キコトハ猶價ムベキ事柄ニシテ前途數年ノ醫學的研究報告ノ斷定ニ俟ツベキモノナリト思料ス。

一、續ツテ被告人梅〇ユ〇ノ身體的状況ヲ按ズルニ、ユ〇ハ生來比較的健康ニシテ認ムベキ著患ナク、二十一、二歳ノ頃子宮位置異常ノ存在セシガ爲メコレガ矯正手術ヲ受ケ、爾來二兒ヲ擧ゲタリ。而シテ第二兒分娩後既ニ約十三年間ノ夫婦生活ヲ營メルモ擧子無ク月經ハ正規ニ來潮シ居レリト云フ。然ルニ昭和五年九月二十三日ヨリ三日間ノ月經ヲ見、翌十月二十三日ニ至リ僅カニ半日位ノ月經樣出血ヲ來セルノミニテ爾來全ク經閉スルニ至レリ。爾來約五十日ヲ經テ屢ニ悪心ヲ來シ、時ニ嘔吐ヲ見タルガ、殊ニ早朝ノ空腹時ニ著明ナリト云フ。カ、ル身體的徴候ノ存在セルモ他ニ何等自覺的苦痛ナキノミナラズ昨今自然ニ其ノ症狀ハ減少セリト云フ。

間ヲ經過セルガ爲メニ、カカル状態ニアルモノナラント思考ス。

一、余ハ以上ノ事實ヲ綜括シテ考フルニ、月經ノ閉止ト子宮増大トノ關係、月經閉止後約五十日ヲ以テ終リタル惡心及ビ嘔吐、殊ニ早朝空腹時ニ於ケル嘔吐ノ存在スル事、月經閉止ノ状態、乳房ニ於ケル輕度ノ變化、舌尖及ビ上下唇ノ龜裂及ビ痲癩ノ存在スル事、子宮兩側ノ附屬器ニ異常ヲ認メガタキ事分泌物充進セル事、子宮腔部粘膜ノ一般ニ充血ヲ來セル事、而モ身體的諸内臟機關ノ認ムベキ疾病ナキ事等ヨリ、ユ〇ノ現狀ヲ考フル時ハ妊娠確徴トシテ何等認ムベキ一ツノ條件ナシト雖モ、余ハ被告人ユ〇ハ妊娠ニ非ザルカラ疑フモノナリ。

然レドモ、ユ〇ノ如キ第二兒分娩後、十數年ノ夫婦生活ヲ繼續シタルモ、猶擧子ナク、然モ年齢スデニ四十五歳ト稱スルガ如キ高年者ニアリテハ、時ニ慢性子宮實質炎其ノ他ニヨリ、子宮増大ヲ示スガ如キ疾病ナカリシヲ保シ難シ。以ツテユ〇ノ妊娠ヲ確定セント欲セバ尙ホ一定ノ時間的間隔ヲオキテユ〇ヲ診察シ、約二ヶ月間ノ後ニ至レバ、妊娠セルヤ否ヤヲ斷定シ得ルモノナラント考察ス。

三、鑑定

以上ノ事實ヲ基礎トシテ本件ヲ鑑定スルニ次ノ如シ。

一、被告人梅〇ユ〇ハ目下妊娠ノ疑ヲ有スルモ、今コレヲ決定スルコト能ハズ。

二、被告人梅〇ユ〇ノ現時ニハ、妊娠ノ確徴ナキヲ以テソノ月數ヲ定ムル事能ハズト雖モ、前記説明ニヨリ之ヲ推考シ、モシ妊娠シオレルモノトスレバ妊娠滿三ヶ月ノ終若クハ滿四ヶ月ノ始ニアルモノナラン。

之ノ鑑定ハ昭和六年一月十九日着手

同 年同月二十〇日終了

住 所

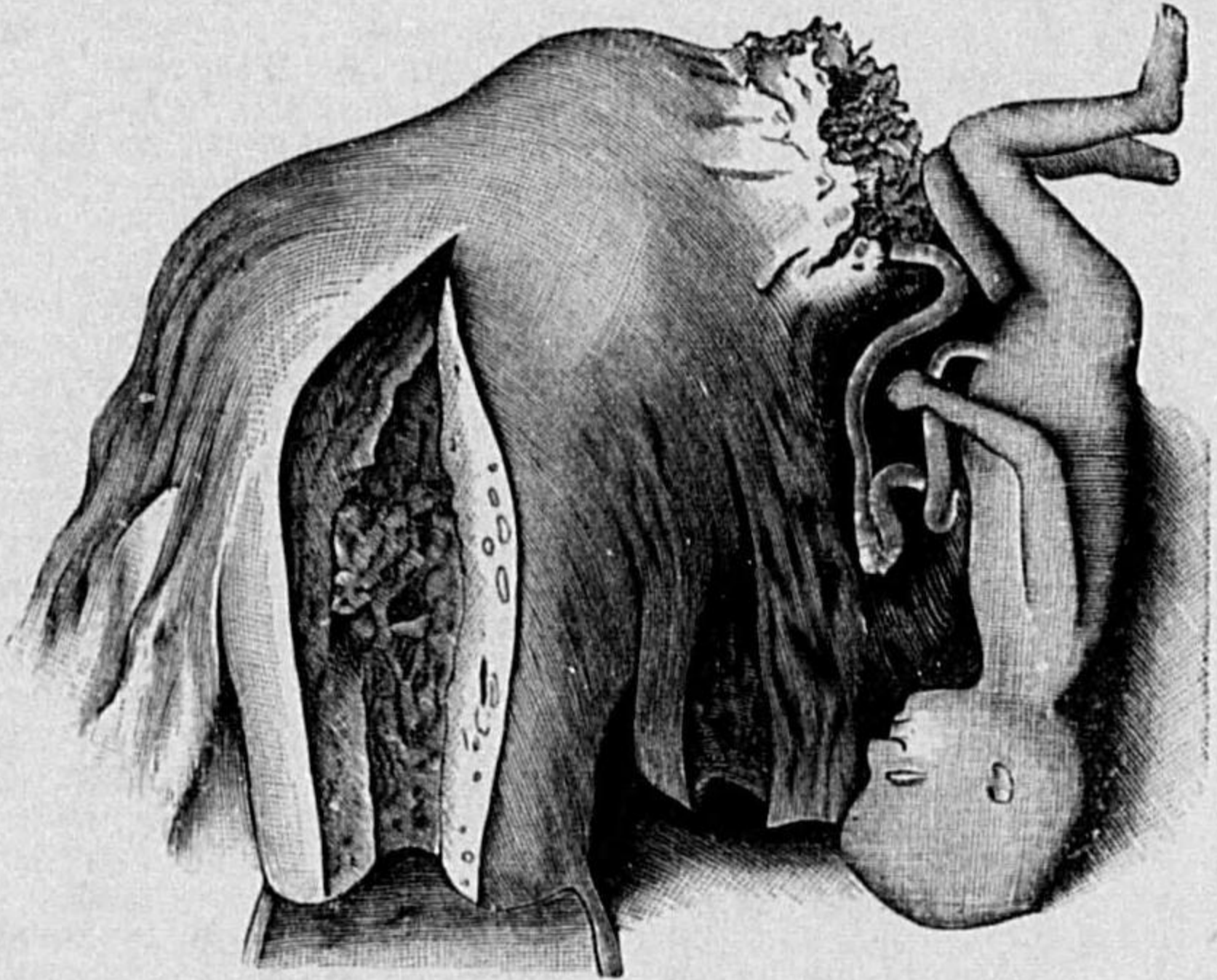
醫師 岸 松

郷 郎



戌、異常妊娠

(イ)重複妊娠 同経期重複妊娠トハ一月経期間ニ二以上ノ胎兒ヲ妊娠スルモノ、換言スレバ一卵ヨリ二兒ガ發育シ來ルモノト、稀ニ

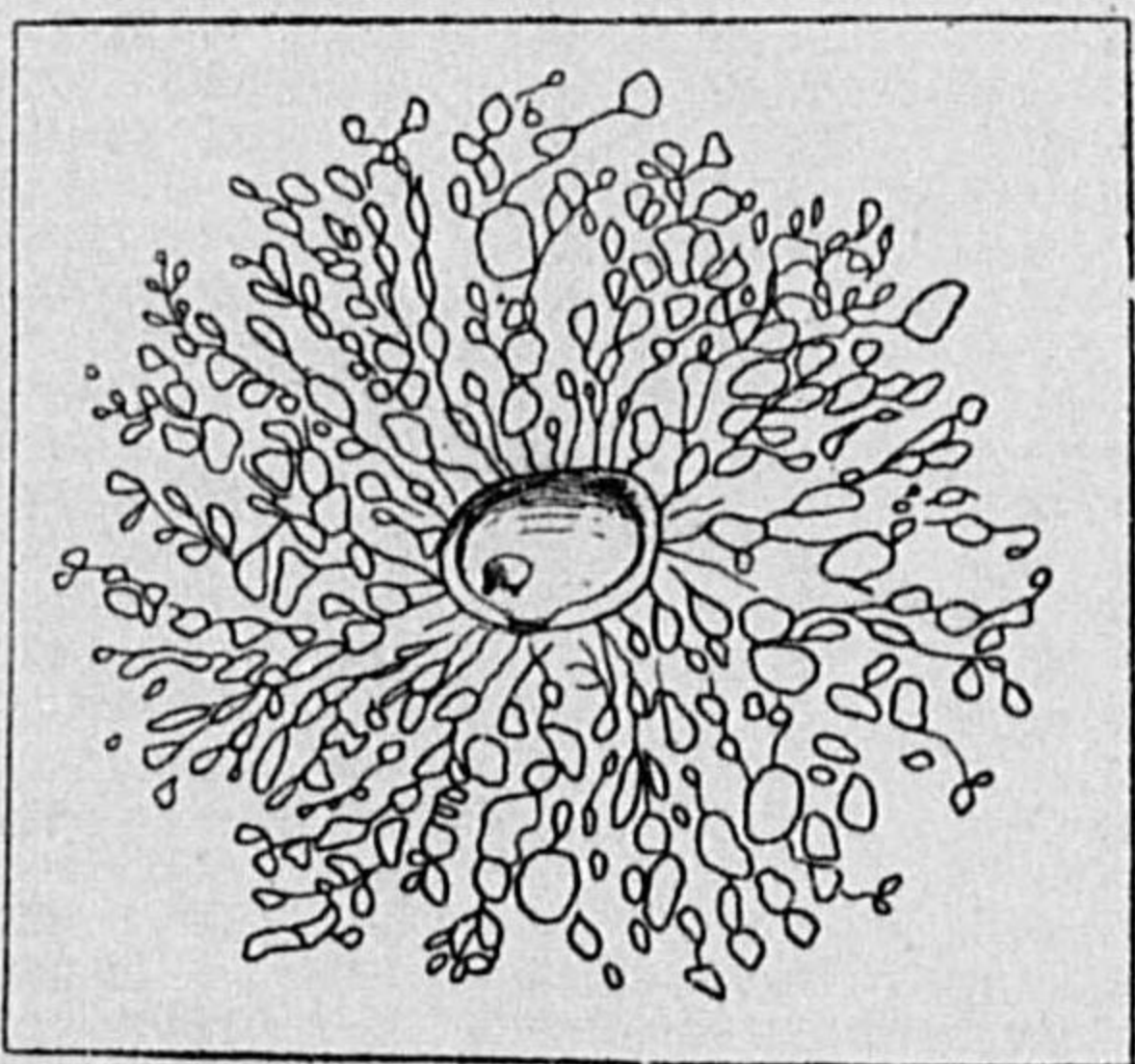


圖七十二百二第 娠妊間織組ルセ來ヲ裂破壁子宮ルケ於ニ月四第

二卵ガ相近ク排卵セラレテ共ニ受胎セルモノトアリ。異経期重複妊娠トハ月経期ヲ異ニシテ排泄セラレシ卵ガ各別ニ受胎セルモノヲ云

フト雖、現今多クノ學者ハ之ヲ不能ナリト主張セルモノアレドモ、重複妊娠ニテ一兒ガ白人ノ子ニシテ、他ノ一兒ガ黑人ノ小兒ナリシ例アリ、或ハ双胎兒ガ父ヲ異ニスル場合アリ。尙一卵性双胎兒ガ成人後非常ニ酷似セル爲メ、社會上種々ノ問題ヲ起スコトアリ。

(ロ)子宮外妊娠(通常喇叭管妊娠)ノ破裂シテ流産ニヨリ婦人ガ急死シ、往々法醫學



圖八十二百二第 胎鬼狀葡葡

上ノ問題トナルコトアリ、或ハ此時胎兒ガ都合ヨク腹腔内ニ落ち、時トシテ腹腔妊娠トナリ、所謂石胎兒ヲ形成シ、十數年モ母体内ニ止マリ

シ例アリ。

(ハ)鬼胎(葡萄狀鬼胎) コハ卵膜ノ疾患ヨリ來ルモノニシテ、是等ハ妊娠ノ始メニハ、ソガ眞ノ妊娠ナルヤ否ヤヲ鑑別スル事困難ナ

レドモ、時日ヲ經過スルニ從ヒ、胎兒ノ身體ヲ觸知スルコトナク、又ソノ心音ヲ聞クコトナク、運動ヲ感ゼザルヲ以テ、實際ノ妊娠ト區別スルコトヲ得ルナリ。

(ニ)想像妊娠 甚シク妊娠ヲ欲シ或ハ恐怖スル婦人ガ、想像ニヨリテ自身妊娠セリト思フコトアリ、コハ腹壁ニ脂肪ノ蓄積セルヨリ或ハ鼓腸又ハ腫瘍ヲ妊娠ト誤信スルモノニシテ、此ノ如キ人ニアリテハ往々乳房變化ヲモ見、或ハ陳痛等スラ感ズルニ至ルコトアリ。

(ホ)不覺妊娠 人事不省ノ間ニ交接サレテ妊娠シ、全ク之ヲ覺知セザルコトアリ、之レ眞ノ意味ノ不覺妊娠ニシテ、或ハ妊娠シナガラ無頓着ノ爲メ之ニ氣付カズ經過スルコトアリ コレニ依リテ種々ノ法律上ノ問題ヲ引起スコトアレバ注意スベシ。

(ヘ)妊娠ノ詐病 相手方ノ愛ヲ失ハザラントシ、或ハ何等カノ利益ヲ得ン爲メニ、空氣ヲ胃腸中ニ吞ミ込ミ腹部ヲ膨滿セシメテ妊娠ヲ詐病スルコトアリ。

八、分娩検査

民法第一條 私權ノ享有ハ出生ニ始マル  
同第七百三十三條 子ハ父ノ家ニ入ル  
父ノ知レサル母ノ家ニ入ル  
父母共ニ知レサル子ハ一家ヲ創立ス

分 娩

同第七百三十四條 父カ子ノ出生前ニ離婚又ハ離縁ニ因リテ其家ヲ去リタルトキハ前條第一項ノ規定ハ懷胎ノ始ニ遡リテ之ヲ適用ス前項ノ規定ハ父母カ共ニ其家ヲ去リタル場合ニハ之ヲ適用セス但母カ子ノ出生前ニ復籍ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス  
同第八百二十五條 否認ノ訴ハ夫カ子ノ出生ヲ知リタル時ヨリ一年内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス  
刑罰施行法  
第四十八條 刑事訴訟法第三百十八條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ  
第三百十八條ノ二 死刑ノ執行ハ檢事及ヒ裁判所書記ノ立會ニテ之ヲ爲ス可シ死刑ノ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルコトヲ得ス但檢事又ハ監獄長ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス  
第三百三十八條ノ三 死刑ノ言渡ヲ受ケタル者心喪失シタルトキハ司法大臣ノ命令ニ因リ其殘廢ニ至ルマテ執行ヲ停止ス  
死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懷胎ナルトキハ分娩後司法大臣ノ命令アルニ非サレハ執行ヲ爲スコトヲ得ス  
殺兒或ハ墮胎ノ場合、被告ガ近時經産セルモノナルヤ否ヤヲ定ムルコト必要ナル場合アリ、産中ニ於ケル婦人ヲ見レバ、彼ガ産中ナルコトハ明カナレドモ、法醫學的ニテハ産後相當ノ時間ヲ經テ、經産セルヤ否ヤヲ知ル必要アリ、一般ニ産後検査時迄ノ經過時間短ケレバ短キ程、明カニ之ヲ診定シ得ルモノニシテ、産直後ニハ外陰部ノ周圍ハ尙血液ヲ以テ汚染セラレ、陰唇ハ腫脹シ、陰門ハ開キ此所ニ往々裂傷アリ、腔粘膜ニハ皺襞少ク子宮口開キ此處ニ毛裂傷アリ、ソノ他體温上昇シ婦人ノ全身貧血シ、腹壁弛緩シ、褐線及妊娠

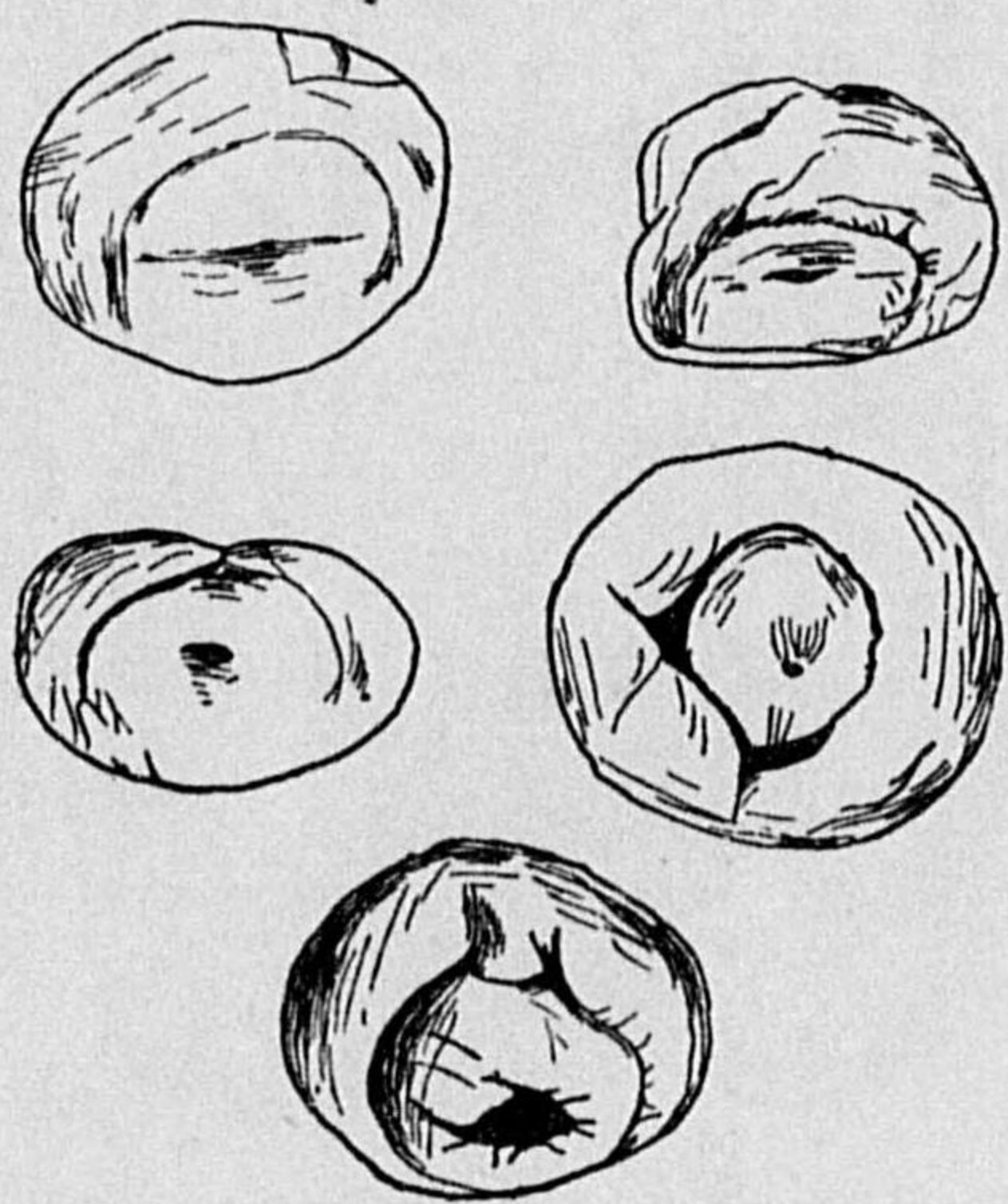


癍痕著明ニシテ、乳房ハ大トナリ初乳ヲ漏出スル等妊娠末期ノ徵候著明ナリ。

然ルニ是等妊娠及經産ノ徵候ハ産後時間ヲ經過スルニ從テ不明瞭

處女子宮口

經産婦子宮口



口宮子婦産經

トナリ、惡露ハ産後二、三日ハ血液様、同五、六日目頃ヨリ透明ノ肉汁様トナリ、同八、九日目頃ニハ灰白色トナリ、次第ニ粘性性ニ變ジ、略三週間ニシテ全ク惡露消失シ産後十日位ニシテ子宮口ハ閉チ、裂傷ハ一週間位ニシテ治癒シ、六乃至七週ニシテ子宮ハ原形ニ

第四百四表 産褥子宮ノ大サ

Table with 5 columns: 部位 (Location), 子宮底ノ高サ (Uterine fundus height), and 子宮體部廣徑 (Uterine body diameter). Rows include '分娩直後' (Immediately after delivery) and days 1-10.

第四百五表 Hensen 氏消息子ニヨル産褥子宮腔内ノ長サ

Table with 4 columns: 産褥日 (Postpartum day), 長サ (Length), 産褥日 (Postpartum day), 長サ (Length). Rows include days 1, 5, 10, 15, 20, 25, 30, 35.

復シ、而シテ産兒ニ哺乳スレバ一般ニ惡露尙早ク消失スト云フ。處女膜ハ大抵下半部裂傷ス、妊娠及經産ノ徵候トシテ最モ良ク殘存スルハ、褥線、子宮口及會陰ニ於ケル癍痕ナリ、併シ此三者ハ經産以外ノコトニテモ出來ルコトアリ。

經産婦ニ於テ、耻骨弓ヨリ子宮迄ノ長サ、子宮腔ノ長サ等ニ依リテ、産後幾日ヲ經過セシカヲ知ルヲ得ルコトアリ、今ソノ一例ヲ擧グレバ第百〇四五表ノ如シ。

但シ之レトテモ尿ノ充盈ノ度(尿量百ccニテ一cmノ差アリ)、或ハ個人ニ依リテ若干ノ差異アルモノナリ。

第百六表

Table with 4 columns: 産後ノ經過日數 (Days after delivery), 耻骨弓ヨリ子宮底迄ノ距離 (Distance from pubic arch to uterine fundus), 子宮腔ノ長サ (Uterine cavity length), 子宮壁厚 (Uterine wall thickness). Rows 1-11.

尙經産婦ヲ檢査シテ注意スベキハ、産ノ輕重、遲速、胎兒ノ位置、骨盤ノ状態、出血ノ大小、裂傷ノ有無、手術ヲ加ヘシヤ否ヤ及産婦ノ精神状態等ナリ。

死體ニ於テ經産婦ナルヤ否ヤヲ定ムルニハ、重ニ子宮ノ状態ニ依ルモノニシテ、産直後ナレバ子宮、産道ヲ一見スレバ直ニ判定ヲ下シ得ルモ、産後時間ヲ經過シタルモノナレバ子宮ノ大サ重量ヲ計リテ、ソヲ決定スルコトヲ得ルモノナリ、例セバ次ノ如シ。

分娩

第百七表

Table with 2 columns: 子宮 (Uterus) and 非經産婦 (Non-puerperal women). Rows include '長' (Length), '廣' (Width), '厚' (Thickness), '重' (Weight).

茲ニ私生兒認知ノ鑑定實例ヲ挿入シテソノ方法ヲ示サム。

第四十例 鑑定書

昭和〇年〇月廿四日〇〇地方裁判所〇〇支部民事部法廷ニ於テ同部長判事坂〇〇氏ハ原告大〇和〇被告橋〇壽〇間ノ昭和〇年(タ)第四號私生子認知請求事件ニ關シ左記事項ニ付キ鑑定スル様私ニ命ゼラレマシタ

鑑定事項

一、原告大〇和〇ト被告橋〇壽〇トノ血液ノ檢査及顔貌、指紋、掌紋、足紋其ノ他身體ノ特徴ニヨリ原告ト被告トハ實親子ノ關係アリヤ否ヤヲ判別スル事以上

檢査記録

一、唾液檢査 甲、血液型檢査 先ヅ二枚ノ硝子ヲ唾液ヲ以テ汚染セシメ之ニ何レモ抗A B血清ヲ一滴加ヘ數分後一方ニA型、他方ニB型血清ヲ各一滴加ヘマスト凝集シ(+)又ハシマセメ(+)トハ弱イ凝集デス。



私生兒認知鑑定例

Table with 2 columns: 標準血球 A, 標準血球 B. Rows show blood type results for A and B.

Table with 2 columns: 抗 A 血清, 抗 B 血清. Rows show agglutination results for A and B.

Table with 2 columns: A 血球, B 血球. Rows show blood type results for A and B.

二、血球検査

和ノ耳カラ探ツタ血ヲ直ニ〇・八五% 食鹽水中ニ浮游シ、毒〇、敏〇デハ腕カラ探ツタ血ノ一部ヲ〇・八五% 食鹽水デ浮游シ、一滴ニ對シ標準血清 A 及 B ヲ一滴ツツ加ヘテ凝集スルカ否カヲ見マシタ

三、口腔粘膜炎検査

硝子上ニ抗 A B 血清ヲ一滴ツツ置キ其ノ各々ノ上ニ口腔粘膜炎著布片ヲ一糶平方ニ切リテ置クコト數分ノ後之ヲ除キソノアト一方ニ A 血球他方ニ B 血球ヲ入レテ凝集起ルヤ(+) 否ヤ(-) ヲ見ル唾液ヲ口腔粘膜炎ハ自分ノ同型ノ血球ノ凝集ヲ妨ゲマスノテ他ノ血球ヲ以テ成績ト正反對ニナリマス。

以上血液型ノ検査ニ於テハ被告ヲ原告ノ父ト見テモ不合理デアリマセヌ。然シ未ダ之ノミヲ以テ父ト断定ハシ兼ヘマス。

乙、指紋検査

Table for fingerprint examination with columns for left and right hands, fingers, and ridge counts.

即チ男モ女モ略々同様ノ指紋デアツテ子供モ略々同様デアリマス。之モ父

關係子ヲ否定スルモノデハアリマセヌ。 丙、足紋検査

Table for footprint examination with columns for right and left feet, toes, and ridge patterns.

之等甲又ハ乙種蹄狀紋モ非常ニ隆線數少ク弓狀紋ニ似テ居ル。母ニモ男ニモ無キ渦狀紋ガ子供ニ一ツアラハレテ居ルガ之ハ確實ナ父子ノ間ニモ折々發見サル、コトデ之ヲ以テ父子關係ハ否定出來マセヌト云ツテ肯定スル事ニモナリマセヌ。

丁、顔貌検査

Table for facial appearance examination with columns for various facial features and measurements.

Large table for eye examination with columns for various eye features and measurements.

私生兒認知鑑定例

Large table for nose examination with columns for various nasal features and measurements.



Table with 10 columns and 17 rows detailing ear characteristics (耳) such as ear shape, earlobe position, and ear canal type. Includes numerical ratings and qualitative descriptions.

Table with 10 columns and 17 rows detailing foot characteristics (足) such as foot shape, arch height, and toe length. Includes numerical ratings and qualitative descriptions.

手

Table with 10 columns and 17 rows detailing hand characteristics (手) such as hand shape, finger length, and nail shape. Includes numerical ratings and qualitative descriptions.

Table with 10 columns and 17 rows detailing foot characteristics (足) such as foot shape, arch height, and toe length. Includes numerical ratings and qualitative descriptions.



Table with columns for body parts (全身), facial features (顔面), and blood (血液). Rows list specific measurements and findings, such as '眉毛' (eyebrows) and '鼻' (nose), with corresponding percentages and observations.

Table titled '右表ヨリ和ニ對スル類似率ヲ擧ゲルト' (Table showing similarity rates compared to the sum from the right table). It lists various blood types and characteristics with their respective similarity rates.

トイフコトニナリマス。和ノ眉毛ノ如キハ全然壽○ソノマ、デアリ一五點ノ検査ニ於テ一〇〇%類似シテ居マス。頭顱顔面ノぶろふいゝるナドモ和〇ハ母ヨリモ壽〇ニ一層似テ鼻ハ寧ろ和〇ト母ト似テ壽〇トノ近似性ガ少イガ耳ハ母トヨリモ壽〇ト和〇トノ方ガ餘計ニ似テ居マス。

検査項目總數一七五中和〇トノ類似率ヲ比較シマスト上ノ如クニナリマス。橋〇壽〇ト大〇敏〇トノ比較橋〇壽〇ト大〇敏〇トノ指紋トイヒ、掌紋トイヒ、眉ノ形ト云ヒ大分似テ居ル點ガアリマスカラ兩者ノ類似點ヲ數ヘマスト上ノ如クニナリマス。

Table with columns for body parts (全身), facial features (顔面), and blood (血液). Rows list specific measurements and findings, such as '眉毛' (eyebrows) and '鼻' (nose), with corresponding percentages and observations.

ナイガ親子ノ間ニハ必ス六〇%以上ノ類似ガアルト申シテ居リマス。本鑑定人ハ之ニ更ニ考案ヲ加ヘ西洋人ニ重要デモ日本人ニ重要デナイモノヲ省キ、西洋人ニ重要ナクトモ日本人ニ重要ナモノヲ選ビ合計一七五點ニツキ精細ニ比較シマシタ、之デモヤハリ他人ノ間ニハ似テ居ル點ガ多クテモ六〇%以上ニハ上ラヌ様デアリマス。

定シ得ル程度ニ似テ居リマス。もしあノ學者モ女ノ子ト父親トノ間及男子ト母親トノ間ノ類似率ハ同性親子間ノ類似率ヨリモ高イト申シテ居リマス。大體一年未滿ノ子供ト成人トノ比較ハ無理デアリマシテ子供ハドシシ成長シテ行ク爲メニ長短ノ比ナドハ成人ト違ツテ居リマス。諸所ノ長サ比較モ例ヘバ耳顱圍トノ鼻根後頭圍トノ間ニモ比デ比較セズ單ニ何レガ大デアるかト云フ點デ比較シタノハ此ノ爲メデアリマス。



一、原告大○和○ト被告橋○壽○トハ血液ノ検査及顔貌指紋掌紋、足紋其ノ他身體的特徴ノ比較ニヨリ實父子ノ關係ヲ有セルモノト認メマス。右鑑定日數ハ昭和五年六月二十四日ヨリ同年七月九日ニ至ル十六日間デアリマス。

昭和五年七月九日

長崎醫科大學法醫學教室

鑑定人 教授醫學博士 淺 田

一〇

九、墮胎検査

刑法第二百十二條 懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

刑法第二百十三條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以上五年以下ノ懲役ニ處ス

刑法第二百十四條 醫師、産婆、藥劑師又ハ藥種商、婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

刑法第二百五條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得シテ墮胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス  
刑法第二百十六條 前條ノ罪ヲ犯シテ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

墮胎トハ醫學的ニ云ヘバ胎兒ガ母體外ニ未ダ獨立ニ生存機能ヲ營ム能ハザル時期、例ヘバ妊娠二十八週以内ニ於テ、故意ニ藥物或ハ器械ヲ用ヒテ未成熟兒ヲ産出セシムモノニシテ、法律上ニハ墮胎ノ

標ニ輕重アルノミナリ、二十八週以前ノ胎兒ノ産出ハ、殆ンド腔及會陰ニ裂傷ヲ來スコトナシ。又墮胎後即チ産後幾日ヲ經過セシカヲ知ルニハ、已述ノ經産徴候ニ依ルベシ。

(口)産出物ノ検査

産出物ノ血塊ナルヤ胚胎ナルヤハ、之ヲ白色平血内ニテ水ニ浮遊セシメ検査スベシ、一般ニ卵ハ妊娠三ヶ月以前ニハソノママ娩出サレ、第四月ヨリハ普通ノ如ク破水シ、陣痛アリテ胎兒ヲ出シ次デ胎盤ヲ産出スルモノナリ。時トシテ第一ヶ月ノ卵ニテモ、破水シ出ヅルコトアリ、此際ハヨク精檢セザレバ膜様性月經困難ト誤ルコトアルベシ、又單ナル子宮出血ト墮胎後ノ出血トハ、之ヲ鏡檢スレバ絨毛様突起、或ハ脱落膜片ヲ發見スルヤ否ニヨリ、直ニソガ何レナルカ知ルコトヲ得、絨毛様突起ヲ檢スルニハ之ヲ水中ニテヨク擴ゲ載物硝子板上ニ載セ覆蓋硝子板ヲ被ヒ、ソノママ或ハめちれん青等ニテ染色シ、或ハ組織學的標本ヲ作成シテ之ヲ鏡檢スベシ、然ル時妊娠ノ初期ニハ絨毛突起ニハ血管ヲ認メザルモ三週以後ハ血管ヲ生ジ、又細胞ノ配列モ初メハ單ナルモ次ニ複雑ナル、是等ノ状態ヲ仔細ニ檢スレバ絨毛様突起ノ状態ニ依リテ、ソガ妊娠ノ初期ナルカ、或ハ末期ナルカヲ知ルコトヲ得、同様ニシテ脱落膜細胞ヲ検査

墮胎

罪ハ自然ノ分娩期ニ先ダチ人爲ヲ以テ胎兒ヲ母體ヨリ分離セシムルニ依テ成立シ、ソノ結果トシテ胎兒ガ死亡スルト否トハ、犯罪ノ成否ニ影響ヲ及ボスコトナシト解釋シアリ。墮胎ノ疑アル場合、醫師ノ検査スベキハ次ノ四項ナリ。  
一、婦人ハ實際妊娠ナリシヤ否ヤ、  
二、墮胎ヲ試ミシヤ或ハ之ニ成功セシヤ、  
三、墮胎ハ自然ニナリシ者ナルヤ、或ハ故意ニ行ヒシモノナルヤ、  
四、墮胎ノ結果、  
婦人ガ實際妊娠セリヤ否ヤノ徵標ハ已ニ述ベタリ、妊娠セザル婦人ニ墮胎ノ試ミヲナシタル際ハ、自ラ問題ト異ナレバ、先ヅ以テ妊娠ノ有無ヲ決定スルノ必要アルナリ、次ニ墮胎ヲ試ミシヤ否ヤハ、母體ト胎兒ト共ニ檢スレバソノ鑑定甚ダ容易ナリト雖、一方ノミヲ以テ之ヲ判定スルハ困難ナル事業ナリ。

(イ)母體検査

妊娠日數多クナル程墮胎後母體ニ於ケル變化著シクナル故診斷容易ナリ、妊娠後四乃至八週ニテハ卵ニ小サク、分娩セラルルモ生殖器ニハ著變ヲ起サザル故、之ヲ月經又ハ病的出血ト區別シ難シ、四乃至七ヶ月ノ胎兒分娩ト成熟兒ノソレトハ、ソノ娩産作業及ソノ徵

スベシ。

モシ胎兒ヲ見出セバ其大サ、重量等ニヨリテ妊娠月數ヲ判定スベシ。今胎兒ノ大サ、胎盤ノ重サ、臍帶ノ長サ等ニ依リテ妊娠月數ヲ判知スベキ表ヲ示セバ左ノ如シ。

第百八表

Table with columns for pregnancy month (e.g., 第十四日, 一ヶ月, etc.) and rows for fetal weight (胎兒ノ重サ), placental weight (胎盤ノ重サ), and umbilical cord length (臍帶ノ長サ). It includes numerical data for each month.

第百九表 各妊娠月ニ於ケル胎兒ノ變化

Table with columns for pregnancy month (第一月末, 第二月, etc.) and rows for fetal size (胎兒ノ大サ), placental size (胎盤ノ大サ), and umbilical cord size (臍帶ノ大サ). It includes descriptive text for each month.







生命ヲ脅威シタル場合ノ如キ之レナリ、後者ハ又豫防的適應症トモ云ヒ、或期間ノ内ニハ必ズヤ妊婦ニ到來スベキ大危險ニ面シタル場合、例ヘバ稍重症ナル肺結核アリテ妊婦ト同時ニ妊婦ガ到底之ニ堪ユル能ハザル時、妊娠中絶ヲ企ツル場合ノ如キ之レナリ。

第四十一例 鑑定書

昭和〇年〇月〇日〇地方裁判所檢事〇木〇郎ハ〇田〇郎〇野〇ル〇田〇雄ニ對スル墮胎被疑事件ニ付キ一件記録ニ査閱シテ一、〇田〇雄ハ母體保護ノ爲メ流産セシメタリト供述致スモ右供述相當ナリト認メラルルヤ否ヤヲ鑑定スベキ旨ヲ余ニ囑託セリ、仍リテ余ハ先ヅ同記録ヲ査閱シ次デ今日産科學ガ教フル所ヲ參考シ彼是綜合シテ此鑑定書ヲ作成ス。

甲、本件ノ大要

一、昭和〇年〇月〇日付〇野〇ル〇田〇雄取書ニヨレバ(前略)私ハ〇亭方ニ雇ハレ本年二月初旬頃同家主人〇田〇郎當五十五歳位ト始メテ情交關係シ其後五月初旬ニ至ルマデ繼續シテ居リマシタガ、其ノ間三月頃ニ月經ガ止リ妊娠ノ事實ヲ知ツタノデアリマス。〇田サントハ毎月二回カ三回位宛關係シテ居リマシタガ三月ニアルベキ月經ガ止マリ其後腹ガ漸次大キクナルノデ始メテ妊娠ノ事實ヲ知ツタノデアリマス(後略)トアリ、即チ五月二十日頃〇田ハ〇ルニ勸メテ墮胎セシメント企テ醫師〇田〇雄ニ診察セシメタルニ同醫師ハ〇ルニ微毒ノ爲メ腹内ニ膿アルニヨリ之ヲ掻浚ハネバナラヌトノコトニテ翌晩〇ルガ〇田醫師ヨリ粉藥ヲ貰ヒ服用シタルニ翌朝ニ至リ腹痛アリシ故ソノ晩同醫師ヲ訪問シタルニ同人ハ〇ルヲ腰掛ケニネサセ兩足ヲ開カセカキテ手術後モノニテ顔ヲ掩ヒタル後びんせつと様ノモノヲ陰部内ニ入レカキ廻シ手術後出血スルモ之ヲ人目ニ付カヌ所ニ捨ツベク命ジタルガ〇ルハ其後三日間出血シ腹痛アリ下血シ三寸位ノ血塊ヲ出シタリト。

ニアリタリト云ハザルベカラズ。即チ〇田醫師ハ同日よりどほるむがーゼ檢案法ヲ以テ〇野〇ルニ對シ排卵法ヲ施シ遂ニソノ目的ヲ達セシモノナリ。

乙、說明

- 五、蓋胎盤完成期前ニ於ケル流産ハ一般ニ出血ヲ以テ始マリ、此ノ出血ハ妊娠ノ子宮壁ヨリ剝離シテ起ルモノニシテ漸次其量ヲ増スヲ常トシ概シテ妊娠月數ヲ重メルト共ニ出血量ヲ増シ時トシテ其ノ量ノ驚クベキモノアリ、且ツ出血ニ前後シテ子宮收縮ニヨリ下部壓感乃至疼痛ヲ訴フルモノニシテ、妊娠ハ益々子宮ヨリ剝離サルヲ以テナリ。
- 六、而シテ一般ニ流産トハ妊娠二十八週以前ニ起ル早期中絶ヲ總稱シ此ノ期ニ於テハ胎兒ハ未ダ子宮外生活ニ堪ヘザルモノニシテ、妊娠始メノ三ヶ月ニ最モ多ク殊ニ妊娠三ヶ月ニ於テ起ルモノ大略ソノ半數乃至過半數ヲ占ム、斯ク妊娠始メノ三ヶ月間ニ中絶ノ多キハ妊娠ト子宮壁トノ附著ガ未ダ強固ニアラザルガ爲ニシテ、本件ニ於テ〇野〇ルガ自然ニ流産徵候ヲ現ハスニ至リシ過勞ヲ考フル時、一般の流産原因トシテ母體ニ於テハ過勞、房事過度、子宮内膜炎、母體ノ急性熱性病、心臟病、微毒、胚胎ニ於テハ卵膜疾患、胎盤ノ出血、微毒及變位其ノ他子宮ノ機械的刺戟(外傷)、精神感動、藥劑及中毒等諸因アルヲ以テ〇野〇ルニ於テハ何レガ原因ナリシカ本件記録ノミヲ以テ之ヲ知ルコトヲ得ズ。
- 七、斯クシテ醫師ガ患者流産ノ徵候ヲ來セル事ヲ推定シ得レバ、未ダ妊娠ノ排出ナキカヲ確メ妊娠持續可能ナリヤ否ヤヲ決定セザルベカラズ、此ハ陣痛ノ有無出血ノ多少、子宮頸管閉閉等ニ注意シ各事ヲ綜合シテ始メテ妊娠繼續ノ能不能ヲ決定スベク、殊ニ子宮頸管ノ状態ニ注意スルコト肝要ニシテ〇田〇雄供述ノ如ク〇野〇ルガ子宮出血、腹痛ヲ訴ヘ子宮口ハ小指ガ裕々遺入ル丈ケ開大セリトセバ流産ハ達ニ回シ難ク妊娠繼續ノ望ミナキモノトシテ敢テ人工的介助ヲ施ス事ナク、患者ニ安靜ヲ命ジ定期的ニ發來スル子宮收縮ヲ阻害スルガ如キ處置ヲ避ケ一般經過ヲ監視スルヲ最良策トセザルベカラズ且

墮胎

- 二、昭和〇年〇月〇日〇田〇雄取書ニヨレバ同五月十四日同醫師ハ〇ルヲ初診シタルガ子宮淋及妊娠三ヶ月ナリシカバ單ニ腫ノ洗滌ヲナシタタルニ越エテ同月二十二日來診ノ際ハ子宮口開大シ月經様出血アリ流産ノ症狀ヲ呈シ居レル爲メよりどほるむがーゼヲ子宮内ニ挿入シ置キタルニ即日産出物アリタリト報告ヲ受ケタリト又昭和〇年〇月〇日付同醫師取書ニヨレバ(前略)私ハ〇野ヲ婦人科診察臺ニ載セテ仰向ケニ疑カセ腔内ニ手指二本ヲ挿入シ右手デ下腹部ヲ壓シ妊娠三ヶ月ノ初メアル事ヲ診定致シ其ノ事ヲ〇野ニモ告ゲマシタ……其當時ノカルテニヨルト〇野ノ自覺症狀トシテハ次ノ如ク訴ヘテ居リマシタ、月經ハ本年二月頃ニアリ三月中頃ニハ少シクアリ四月五月ニハ全然ナク從來ノ月經ハ凡ソ七日間續イテアルトノ事デ又十日程以前カラ腹ガシクシク痛ミ食慾不振ニシテ時折ムカツキガアルトノコトヲデシタ……五月二十二日〇野診察ノ際ハ前日ヨリ腹痛流血甚ダシトノコトナカリシカバよりどほるむがーゼヲ流産鉗子ニテ子宮腔内ニ差シ入レ置キタルニ即日血塊下リテ藥ニナツタ云々トアリ。
- 三、即〇野〇ルハ〇田〇雄初診時ニ於テハ妊娠初期ニアリシモノナルベシ、而シテ彼ノ女ガ〇田醫師ニ診ヲ乞フ迄腹痛下血等ヲ訴ヘズ同醫師モ初診時(五月十四日)ニハ子宮淋及妊娠三ヶ月以外子宮共ノ他ニ身體的ノ異常ナク單ニ臨洗滌ニ止メタルヨリ見レバ初診時ニ於テハ〇野〇ルニハ未ダ流産徵候ハ存ゼザリシト認ムベキモノナリ。
- 四、然レドモ〇野〇ルガ五月二十二日第二回目診察ノ翌朝頃ヨリ腹痛ヲ訴ヘ困リテ再三〇田醫師ヲ訪問セル状態ヲ以テ見レバ、其ノ當時ニハ流産ニ至ル前驅的症狀ト稱スベキモノ存シ例令多少ノ出血ハアリタリトスルモ本人ニハ氣附カザル程度ニテ未ダ流産開始ノ時期ニアラザルベク〇田〇雄ガ五月二十二日再び本人ガ參リ其ノ際診察ノ結果月經様ノ出血アリ流産ノ症狀ヲ呈シ居ルヲ認メ小指ガ裕々遺入ル丈ケ子宮口開大セリト云フ事ヨリシテ彼ガ云フ第二回目診察時即チ手術直前ニ於テハ明ナル流産徵候存シ而モ流産開始時期

- ツ人工流産ハ決シテ輕易ナル危險ナキ手術ナリト云ヒ難キモノナルベナリ。
- 八、然レドモ流産正當ノ經過ハ種々ナル原因殊ニ不當ナル處置ニヨリテ屢々異常ノ經過ヲトリ延ヒテ母體ノ危險ヲ招クニ至ルモノニシテ、異常經過ノ主ナルモノトシテハ強出血、妊娠排出遲延或ニ排出不全ト子宮内傳染ナリ。
- 九、即チ強出血ハ流産ニ際シ往々來リ患者ニ高度ノ急性貧血ヲ招致セシムル事アリ、此ノ如キ強出血ハ多ク胎盤完成後ニ於ケル流産ノ際ニ見ルモ亦往々ニシテ妊娠初期流産ノ際ニモ見ラルル事アリ、一般ニ流産時ノ出血ハ妊娠月數ニ比例シテ強激トナルモノナルガ、正規分娩ニ比シテ失血死ノ危險ハ遙ニ少ナキモノナリ。然レドモ強出血ハ母體抵抗ヲ甚ダシク減弱セシメ延ヒテハ傳染ノ危險ヲ大ナラシムルモノニシテ從ツテ出血又豫後ノ良否ニ關係スル所大ナルハ明白ナリ。
- 十、遷延性流産ハ妊娠ノ排出ガ甚ダシク遷延シ數日乃至週餘ニ互ルモノニシテ、此場合出血ハ少量ナガラ持續スル爲メ患者ノ多クハ貧血ニ陥リ排出遷延セル妊娠ハ子宮内ニ血液ノ滲淫ヲ受ケ血塊塊胎、次デハ肉狀塊胎トナリテ娩出サル、斯ク流産ガ遷延スルモ妊娠ハ多クノ場合一、二週ノ内又ハ比較的稀ニハ遲クモ數週後ニ自然ニ排出サル、モノナルガ時トシテ出血陣痛共ニ全ク停止シ一度開大セル頸管モ再び閉鎖シ子宮モ亦縮小セル儘既ニ死亡セル妊娠ガ月餘稀ニハ數ヶ月ニ互リ子宮内ニ殘留スルコトアリ。
- 十一、胎兒ガ娩出サルルモ胎盤膜乃至胎盤ハ全部或ハ一部ガ子宮内ニ殘留スルモノヲ不全流産ニ際シ屢々遺殘絨毛膜ヨリ惡性脈絡膜上皮腫等發生シ頑固ナル強出血ヲ招ク事アリ。
- 十二、妊娠又ハ其ノ附屬物ガ子宮内ニ稽留セル時ハ此レト腔腔トハ開大セル頸管ヲ以テ交通セル爲メ早晩子宮内傳染ヲ招キ、ソノ爲メ患者ハ熱發シ惡臭アル分泌物ヲ洩ラスニ至ル、此ノ傳染タルハ正規分娩ニ於ケル如ク分娩終了後ニ行ハル、事少ナク、多クハ流産經過中殊ニ遷延性不全流産ノ際ニ招致サル、モノニシテ而モ其ノ豫後危險ハ正規分娩ニ比シ遙ニ大ナルモノナルコト



ヲ忘ルベカラズ。各種病原菌殊ニ化膿菌、腐敗菌ハ其好培養地タル遺殘組織内ニ蕃殖シ菌ノ毒力強キ場合ハ組織ノ深部ニ侵入シ延ヒテハ血行淋巴行ニヨリ周圍ニ迄傳播シ甚ダシキ場合ニハ全身傳染ヲ來シ、汎發性腹膜炎、敗血症、膿毒症ヲ惹起シ患者ノ死ヲ招クカ或ハ幸ニ病限局シ骨盤結締織炎附屬器炎等ヲ招致シ、患者ヲシテ長日月病牀ニ呻吟セシメ一生涯不治ノ疾患ヲ胎シ或ハ不妊症ノ基ヲ作ルノニシテ何レニセヨソノ害實ニ恐ルベキモノナリ。

十三、統計ノ示ス所ニ依レバ一般流産ノ一%、有熱流産ノ五%ハ死亡シ、前者ノ一%、後者ノ二%ハ產褥疾患ヲ招キ多クハ生涯不治ノ生殖器疾患ヲ殘スト云フ。尙又生殖器系ノ炎症疾患ノ約八分ノ一ハ流産時ノ傳染ニヨルモノト見做サレ其結果屢々不妊症ヲ招クハ當然ノコトニシテ、流産患者ノ約一%ハ續發性不妊症ニ陥ル事實ハ流産ノ傳染ガ如何ニ危險ナルモノナルカヲ推知シ得。年々有爲婦人ノ少ナカラザル數ガ流産時ノ傳染性疾患ニヨリ倒レ或ハ難治不治ノ疾患ヲ招キテ憂鬱ナル生涯ヲ送ル運命ニ到ル事ハ疑ヒナキ所ナリ。

十四、故ニ田○雄ガ○野○ルニ流産發候存シ妊娠持續不可能ナリト認メ一方母體ニハ他ニ身體的異常ナクトモ將來出血ノ爲メ母體衰弱ヲ來シ抵抗甚ダシク減弱セシメ延ヒテハ子宮内傳染ノ危險ヲ大ナラシムル事ヲ豫斷シ以テ妊娠排出法ヲ施行シタリトセバ該法ハ母體保護ノ爲メニセシモノト云ハザルヲ得ズ。

十五、然シ一般成書ニハ○田○雄ノ施行セシヨトぼるむガ一ゼ檢察法ハ主トシテ子宮頸管開大及止血ノ目的ニ使用シ、通常八時間乃至十時間毎ニガ一ゼヲ交換シ自然分娩ヲ待ツベキ消極的處置ニシテ頸管粘膜炎損傷スルコト多ク、加フルニ子宮内傳染ヲ來タス危險多キモノトシ餘リ屢々用ヒラル、方法ニアラズト記載サル、ヲ以テ、若シ○田○雄供述ノ如ク手術前患者ノ子宮口ガ小指ヲ容易ニ入ル程度ニ開大シ出血多キヲ認メ、此際出血ヨリ來ル母體衰弱ヲ未然ニ防止セント欲セバ一刻モ早ク子宮内ノ内容物タル妊娠ヲ排出スル積極的處置、即チ機械的妊娠排出法ヲ施行スルガ至當ナラン、即チ見方ニ

ヨリテハ○田醫師ガ○野○ルニ對シ行ヒタル排卵法自身ハ適當ナルモノト云フコトヲ得ズ。

丙、檢案

以上ノ事實ト理由ニヨリ○田○雄ハ○野○ルガ流産シ妊娠持續ノ望ミナク、將來出血ノ爲メ母體衰弱ヲ來シ抵抗甚ダシク減弱セシメ延ヒテ子宮内傳染ノ危險ヲ大ナラシムルコトヲ豫斷シ、以テ妊娠排出法ヲ施行シタリトセバ該法ハ母體保護ノ爲メニセシモノト見做スコトヲ得。

此ノ檢案ハ昭和○年○月○日著手  
同 ○年 ○月○日終了

昭和○年○月○日

京都市○京區○町○番地  
鑑定人 醫師 小南又一郎

故ニ醫師ガ妊娠婦人ニ此適應症アルヤ否ヤヲ決定センニハ、其診斷ト豫後トヲ完全ニ知悉スベク、全然醫學的の見地ニ立チ、毫モ社會的事情ヲ顧慮スベカラズ、今醫術的妊娠中絶ノ適應症ト見做サレタルモノヲ、茲ニ表示スレバ概ネ左ノ如シ。

第一百十表

- (一) 生殖器性適應症
  - (イ) 妊娠中毒症
  - (ロ) 卵ノ異常
  - (ハ) 常習性胎兒死亡
  - (ニ) 羊水過多
  - (ヒ) 死胎稽留
  - (ヘ) 妊娠子宮ノ位置異常
  - (ホ) 急速法—腔式帝王切開術等
  - (ト) 鼠蹊子宮(ヘルニア)
- (二) 惡阻
- (三) 子嗣
- (四) 其他ノ異常中毒症
- (一) 惡性貧血
- (二) 血液病
- (三) 血友病
- (四) 惡性貧血
- (五) 脚氣
- (六) 流行性感冒
- (七) 精神病
- (八) 多發性神經炎

(一) 成熟胎兒及產道ノ大サ不權

- (一) 產道ノ腫瘍
- (二) 狹骨盤
- (三) 內科的適應症
- (イ) 肺結核及喉頭結核
- (ロ) 心臟瓣膜病
- (ハ) 腎臟病
- (ニ) 腎臟腎
- (ヒ) 眞性腎臟炎
- (ヘ) 腎盂炎
- (一) 舞蹈病(重症)
- (ホ) 重症糖尿病
- (イ) 血液病
- (ロ) 惡性貧血
- (ハ) 白血病
- (ニ) 血友病
- (ヘ) ハセード氏病
- (チ) 脚氣
- (リ) 流行性感冒
- (ス) 精神病
- (ル) 多發性神經炎

重症タルベシ

此等ノ疾病アリタル際ヨク診斷ノ上、妊娠中絶ヲナスニアラザレバ、何レカノ生命ニ危險アリト思ハルレバ、成ルベク二人以上ノ醫師ニヨリテ之ヲ決定シ、決シテ獨斷ニテ之ヲ行フベカラザルコトハ己ニ前記セルガ如シ。

今我國ニ於テ行ハレタル人工妊娠中絶ニシテ合法的ナルモノヲ、大正七年ヨリ大正十年ニ至ル四ケ年間、二十二病院ニ於ケル材料ニ基キ、久保徳太郎氏ノ作成セル統計ヲ舉グレバ左ノ如シ。

妊婦總數四三一八八人中妊娠中絶ヲ行ヘルモノ一二八三例アリ、其原因中數多キモノヨリ、順次ニ列舉セバ、肺結核、惡阻、死胎、葡萄狀胎、妊娠腎、腎臟炎、心臟病、子宮ノ位置異常、惡性貧血、

多發性神經炎、精神病、糖尿病、ばせどー氏及舞蹈病ノ順序ニシテコハ主トシテ出産困難ヲ顧慮シテ入院セル妊婦ヨリ取りシ統計ナルコトヲ忘ルベカラズ。

而シテ人工妊娠中絶法トシテハ次ノ諸法アリ。

- (一) 緩慢法
  - (甲) 頸管ノ鈍性擴大、内容排除
  - (乙) 陣痛促進法 1.メトロイリントル挿入 2.ブヂー挿入 3.卵膜穿刺法
- (二) 急速法—腔式帝王切開術等

尙此等實行ノ際ハ傳染ヲ起サズ、出血ヲ成ルベク少クシ且副損傷ヲ避ケ、卵成分ヲ子宮内ニ遺殘セザル様注意スベシ。

岡林氏ノ記スル所ニヨレバ人工的ニ妊娠中絶ノ手術ヲ行フモ被術者ノ體質、疾病ノ種類乃至妊娠期及手術法ノ如何ニヨリテ、胎兒分娩ノ遲速ニ大ナル關係アルモノニシテ、單ニぶーじノ挿入ニヨリテ流産ヲ來セシ患者ニヨリテ、同氏ノ作成セル統計ハ概ネ左ノ如ク、以テ墮胎手術ヲ施セルモノニ來ル分娩期ヲモ察知スル參考トモナラン。

尙疾病ソノ他ノ關係ニヨリ人工妊娠中絶ニ難易アリ。例ヘバ第一百十一表乃至第一百十二表ニ於ケルガ如シ。



表一十百第

術後経過ニ至ル日數	症名						
	心臟疾患	腎臟病	肺結核患者	その他	不明	合計	割合
一日以内	二例	八例	五例	十例	三例	三十一例	三十一%
二日以内	三例	八例	五例	十例	三例	三十一例	三十一%
三日以内	三例	八例	五例	十例	三例	三十一例	三十一%
四日以内	三例	八例	五例	十例	三例	三十一例	三十一%
五日以内	三例	八例	五例	十例	三例	三十一例	三十一%
六日以内	三例	八例	五例	十例	三例	三十一例	三十一%
七日以内	三例	八例	五例	十例	三例	三十一例	三十一%
七日以後	三例	八例	五例	十例	三例	三十一例	三十一%

次ニ人工妊娠中絶術施行後、分娩ニ至ル迄ノ時間ハ妊娠週ノ長短ニヨリ差アリ  
 第百十三表ニヨリテ見レバ妊娠末

第百十二表

妊 娠 週	術後経過ニ至ル日數						
	第一日以内	第二日以内	第三日以内	第四日以内	第五日以内	合計	割合
第一週	1	1	1	1	1	5	5%
第二週	1	1	1	1	1	5	5%
第三週	1	1	1	1	1	5	5%
第四週	1	1	1	1	1	5	5%
第五週	1	1	1	1	1	5	5%
合計	5	5	5	5	5	25	25%

期ニハ人工中絶ヲ起シ易ク、初期ニ在リテハ困難ナルコト明カナリ、尙自然的流産ハ妊娠ノ何時頃、最多ク來ルカハ次表ヲ参照スベシ。

第百十三表

妊 娠 週	自然性流産
第一週	13
第二週	14
第三週	15
第四週	16
第五週	17
第六週	18
第七週	19
第八週	20
第九週	21
第十週	22
第十一週	23
第十二週	24
第十三週	25
第十四週	26
第十五週	27
第十六週	28
第十七週	29
第十八週	30
第十九週	31
第二十週	32
第二十一週	33
第二十二週	34
第二十三週	35
第二十四週	36
第二十五週	37
第二十六週	38
第二十七週	39
第二十八週	40

ヲ嚴禁セラレタル爲メ、我國ノ人口ハ急進的ニ増加スルニ至レリ。尙墮胎ハ歐米ニモ甚ダ多ク、殊ニ世界大戰後ソノ傾向益甚シク、近年獨逸ニテハ一年ニ五十萬乃至百萬ノ墮胎行ハレ、特ニ伯林ニ於テハ正産百ニ對シ墮胎九十二ノ割合ニシテ、ソノ内起訴サル、モノハ五分の一ナリト云フ。

故意ニ犯罪的ニ行フ墮胎ノ方法トシテハ、藥物ヲ用ユルモノ、器械的ニ墮胎スルモノ及折衷法ノ三アリ。

(甲) 藥物的墮胎 獨特ニ墮胎ノミヲ來ス藥品ハ尙未ダ發見セラレズ、多クノ藥品ハ母體ニ甚シキ障害ヲ起シ、ソノ反射作用トシテ子宮ノ收縮ヲ來シ次デ墮胎ヲ招來スルモノナリ、即チ藥物的墮胎ト稱セラル、モノハ全身ニ中毒作用ヲ起シ、ソノ爲メニ直接或ハ反射作用ニヨリ子宮ノ收縮ヲ來シ胎兒ヲ娩出セシムルモノナリ、或ハ胎兒ヲ死ニ致シ、墮胎セシムルモノアリ、例ヘバもるひね中毒ノ時ノ如キ之レナリ。今墮胎藥ノ重ナルヲ擧グレバ、催陣劑トシテびろかるびん、ナトリウム、びくろときしん、にこちん、麥角等、子宮收縮劑トシテヤラツバ、盧薈、くろとん、さびな等、次ニ胎兒ニ中毒シテ墮胎ヲ來スモノトシテハもるひね、こつふえいん、沃度加里、水銀、臭素加里、石炭酸、くろゝぼるむ、ざり

茲ニ興味アルハ最終月經第一日ヨリ起算セル妊娠各週中ニ於テ、人工的茲ニ自然的妊娠中絶術ヲ行ヒ、分娩スル迄ニ要スル時間ハ、其週ノ最終日ニ行ヒタルモノ最モ長期ヲ要シ、各週第一、第二、第三日ニ行ヒタルモノ之ニ次ギ、第四、第五、六日ニ行ヒタルモノニ在リテハ、術後三日以内ニ娩出スルノ傾向アルガ如キコトナリ。

第百十四表

術後経過ニ至ル日數	妊娠中絶ヲ行ヒタル日數					
	第一日	第二日	第三日	第四日	第五日	第六日
第一週	4	3	4	4	3	3
第二週	1	2	4	2	6	3
第三週	1	1	5	2	4	3
第四週	0	1	4	2	6	3
第五週	5	3	1	5	4	3
第六週	6	1	4	2	3	3
第七週	7	0	0	1	4	3
第八週	2	0	1	2	4	3
第九週	3	0	2	6	3	3
第十週	1	2	3	5	3	3

(二) 犯法的墮胎

我國最古ノ法典タル大寶令ニハ墮胎ニ關スル記載ナク、從ツテ我國ニ於テハ往古墮胎ハ殆ンド公行セラレタルモノ、如ク、始メテ貞永式目ニ人胎ヲ下ロスモノハ二年ノ刑ニ處スト記シ、次デ徳川家光ノ正保三年ニモ子ヲ下ロスヲ禁ズト公布サレシモ、各藩ニ於テ墮胎乃至殺兒ニヨル産兒制限ハ半バ公認セラレ、江戸ニ於テハ招牌ヲ擧ゲテ墮胎ヲ業トスルモノアリシト云ヒ、明治時代ニ至リテ初メ之

ちいる酸、黃血鹽、鉛、燐、亞硫酸等、俗用墮胎劑トシテハにはひ、ば、てれびん、さふらん、燐、ゆにべるす、沃度、芥子、紅、このてかしわ、蛇ノ日影干、膽腦、艾菊、よもぎきく、芸香、莞、苦、桃仁、鐵液、なべすみ及俗用通經劑等ナリ。

(乙) 器械的墮胎 此方法ハ卵ヲ損傷シ、或ハ子宮ヲ器械的ニ刺戟シテ墮胎ヲ來サシムルモノニシテ、最モ確實ナル方法ナリ、之ヲ行フニハ人手ヲ借リ或ハ妊婦自身ニテナスコトアリ、例ヘバ刺シキ勞働、腹部打撃、下腹部ニ炙ラスエ或ハ針ヲウツコト、故意ノ轉倒高所ヨリ跳落、腹部ニ對スル粗暴ノ行爲、腹部按摩法、破水、子宮腔内ニ消息子、或ハ異物ヲ挿入スルコト等種々ノ方法アリ、子宮内ニ入ルル異物トシテハ俗間ニテハ編棒、紙捻ヲ糊ニテ固クセルモノ、針金、筆軸、傘骨、火箸、葉肋、木枝、棍、葦幹、即チつわぶき、葉蘭、山吹、藁等ノ莖、ほうづき、牛蒡ノ根及むくげ、うつぎ、菊、あざみノ小枝等ヲ用ユ。

(丙) 折衷方法 コハ藥物的ニモ亦器械的ニモ作用スルモノヲ合セ用ユ、即熱水或ハ藥液ノ子宮腔注入、胡椒、菲球ヲ腔内ニ入レ、電流ヲ子宮ニ通ズル等種々ノ方法アリ。

此等種々ノ方法ヲ試ムルハ妊娠第四、五月ニ最モ多ク、第二、六、



七月之二次ギ、第八、九月ニ至リテハ最モ少シ。而シテ施術後墮胎ヲ招來スル時間ハ甚ダ不定ナレドモ、手術後第二日ニ最モ多ク、第一、三日之二次ギ長キハ第九、十日ニ達スルアリ。

一般ニ云ハバ腔灌注法ニ在テハ三乃至四時間毎ニ、十二乃至十五分間反復温湯ヲ灌注スルトキハ、三日乃至五日ニシテ第一陣痛ヲ起シ、三時間乃至三十時間ニシテ分娩ス、然ルニ犯罪的墮胎ニ在テハ注入後遅クモ八時間乃至十八時間内ニ娩産スト云フ、又卵子ト子宮トノ間ニ弾力性かてゝテ挿入シ且液ヲ注入スレバ、多産婦ハ往々直ニ陣痛ヲ起シ、ソノ後六十八時間乃至百四十一時間ニシテ分娩スト云フ。

第一百十五表 墮胎ヲ試ミシ狀況(著者)

月日	閉止トシテ用ヒタル理由	妊婦ノ年齢	手術後ノ症候	手術後ノ全快期
九月十一日	私通妊娠シタルヲ見セシメテ世間體ヲ恥ズルニ至リ	廿六歳	五手術後二、三十分ニシテ陣痛ハズモスル事能ハズ	V、14、歸宅三日後健康セルニ恢復
九月十一日	私通妊娠シタルヲ見セシメテ世間體ヲ恥ズルニ至リ	廿六歳	五手術後二、三十分ニシテ陣痛ハズモスル事能ハズ	V、14、歸宅三日後健康セルニ恢復
九月十一日	私通妊娠シタルヲ見セシメテ世間體ヲ恥ズルニ至リ	廿六歳	五手術後二、三十分ニシテ陣痛ハズモスル事能ハズ	V、14、歸宅三日後健康セルニ恢復
九月十一日	私通妊娠シタルヲ見セシメテ世間體ヲ恥ズルニ至リ	廿六歳	五手術後二、三十分ニシテ陣痛ハズモスル事能ハズ	V、14、歸宅三日後健康セルニ恢復
九月十一日	私通妊娠シタルヲ見セシメテ世間體ヲ恥ズルニ至リ	廿六歳	五手術後二、三十分ニシテ陣痛ハズモスル事能ハズ	V、14、歸宅三日後健康セルニ恢復
九月十一日	私通妊娠シタルヲ見セシメテ世間體ヲ恥ズルニ至リ	廿六歳	五手術後二、三十分ニシテ陣痛ハズモスル事能ハズ	V、14、歸宅三日後健康セルニ恢復
九月十一日	私通妊娠シタルヲ見セシメテ世間體ヲ恥ズルニ至リ	廿六歳	五手術後二、三十分ニシテ陣痛ハズモスル事能ハズ	V、14、歸宅三日後健康セルニ恢復
九月十一日	私通妊娠シタルヲ見セシメテ世間體ヲ恥ズルニ至リ	廿六歳	五手術後二、三十分ニシテ陣痛ハズモスル事能ハズ	V、14、歸宅三日後健康セルニ恢復
九月十一日	私通妊娠シタルヲ見セシメテ世間體ヲ恥ズルニ至リ	廿六歳	五手術後二、三十分ニシテ陣痛ハズモスル事能ハズ	V、14、歸宅三日後健康セルニ恢復
九月十一日	私通妊娠シタルヲ見セシメテ世間體ヲ恥ズルニ至リ	廿六歳	五手術後二、三十分ニシテ陣痛ハズモスル事能ハズ	V、14、歸宅三日後健康セルニ恢復

月日	閉止トシテ用ヒタル理由	妊婦ノ年齢	手術後ノ症候	手術後ノ全快期
九月十一日	私通妊娠シタルヲ見セシメテ世間體ヲ恥ズルニ至リ	廿六歳	五手術後二、三十分ニシテ陣痛ハズモスル事能ハズ	V、14、歸宅三日後健康セルニ恢復
九月十一日	私通妊娠シタルヲ見セシメテ世間體ヲ恥ズルニ至リ	廿六歳	五手術後二、三十分ニシテ陣痛ハズモスル事能ハズ	V、14、歸宅三日後健康セルニ恢復
九月十一日	私通妊娠シタルヲ見セシメテ世間體ヲ恥ズルニ至リ	廿六歳	五手術後二、三十分ニシテ陣痛ハズモスル事能ハズ	V、14、歸宅三日後健康セルニ恢復
九月十一日	私通妊娠シタルヲ見セシメテ世間體ヲ恥ズルニ至リ	廿六歳	五手術後二、三十分ニシテ陣痛ハズモスル事能ハズ	V、14、歸宅三日後健康セルニ恢復
九月十一日	私通妊娠シタルヲ見セシメテ世間體ヲ恥ズルニ至リ	廿六歳	五手術後二、三十分ニシテ陣痛ハズモスル事能ハズ	V、14、歸宅三日後健康セルニ恢復
九月十一日	私通妊娠シタルヲ見セシメテ世間體ヲ恥ズルニ至リ	廿六歳	五手術後二、三十分ニシテ陣痛ハズモスル事能ハズ	V、14、歸宅三日後健康セルニ恢復
九月十一日	私通妊娠シタルヲ見セシメテ世間體ヲ恥ズルニ至リ	廿六歳	五手術後二、三十分ニシテ陣痛ハズモスル事能ハズ	V、14、歸宅三日後健康セルニ恢復
九月十一日	私通妊娠シタルヲ見セシメテ世間體ヲ恥ズルニ至リ	廿六歳	五手術後二、三十分ニシテ陣痛ハズモスル事能ハズ	V、14、歸宅三日後健康セルニ恢復
九月十一日	私通妊娠シタルヲ見セシメテ世間體ヲ恥ズルニ至リ	廿六歳	五手術後二、三十分ニシテ陣痛ハズモスル事能ハズ	V、14、歸宅三日後健康セルニ恢復
九月十一日	私通妊娠シタルヲ見セシメテ世間體ヲ恥ズルニ至リ	廿六歳	五手術後二、三十分ニシテ陣痛ハズモスル事能ハズ	V、14、歸宅三日後健康セルニ恢復

壓搾海綿ヲ以テ子宮頸管ヲ擴大スレバ、分娩ハ二十四時間乃至九十六時間ニ來ルトノ報告アリ。

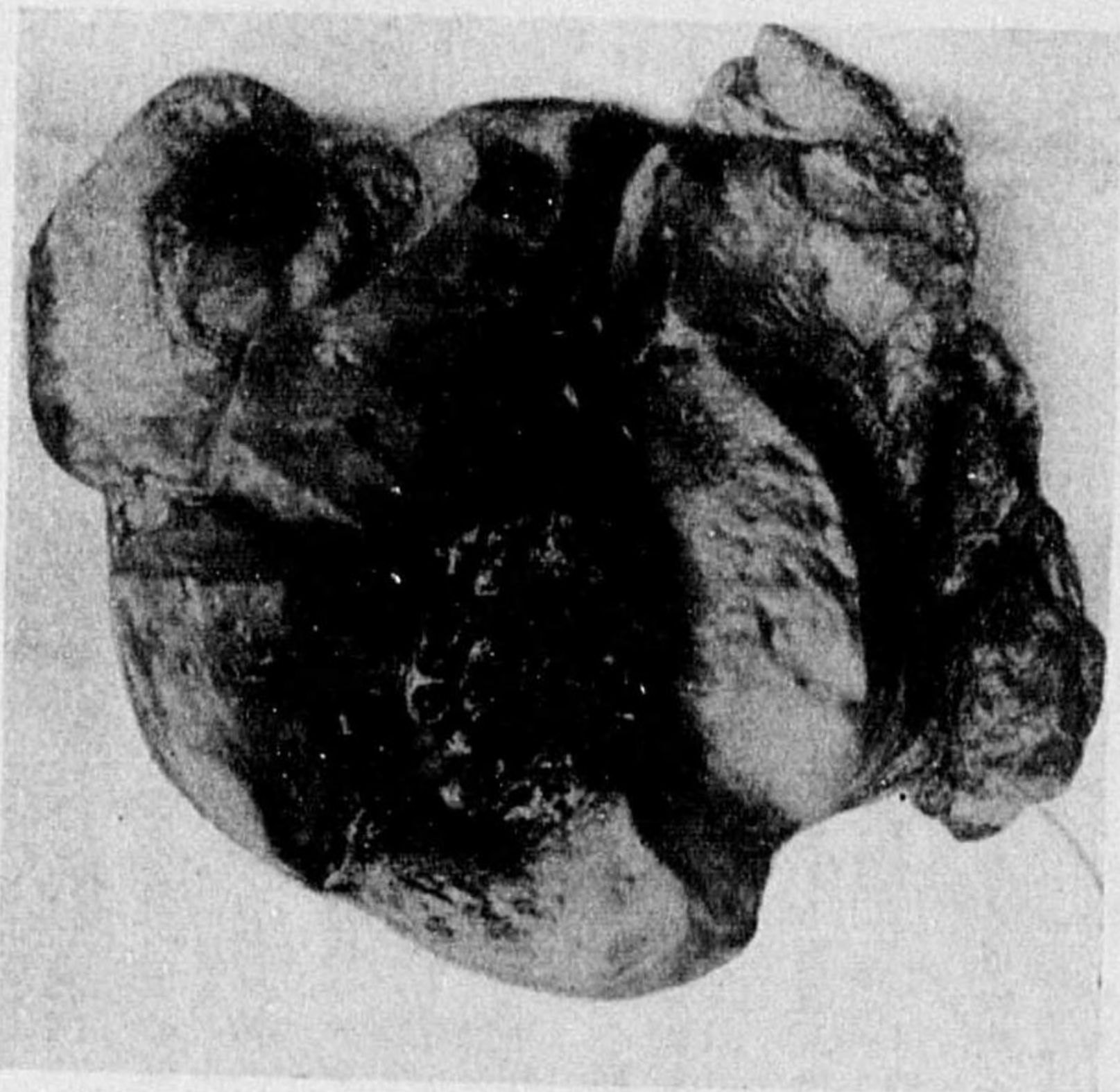
卵膜穿刺法ニテハ羊水流シテヨリ、十二乃至四十八時間ノ後陣痛ヲ來シ、或ハ二、三時間ニシテ分娩シ、四日ヨリ遅ル、ハ稀ナリト云フ説アリ。

子宮按摩法ニ因スル墮胎ノ時間ハ不定ナリ。

凡テ非醫者ノ行ヘル卵膜穿刺ハ、適當ノ方法ヲ以テセル墮胎ヨリモ早ク分娩ヲ始ムルモノ、如シ。而シテ墮胎ヲ企ツルニ至ル原因ハ世間體ヲ耻ヅルヲ最モ多シトシ、之ニ次グハ貧困ニシテ養育不能ヲ恐ル、ニアリ。器械的墮胎ヲナス場合、多クハ秘密ニ且生殖器官ノ解剖的關係ヲ知ラザルモノガ行フ故尙異物ヲ子宮腔内ニ殘シ、或ハ後

腔穹窿、子宮底等ニ損傷ヲ來シ居ルモノナレバ、ソガ墮胎ヲナセル診斷ヲ附スルコトヲ得、故ニ墮胎ヲナセシ疑アル場合ハ、婦人ノ居室等ニ斯クノ如キ疑ハシキ物品ノ殘存セザルヤ、腔粘膜、子宮ニ損傷ナキヤ異物ヲ存セザルヤヲ注意シテ検査スベシ。

(ホ)墮胎ノ結果



血收シ胎體テ入ヲ根ノ旁午ニ内宮子テシニ月ケ二娠妊ス著附盤胎尙ニ面内宮子例實シリ至ニ死テ起ヲ症

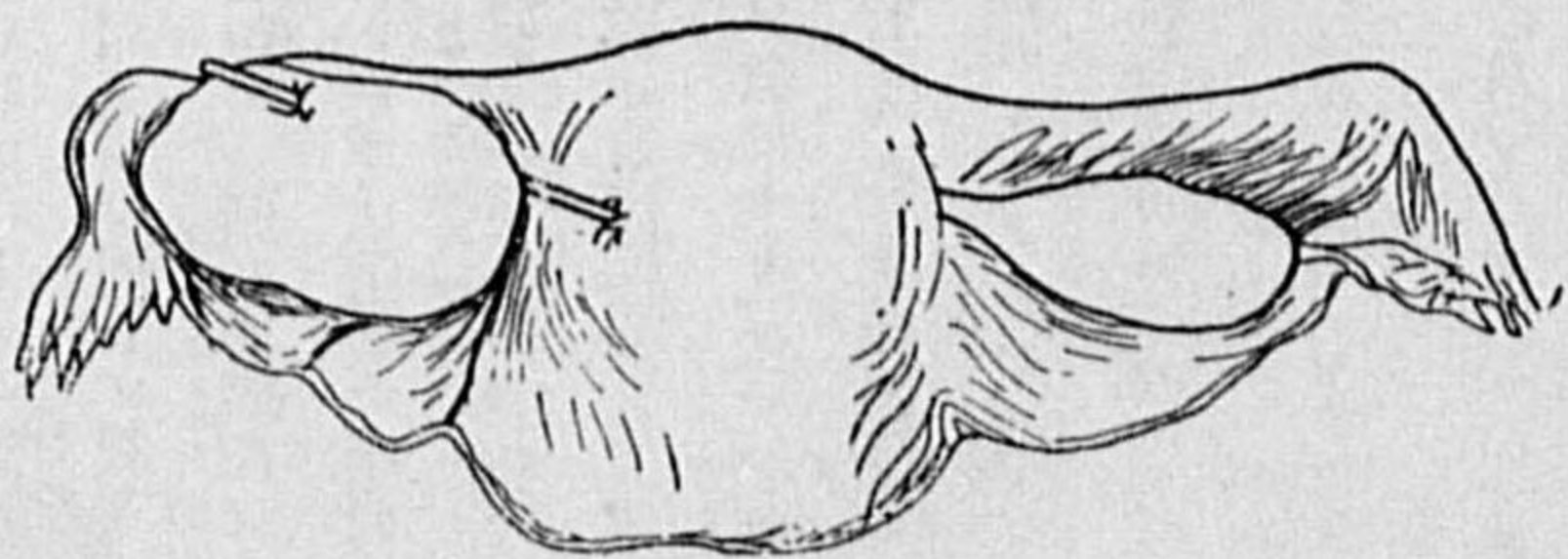
墮胎ノ結果トシテハ大出血、えんぼり、産褥熱、敗血病、中毒死及生殖器官ニ於ケル損傷等アリ、例ヘバ子宮底ヲ穿通シテ腹腔内ニ

第二百三十一圖



刺刺宮子ルヨニ胎墮 圖二十三百二第

第二百三十圖ニ於テ産出セル胎兒ヲ腰巻ニ包ミ隠シオケルモノ木乃伊トナリ居ルヲ發見セルモノ(著者)



細菌ヲ送り、腹膜炎ヲ來シ、死亡スルコトガアルガ如キ之レナリ。

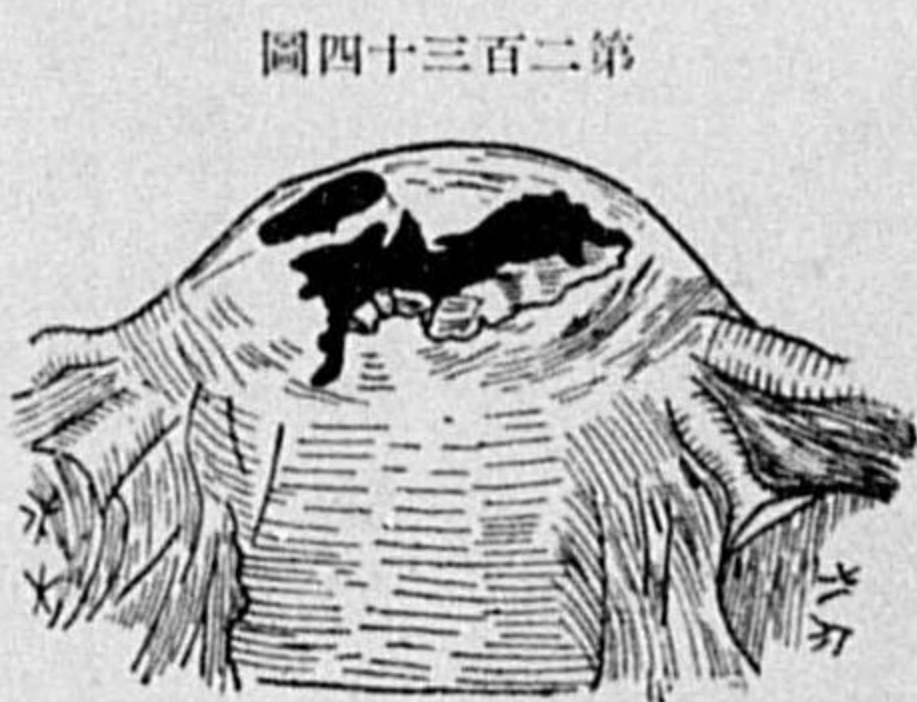
墮胎ニ依リテ死亡セルモノヲ剖檢スル時ハ、子宮ノ状態或ハ夫レニ存スル損傷ニ注意シ、若シえんぼりニテ死ニ至リシ疑アル時ハ



心臟大血管内ニ空氣胞ナキヤヲ注意スベシ、獨逸司法剖檢法ニヨレバ此際ニハ心囊内ニ水ヲ盛



墮胎ニヨル子宮頸部ノ穿孔ノ爲メニ腹膜炎ニテ死亡セルモノ



同上子宮底部ノ穿孔

クハ子宮頸ト子宮體トノ境界邊ニ在リテ、横徑或ハ斜徑ニ在ルヲ常

トシ、墮胎ノ時ニ見ル創傷ハ多クハ子宮頸ニ在リ刺創ノ形状ヲ有シ、モシ又人工ノ爲メニ破裂セルモノハ、場所一定セズシテ來ル故大抵鑑別シ得ルモノナリ。

墮胎死體ノ生殖器ヲ檢スル場合ハ、之ヲ大腸膀胱等ト共ニ一連ニ成ルベク骨盤壁ニ沿ヒ決シテ暴力ヲ用イズシテ剔出シ、而シテ後光線ノ都合ヨキ所ニテ檢スベシ、余ノ實見セル墮胎ノ一例ハ通經劑ヲ用ヒテ成功セシモノニシテ、妊婦ハ尙ニ通經劑ヲ大量ヲ用ヒテ胎兒ヲ娩産シ、間モナクソノ中毒ニ依リテ母體自己モ死亡セリ、剖檢セシニ肝腎ニハ脂肪變性ヲ生ジ、胃腸内ニハ黑色ノ軟泥様物多量アリ之ヲ化學的ニ檢スレバ鹼鹵、硫酸基及鐵ノ多量ヲ發見セリ、依ツテ彼女ハ通經劑ヲ用ヒテ墮胎ニ成功セルモノ、ソノ中毒ニ依リテ死亡セルモノナルコトヲ知レリ。通常通經劑トシテ販賣セルモノニハ、ソノ多量ヲ服用スル時ハ往々墮胎ヲ來スコトアリ、注意セザルベカラズ。

鑑定實例

第四十二例 鑑定書

大正〇年〇月〇〇日〇〇區裁判所ニ於テ判事逸〇規〇ヨリ廣〇チ〇、墮胎〇ス〇墮胎被告事件ニ關シ左ノ事項ニ付キ鑑定スベキ旨余囑託セラレ

鑑定事項

左記(一)(二)(三)項ノ事實ニ基キ其他被告人並ニ關係人ノ申述等參照ノ上(四)(五)(六)(七)項ノ如キ鑑定ヲ爲ス事

說明

一、本件ニ於テ注意スベキ事ハ術者ハ自己ノ妊娠ニ墮胎手術ヲ施シテ成功セル經驗ヲ有スルノ外楠〇ス〇ニ手術ヲ施シテ成功セルト尙他ノ數人ニ施シテ成功セル形跡アル事及載〇ス〇ニ對シテハ左手指ヲ腔内ニ挿入シ子宮口ノ位置ヲ確メ之ヲ導子トシテ右手指ヲ以テ頸部ノ莖ヲ挿入シタル事實等ニ其方法ノ巧妙ナルヲ思ハシム、一方載〇ス〇ガ手術ヲ受ケタル後腰ガ突張ツテ來タ故ニ屢ニ入りタリト云フハ明ニ其手術ノ子宮ニ對シテ相當ノ刺戟ヲ與ヘ得タル事ヲ證スルニ足ルナリ只茲ニ廣〇チ〇、載〇ス〇ノ何レモガ手術後些ノ出血及漏水ナカリシト云フハ稍々手術ノ效果ヲ疑ハシムルガ如キモ出血ノナカリシハス〇ハ已ニ一回ノ經産婦ニシテ併モ妊娠五ヶ月以上ナルヲ以テ子宮口開大シテ柔軟ナリシ爲メ若クハ出血アリシモ痕跡ニシテ氣付カザリシモノト思ハル次ニ手術ニヨリテ漏出スル時ハ卵膜ヲ穿孔シタルモノニシテ其效果ノ確實ナルヲ證スルモノナルモ併モ卵膜ヲ穿破セズ異物ヲ子宮口ニ留置シ若クハ卵膜ト子宮壁間ニ異物ヲ挿入スルモ又能ク子宮ヲ刺戟シ墮胎ノ目的ヲ達スル事ヲ得ベシ而シテ今茲ニ人工的手術ニヨリテ墮胎セシムルニ要スル時間ハグスターフ、ヴィット氏ニヨル時ハ

(1) 卵膜穿孔

最 短	最 長
(イ) 妊娠六ヶ月 一日	八日
(ロ) 妊娠六ヶ月以上 五時間	五十四時間

被告ノ口述及調書

一、手術者廣〇チ〇ノ口述ニヨレバ自分ハ十七歳ノ頃妊娠セルヲ以テ頸部ノ莖ヲ自ラ子宮内ニ挿入シ墮胎ノ目的ヲ達シタル經驗ヲ有スルモノナルガ今回モ載〇ス〇ノ腔内ニ左手指ヲ挿入シ充分子宮及子宮口ヲ觸レ其手指ヲ導子トシ子宮内ニ向ツテ約三寸位ノ長サヲ有スル頸部ノ莖ヲ挿入セリ併シ其際出血又ハ漏水等ノ事ハナカリシト云フ且彼レガ調書ヲ見ルニ楠〇ス〇ニ手術ヲ行ヒ墮胎セシメタルノ外尙他ノ數人ニ對シテモ經驗ヲ有スルモノ、如シ

二、載〇ス〇ノ口述ニヨレバ自分ハ大正六年二月十日頃午後八時廣〇チ〇ニ



(イ)妊娠二十四ヶ月 二日 八日  
 (ロ)妊娠四十七ヶ月 三日間  
 即チ本件ノ手術ハ本表第(2)ニ分娩時間ハ第(2)(ロ)ト對比スベキモノニシテ併モ本件ノ如ク手術後二三日ニシテ確實ニ墮胎シタル事實アル以上本件ハ明ニ墮胎手術ニヨリテ其目的ヲ達セラレタル事ハ何人ト雖モ首肯スル處ナルベシ次ニ(3)ガ分娩當日若クハ其前日山ニ仕事ニ行キ仰向ニ倒レ腰部ヲ打チ其後若クハ翌日胎兒ヲ分娩セリト云フ即チ之ノ仰向ニ倒レ腰部ヲ打チタリト云フ事方直接ニ分娩ニ關係セルヤ否ヤト云フニ元來子宮ノ刺戟感受性ハ個人ニヨリテ著シキ差アルモノナリ或婦人ハ些少ノ誘引ニヨリテ早産若シクハ流産ヲ起スモノナリ之ニ反シ他ノ婦人ハ往々驚クベキ障礙ニ堪ユルモノアリ故ニ(3)ガ刺戟感受性ノ強キモノトスレバ倒レタト云フ事ハ分娩ノ誘引トナリタルベク又感受性鈍キモノトスレバ誘引トハナラズ併モ其ノ感受性ノ如キハ結果ニヨリテ原因(感受性)ヲ判斷スルノ外ナキ不確實ノモノニシテ若シ前述ノ如キ墮胎手術ヲ行ヒタル事實ナキ時ハ分娩ノ原因トシテ其ノ感受性ノ如何ニカ、ハラズ倒レタト云フ事ニ歸スルヲ得ベシ

即チ茲ニ於テ前述ノ人工ノ手術モ分娩ノ原因デアリ又倒レタト云フ事モ原因ト云ヒ得ルナリ、併シナガラ倒レタト云フ事ハ分娩ノ一原因タリ得ベキニ相違ナキモ、本件ノ如キ場合ハ畢竟人工ノ手術ニヨリテ分娩セントシツ、アル途中ニ於ケル偶然ノ出來事ニシテ云ハハ、副因トモ見ルベキモノナリ、併モ其ノ倒レタリト云フ事ハ其ノ打チタル力ノ強弱或ハ個人ノ感受性ノ如何ニヨルト云フガ如キ不確實ナルモノヲ以テ到底墮胎目的ヲ達セントシテ行ヘル手術ノ方法ノ確實ナルニ比スベカラズ、故ニ本件ニ於テハ墮胎ノ手術ニヨリテ分娩ノ行ハルベキ道中ニ於テ倒レタト云フ一刺戟ノ加ハリテ分娩セルモノトス

二、露露ノ莖ガ墮胎手術トシテ特效アリヤ否ヤト云フニ器械的墮胎ニ用フル

器械トシテハ俗間ニ於テハ消息子様ノモノ即チ編針筆軸、火箸、鐵線等或ハ諸草ノ莖幹ヲ以テ行フモノニシテ、殊ニ露露ノ莖ハ從來往々墮胎手術ノ目的ニ用ヒラル、如キモ墮胎手術ニ特效アリトハ聞カズ

三、茲ニ妊娠ノ初期及後期ト云フハ何ヶ月以前ヲ初期何ヶ月以後ヲ後期トスルカハ不明ナルモ單ニ妊娠月數ノ若キモノヲ初期トシ妊娠月數ノ多ク經過セルモノ(月ノ進ンダモノ)ヲ後期ト假定スル時ハ前期ニ於テ墮胎シ難ク、後期ニ於テ墮胎シ易キモノナリ即チ初妊婦ニ於テハ子宮閉鎖シテ第十ヶ月ニ於テ初メテ子宮口開大シ漸ク指頭ヲ通過シ得ルモノナリ故ニ十月以前ニ於テハ器械ヲ挿入スル事甚ダ困難ニシテ妊婦ハ疼痛ヲ訴ヘ且出血ヲ來スモノナリ、然ルニ經産婦ニ於テハ第五ヶ月ニ於テ已ニ子宮開大シ指頭ヲ通ズルニ至ルヲ以テ器械的物質ヲ挿入シ易キモノ五ヶ月以前ニ於テハ困難ナリ故ニ墮胎ハ妊娠初期ニ難ク後期ニ易シ、而シテ(3)ノ如キハ經産婦ニシテ併モ妊娠後期ニ屬セリ、而シテ墮胎ニヨリ胎兒排出ノ運速ハ卵膜ノ穿破シタル場合又ハ卵膜ヲ剝離シタル場合及個人ノ素質等ニヨリ運速甚ダ不定ナリ

四、妊娠六ヶ月又ハ七ヶ月ニ於テモ早産スル事アルベシ、但シ(3)ノ期ニ於テル自然早産ハ甚ダ少キモノニシテ今スツング氏ノ統計ニヨル時ハ百分中六ヶ月百人中ニ七・一 七ヶ月三・三ニシテ其他各月ニ比シテ最モ少キモノナリ

其他ふらんツ氏ニヨルモ六、七兩月ハ八、九ノ兩月ヲ除イテ最モ少シ、ぶるんでる氏るあーとス氏等ニヨルモ最モ少キ中ニ屬ス

右記説明ニヨリテ鑑定スル事左ノ如シ

鑑定

一、廣〇チ〇ガ藪〇ス〇ニ行ヒタル墮胎手術ニヨリ分娩ノ行ハルベキ途中ニ於テ倒レタト云フ一刺戟ノ助成ニヨリテ分娩セルモノトス

二、露露ノ莖ハ墮胎手術トシテ特效アルモノニアラズ

三、墮胎ハ妊娠ノ初期ニ於テ難ク後期ニ於テ易シ  
 墮胎ニヨル胎兒排出ノ運速ハ不定ナリ

四、妊娠六ヶ月又ハ七ヶ月位ニシテ自然早産スル事アリ但シ一般ニ六、七ヶ月ノ早産ハ他ノ各月ニ比シテ少キモノナリ

右鑑定候也

大正〇年〇月〇〇日

和歌山縣日高郡御坊町大字御坊  
 鑑定人 醫師 岡崎 虎次 郎 郎

(因ニ記ス本鑑定ハ甚ダ興味アルモノナレバ岡崎氏ノ好意ニヨリ本書ニ掲載スル事トセリ)

極的ニ生殖可能ナリト鑑定スルコトハ多クノ危険ヲ伴フモノナリ。

1、交接機能

(甲)男子ノ交接機能 ハ外陰具ノ發育、ソノ勃起中樞及神經傳導路ノ正常ナルヤ否ヤニ關ス、生理學上ノ交接遂行ハ陰莖ノ腔内挿入ト射精トニヨリテ完成スルモ、法律的ニハ單ニ陰莖ノ腔内挿入ミヲ以テ交接ヲ遂行シタリト見做セリ。陰莖發育ハ一見シテ正常ナルヤ否ヤヲ知ルコトヲ得ベク、勃起機能ノ如何ハ種々ノ刺戟法ヲ用キテソノ效ナケレバ、中樞或ハ傳導徑路ニ障礙ナキヤノ疑ヲ起スベシ。精神の障礙ニ依リテ交接不能トナルハ、羞耻、驚愕、自己ノ好マヌ婦人、精神の反射制止等ニ依リ、機械的ニ交接不能トナルハ陰莖ノ畸形、腫瘍、癒着、包皮、象皮病、尿道ノ上下裂、へるにあ

十、生殖機能ニ關スル検査

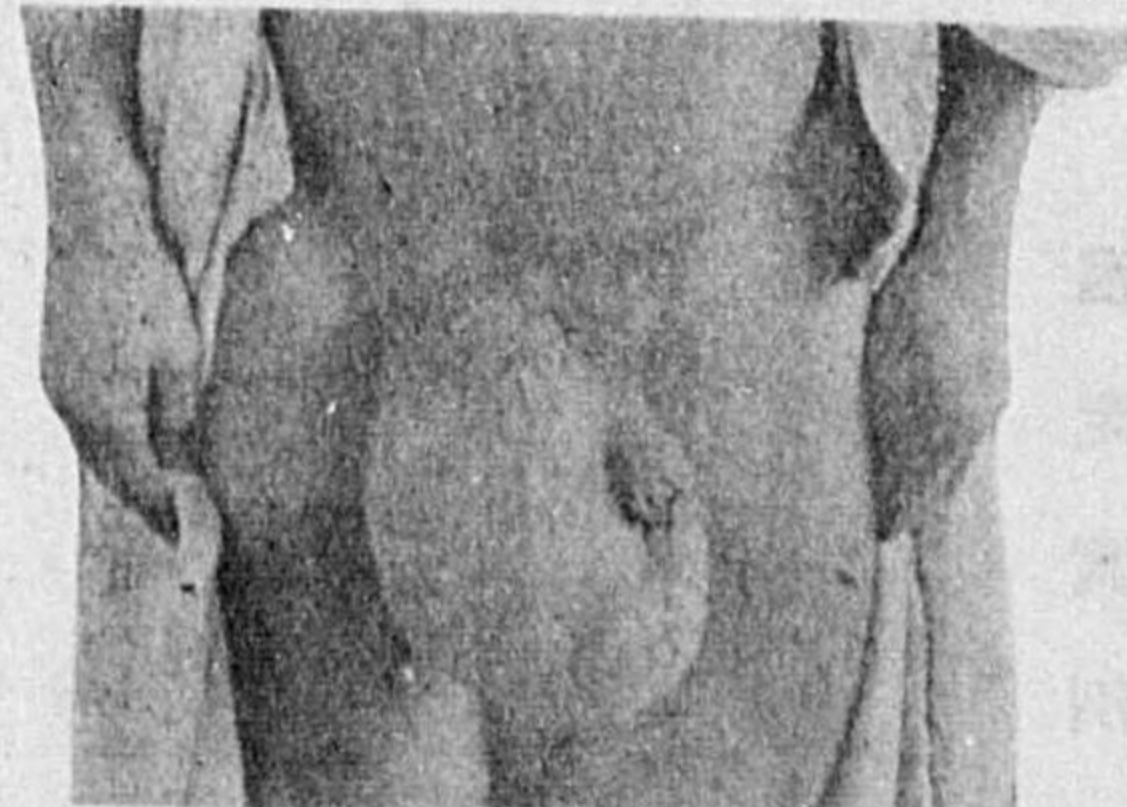
民法八百二十三條 妻カ婚姻中ニ懷胎シタル子ハ夫ノ子ト推定ス婚姻成立ノ日ヨリ二百日後又ハ婚姻ノ解消若クハ取消ノ日ヨリ三百日內ニ生レタル子ハ婚姻中ニ懷胎シタルモノト推定ス

同第八百二十一條 第七百六十七條第一項ノ規定ニ違反シテ再婚ヲ爲シタル女カ分娩シタル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依リ其子ノ父ヲ定ムルコト能ハサルトキハ裁判所之ヲ定ム

同第八百二十二條 第八百二十條ノ場合ニ於テ夫ノ子ノ嫡出ナルコトヲ否認スルコトヲ得

生殖機能ニ關スル検査ハ離婚問題、初生兒認知、相續問題及猥褻姦淫ニ關スル罪ニ對シ必要ナルコトアリ。而シテ生殖機能ヲ有スルヤ否ヤヲ知ルニハ生殖不能ノ場合ヲ研究シ、モシ之ヲ發見セザルニ於テハ多ク生殖不能ナリト見做ス如キ點ナント鑑定スルヲ普通トシ積

圖五十三百二第



能不接交テニあにるへ

莖ノ畸形、腫瘍、癒着、包皮、象皮病、尿道ノ上下裂、へるにあアルカ、或ハ陰莖ガ全ク缺如スルカ或ハ甚小サキ時ニ見ルコトナ



り。疾病トシテハ重症あるこほる及もるひね中毒、神經衰弱、高熱、全身衰弱、脊髄液及惡液質等ニテ交接不能來ル。是等男子ノ交接不能ガ永久的ノモノナルヤ、將タ一時性ノモノナルヤハソノ原因ニヨリテ斷定スベシ。即チ神經衰弱性不能ナレバ一時性ノモノナレドモ、脊髄液等ヨリ來リシモノナレバ永久不能ナリ。尙男子ハ交接不能アリトモ必ズシモ授胎不能ニ在ラズ、之レ婦人ヲ懷胎セシムルニハ只腔口ニ健康ナル精蟲ヲ射出スレバ、夫レニテモ充分ナルコトアレバナリ。又睾丸ヲ失フトモ交接機能ニ殆ンド障礙ナキコト多シ。

(乙)女子ノ交接不能 ハ腔ノ有無或ハソノ發育異常ニ關スルコト多ク、性交ニ於テ女子ハ殆ンド受傷のナレバ、精神的ニ交接不能トナルコト少ナシ、時トシテ腔ナキ婦人ガ往々交接ニ尿道ヲ用ユルコトアリ、一般ニ腔ハ頗ル擴張シ易キモノナレバ、大抵ノ陰莖ハ之ニ適合スルモノナレドモ、腔ノ廣サト陰莖ノ大サガ餘リ差アル時ハ腔ニ損傷ヲ來シ、或ハ大出血ヲ伴ヒ交接不能トナルコトアリ。例ヘバ成人ガ幼女ヲ犯ス時ノ如キ之レナリ。其他腔ハ存在スルモ陰唇及處女膜ガ癒着スルコトニ依リテ交接不能トナルコトアリ、子宮下垂及腔翻轉ニテハ大抵之ヲ原位置ニ復シ交

接ヲ營ムモノナリ。

婦人ニ於テ精神的交接不能トナルハわきにむすニシテ、之ハ神經的原因ノ下ニ性交ヲ試ミントセル際ニ來ル腔口、大腿ノ諸筋等ノ強キ痙攣ニ依リテ交接不能トナルモノニシテ、破爪ノ際或ハ交接中ニ於ケル婦人ノ驚愕等之レガ原因トナルコト多シ。交接遂行中ニわきにすむす起ラバ陰莖ヲ拔去スルコト能ハザルニ至ル、之ヲ *Penis Captivus* ト云フ。絕對的交接不能ハ其相手方ノ中立ニヨリ離婚ノ原因ト見做サルコトアリ。故ニ此ノ鑑定ノ際ニハソガ一時的ノモノニアラズヤヲ注意シテ鑑別セザルベカラズ。

鑑定實例

第四十三例 鑑定書 ○○縣板○郡大○村神定 無職 三〇平〇郎 明治十八年六月一日生 大正〇年十一月八日○控訴院刑事第二部裁判長判事宮○力○助ハ右三〇平○郎強姦及傷害被告事件ニ付 一、被告ノ身體ヲ検査シテ彼ガ交接不能ナルヤ否ヤヲ鑑定ス可キ旨ヲ同院刑事第一法廷ニ於テ予ニ命ゼリ依テ先ヅ原審○地方裁判所判事部ノ判決書及ビ○控訴院判廷ニ於ケル被告ノ陳述ヲ閱讀スルニ

第一、被告ハ大正〇年七月十八日午前三時頃横○テ○(五十歳)ニ對シ居村大○村西分日吉橋南方路上ニ於テ強姦ヲ遂ゲ 第二、同月二十六日午前二時頃同村神宅大○ウ○方ニ至リ同家ニ宿泊シ居リシ井○キ○(四十九歳)ニ對シ淫行ヲ挑ミタルモ同人之ニ應ゼザリシ爲メ彼ヲ毆打シ負傷セシメタリ ト云フニアリ(判決書)然ルニ被告ハ之ニ對シ當時交接不能ニシテ淫事ヲ行フコト能ハザリシガ故ニ列示ノ如キ事實之レ無シト抗爭ス(控訴院ニ於ケル被告ノ陳述)以上ヲ本件ノ概要トス 次ニ予ハ大正〇年十一月二十五日十二月十四日同十八日及ビ同二十一日ノ四回○監獄ニ於テ被告ノ身體ヲ檢診シ且其際彼ニ就キ既往ヲ聽キ取り彼是ヲ鑑定ノ資料トセリ

第一 既往歴

父 煙草商ニシテ相當ノ生計ヲ營ミ病ヲ持病トス母亦生存スレドモ時々癩ヲ患フ同胞四名アリ即チ (一)兄 北海道ニテ肥料問屋ヲ營ミ (二)姉 同ジク北海道ニ在リ (三)姉 大阪ニ在住ス (四)被告 何レモ異父ノ兄弟 學事及學業ノ成績ハ尋常小學校時代ハ普通ナリシガ被告高等科ニ入ルヤ思ハシカラズ特ニ算術(取リ分ケ珠算)ハ不良乍併習字ハ良理科ヲ好メリ高等二年生ノ時(被告十四歳)在神戸ノ姉ノ所ニ赴キ(彼女ガ平○郎ヲ愛撫セル爲)一年二、三ヶ月間右姉方ニ在住シ警察署其ノ他ノ給仕ヲ勤メシガ國元ヨリ人ガ速レニ來リシ故歸國シソレヨリ再ビ郷里ノ高等小學校ニ入りシモ前掲ノ如ク成績不良ニシテ卒業覺束無キヲ以テ十七歳ノ時九州門司ニ赴キ初メ井神組ニ入り一年半許リ石炭ノ仲仕(但シ主トシテ帳方)トナリソレヨリ五六年間在在所同國人河野某ニ寄食セリ河野ハ定業無ク海外密航者等ノ上流ヲハネニ依テ

生活シ所謂破落家ナリシ故被告モ亦アラノトシテ無職ニテ時日ヲ徒費セリ 次ニ佐世保ニ赴キ一年許リ娼家ノ帳場ニ住ミ込ミ居ル頃(大正三年)國元ヨリ母危篤トノ電報ニ接シ急ギ歸郷セルニ全ク虚報ナリシ實ハ在北海道ノ兄ハ親父ノ實子ニアラズ且彼ノ地ニテ手廣ク營業シ資産モ相當アル故(三萬圓許リ)到底歸郷シテ父ノ後ヲ相續スルノ望ミ無ク且被告ノ他ニハ男性ノ實子無ク、加之兩親モ追々年寄ル爲メ被告ヲ父ノ膝下ニ留メ置カントノ策ナリシ。コレガ爲メ歸郷中縁談持チ上リシモ被告ハ當時既ニ勃起不能ニシテ之ヲ明スコトノ耻シキ爲メ(被告ノ陰萎ハ二十三、四歳頃ヨリ漸次現徴シ次第ニ増勢セリト云フ)再ビ門司ニ赴キ娼家ニ稼ギ居リシニ大正六年五月重ネテ父危篤ノ電報ニ接シ歸郷セルニ今度モ復虚報ナリシガ引キ續キ在郷シ以テ今回ノ犯時ニ及ベリ 前科三犯アリ左ノ如シ 第一、二十二歳ノ時幼女誘拐罪。香港、シガポール邊ニ密航ヲ企テタル天草邊ノ女子、三、四十人ヲ連レ其頭梁トナリテ船ニ乗リ込ミ待遇ノコトヨリ船員ト論争ヲナシ離船上陸セル所ヲ逮捕セラレタリ。(犯所ハ門司、刑ハ懲役十ヶ月) 第二、傷害罪。喧嘩ノ爲ニ二十五、六歳ノ頃(第一犯ヨリ兩三年後)(犯所ハ門司、刑ハ懲役一年六ヶ月) 第三、窃盜罪。門司ニ於テ喧嘩ニ用フル爲メ、某店ヨリ刀ヲ買フ様ニ申シテ持逃ゲセリ(刑ハ懲役三年) 病歴 幼時著患ニ罹ラズ又是レ迄重傷ヲ蒙リシコト無シ手淫ニ耽リシコト無キモ十五歳ノ時既ニ婦女ニ接シ爾來之ヲ繼續セリ但シ別段荒淫セルコト無シト。而シテ第一回犯罪時頃迄ハ勃起力充分ナリシモソレヨリ漸次減弱シ後ニハ全ク無力トナレリ 二十歳ノ頃梅毒瘡ニ罹リ間モ無ク横痃ヲ發シテ自潰シ後、尙(第一回入監前)瘡瘡ヲ患ヘ大正〇年十二月末肛門周圍炎ヲ發シ瘻孔ヲ生ジ其處ヨリ漏膿シ且疼痛アリ日下未治、第二犯受刑中胃腸カタル及ビ「マラリヤ」ニ罹リ第三犯受



刑中(大正三年)一夜ノ中ニ別段痛モ無ク左眼失明シ又腎臟炎ヲ患ヘタリ

第二 現在症

- 一、一般的徴候 體格中等、皮下脂肪及皮筋肉ノ發育良姿勢ニ著變無シ。四肢ノ筋肉ハ特ニ弛緩セズト雖只顔貌ハ何ト無ク締リ無ク表情ニ乏シク何物ヲカ凝視スルガ如キ眼付キ(はせど)氏病者ノ顔貌ニ類似ス)ヲナス皮膚ニハ異常ノ色彩(藍紫色黃色等)發疹水疱乾燥等無ク呼吸ノ數及ビ其ノ運動型ニ於テモ異常ヲ認メズ、脈搏正小ニシテ相當ニ力アリ、頻數ナラズ(一分時約七十八至)、心音濁ラズ皮膚紋畫症ニ稍々著明ナリ
- 二、神經系ノ一般徴候 神識明瞭ニシテ頭痛、眩暈、不眠等ヲ訴ヘズ震顫、痙攣等ヲ見ズ身體部ノ運動ニ自由運動、對抗運動、受働運動、共働運動、歩行手書、こよりノ製作、脱衣等)共ニ障礙無シ
- 三、頭部、顔面。頭首ハ常ニ右側ニ傾キ其ノ右半ハ左半ヨリモ小ナリ、而シテ假令頭部ヲ鉛直ニ保持セシムルモ、右側ノ眉毛及ビ耳殼ハ左側ノモノヨリモ低位ニ在リ、右耳殼ハ左耳殼ヨリモ(長徑ニ於テ)小ナルコト。五種ナリ、左側眼瞼裂ハ右側ヨリモ稍々細シ(第一、第二圖略之)兩眼瞼ヲ強ク閉合セシムルニ是レ等ノ不均等ハ一層著明トナリテ顔面ノ右半ハ左半ノ爲ニ壓シ付ケラル、ノ觀アリ、靜止狀態ニ在リテハ左眼球ハ稍々外方ニ偏在ス兩眼共ニ眼球振盪症無シ、右方ヲ凝視セシムルニ左眼球ノ運動速ニ右眼ニ劣ル眼球ヲ上轉セシムルモ同様ノ差異ヲ見ル(但シ右轉ノ際ニ於ケルガ如ク甚シカラズ)下轉ノ際ニハ左眼瞼裂明ニ廣シ、瞳孔ハ左右不同(左ハ右ヨリモ稍々大ナリ)對光反應、右ハ常態、左ハ殆ド缺如ス、視力ハ右眼尋常、左眼僅ニ明暗ヲ辯ズルノミ
- 四、顔面神經ノ諸枝ニ痲痺痲痺無シ舌ヲ伸出セシムルニ震顫無ク濕潤シ左右兩半稍々不同(右半少シク小)ニシテ正中ノ前部ニハ約二・〇程度二・〇耗幅ノ溝狀陷凹アリ口蓋弓ハ構音ニ際シ能ク舉上シ懸壺垂偏在セズ發音ニ障礙無シ頸部ノ各方向ニ於ケル運動ニ障礙無シ頭首ノ大サハ左ノ如シ

- 一、頭 圍 五八・五種
- 二、耳前頭圍 三二・〇種
- 三、耳後頭圍 三四・〇種
- 四、頭頂頭圍 三七・五種
- 五、耳下頭圍 二九・五種(内、右五・〇)
- 六、顫頂縱徑 二〇・〇種
- 七、顫頂橫徑 一四・五種
- 八、鼻根後頭圍 三七・〇種
- 九、耳孔徑 一四・〇種
- 十、前頭骨額骨突起徑 一二・〇種
- 十一、耳孔鼻棘徑 一三・五種
- 十二、耳高 左 二・七種 右 三・〇種
- 十三、耳寬 左 一・三〇種 右 一・三〇種
- 十四、脊面一ノ中央ニハ淡キ銅色ヲ帶ビタル不正形ナル手掌大ノ癢痕アリ、其ノ面ハ不平粗澀ニシテ周緣極メテ不整凹凸ナリ
- 十五、肩胛骨ノ高サ左、右相同ジク脊柱ハ異常ノ變屈ヲ呈セズ槌打スルニ特ニ疼痛ヲ訴フル部無シ
- 十六、四肢ノ勢位ニ顯著ナル異常無ク筋肉ノ羸瘦ヲ檢出セズ拇指及ビ小指球亦然リ掌骨々間腔特ニ陷凹セズ各指ノ末節ハ稍々太ク、爪ハ一種ノ穹隆(杓子ノ凸面ノ如キ)ヲ呈ス、上、下肢各關節ノ運動自在ナリ、手指ヲ伸展セシムルニ振盪セズ握力計、右ハ二四・〇—左ハ二〇・〇基呂ヲ示ス
- 十七、知覺 皮膚ニシビレ蟻走ノ感等ノ自覺的知覺異常、又疼痛無シ、又他覺的ニ毛筆ノ兩端ヲ以テシ或ハ閉目ノ上ニ種々ノ物品ヲ指觸セシメテ觸覺ヲ檢シ、又簞針ノ兩端ヲ以テ痛覺ヲ檢スルニ何レモ正常ナリ、又二本ノ硝子管ニ少シク寒温ノ差アル湯ヲ入レ置キ各所ニ之ヲ觸レテ其ノ何レガ寒ナルヤ、何レガ温ナルヤヲ告知セシムルニ概シテ錯誤ナシ(温覺試驗)

閉目ノ上、四肢其ノ他ノ部ニ他動的ニ與ヘタル位置ハ、皆能ク之ヲ認識シ又檢者ガ或ル位置ヲ取ル可ク命ズルニ是レ亦誤ルコト無シ、即チ筋力及ビ運動ヲ知覺スルノ能力ニモ異常ナキヲ知ル。るんべるノ現現象無シ

七、運動—隨意筋ニ痲痺痲痺無ク及ビ共働運動ニ障礙無キコトハ前記セルガ如シ(第六丁參照)

八、反射 角膜、鼻粘膜、咽頭粘膜、腹皮、提舉筋、膝蓋腱等ノ反射尋常、あひれす腱反射弱、足現象及ビ膝面反射無シ

九、陰部及ビ其ノ近部 陰毛ノ發生常態陰莖ハ尋常大ニシテ尿道上裂、尿道下裂陰莖分裂、過短繫帶、陰莖陰囊間ノ癒着等ノ畸形、又陰莖ノ皮膚象皮病水腫、陰囊水腫、陰囊へるにや、癌腫下疳等ノ病的變化ヲ見ズ、又挫傷、切除、瘻疽等ノ後ニ生ズル癢痕緊縮ヲ存セズ

包皮ハ完全ニ離脱スルヲ得、龜頭ノ略中央部ニ小豆大扁平ノ淺在癢痕一個又龜頭冠部ニハ麻實大ノ淺在癢痕二、三個アリ、尿道口ハ帶黃淡灰色ノ汚物ニヨリテ少シク膠著シ尿道ヲ壓スレバ同色ノ濃厚濁濁液少許ヲ漏ス。海綿體ヲ指觸スルニ硬結、腫物等ヲ存セズ且疼痛無シ、又尿道内ニハねむとん氏導尿管ヲ送入スルコトヲ得、其際特ニ疼痛ヲ訴フルコト無シ

左睪丸ハ尋常大ナリ右睪丸ハ稍々太シ(常態ニ二倍餘)、壓痛アリ右側ノ睪丸及ビ副睪丸ハ何レモ尋常大ニシテ壓痛無シ、左側精系ハ少シク太ク右側精系ニハ記ス可キノ異常ヲ檢出セズ

左側鼠蹊部ニハ指頭大不正形ノ類白色癢痕アリ。肛圍ニハ數個ノ結節アリ又其ノ近部ニハ米粒大ノ瘻孔三、四個アリ、消息子ヲ送入スレバ二乃至三種ノ深サニ達シ、且皮下ニ於テ相互交通スルガ如シ攝護腺ハ僅ニ腫大シ按摩ニ尿量尋常前ヲ訴フ

十、放尿セシムルニ、尿線ノ太サ及ビ一同ノ尿量尋常、前尿ハ紫雲狀ノ浮遊物及ビ小絲狀片ヲ混ジテ稍々濁濁シ、後尿ハ僅ニ濁濁ノ檢査成績左ノ如シ(甲)肉眼の檢査 淡黃色ニシテ肉質汁様芳香性ノ臭氣ヲ有シ反應弱酸性比

重一〇一〇〇ナリ

(乙)化學的檢査 其一、蛋白質檢査、へるれる氏檢法、陽性煮沸檢査陰性ニシテ蛋白ノ痕跡ノ存在ヲ認ム

其二、葡萄糖檢査、とらんめる氏檢法、にいらんでる氏檢法等スベテ陰性ニシテ其存在ヲ認メズ

其三、其他臨牀的ニ價値アル化學的異常成分ノ存分ヲ微セズ

(丙)顯微鏡的檢査 尿ヲ遠心沈澱セシメテ其ノ沈澱物ヲ鏡檢スルニ

(一)稍々多數ノ膿球、(二)多數正圓形或ハ多角形上皮細胞、(三)少數ノ硝子樣圓柱及ビ顆粒狀圓柱ヲ見又(四)顆粒狀ニ變性セル紡錘形索狀物多數ヲ認ム。但シ(五)細菌ノ存在ヲ認メズ。

(以上ノ尿檢査ハ大正〇年十二月十六日之ヲ行ヒタリ)。

被告ノ自訴ニ依レバコレ迄遺精精漏無ク、一日ニ五、六回排尿シ、尿量普通ニシテ排尿時ニ疼痛ヲ覺ヘズ大便ハ二、三日毎ニ一行、食慾ハ夏期ニハ良ニシテ冬期ニハ之ニ反ス

第三 鑑定

夫レ男子ノ交接不能(甲)或ハ器械的ノ障礙ニ因ルコトアリ(乙)或ハ官能的ノ障礙(陰莖ノ勃起不能)ニ基クコトアリ、其ノ首要ナルモノヲ列舉スルコト左ノ如シ

(甲)陰具自己、或ハ其ノ周圍ニ於ケル著大ナル結構異常コ、ニ算入セラル、即チ

(イ)陰莖ノ種々ノ畸形或ハ疾病、例之、陰莖ノ缺如發育不全(偶小)高度ノ尿道上裂及ビ下裂、陰莖ノ分裂、重複陰莖巨大陰莖過短繫帶陰莖陰囊間ノ癒着嵌頓包莖其ノ他象皮病(普通陰囊ノ象皮病ヲ伴フ)淋巴管ノ擴張或ハ慢性水腫ニ因ル陰莖ノ腫大、海綿體ノ荒蕪(本症ハ痲疾ノ結果トシテ尿道ノ外圍ニ生ジ或ハ外傷ノ後ニ繼發スルコトアリ海綿體ノ微毒性滲潤悪性腫瘍(例之癌)陰莖上ノ角質形生等



(ロ)陰莖ノ外傷(例之挫傷、縶過傷、馬蹄傷、海綿體ノ皮下斷裂傷)其ノ他  
 壞疽等ニ繼發スル瘻痕緊縮陰莖ノ切除等  
 (ハ)陰莖ノ周圍ニ發生スル病的產物(大腫物)ノ爲ニ陰莖ノ被掩セララル、場  
 合。例之、還納不能ニシテ而モ大ナル陰囊(へるにや)陰莖ノ皮膚或ハ陰  
 囊ノ象皮病、陰囊水腫等

(乙)陰莖ノ勃起ハ男子交接機能ノ要件タリ、故ニ勃起不能アル時ハ假令前掲  
 (甲)ノ如キ異常無クトモ交接不能ヲ起因セザル可カラズ吾人ノ知ル所ニ依  
 レバ、勃起ハ一ノ反射現象ニシテ其中樞ハ脊髓(腰髓部)ニ存シ、該中樞ノ  
 興奮ハ勃起神經ヲ通ジテ陰莖ノ海綿體中ニ動脈性ノ充血ヲ來シ(同時ニ海  
 綿體ヲ弛緩シ血液ノ還流ヲ抑制ス)コレニヨリテ陰莖ノ増容ト動直(勃起)  
 トヲ惹起ス而シテ勃起中樞ノ興奮ハ一方陰具ニ占位スル知覺神經ノ末梢ヨ  
 リ求心的ニ到來スル刺激ニ基キ一方腦髓ヨリ傳達スル刺激ニ基クモノナリ  
 故ニ勃起中樞及ビ腦ノ異常ハ勿論ノコト腦及ビ陰具ヨリ此ノ中樞ニ刺激ヲ  
 傳達スルノ通路若クハ勃起中樞ヨリ陰莖海綿體ニ遠心性ニ走行スル勃起神  
 經ニ障礙アルモ亦勃起障害(不能)ヲ生成スルハ自明ノ道理ナリ、然レドモ  
 一面、腦ハ勃起ヲ抑制スルノ働キヲ有スルコトヲモ忘ル可ラズ、若シコノ  
 抑制作用ノ減退スルトキハ勃起ハ比較的容易ニ來現ス。勃起中樞ハ幼者及  
 ビ高老者ニアリテハ尙未ダ(或ハ既ニ)作用ヲ營マズト雖平〇郎ノ年齢ハコ  
 レヲ顧慮スルノ必要無シ

右記年齡ノ關係ノ他、勃起不能ヲ由來セル異常ハ之ヲ先天性ト後天性トニ二  
 大別スルコトヲ得  
 (イ)先天性  
 之ハ官能の無性(中性)或ハ性慾不管性者ト名ヅクルモノニシテ先天性ニ性  
 慾ノ缺如スルモノナリ  
 (ロ)後天性  
 一旦完全ニ發育セル勃起作用モ亦種々ナル病的原因ニヨリ一時的若クハ永

久ニ消失スルコトアリ。即チ

(一)腦及ビ脊髓ト勃起中樞トノ間ニハ先ニ述ベタルガ如キ解剖學上及ビ生理  
 學上ノ關係アルガ故ニ腦及ビ脊髓ノ器質的或ハ官能の疾患ガ往々勃起障  
 礙ヲ誘起スルコトアルハ見易キ道理ナリ即チ進行性癲癎狂ノ如キ精神病  
 溢血、甚シキ頭痛、脊髓炎脊髓ノ外傷、高壓電力ニヨリ傷害等ハ其ノ例ナ  
 リ

(二)神經衰弱症、過度ノ手淫或ハ房事、陰具ノ局所的疾患、殊ニ尿道ノ慢性  
 痲疾、後部慢性尿道炎等(之レ蓋シ本症ノ爲ニ勃起中樞ガ持續的ニ過度ノ  
 刺激ヲ受ケテ過勞スル爲ナラン)

是レ等ノ病症ニ於テハ屢々早期射精精漏遺精等アリ、又神經衰弱症ノ普通  
 徵候タル頭痛、心機亢進、睡眠不安等ノ他、往々舉丸或ハ龜頭舉丸等ノ劇  
 痛アリ、又他覺的ニハ筋ノ振顫、腱反射ノ亢進、脈搏ノ容易ニ影響セラ  
 ル、コト等ヲ檢出スルコト多シ

(三)酒精、もるひね等ノ慢性中毒、糖尿病全身ノ甚シキ衰弱、急性熱性病等  
 (四)精神の制止(例之、惡心、嫌厭、羞耻、嘔噦、悲衰等)但シコ、ニ屬スル  
 交接不能ハ多ク或ハ一定ノ婦人ニ對シテノ現實ス(精神の交接不能)

前掲ノ諸症狀ト今回被檢者ヲ檢診シテ得タル現在徵候ト既往歴トヲ對比スル  
 ニ平〇郎ノ身體ニハ(甲)ノ中ニ掲ゲタルガ如キ畸形病變、外傷ノ遺跡ハ一  
 モ之レ無ク、又(乙)ノ部ニ述ベタル諸症ノ一若クハ一以上ノ存在シテ勃起  
 不能ヲ必來ス可シト認ムベキ點無シ、故ニ予ハ(一)被檢者平〇郎ヲ「交接不能  
 者ナリ」ト確定スルニ足ル所見無シ

此ノ鑑定ハ大正〇年十一月八日著手  
 大正〇年十一月十一日終了

大正〇年一月十一日 京都市吉田町上大路二十九番地  
 醫 岡本 榮 松 圃

口、受胎及授胎不能

甲、授胎不能

授胎不能ハ舉丸ガ健康ナル精蟲ヲ分泌セザルカ、尿道ニ病的變化  
 アル時ニ來ルモノニシテ、兩舉丸ガ全ク缺如スル時ハ絕對的授胎不  
 能ナリ、但シ一方ノ舉丸アル時ハ授胎ニ關シテハ何等ノ差支ヘナ  
 シ。又實際舉丸ノナキモノトツガ腹腔中ニ潛在スルモノトハ誤診ス  
 ベカラス、要之、精液中ニ健康ナル精蟲存在スレバ授胎能力アルハ  
 確カナリ、精蟲ノ検査法ハ已ニ述ベタルガ如シ、男子ガ健全ナル精  
 蟲ヲ分泌スルハ十四歳ヨリ最高年ニ達スル迄ニシテ、假令、精液ヲ  
 分泌シタレバトテ精蟲ノ有無否ヲ檢セザレバ、授胎能力ノ有無ヲ  
 決定スベカラス、何トナレバ、攝護腺ノ分泌液ノミニテモ充分射精  
 スルコトヲ得レバナリ。

舉丸ヲ犯シテ授胎不能ヲ來スモノハ舉丸萎縮、結核、梅毒、酒精  
 及もるひね中毒等ニシテ、尿道ヲ犯シテ同状態トナルハ淋毒、尿道  
 上下裂、瘻痕等ナリ。

乙、妊娠不能(受胎不能)

女子ガ受胎スルヲ得ルニ至ルハ月經ノ來ルヲ以テ確兆トス、コハ  
 十三乃至十五歳ヨリ(平均十四歳八ヶ月)始マリ、四十乃至五十年ニ

テ終ル、但シ數多ノ例外アルハ言フマデモナキコトナリ。月經ハ年  
 齡、榮養、氣候等ニ依リテソノ發來、出血量、閉止等異ナリ、月經  
 血ハ暗赤色ニシテ凝固シ難ク、鏡檢スレバ血球、粘液、子宮及腺ノ  
 上皮細胞アリ、死體ニ於テ月經期ナリシ徵候ハ卵巢ハ大トナリ、  
 〇一ム氏胞腫大シ、黃體ヲ見ルコトアリ、子宮モ亦腫大シ、粘膜モ  
 肥厚シ、血量多クナリ、所々ニ血液凝固物ヲ附着シ腺ハ退縮シ居ル  
 故、子宮粘膜ハ恰モ篩ノ如ク見エ、上皮細胞ハ所々剝脫シ、毛細血  
 管ハ破裂シ血液ヲ漏シ居ル故鑑別シ得ベシ。

一般ニ妊娠不能ノ起ルハ卵巢缺如スルカ或ハ卵巢ハ存在スルモ病  
 的ニ破壞サレアリテ、卵ヲ輸出スルコト能ハザル状態ニ在ルカ、喇  
 叭管ノ疾患ニヨリテ受胎ヲ障礙スルカ、子宮ニ卵ヲ宿セシムル能ハ  
 ザル際ナリ、例ヘバ卵巢囊腫、喇叭管炎、子宮ノ變位及子宮内膜炎  
 等ニ於テ妊娠不能トナルガ如キ之レナリ。但シ交接不能トナレバ  
 トテ必ズシモ受胎不能ナラズ、何トナレバ陰門ノ近傍ニ健康ナル精  
 蟲ヲ射出スレバ、已ニ妊娠スルコトヲ得ル場合アレバナリ。時トシ  
 テ人工妊娠ノ行ハルコトアレドモ、夫ノ同意ヲ得ザル人工妊娠ハ  
 夫婦間ノ摘出子ナルヤ否ヤニ付、尙法律上ノ疑問アリ。  
 授胎不能及妊娠不能ハ裁判上ノ離婚原因トナスコト能ハズ。

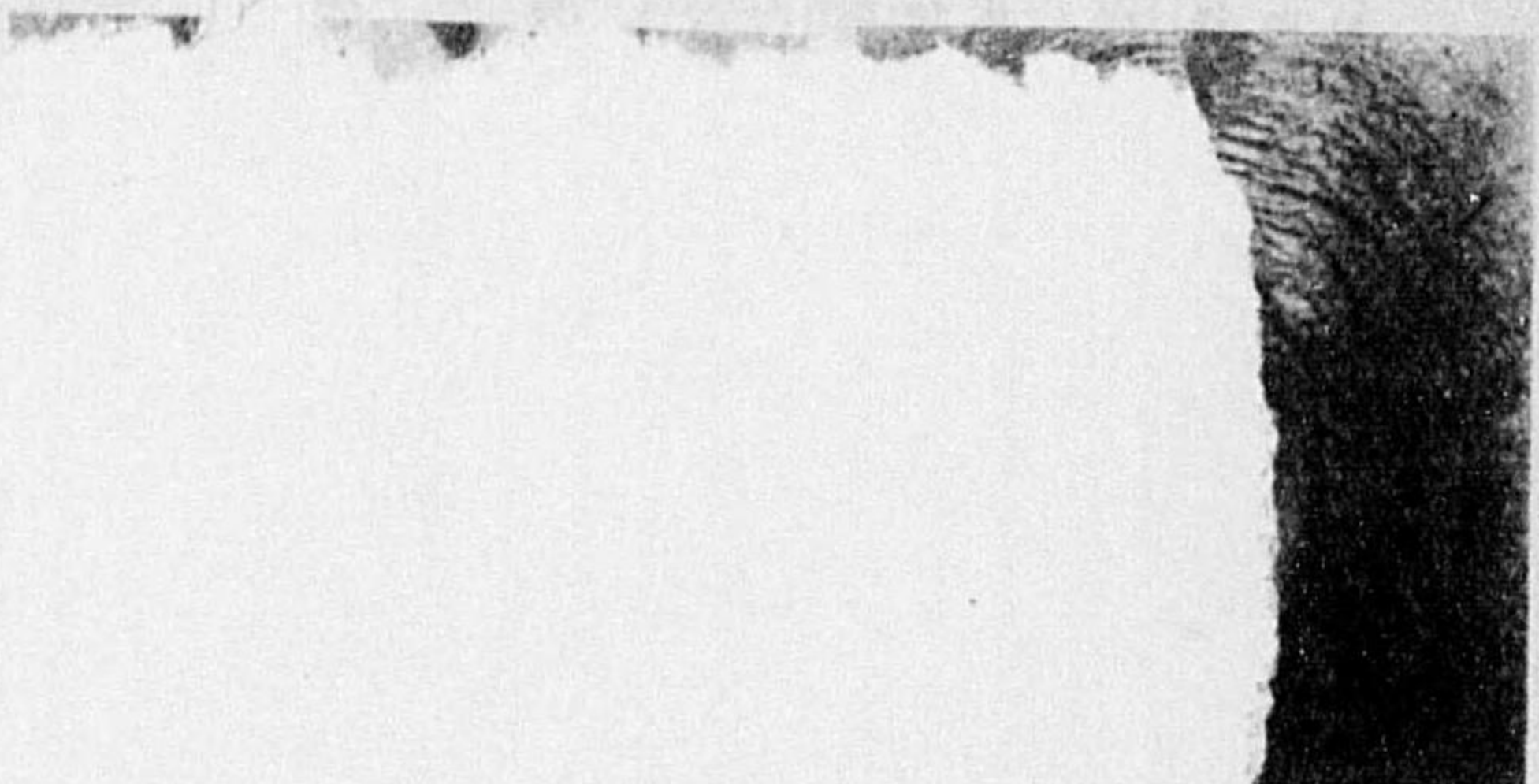






# 欠

圖 三 十 四 百 二 第



予及安藤守元氏ノ鑑定セルモノニシテ、八年間人ノ妻ノテ同棲シ、其後或犯罪ニシテ、性ノ...

子トシテ死セシモノアルガ如キ之レナリ。

第四十四例 撫順縣公署公函  
邦啓、本縣ノ王寶昌、楊殿國等ヲ王湯氏即チ王福ヲ訴ヘテ曰ク「王福春ハ...

中 陰 陽

遂ニ女子ト  
ハニハ男  
青年  
養  
又小  
一ト  
ヲ  
ハハ

民女ヲ姦汚シ財物ヲ誘取シタト。而シテ被害者王董氏ヲ詳細ニ訊問スルニ、其ノ供訴ニヨレバ「王湯氏ハ二形人（半陰陽ノ意）テ陰門内ニハ陰莖アリ。通常性的興奮無イ場合ニハ、其レガ隠レテ外ニ現ハレズ。然ルニ婦人ヲ抱ヘタ場合ニハ、其ノ陰莖ガ陰門外ニ突出シテ來ル、長サ約五寸位アリ紅色ヲ呈シ尖ツテ居ル、尖端ニ小孔ガアリ、其ノ太サハ手指位デアル。而シテ交接能力ガ非常ニ頑強デ、長時間ヲ經テカラ始メテ射精スル、射精後ニハ忽チ萎縮シテ陰門ニ引込ミ女子ト異ラナイ状態ニナル。彼ニ姦淫サレタ者ハ多數アルト尙、該婦人ノ郷里ノ人々及ビ王董氏等ニ質問スルト、其ノ供訴モ亦同様デアル。之ニヨレバ王湯氏ガ二形人デアルトイフ事ハ疑フ餘地ガ無イ。併シ王湯氏ニ質問スルト絕對ニ否定シテ居ル。本事件ハ曾テ當地滿鐵醫院ノ検査ヲ受ケ、事實無根デアルト却下シタガ、今度又本署ニ訴ヘテ來テ居ル。本事件ハ實ニ風化ニ關係スル姦淫事件デ、徹底的ニ検査シ真相ヲ明カニセネバナラヌ。貴教室ノ法醫専門家ハ特別生理ノ經驗ヲ有ス、今屬員ニ命ジ王湯氏ヲ連行スル故、何卒詳細ナル検査ヲ願フ。

民國十四年三月一日（大正十四年三月一日）  
撫順縣知事 黃 世 芳 啓

南滿醫科大學法醫學教室殿  
鑑 定 書

中華民國十四年三月一日撫順縣知事黃世芳ハ王湯氏（三十六歲）強姦被害事件ニ關シ王湯氏ガ男ナリヤ女ナリヤヲ鑑定スベキ旨余等ニ囑託セリ。依テ同月同日ヨリ審査檢按ニ從事シ以テ本鑑定書ヲ作成ス

第一、一般身體検査  
裸體トナシテ檢スルニ  
身長一五二釐、體重四五・三斤胸圍八〇釐榮養狀態佳良顏貌軀幹四肢ノ均衡尋常ニシテ女子トシテ正常ノ體軀ナリ。  
特ニ皮下脂肪ノ發育良好ニシテ頭部肩胸部腹部臀部四肢ニ於テ女性ニ見ル如



キ曲線丸味ヲ認ム。頭部ニハ約一五種長ノ斷髮ヲ有シ左右ノ耳朶ニ耳飾ノ孔痕アリ變質ノ症候ヲ認メズ。乳房ヲ檢スルニ大サ約手拳大半球狀ニ膨隆シ觸ルニ弾力性柔軟其中央部ニ帶柄殆紅シ。

骨盤  
腸骨  
外斜  
同右  
腸骨  
大轉

婦人科

大陰

小陰

陰核

口ノ

腔ヲ

平滑方向

宮體部ヲ確實ニ觸知シ得マサ、其度尋常腔腔ノ長サ前壁ニ於テ約七・二

握後壁ニ於テ約八握ヲ算ス。

更ニ指ヲ肛門ニ挿入シテ直腸前壁ヲ觸診スルニ攝護腺ヲ觸知セズ。

第三、入院中ノ舉動

上縁(生) 一リ稍々突出ス ス尿道口及び腔

ニテ檢スルニ腔腔略々 壁ニ置キ兩手ニ檢スルニ子

更ニ指ヲ肛門ニ挿入シテ直腸前壁ヲ觸診スルニ攝護腺ヲ觸知セズ。

第三、入院中ノ舉動

鑑定囑託ノ記錄ニヨルニ王湯氏ハ女ニ對シ色情ヲ催シ之ヲ姦淫スト云フ依テ此事ノ眞偽ヲ確證セン爲メ入院セシメ精神身體略々健全ナル支那人趙生絲文(二四歳)(輕症もひ中毒症患者)ト同室ニ收容シ床ヲ並ベテ就寢セシメ注意深ク始終觀察シタリ。其ノ舉動記錄ハ左ノ如シ。

入院中ノ舉動記錄(看護日誌ヨリ)

大正十四年(三月二日)三時三十分六號室ニ收容ス早速洗濯着物洗濯ヲ元氣好ク行ヒ濟ミシ後自床ニ坐シ同室ノ支那人ト頻リニ談話セラル。

四時夕食ヲ濟マシ相變ラズ談話ニ耽ラル九時就寢ナシ十時便所ニ行カル其後直ニ就眠セラル十一時四十分褥中ニテ自ラ目ヲ閉キ居ラレタルモ十二時就眠ナシ時々視キ見ルニ靜方ニ安眠セラル午前一時十五分目ヲ閉ヂタマ、床中ニテ頭部ヲ動カシ居ラレタルモ其ノ後覺醒セラル、様子モナク安眠セラレタリ同四時二十分便所ニ行キ直ニ自床ニ歸リ就眠セラレタリ(山本)

(同日三日)朝ヨリ褥中ニ腹匈ヒトナリ趙氏ト談話シテ居ラル朝食後洗面處ニテ洗濯ヲナシ居ラレタリ其ノ後モ相變ラズ趙氏楊附添婦等ト頻リト談話ニ耽ラル。

食事ノ際ニハ起キ出デ、食事ヲ濟マサル、モ外ハ大低褥中ニ在リテ談話ナシ居ラル時ニハ趙氏ヨリ本ヲ借りテ低聲ニテ讀ミ居ラル、コトアリ。

夜ハ相變ラズ趙氏ト九時頃迄談話ヲナシ容易ニ眠ラザリシ故眠ル様注意セシニ同九時四十分頃ヨリ就眠ス零時便所ニ行カレシ後直ニ自床ニ歸リ就眠ス午前四時四十五分再ビ便所ニ起キ出テラレ暫時ニシテ自床ニ歸リ直ニ就寢セラレ安眠ス午前六時三十分起床セラレタリ(井手)

(同日四日)終日同室ノ趙氏ト楊氏附添ト快活ニ談話サレ時々見舞ニ行ケバ色々話シカケラル朝食後ハ洗濯ヲナシ或ハ上衣ヲ脱ギテ霧ヲ吹キ疊ミ等サル午後ハ小長谷氏畑岡氏ノ坐リ居ルヲ眞似シ趙氏ト共ニ笑ヒコケテ居ラル夜ハ自室ニテ談話ナシ居ラルモ變リタルコトナシ九時頃ヨリ就眠ス午前二時中ト

就寢セシカド趙氏ノ呻キ聲ガヤカマシイトテ看護婦室ニ告ゲニ來タル其後十一時四十分頃ヨリ就眠ス午前五時便所ニ行カレ歸室後直チニ就床セラレシモ暫時趙氏ト低聲ニ談話ナシ居ラレ同二十時頃就眠シ同七時頃起床セラレタリ。(井手)

(十日)前日同様ニシテ變リナシ月經ニツキ心配ヲナシ居ラル様子ニテ先生ガ見ラレタカ見ラレデモ良イカト何度モ聞カレタリ午後十時三十分頃ヨリ就眠十二時三十分便所ニ起キ暫ク趙氏ト話シ居タルモ後就眠セリ就床(猿田)

(十一日)今後五日過ケレバ歸ルトテ理髮屋ヲ呼ンデ吳レト申サルニヨク理髮屋ヲ呼ビ理髮セシム午前中池内先生ノ御診察アリタリ食藥完全ニシテ格別變リナシ。夜早クヨリ就床セラレ八時三十分頃ヨリ安眠セラレタリ。

翌五時再ビ便所ニ行カレシモ再ビ就床ナシ安眠ス。(山本)

(十二日)前日同様ニシテ變リナシ午前十時頃入浴セシム食事良ニシテ終日總室或ハ廊下ノ腰掛ニ寄り雜談ヲナシ居ラル夜八時頃ヨリ就寢ナシ同三十分頃ヨリ就眠セラレ午前三時一度便所ニ起キラレシモ直チニ就寢安眠セラレタリ起床六時三十分。(井手)

(十三日)前日同様ニシテ變リヲ認メズ食事良就床八時半ニシテ其後安眠セラレ午前五時一回便所ニ起キシノミナリ起床六時本日月經止ム。(猿田)

(十四日)本日歸ル事ニツキ心配ナシ居ラレタリ自分ノ時歸ル時證明書ヲ先生ニ書イテ貰ツテ吳レト同ジ事ヲ繰返シ居ラレタリ午後池内先生ノ診察アリテ後モ先生ノ診察ノ結果ヲ尋ネラル食藥完全ニシテ夜九時就眠セラレ三時便所ニ行カル直チニ自床ニ歸リ六時起床(山本)

(十五日)午前十時退院ス

同室ニ住居セシメタル趙素文ノ陳述ハ次ノ如シ(退院ノ前日聴取)

三月十四日午後二時同室ニ居住セシメシ趙素文ノ陳述

問 アノ人ハ何ナ人ト思フカ

答 實際ノ女ト思フ今日入浴ヲ一緒ニシマシテ良ク心得テ居リマス

四時十分ニ便所ニ行キ歸室後直ニ就床ス。四時五十分ニモ又便所ニ起キラル下痢アリ腹痛ヲ訴ヘラル以後就床シ居ラレタルモ眠ラレズ(猿田)  
(五日)午前中自床ニ靜臥ナシ居ラル午睡セントセラレ、ニ注意スレバ看護婦ニ寢ヨト云ハル自分ガ此ノ病院ニ居ル間貴女達ハ夜寢ナイ自分ガ歸ツタラ寢ルダロウケレドモ自分歸ルノハイヤト云ハル胸腹部ニ手ヲ置カレ不好ト申シ居ラレタルガ間モナク月經來潮ス日本食食藥完全ニシテ夜ハ早クヨリ就床ナシ居ラレタルモ趙氏ノ苦痛ヲ見ラレ親切ニ看護セラレタリ。十一時五十分就眠セラレ零時十五分便所ニ行カル直ニ自床ニ歸リ就眠セラレ再ビ二時便所ニ行キ就眠シ變リタル事ナシ五時ニ起キ便所ニ行カレ再ビ直ニ就眠ナシ六時三十分起床セラレ。(山本)  
(六日)午前中暫時ノ間午睡ス其食前趙氏ト五號室ニ入り何事ヲカ話シ居ラル御診察後モ趙氏楊氏附添ト談話シ見舞ヘバ笑ヒ乍ラ話シカケラル夕趙氏附添婦ト共ニ談話シ腹ヲ抱ヘテ笑ヒ居ラル、ナリ夜ハ八時三十分頃ヨリ就眠シ九時便所ニ行キ直ニ歸リ就床シ安眠ス午前四時再ビ便所ニ行カレタルモ別ニ變リナク直チニ歸ツテ就寢安眠セラレタリ(井手)  
(七日)午前九時五號室ニ轉室セシニ最初不審氣ノ顔色ヲナシ居タルモ其ノ後廊下ノ椅子ニ腰掛ケ趙氏楊氏附添ト談話ナシ變リタルコトナシ午後見湯氏ノ面會アリ小使錢ヲ渡シテ歸ラル。  
午後七時半頃就床シ趙氏ト談話ヲナシ居ラル八時三十分便所ニ行キ九時頃ヨリ就眠ス午前二時及ビ四時四十五分便所ニ起キタルモ歸室後直ニ就床シ變リナシ起床七時(猿田)  
(八日)食藥完全ニシテ格別變リナシ夜十時ヨリ就眠ナシ安眠セラレ午前三時便所ニ行カレ其ノ後直チニ異常ナク自床ニ横臥再ビ安眠セラレ朝六時ニ起床セラル附添人ト談話ニ耽ラル(山本)  
(九日)相變ラズニシテ格別變リナク趙氏楊附添婦等ト談話シ居ラル食事ハ良クナリ夜ハ八時三十分頃ヨリ就眠セラレ十一時十分便所ニ行キ歸室後直チニ



問 猥褻ナ事ヲ云フ事ガアルカ

答 自分ガ此度監獄ニ入レテ残念ナル情ナク思フ自分ノ夫ガ他ノ女ト通ジタノデ自分ガソレヲ見テ怒リ相手ノ女ヲ二ツ許リ頼ヲ毆ツタトコロガ女ガ怒リ出シテキカナイノデ自分ガ警察ニ行ツタ所ガ先方カラ運動サレテ監獄ニ入レラレタノダト云フ

問 イヤ猥褻ナ事ヲ淫ラナ事ヲ云ハナイカ

答 ソンナ事ハ言ハナイ心配シテル様子デ減多ニ物ヲ云ハナイ

問 アノ女ハ男ト何人關係シタト云フ事ハナイカ

答 ソンナ事ハ言ハナカツタ

問 アノ女ハ夫トハ關係シタ事ハナイト云フタカ

答 最初ハ夫婦ノ仲ヨク四、五年暮シタ所ガ昨年頃ヨリ夫ガ妾ヲ持ツテ妾ハ最初ハ自分ノ云フ事聞イテ居タガダンノ、云フ事モ聞カナクナリ妾ノ所ニ強姦ニ來タトソノ女ガ云ハシタノデアルト云フ。

問 始メハ夫ト關係シタト云フタガ其レハ何度位カ

答 始メハ仲ガヨカツタカラ關係ハシタ十六年間モ連添ツテ居ルカラ何度トナンテ事ハ云ヘナイ

問 夫以外ノ他ノ男ト關係シタト云フ事ハ云ハナカツタカ

答 云ハナイ

問 汝ニ對シテイヤラシイ事強姦シサウナ事ハナカツタカ

答 ソンナ事ハナイ

問 彼女ノ生殖器カラ四、五寸ノ指ノ様ナ物ガ出ルト云フガ見タ事ガアルカ

答 ナイ

問 言葉ツキカラ動作ハ男ニ近イカ女ニ近イカ

答 女ニ似テ居マス

問 アノ女ニ就イテ何カ感じタ事ハナイカ

答 他ニ特別ナ事ハナイ

第四、王湯氏トノ問答

大正十四年三月十四日午後三時半

問 夫トノ關係ヲ話シテ御覽

答 嫁入りシテ以來良カツタガ妾ヲ持ツテカラ悪クナツタ

問 結婚シテカラ何年ニナルカ

答 十八年

問 何月何日カ

答 舊二月二十七日

問 小供ヲ産ンダ事ガアルカ

答 ナイ

問 妊娠シタ事ガアルカ

答 ナイ

問 月經ハ何時カラアルカ

答 十五歳ノ終リ十六歳ノ初メ頃ト覺エテル

問 元來正調カ

答 四年前病氣ニカ、ツタ時約一年許リ止ツテ居タガ其ノ他ハ正調デアル

問 何日デ止ミ何日位間ヲ置イテカ

答 四、五、六日位月々正確ニ來ル事モアレバ時ニヨレバ二、三日違フ事モアル

問 結婚當時ハ關係シテ居タカ

答 居タ

問 何年位續ケテ居タカ

答 妾ヲ持ツマデ續ケテ居タ

問 妾ヲ持ツテカラハ夫ガ近カヅカナイノカ自分ガ近ヅカナイノカ

答 夫ガ近ヅカナイ傍へ行クト二人カラナグラレル飯モ食ハセナイ自分ハ今親元ヘ厄介ニナツテ居ル

欠



# 欠

トアリ、ソノ他破瓜ノ場合ニ會陰破裂ヲ來シ、小陰唇及陰門等ノ腫脹シ居ル場合アリ、已ニ交接ニ經驗アル婦人ニテハ生殖器ノミヲ見テ交接遂行ノ有無ヲ決定スルコト能ハズ。尙婦人ノ腔内ニ或ハ腰卷衣服及蒲團等ニ精液ヲ證明スルコトヲ得レバ確實ナル據リ所トナル、ソノ證明法ハ已ニ述ベタリ。次ニ加害者ガモシ花柳病ヲ有シ、婦人ガ以前ニハ花柳病ヲ有セザリシコト確實ニシテ、而モ加害者ノ有スル花柳病ト、同病ヲ傳染サレ且花柳病發展ノ狀況ト、交接遂行セラレタリト稱スル日ヨリ検査時迄ノ經過日數ト略相一致スル時ハ、交接遂行ノ證トナルコトアリ。ソノ他婦人ノ體格、健否、精神狀態及身體ニ於ケル他ノ損傷ノ有無等ヲモ注意シテ検査スベシ。

## 乙、加害者検査

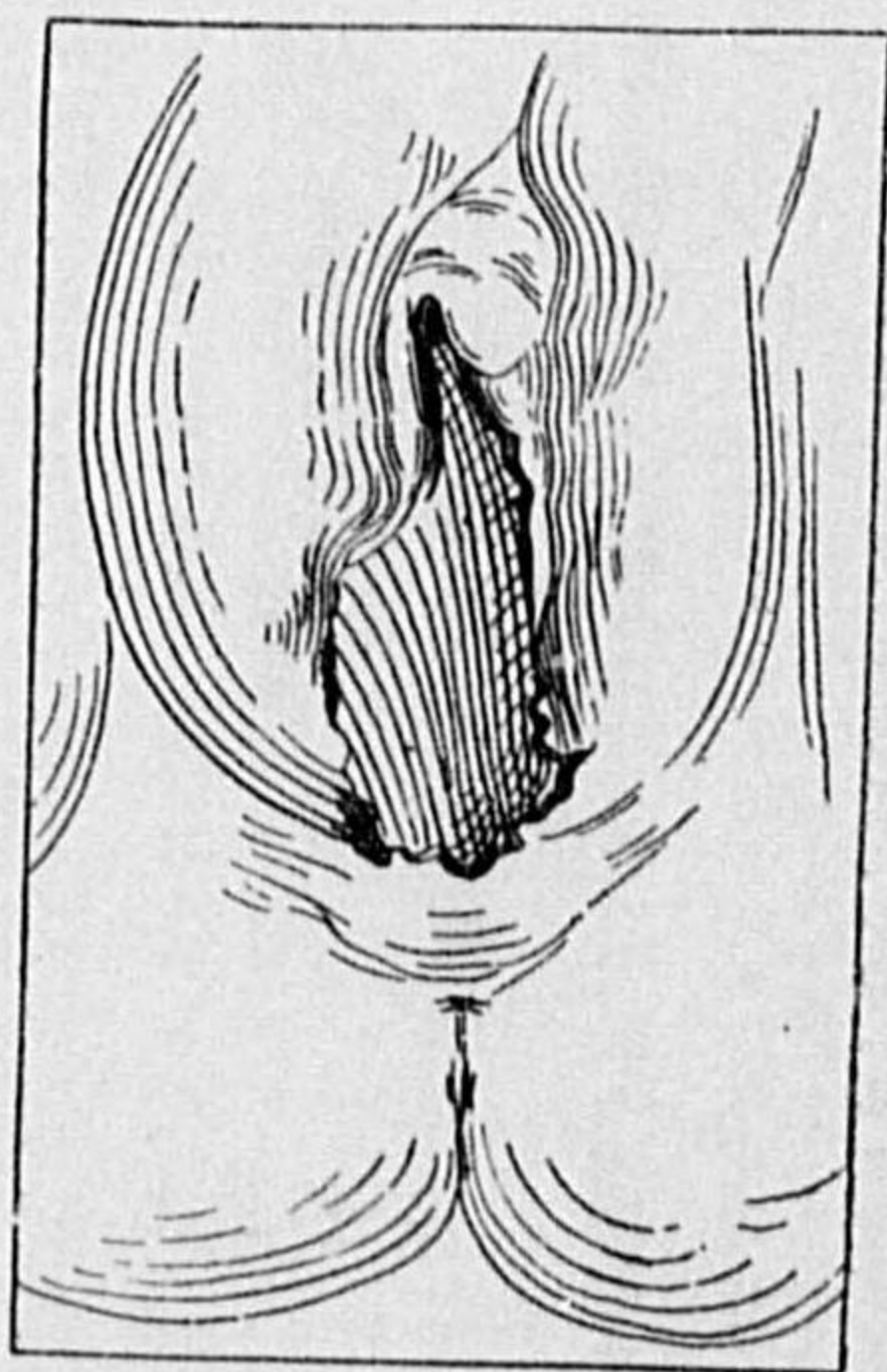
第一ニ其精神狀態ノ健否ヲ檢シ、次デ體格、榮養、花柳病及抵抗セラレタル爲メニ生ジタル損傷ノ有無等ヲ診定スベシ。

## 中、交接ハ犯法的ナリシヤ否ヤ

暴行ニ依リ交接ヲ遂行セシ時ハ加害者及被害者ノ身體ニ抵抗ノ痕跡アリ。例ヘバ婦人ノ大腿内面ニ爪或ハ手指ニ依レル表皮剝脱及溢血等アリ、ソノ他加害者及被害者ノ身體所々ニ種々ノ損傷ヲ來シ居ルモノナリ。特ニ婦人ノ得心ヲ得ズシテ腔ニ陰莖ヲ挿入スル時ハ、

抵抗或ハソノ他ノ原因ニヨリ陰唇腫等ニ出血、表皮剝脱、破裂等ヲ來シ易シ。一般ニ婦人ガ暴行脅迫ニヨリ強姦セラレタリト云フ場合、抵抗ノ痕跡ナキニ於テハ詐僞ノ申立ニ非ラザルヤヨク注意シテ檢スベシ、次ニ加害者竝ニ被害者ノ身體發育及健否ノ狀態ニモ注意スベシ、通常發育中等健全ナル成年女子ヲ略同體格ノ一男子ニテハ、到底強姦スルコト能ハザルモノナリト云フ。但シ婦人ガ防禦不便ノ

圖六十五百二第



二十歳ノ女處ノ強  
ニヨル會陰破裂

位置ニ在ルカ、又ハ體力ニ大ナル差異アル時ハ往々ソノ目的ヲ達スルコトヲ得、多クノ男ガ一人ノ女ヲ強姦シ得ルハ明ナル所ナルガ、三人ノ男ニテ一女子ヲ強姦シ能ハザリシ報告アリ。又姦淫ノ事ニ關シテハ婦人ハ往々虚偽ノ申立ヲナスコトアルニ依リテ注意スル必要アリ、即チ佛經典中ニモ指鬘ノ師ノ妻已ニ之ヲナシ、又余ノ實驗例ニ



依レバ九歳ノ一小女ヲ一青年ガ強姦セリトノ訴ヘニ依リ、某醫師之ヲ鑑定シテ處女膜破裂セルヲ以テ確ニ強姦セラレタルモノナリト診斷セシモノヲ再鑑定ヲナセルコトアリ。ソノ少女ヲ檢スルニ處女膜完全ニ存シ、ソノ他種々ノ検査ヲ行ヘルモ強姦セラレタリシ微標ナカリシガ、後ニ至リテ該女ノ母ガ或目的ノ爲メニ該青年ニ對シテ誣告セルモノナルコト明トナレリ。此ノ如キ誤リヲ來ス事アレバ、處女膜ヲ檢スル如キ場合ニハ必ズ光線ノ充分ナル場所ニテ行フベキモノトス。

次ニ婦人自身或ハ其小兒ニ加害セントノ脅迫ヲ加ヘ、不止得、婦人ニ交接ヲ忍容セシムルコトアリ、是又強姦ヲ以テ論ゼラルルモ、之ニ就テハ醫學範圍外ノ事情ニ依リテ決定スベキモノトス。人事不省、或ハ麻痺ニ陥ラシメ、或ハソガ陥リ居ルニ乘ジテ行ヒタル交接モ亦同様ニ強姦ヲ以テ論ゼラルルモ、此際婦人ノ身體及生殖器ニ就テハ、多クハ特記スベキ異常ナシ。茲ニ注意スベキハ麻酔ニカカリシ婦人ニ、往々交接安覺ノ存在スルコトナリ、故ニ醫師ガ婦人ニ内診或ハ麻酔ヲ行フ場合ニハ、必ズ立會人ヲ置カザレバ後日強姦誣告ノ累ヲ招クコトアリ。勿論夫婦間ニハソノ意ニ反シ性交ヲ行フモ虐待ノ問題コソ起レ強姦罪ハ成立セザルモノナリ。

ソノ他催眠術乃至麻酔ニカカリシモノ、精神病者、白痴等ニ對スル交接モ強姦ヲ以テ論ゼラル。但シ催眠術或ハ麻酔ニカカリテ強姦セラレタリト稱スルモノニ對シテハ十分ナル警戒ヲ要ス、何トナレバ餘程特別ナル事情アルニアラズンバ、斯ル方法ニテ強姦ニ成功スルコトハ非常ニ困難ナレバナリ。

深キ睡眠ニ陥レル婦人ニ對シ婦人ノ全ク知ラス間ニ交接ヲ行ヒ、又ハ夫ト誤認セシメテ交接ヲ遂行スルコトハ、往々成功スルモノニシテ是亦強姦ヲ以テ罰セラル。

下、強姦ノ結果

強姦ノ結果トシテハ婦人ヲ死ニ致シ、或ハ精神的ニ致命傷ヲ與ヘ損傷ヲ來シ、妊娠セルモノヲ墮胎セシメ又ハ花柳病ヲ傳染セシムルコトアリ。特ニ成人ガ幼女ヲ強姦スル時ハ多ク會陰ノ破裂ヲ來スモノナリ(第二百五十六圖參照)

鑑定實例

第四十五例 鑑定書

大正〇年〇月〇日〇〇地方裁判所檢事〇〇〇〇ハ荒〇喜〇〇〇強姦致死被告事件ニ付

(天)紀〇キ〇ノ屍ニ付キ

(一)創傷ノ部位形狀、程度及致傷器ノ種類

時半頃頭部ニ損傷アリ外陰部ヨリ出血シ死亡シ居ルヲ發見シタルモノナリト云フ

(甲)外表検査

一、女兒屍體格及發育其年齡ニ適シ皮色ハ全身一般ニ蒼白ナリト雖右半身及脊面ノ壓ヲ受ケザル部ハ淡紫色ヲ呈ス、死後ノ強直ハ下頸及四肢ノ諸關節ニ尙強ク存ス

頭部ニハ約一二〇種ノ黒毛密生シ有毛ノ頭皮ニハ外視シ得可キ損傷ナシ

二、顔面ニハ次ノ損傷アリ。(附圖略)

(イ)前頭部ニ於テ眉毛ノ中央ヨリ三〇種ノ上方ニ麥粒大褐色斑一個、(ロ)

(イ)ノ右上方一五種ノ處ニ同狀ノ斑一個、(ハ)右眼ノ外眥ヨリ一〇種

上方右眉毛ノ右端ニ接シ淡褐色ノ二麥粒大ノ斑一個、(ニ)右額骨部ニテ

右外眥ヨリ下方二〇種ノ處ニ右眼ト殆ト平行ニ走レル二〇種ノ線狀

斑一條、(ホ)斑ヨリ一〇種直下ニ殆ト之ト平行ノ同狀斑一條、(ヘ)

頰部ノ殆ト中央ニ淡褐色ノ境界不明ナル麥粒大ノ斑一個、切線スルニ皮

下脂肪僅ニ淡赤色ヲ呈スルノミ

三、眼閉テ結膜蒼白ナレ共兩上眼瞼ニハ粟粟粒大ノ溢血アリ、角膜透明、瞳

孔左右同大四〇種徑ナリ

鼻腔内ニ異物ナク、口腔ノ齒齦前ニモ亦異物ヲ見ズ舌ハ齒齦ノ間ニ突出ス

上齒列ノ門齒全部及下齒列ノ外門齒ハ缺損シ殘餘シ門齒ハはつちんそん氏

ノ齒牙ヲ呈ス

兩耳殼ニ異常ナク外聽道内異物ナシ

四、頸部ニハ次ノ損傷アリ(寫眞略)

(ト)右側頸部ニ略胸鎖乳頭筋ノ上ニ坐シ「く」字形ヲ呈シ外下方ハ凸面ニテ

内上方ハ凹面ナリ其大サ「く」ノ片ノ長サ一五種幅、ハ三〇種ナリ

(チ)(ト)ノ内端ニ接シ正中線ヨリ約一五種右方ニ上下ニ走レル線狀斑

一個アリテ一ニ種長一〇種幅ヲ算ス(リ)喉頭軟骨ノ上ヨリ、左側頸部

(一)死因

(三)強姦形跡ノ有無

(四)死後ノ經過日數

(地)被告人ノ身體ニ付キ

(一)創傷及附著物ノ有無

(二)若シ創傷及附著物アリトスレバ其部位形狀程度並ニ其創傷及附著物ハ鑑定ヲ命ジタル女兒ノ如キ幼兒ヲ強姦セントスルニ當リ生ズベキ創傷及附著物ニ該當スルヤ

(三)最近交接シタル形跡ノ有無

(五)第一號第二號證(一、二、三)及第三號證ニ付キ

精液及血液附著ノ有無及ソノ個所

(黃)第四號證(毛髮一本)ニ付キ

陰毛ナリヤ否ヤ

ヲ鑑定スベキ旨ヲ〇〇縣〇〇郡〇〇警察分署ニ於テ予ニ命ゼリ依テ同署ニ於テ同日午前十一時四十分乃至午後一時二十五分同裁判所檢事正〇〇〇〇及同檢事立會ノ上右記〇キ〇ノ屍ヲ剖檢シ次テ被告荒〇喜〇〇ノ身體ヲ検査シテ其身體ニアル損傷ヲ記載シ麥粒大ニ附著セル乾糊樣物及尿道口ヨリノ分泌物ヲ採集シ之ヲ同署ニ於テ同檢事ヨリ交附セラレタル第一乃至四號證ト共ニ京都帝國大學醫學部法醫學教室ニ於テ大正〇年五月十七日乃至六月三日ニ至ル期間検査シソノ結果ニ依リ此鑑定書ヲ作ル

(天)紀〇キ〇解剖検査記録

〇〇縣〇〇郡〇〇町大字〇〇字或下  
乾〇吉内縁ノ妻紀〇ル私生兒長女

紀〇〇キ〇

大正三年二月十五日生

右者同縣同郡〇〇村大字〇〇淺〇末〇〇方ニ於テ大正〇年〇月〇〇日午後六



ニ及ベル大淡褐色斑アリ「(レ)ノ字形ヲ呈シ大ナル部ハ小指頭大左右徑一・二種、上下徑一・〇種ナリ、(メ)、(リ)ノ左方ニ接シ大豆大ノ淡褐色斑三個上下ニ竝立ス(ル)耳垂ヨリ内下方五・〇種(リ)斑ヨリ左方約四・〇種、上方ニ蠶豆大ノ淡褐色斑一個アリ、切檢スルニ皮下組織ハ僅ニ淡褐色ヲ呈スルノミ

五、胸腹部ノ皮膚ニ異常ナク腹部膨滿ス外陰部及大腿ハ血液ヲ以テ汚染セラレ血液ガ身體ノ長軸ニ沿ヒ垂下セル狀ハ寫眞ニ示スガ如シ、外陰部ヲ檢スルニ

(オ)會陰部ハ小指頭大ノ部破裂シソノ破裂ハ腔粘膜ノ後方ニ及ビ其ノ傷面ハ不平凹凸ヲ呈シ組織左右ニ橋架シ、處女膜モ亦破裂シテ其形ヲ存セズ此傷ノ直下ノ組織ニハ著シキ出血アリ外陰部ノ周圍ニ特記スベキ異常ナシ

六、兩上肢及脊面ニ特記ス可キ異常ナク肛門閉シ、周圍ニ血液ヲ乾著スレ共糞便ノ汚染ナシ

(ア)右大腿後面ノ中央ニ水平ニ走レル一・〇種長ノ褐色斑一個アリ、又(カ)大腿内ノ下方ニ指頭大ノ褐色斑二個アリテ下ノモノハ膝關節ヨリ一・五種上方以上ノモノハ同部ヨリ五・五種上方ニアリ此ノ部ノ皮膚ヲ切檢スルニ皮下ノ淺在部淡赤色ニ染ムト雖出血其他ノ異常ナシ

(乙)内 景 檢 査

七、頸胸腹部ノ皮膚ヲ式ノ如ク其ノ正中ニ於テ切開スルニ皮下脂肪ノ發育良頸部ノ皮膚切檢ノ際其靜脈ヲ切斷セバ暗赤色ノ流動血甚ダ多量ニ流出ス頸部ノ皮下ヲ逐層細檢スルニ前記淡褐色ノ表皮剝脫部ノ皮下ニハ暗赤色ノ輕微ナル血液多數散在スト雖筋肉ニハ裂傷出血等ヲ認メズ、喉頭軟骨ヲ觸知スルニ量折等アルヲ觸レズ

八、腹腔ヲ檢スルニ胃及腸ノ表面ハ帶黃淡赤色、滑澤、大網膜脂肪量中等血量多ク腸間膜腺ハ數多小指頭大ニ膨脹シ血量多シ、腹腔臟器ノ位置尋常内

ニ淡赤色ノ液約一食匙ヲ存ス、橫膈膜ノ高サ左右共第五肋骨ニアリ

其一、頸 胸 臟 器

胸骨ヲ肋軟骨ト共ニ切除シ胸腔ヲ開檢スルニ前縱隔ノ上三分ノ二ニ胸腺ヲ其下ニ心囊ヲ見ル、右肺ノ前緣ハ之ヲ見ルコトヲ得レ共左肺ハ見ルコトハ能ズ左肺ノ後面ハ少シク癒著シ右肺ニハ癒著ナク胸腔内異常ノ内容ナシ

九、心囊内ニハ淡黃黄色ノ液二・〇―三・〇託アリ、心臟大サ略本屍ノ手拳大、其表面帶褐色ニシテ前面及後面ニハ米粒大乃至蠶粟粒大ノ溢血點極メテ多數アリ殊ニ後面ニ於テ著シ、左右心耳内ニハ暗赤色ノ血液多量アレ共心室殆ド空虚、心臟剝出ノ際附屬ノ血管ヨリ暗赤色ノ血液多量ヲ漏ス、房室間口ハ左右共容易ニ一指ヲ通ジ大動脈口及肺動脈口ニ灌水スルニ瓣膜ノ閉鎖完全ナリ、心臟内膜色淡ニシテ滑澤、肉柱及瓣膜ニ異常ナシ、心筋ノ厚サ右二・〇耗左八・〇耗徑ヲ算ス

十、左肺、表面凹凸ヲ呈スト雖、肋膜滑澤、葉間ニ一、二ノ癒著アリ、帶紫灰色ヲ呈シ各部腫脹アリ、表面ニモ一、二ノ溢血點ヲ認メ斷面ノ色表面ヨリハ稍濃、血量甚ダ多ク氣量中等、氣管枝内ニハ淡色ノ粘稠物極メテ少許アリ粘膜蒼白ナリ

右肺、表面ニハ小豆大乃至稗粒大ノ膨隆セル暗赤色ノ溢血點多數アリ斷面ハ左肺ニ比シ血量稍少ク其他ノ性状ハ略左肺ニ同ジ

十一、胸腺大サ一・〇―一・六・〇―二・〇種表面ノ色淡灰色ニテ帽針頭大ノ溢血點多數散在ス、斷面ノ色略表面ノ如ク特ニ硬化セル部ヲ認メズ

十二、頸部ノ臟器ヲ細檢スルニ頸動脈内膜ニ破裂無ク、舌上ニ異物ヲ見ズ咽頭内ニハ中等大ノ蠶蟲三條ヲ容ル、扁桃腺ハ腫大シテ且其表面ニハ甚ダシク凹凸アリ、食道空虚、粘膜蒼白ナレ共粘液腺少シク腫大ス、舌根部ノ諸腺ハ甚ダシク腫脹ス

其二、腹 腔 臟 器

咽頭、氣管内空虚、粘膜淡赤色ヲ呈ス、舌骨及喉頭軟骨ニハ骨折ナシ

下、腔内物顯微鏡的檢査

二十、〇キ〇ガ腔壁及外陰部ニ附著セル汚褐色粘稠物ヲ載物硝子板上ニ取り之ニ稀薄ナル「めちるぐりゆん生理的食鹽水」ヲ滴下シ覆蓋硝子板ニテ蔽ヒ顯微鏡檢査ヲ行フニ綠色ノ色素ニ染マレル精蟲一視野ニ二、三條宛存在セルヲ認ム

(地)荒〇喜〇〇(廿八歳)身體檢査記録

體格及榮養中等ノ一男子ニシテ頭部、軀幹、特ニ生殖器ニ畸形ヲ認メズ又外表面ヨリ注目、觸知ス可キ腫瘍其他ノ特殊疾患ナシト雖彼ノ身體ニハ左記損傷及附著物アリ

廿一、顳骨突起ノ部ニ小指頭大ノ擦過ノ爲メニ生ジタルガ如キ痲皮アレ共稍古シ(本人曰ク之ハ膝ニアルモノト一所ニ自轉車ヨリ倒レテ出来タノデス)左頤部ニ二、三種長線狀擦過狀痲皮數條アリ

脊面ニハ損傷異常ナシ

廿二、外陰部及陰莖間ニ損傷異常ナク及陰毛間ニ附著物ヲ見ズ、辜丸ハ左右同大ニテ硬サ尋常、副辜丸ニモ特ニ硬結ヲ觸レズ、彼ハ慢性癩疾ヲ訴フレ共尿道ヲ壓スルモ粘液又ハ膿汁ヲ漏ラサズ又陰莖周圍ニ汚染ナシ陰囊ニ小ナル白色綿狀ノ異物ヲ附著ス之ヲ剝離シ來リ顯微鏡檢査ヲ行フル植物纖維ニシテ精蟲及血痕ノ附著ヲ認メズ尿道口ノ分泌物ニモ精蟲淋菌ヲ發見セズ

十八、頭皮ヲ式ノ如ク切開剝離シ前後ニ展開スルニ其内面一般ニ蒼白ニシテ乾燥ス前頭部ニ於テ二個ノ指頭大暗赤色ノ出血アレ共前記(第二項)外表ノ創傷トハ一致セズ

中、頭 腔 檢 査

十九、頭骨鋸斷ノ際暗赤色ノ流動血中等量ヲ漏ス、硬腦膜ハ骨膜ト強ク癒著シテ剝離セザルニヨリ、腦ヲ水平斷シテ取り出ス際腦室ヨリハ淡黃黄色ノ透

十三、脾臟、變軟大サ九・〇―一五・〇―二・〇種、表面帶白紫色ニシテ一、二ノ截痕アリ其外面ニ沿ヘル處ニ暗赤色小米粒大ノ出血極メテ多量アリ斷面ノ性状略表面ノ如ク血量多ク脾材著明ナリ

十四、左腎、葉狀剝離シ易ク大サ六・〇―四・〇―二・〇種、表面帶褐色ニシテ滑澤、斷面ハ表面ノ如ク皮髓兩質ノ分界明ラカニシテ洞濁ナシ腎盂粘膜蒼白ナリ

右腎大サ七・〇―三・八―二・二種表面、斷面ノ色左腎ニ比シ稍淡ナルノ他性状ハ略之ニ同ジ

膀胱、空虚、強ク收縮シ粘膜蒼白ナリ

十五、十二指腸内ニハ淡灰色ノ粘稠物極メテ少許アリ輸膽管通過胃中ニハ蠶蟲三條、青色植物片、半消化ノ米飯等約二粒アリ粘膜ハ淡紫色ニテ血管ノ走行ニ沿ヒ色素ノ浸潤アレ共實質ノ缺損ヲ認メズ

十六、肝臟大サ一八・〇―二二・〇―五・〇種表面滑澤淡紫色ニシテ質稍軟、斷面ノ性状ハ表面ノ如シ血量多ク實質ニ洞濁ヲ認メズ膽囊内ニハ褐色ノ膽汁少許アリ粘膜ノ性状常ノ如シ

十七、小腸内ニハ十數條ノ蠶蟲及汚黃色ノ軟便多量アリ粘膜ノ色蒼白ナリト雖血管ノ稍々灌注セルヲ認ム

大腸内ニハ汚黃色ノ糞便中等量アリ粘膜ハ一般ニ蒼白ナレ共其上部ニ於テハ孤腺甚ダシク腫脹ス

膀胱、表面及斷面ノ性状常ノ如ク出血、硬化或ハ軟化セル部ヲ認メズ



細管出血ヲ見ル夫レヨリ内下方五・〇糎ノ部ニモ同様ノ痂皮ヲ附著ス  
廿四、左下肢、大腿内側下端ニテ膝蓋骨ヨリ五・〇糎上方ニ二・〇糎長、褐色  
線狀ノ斑アリ膝關節部ニハ右ト略々同様ノ表皮剝脱六個アリテ此ノ部ハ毛  
細管出血強シ其周圍ハ帶緑白色ニ富ム、其他ニハ異常ナシ

(五) 精液及血痕検査

交附セラレタル證第一號乃至第二號ニ就キ先ヅ肉眼ニテ精液及血痕ト思ハル  
、汚斑ヲ探究シソノ各部ニ小木札ヲ附シ記載ニ便ズ

(甲) 一般検査

廿五、證第一號ハ木綿ノ古キ大人用單衣ニシテ所々ニ黑色、淡褐色淡乃至褐  
色淡汚綠色ノ汚斑附著ス之ニ(イ)乃至(タ)ノ小木札ヲ附スソノ位置形狀等ハ  
後託第廿八項附表ヲ參照セラレタシ

廿六、證第二號ノ一ハ帶褐黑色地ニ淡赤白色ノ大模様アル小兒用綿入ニシテ  
裏地ノ上半中部ハ淡鼠色、袖裏及斑ハ汚白色、中部ハ花模様アル紅木綿下  
部ハ赤無地木綿ナリ此表及裏面ニ淡灰白色乃至赤黑色ノ汚斑數多アリ之ニ  
(レ)乃至(ノ)小木札ヲ附ス(第廿八項附表參照)

廿七、證第二號ノ二ハ木綿ノ長キ小兒用襦袢ニシテ大部分ハ汚白色ニシテ鼠  
色ノ大模様アルモノハ裏赤地ニ花模様アル綿ねるナリ本證品ニモ赤褐色乃  
至赤黑色ノ汚斑數多アリ之ニ(ア)乃至(フ)ノ小木札ヲ附ス(第廿八項附表參  
照)

廿八、證第二號ノ三ハ小兒用木綿腰巻ニシテ表地ハ大部圓形及菱形ノ模様ア  
ルもすりんニシテ裏地ハ赤色木綿ナリ本證品ノ裏地ニハ赤黑色乃至淡黑色  
ノ汚斑數多アリ之ニ(コ)乃至(サ)ノ小木札ヲ附ス

廿九、證第三號ハ脱脂綿ニ附著セル赤黑色汚斑ニシテ之ニ(キ)ノ小木札ヲ附ス  
(第廿八項附表參照)  
以上(イ)乃至(キ)ノ汚斑或ハ木札ナキ所ト雖疑ハシキモノアラバソレヨリ各  
纖維數條ヲ切取シ次ノ血痕及精液斑ノ検査ヲナス

(黃) 血痕検査

上、豫備検査

其一、をぞん検査

三十、本検査ヲ行フニハ予ハ可檢斑ノ一小部分ヲ切り取り白色ノ濾紙間ニ挟  
ミ蒸溜水ヲ以テ濕シ可檢物ノ浸軟スルヲ俟チ硝子棒ノ鈍端ヲ以テ輕打シ色  
素ノ少シク濾紙上ニ移行セバ之ニ新製セル癒瘡木丁幾トをぞん含有ノてれ  
びん油各一滴ヲ注加シ若シ直ニ藍色ヲ呈スレバ本法ノ陽性ナルヲ示シ然ラ  
ザレバ陰性ナルヲ示スモノトセリ

其二、べんちん検査

卅一、本法ヲ行フニハ全クをぞん検査ニ於ケルガ如シ白色濾紙上ニ移行セシ  
メタルモノニ新製セルべんちんノあるこほる性飽和溶液ニ一、二滴ノ醋  
酸ヲ加ヘタルモノ及三%ノ過酸化水素水各一滴ヲ注加シ直ニ藍色ヲ呈スレ  
バ本法ノ陽性ナルヲ示シ然ラザレバ陰性ヲ示スモノトセリ

卅二、抑豫備検査ニ屬スル諸法ハ甚ダ鋭敏ナルモノニシテ血液若クハ血色素  
ノ數萬分ノ一ノ水溶液ニテモ尙血色素ナルコトヲ證明シ得ルモ血液以外ノ  
モノ例ヘバ果實汁等ニテモ陽性ヲ呈スルコトアルヲ以テ本法陽性ナレバ血  
痕ノ疑アルモ必ズシモ血痕ニ非ラズ反之内眼ニテ見得ル位ノ血痕類似斑ニ  
シテ此諸法ヲ行ヒ陰性ヲ呈スレバ血痕ニ非ラズト略決定スルコトヲ得故ニ  
可檢斑ニ先ヅ以テ本検査ヲ試ミノ陽性ヲ呈スルモノニテ實性反應ヲ行ヒ  
陰性ナレバ血痕ニ對スル他ノ検査法ヲ行フモ到底ソノ效ナク且前記ノ理由  
ニ依リソハ血痕ニ非ラズト決定セリ

中、實性反應

其一、へもくろおげん結晶及同吸收線検査

卅三、可檢汚斑ノ一小部分ヲ切取り載物硝子板上ニ置キ高山氏試薬ヲ加ヘ直  
ニ覆蓋硝子板ヲ被セぶんせん燈上ニ微熱シ冷却後之ヲ鏡檢シテ赤色針狀房  
狀乃至菊花狀ノ結晶ヲ得レバコハへもくろおげんノ結晶ニシテ尙之ニ顯微

欠



# 欠

### 精液及血痕附著の有無

(一)第一乃至三號ノ内(ハ)(ニ)(ス)(ハ)人精液痕、(カ)(ヨ)(ム)(ウ)(オ)(フ)(ク)(ケ)(コ)(ク)(カ)(コ)(エ)(ア)(サ)及(キ)人血痕、(ル)(マ)(ケ)(フ)(テ)人血液ト人精液トノ混合ヨリ成レル斑痕ナリ而シテ此等斑痕附著ノ個所ハ證品ニ直接附シタル木札及前記第廿八項ノ附表ヲ参照セラレンコトヲ望ム

### (丁)第四號證ニ就キ陰毛ナリヤ否ヤノ検査

本毛髮ハソノ構造ヨリ見レバ明ニ人類ノ毛髮ニシテ(記録第廿九項参照)ソノ毛根萎縮シ且毛莖ヲ被リ居ラザルヨリ見レバ自然ニ脱落シタルモノナルベクソノ断面ハ所ニヨリテ多少ノ差アレ共大體ニ於テ腎臟形或ハ三角形ヲ呈シ且ソノ縮工合ヨリ見レバ明ニ陰毛或ハ腋毛ナリ然リ而シテ一般ニ女子ノ陰毛ハ男子ノソレヨリ大クシテ〇・一二五〇乃至〇・一五〇〇耗徑ナルニ男子ノ陰毛ハ〇・九九乃至〇・一二〇〇耗徑ヲ算ス本證品タル陰毛ノ大サハ第廿九項ニ記載ノ如ク〇・九〇乃至〇・一〇八耗徑ニシテ何レカト云ヘバ男子ノ陰毛ニ近キモノナリト云フベシ

此鑑定ハ大正八年五月十六日著手

同 年六月三日終了

大正〇年〇月〇日

京都市上京區田中大塚町廿一番地

鑑定人醫師 小南又一郎 同

## 十一、猥褻行為ニ關スル検査

刑法第七十四條 公然猥褻ノ行為ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス  
同第七十五條 猥褻ノ文書、圖書其他ノ物ヲ頒布若クハ販賣又ハ公然之ヲ陳列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者亦同ジ

猥褻行為

同第七十六條 十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行為ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ行為ヲ爲シタル者亦同シ

猥褻行為トハ淫慾ヲ興奮シ又ハ之ヲ満足セシムルニ出デタル交接以外ノ行為ニシテ、色慾倒錯ノ如キ之レナリ、而シテ公然之ヲナシタルモノ或ハ之ニヨリ損傷ヲ加ヘタルモノハ、刑法上一定ノ制裁ヲ被ル。日本ニ於テハ獸姦ハ未ダ刑法ノ間フ所ニ在ラザルモ、獨逸等ニテハ假令之ヲ秘密ニ行フトモ發見セラレルニ於テハ刑法上論罪セラルト云ヒ、露國ニテハ鷄姦ヲナサバ一定ノ所謂アリト、而シテ一般ニ公然猥褻ノ行為ヲナスモノハ、精神發育ノ不充分ナルモノ、痴愚、白痴乃至精神病者等ニ多ク、色慾ノ倒錯モ亦多クハ精神ノ不完全ナルモノニ見ルトコロナリ。今之ニ屬スルモノヲ略述セン。

### (イ) 鷄姦

鷄姦トハ一ニ男色ト稱シ肛門ヲ以テ女子ノ腔ニ代用ニシテ、之ニ陰莖ヲ挿入シ情慾ヲ満足スルモノナリ、鷄姦ヲナス原因トモ見ルベキハ大體左ノ如シ。

一、放蕩ニシテ多數ノ婦人ヲ犯シ、最早ヤ正常ノ交接ニテハ色慾の快美ヲ感ゼザルヲ以テ、異常ノ方法、即チ肛門ヲ窺ヒテ鷄姦ニ陥ルモノ。



二、手淫耽リシ爲メ婦人ニ對シテ正常ノ交接ニ成功スルコト能ハズ、遂ニ男子或ハ女子ノ肛門ヲ狙ヒテ異常ノ色慾ヲ樂ムモノ。

三、妊娠ヲ恐レテ正常ノ交接ヲナサズ、鷄姦ヲナスモノ。

四、色慾倒錯ニ陥レルモノ、即チ女子ト正常ノ交接スルヲ望マズ、却テ男子ニシテ男子ヲ愛シソノ肛門ヲ犯シテ、性的快美ヲ感ズルモノニシテ、往々精神的發育乏キモノ或ハソノ缺陷アルモノニ之ヲ見ルコト多シ。

一般ニ常習性被姦者ハ男子ニシテ女子ノ如キ體格外見ヲ有シ、女子ノ如キ習慣ヲ好ミ化粧ニ凝ル等ノコトアリ、局部所見トシテ肛門ノ括約筋ハ弛緩シ肛門ハ漏斗狀トナリ、其直腸ノ深部ニ裂傷或ハ慢性炎症等ヲ有シ、時トシテソノ内ニ精蟲ヲ發見スルコトアリ、常習性姦者ノ陰莖ハ犬ノ陰莖ノ如キ形トナルト云フモノアリト雖、コハ左程著明ナルモノニアラズ。

鷄姦ノ最モ多ク行ハルルハ、男性ノミ集マル寄宿舎或ハ兵營等ニ多ク、古來幼童、若衆等ト呼バレ少年ガ往々鷄姦ノ犠牲トナリ、歐米ノ大都會ニテハ肛門ヲ賣ルヲ業トスルモノアリ、我日本ニテモ、徳川時代ニハ鷄姦ヲ業トスル美少年、若衆乃至蔭間等ト稱スルモノアリシト云フ。而シテモシ公然斯ノ如キコトヲ行ハバ猥褻行爲トシ

テ罪セラレ。モシ又夫ガ鷄姦ノミヲ好ミ妻ト正常ノ交接ヲナサザルニ於テハ、妻ヲ甚シク虐待セルモノト見做サル場合アルベク、予ハ同上ノ理由ニヨリテ離婚訴訟ガ提起サレ採用サレタル實例ヲ知レリ。

(口) 女子相姦

女子相互ニ陰核ノ内面ヲ摩擦シ或ハ肥大セル陰核ヲ他ノ女子ノ腔内ニ插入シ、性慾ヲ満足セシムルモノニシテ、女子ノミ群居スル場所ニ多ク見ルモノナリ、之ヲナス方法ハ甚ダ種々ニシテ或ハ擦挿ト云ヒ、或ハといちはいちト云ヒ、西歐ニテさひすむすと呼ベルモノ皆之ニ屬ス。

さひすむすトハ、希臘ノ女詩人さほうノ好ミシ所ナルヲ以テ此名ヲ得タルモノニシテ、舌ヲ以テ陰核ヲ摩擦シテ快感ヲ得セシムルモノニシテ、佛國巴里ニ於テハ之ヲ業トスルモノアリト云フ。

女子相姦者ハ相愛スルコト恰モ男女間ノ情人ニ於ケルガ如ク、或ハ女子同志ニテ情死ヲ企ツルモノスラアリ、ソノ一方(といち)ハ男性的ニシテ男子ノ如ク夫ノ如ク舉動シ、他ノ一方(はいち)ハ眞ニ女性的ニシテ、妻ノ如ク情婦ノ如ク振舞フヲ常トス、此等兩者ノ身體的ニモカカル傾向アリト云フ、女子相姦ハ一般ニ男子ヲ得ル能ハザ

欠







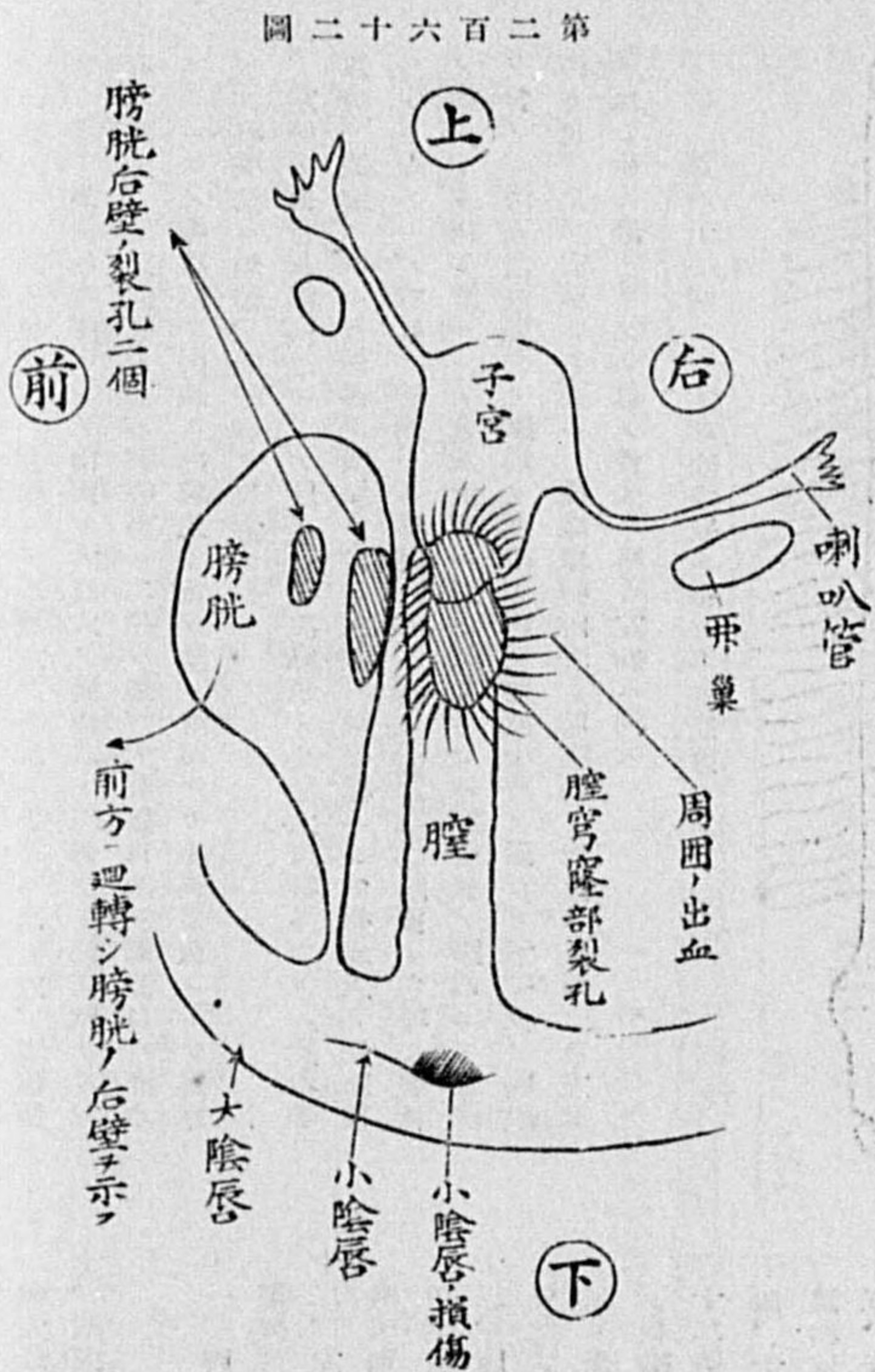




黄灰色ノ濃厚液ニシテ下部ニ至ルニ從ヒ漸次黄色トシノ硬度ヲ増シ且中ニ十數條ノ蠟蟲ヲ混ズ粘膜ノ色ハ略ソノ内容ニ類シ他ニ異常ナシ大腸内ニハ黄色ノ軟便中等量在リ粘膜着白其他ノ性状常ノ如シ

十七、腹腔ノ後壁ヲ檢スルニ薦骨岬ヨリ上方ニ向ヒ脊柱前面及大動脈筋ニ沿ヒ著シキ組織間出血アリソノ上下徑一〇〇種、左右徑三〇〇種ナリ大動脈内膜ニ出血ソノ他ノ異常ナシ

十八、骨盤腔臟器ヲ外陰部ト一連ニ剔出シテ細檢スルニ腔前穹窿ニ於テ此所ヨリ腹腔ニ通達スル約三・五—四・〇種徑ノ穿孔アリ從テ此部ニハ大ナル腔壁缺損アリテ子宮口部ヲ視見スル事ヲ得孔緣甚シク不整凹凸ニシテ壞殘ノ



圖二十六百二第 (圖ルタ見リヨ方側左) 圖略傷損ルニ膀胱及膣

組織橋狀ニ架走ス周圍ニハ約鷺卵大ノ組織間出血アリ此裂孔ト膀胱後壁ノ後下部ニ在ル裂孔(第十三項)トハ密接對向セリ腔下部ノ粘膜着白ニシテ腔壁稍著明ナリ

十九、子宮體軟ク切檢スルニ腔内ニハ灰白色ノ粘稠液少許アリ粘膜着白ニシテ異常ナシ卵巢及喇叭管ノ性状常ノ如シ

二十、頭皮ヲ式ノ如ク切開剝離シテ之ヲ前後ニ翻轉スルニソノ内面一般ニ蒼白ニシテ乾燥ス頭骨ヲ鋸斷シテ頭腔内ヲ檢スルニ異常ノ内容ナク上矢狀竇殆ンド空虚ナリ穹窿部軟腦膜透明ニシテ剝離シ易ク血管内血中等量ナリ腦

下、頭腔剖檢

式ノ如ク切檢スルニ左右側室及第三、第四室内空虚、脈絡叢血少量シ大脳神經節ニ異狀ヲ見ズ大小腦ノ断面ニ血點少シ底面軟腦膜ノ性状ハ穹窿部ニ同ジ基礎動脈及ジビ氏溝動脈殆ンド空虚、壁質柔軟ナリ大脳脚わろる氏橋及延髓ノ断面ニ異常ナシ横質内ニハ暗色ノ流動血少許アリ頭蓋骨重ク板障厚シ頭骨ニ損傷ヲ認メズ

乙、說明

一、本屍ニ於ケル重ナル損傷ハ膣穹窿、膀胱後壁並ニ横膈膜ノ左側肋骨部ニ在ル裂孔(記録第十八、十九項)及ソノ創面ニ續發セル出血大網膜ノ牽裂等ナリ(記録第十八、十三、九、五、十六項)上掲裂孔ノ周緣ハ何レモ不整凹凸ニシテ且創内ニ壞殘ノ組織片橋狀架走スルガ故ニ鈍器ノ作用ニ依テ生ジタル事明白ナリ彼ノ腹腔内ニ差込ミアリ竹棒ハ此ノ如キ損傷ヲ致スニ適スルモノナリ

コノ他開口ノ左下方約三・〇種ノ所並小陰唇ノ下半部ニ皮下ニ溢血ヲ伴ヒ表皮缺損アリ(記録第三項)ト雖前數者ニ比シ頗ル輕傷ナリ又身體ノ各所ニ存スル米粒大乃至鷄

卵大不正粗糙面ノ表皮缺損ハ死後ニ生ゼル蟻群ノ咬傷ナリ(記録第一、二、三、四項)

二、本屍發見ノ場所ノミナラズ(係リ官及醫師ノ口話)體内即チ腹腔並ニ左胸腔内ニモ多量ノ血液溢血セル事(記録第五、六項)及各臟器ニ於ケル血量甚ダ少キ事(記録二、五、七、八、十一、十二、十五、二十項)等ヲ綜合シテ考察スレバ本屍ノ死因ハ出血ナリ而シテ此ノ大出血ハ前述ノ膣穹窿部、膀胱、横膈膜ノ損傷(記録第十八、十三、九項)ニ基因セルコト毫モ疑ヲ容レズ

丙、檢案

上記說明セル如キ理由ナルヲ以テ左ノ如ク檢案ス

- 一、「R」ノ身體内ニ存スル損傷ハ
- 「甲」膣穹窿部膀胱及横膈膜ニ於ケル裂孔及コレニ續發セル出血並ニ大網膜牽裂等ソノ重ナルモノニシテ此等ハ生前鈍器ノ襲來ニ依リテ生ジタルモノナリ(說明第一項)
- 「乙」膣口附近ノモノハ前者ニ比シ遙カニ輕微ニシテ直接ノ死因トハ原因上關係ナキモノナリ(說明第一項)
- 二、「R」ノ死因ハ前記檢案(第一項「甲」)ノ損傷ニ起因セル出血ナリ(說明第二項)

此檢案ハ大正〇年六月四日着手

同年同月十一日結了

大正〇年六月十一日

鑑定人 小南又一郎 印

十二、中毒總論

甲、一般注意

刑法第四百十四條 人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他ノ健康ヲ害ス可キ物

猥褻行為

- ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
- 同第四百十五條 前三條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス
- 同第四百十六條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其他ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ至シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス
- 藥劑師法 (大正十四年四月法律第四四號)
- 第一條 藥劑師トハ醫師、齒科醫師又ハ獸醫ノ處方並ニ依リ調劑ヲナスモノヲ云フ
- 藥劑師ハ藥品ノ製造及販賣ヲ爲スコトヲ得
- 第五條 藥劑師ニ非ラサレハ販賣又ハ授與ノ目的ヲ以テ調劑ヲ爲スコトヲ得ス(略)
- 第六條 藥劑師ニ非ラサレハ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス但シ命令ヲ以テ定ムル場合ハ此限ニ在ラス(略)
- 第七條 藥劑師ニ非ラサレハ藥局ヲ管理スルコトヲ得ス藥劑師ト雖ニ以上ノ藥局ヲ管理スルコトヲ得ス
- 第八條 藥劑師ハ調劑ノ需アル場合ニ於テハ晝夜ヲ問ハス正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第九條 藥劑師ハ醫師、齒科醫師又ハ獸醫氏名ヲ自記シ又ハ調印シタル處方並ニヨリ調劑スベキモノトス但シ處方並ニ疑ハシキ廉アル時ハソノ醫師又ハ齒科醫師又ハ獸醫ニ質シ證明ヲ得ルニ非ラサレハ調劑ヲナスコトヲ得ス
- 第十條 藥劑師ハ醫師、齒科醫師又ハ獸醫ノ處方並ニ記載セラレタル藥品ニ付之ヲ省略シ又ハ他ノ藥品ヲ以テ之ニ代ヘ調劑ヲナスコトヲ得ス但シ藥品ニシテ缺乏セルモノアル場合ニ於テソノ醫師、齒科醫師又ハ獸醫ノ同意ヲ得タル時ハ此限ニ在ラス
- 第十一條 藥劑師毒藥又ハ劇藥ヲ配伍シタル調劑ヲナシタル時ハ處方並ニ檢



印シテ日附ヨリ三年間之ヲ保存スベシ(略)

藥劑師法施行規則(大正十五年三月十八日內務省令第六號)

第十條 藥局ハ採光換氣ヲ十分ナラシメ且清潔ヲ保ツベシ

第十一條 藥局ニハ冷暗所ヲ設クベシ

第十三條 藥局ニハ感量十ミリグラムノ天秤及感量五百ミリグラムノ上皿

天秤ソノ他調劑ニ必要ナル器具ヲ備フベシ

藥品營業並藥品取扱規則(明治二十二年三月法律第十號)

第十七條 毒藥劇藥ノ處方箋ハ藥劑師檢印シテ處方箋ノ日附ヨリ滿十年間

之ヲ保存スベシ

第十八條 毒藥劇藥ハ一回使用セシ處方箋ニ據リ再ヒ調劑スルコトヲ得ス但

特ニ醫師ノ通知アルモノハ此限ニアラス

第十九條 患者ニ與フル藥劑ノ容器又ハ包紙ニハ處方箋ニ據リ内外用ノ別、

用法、用量、年月日、患者ノ氏名、藥局ノ地名及藥劑師ノ氏名ヲ記スベシ

第二十條 藥種商トハ藥品ノ販賣ヲ爲ス者ヲ云フ

第二十二條 毒藥劇藥ハ衛生試驗所又ハ藥劑師製藥者ニ於テ封緘シタル容器

ヲ開キテ販賣スルコトヲ得ス

第二十六條 日本藥局方ニ記載スル所ノ藥品ハ其性狀、品質、該局方ノ所定

ニ適合スルモノニ非サレハ製造、貯藏、陳列、販賣又ハ授與スルコトヲ得

ス但命令ニ別段ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラス(明治四十年四月法律第三

十五號改正)

第二十七條 日本藥局方ニ記載セサル藥品ハ其據ル所ノ外國藥局方名ヲ記ス

ベシ其性狀、品質、該局方ノ所定ニ適合シタルモノニ非サレハ製造、貯藏、

陳列、販賣又ハ授與スルコトヲ得ス但命令ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限

ニ在ラス(明治四十四年四月法律第三十五號改正)

第二十八條 藥局方中特ニ貯藏法ヲ示シタルモノハ其所定ニ從フベシ

第二十九條 毒藥劇藥ハ他ノ藥品ト區別シ海藥ハ鎖鑰ヲ備ヘタル場所ニ藏ス

第三十條 毒藥劇藥ハ職業上必要ト認メタル者ヨリ其藥名、數量使用ノ目的、

年月日及住所、氏名、職業ヲ記シ且ツ捺印シタル證書ヲ差出スニ非サレハ

之ヲ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

前項ノ證書ハ其日附ヨリ滿十年間之ヲ保存スベシ

第三十一條 毒藥劇藥ハ前條ニ記載シタル證書アルモ幼稚ノ者其他不安ト認

ムル者ニハ交附スヘカラス

第三十二條 毒藥劇藥ハ藥品ノ容器又ハ包紙ニ其名稱及販賣授與者ノ住所氏

名ヲ記シ毒藥ハ毒字劇字ヲ附記スベシ

第三十二條ノ二 第三十七條ノ三ニ掲クル藥種商ニ使用セラルル藥劑師ハ指

定藥品ノ容器及包紙ニハ藥局方ノ所定ニ適合スルコトヲ證明ヲ明シ之ニ自

己ノ住所氏名ヲ附記スベシ(明治四十年四月法律第三十五號追加)

第三十三條 藥劑師ニ於テ醫師ノ處方箋ニ據リ患者ニ與フル藥劑ハ第三十二

條ノ手續ヲ爲スヲ要セス

第三十四條 藥劑師製藥者ノ間ニ於テハ第三十條及第三十二條ニ記載

シタル手續ヲ要セス其藥劑師製藥者タルノ證書ヲ以テ毒藥劇藥ヲ

販賣スルコトヲ得

第三十五條 毒藥劇藥ノ品目ハ內務省令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ假名又ハ漢字ヲ以テ其氏名ヲ記スベシ

但羅旬語又ハ外國語ト併記スルハ妨ケナシ

第三十七條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ製造者ノ住所氏名ヲ記スベシ其外國製

ニ係ル者ハ引取人ノ住所氏名ヲ記スベシ但藥品製造會社ニ在テハ其所在地

名及會社名ヲ記スルモ妨ケナシ

第三十七條ノ二 藥劑師ニ非サレハ指定藥品ヲ販賣又ハ授與スルコトヲ得ス

但藥劑師製藥者間ニ在リテハ此ノ限ニアラス(明治四十年四月法律

第三十五號追加)

醫師カ第四十三條ニ依リ指定藥品ヲ販賣授與スルハ前項ノ限ニ在ラス(明

治四十年四月法律第三十五號追加)

第三十八條 內務大臣ハ監視員ヲシテ藥局及藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ

監視セシムルコトアルベシ

監視員ハ監視ノ際其證書ヲ携帶スベシ

第三十八條ノ二 何レノ藥局方ニモ記載セサル藥品ニシテ衛生上危害ヲ生ス

ルノ虞アリト認メタルモノハ行政官廳ニ於テ其製造、貯藏、陳列、販賣又

ハ授與ヲ禁止スルコトヲ得(明治四十年四月法律第三十五號追加)

前項ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ藥品ノ所有者若クハ所持者ヲシテ之ヲ廢棄

セシメ又ハ直接ニ之ヲ廢棄シ其他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得但其所所有者

又ハ所持ニ於テ衛生上危害ヲ生スルノ虞ナキ方法ニ依リ處置センコトヲ請

フトキハ之ヲ許可スルコトヲ得(明治四十年四月法律第三十五號追加)

藥局方ノ所定ニ適合セザル藥品アルトキハ亦前項ニ同ジ(明治四十年四月

法律第三十五號追加)

第三十八條ノ三 此規定ニ於テ指定藥品ト稱スルハ內務大臣ノ指定シタル藥

品ヲ謂フ(明治四十年四月法律第三十五號追加)

第三十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ四百圓以下ノ罰金ニ處ス(明治四

十年法律第三十五號改正)

一 藥品ノ容器又ハ包紙ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル者

二 第二十六條又ハ第二十七條ニ違背シタル者

三 第三十八條ノ二第一項ノ禁止ヲ犯シタル者

第四十三條 醫師ハ自ら診療スル患者ノ處方ニ限リ第二十六條第二十七條第

二十九條ニ從ヒ自宅ニ於テ藥劑ヲ調合シ販賣授與スルコトヲ得此場合ニ於

テハ第三十八條ノ監視ヲ受クベシ

醫師ハ第三十四條ニ從ヒ醫師タルノ證書ヲ以テ藥劑師製藥者ヨリ

毒藥劇藥ヲ買取スルコトヲ得

毒物劇藥物營業取締規則(明治四十五年五月十日內務省令第五號)

第一條 本令ニ於テ毒物劇物ト稱スルハ醫藥以外ノ用ニ供セシムル目的ヲ以

テ販賣スル毒性又ハ劇性ノ物品ニシテ別ニ指定シタルモノヲ謂フ

明治二十二年三月法律第十號藥品營業並取扱規則第三十五條ニ依リ定メラ

レタル毒物劇物ノ品目ニ該當スル物品ニシテ前項ノ指定ヲ受ケサルモノハ

醫藥用品(同法第二十六條但書及第二十七條但書ノ場合ヲ含ム)ノ外之ヲ貯

藏、陳列、販賣又ハ授與スルコトヲ得ス

第二條 毒物劇物營業ヲ爲サムトスル者ハ地方長官(東京府ハ警視總監以下之

ニ從フ)ノ許可ヲ受クベシ

第三條 未成年者、癡癩白痴者其ノ他毒物劇物ノ取扱ヲ爲スニ堪ヘスト認ムハ

キ者及法人ハ其ノ取扱ヲ爲サシムル爲メ地方長官ノ許可ヲ得タル營業管理人

ヲ置クニ非サレハ毒物劇物營業ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 毒物劇物ハ堅牢ナル容器又ハ被包ニ容レ之ヲ密閉シ其ノ容器又ハ被

包ニ醫藥用外ノ四字及其ノ藥名並毒物ノ二字劇物ノ二字ヲ明記ス

ベシ

前項ノ文字ハ其ノ藥名ヲ除ク外毒物ニ付テハ赤地ニ白色、劇物ニ付テハ白

地ニ赤色ヲ以テ記載スベシ

第五條 毒物ハ他ノ物品ト區別シ貯藏、陳列スベシ劇物ニ付テ亦同シ

毒物ヲ貯藏、陳列スル場所ニハ鎖鑰ヲ施シ其ノ外部ニ醫藥用外毒物ノ六字

ヲ明記スベシ

第六條 毒物劇物ヲ取扱フニハ專用ノ器具ヲ備ヘ毒物又ハ劇物ノ文字ヲ其ノ

器具ニ明記スベシ

第七條 毒物劇物營業者毒物劇物ヲ交付スルニハ其ノ容器又ハ被包ニ其ノ營業

所、氏名、法人ニ在リテハ其ノ名稱及第四條所定ノ文字ヲ明記スベシ但毒



劇物業業者ニ交付スル場合ハ此ノ限ニ在ラス  
飲食物用容器ハ之ヲ前項ノ充用スルコトヲ得ス

第八條 毒劇物業業者ハ業務上、學術上又ハ技藝上必要アリト認ムル者ヨリ  
左ノ各號ノ一ニ依リ其ノ從事スル業務、學術若ハ技藝ヲ證明シ且ツ品名、  
數量、使用ノ目的、年月日、住所、氏名、法人ニ在リテハ其ノ名稱及職業  
ヲ記シ捺印シタル證書ヲ提出スルニ非サレハ之ヲ販賣譲與スルコトヲ得ス

一 毒劇物業業者知人ノ證明  
二 官公署又ハ證明其ノ他徴證トナルヘキ官公文書  
毒劇物業業者自己ノ知人ニ毒劇物ヲ販賣譲與スル場合ニ付テハ前項ノ證  
明ヲ要セス  
家事上必要ナル毒劇物ニシテ別ニ指定スルモノニ付テハ前二項ノ規定ヲ  
適用セス

前項ノ毒劇物ハ品名、數量、年月日、住所、氏名、法人ニ在リテハ其ノ  
名稱ヲ記シ捺印シタル證書ヲ提出スルニ非サレハ之ヲ販賣譲與スルコトヲ  
得ス  
第一項及第四項ノ證書ハ其ノ日附ヨリ十箇年之間ヲ保存スヘシ

第九條 毒劇物業業者ハ毒劇物ノ販賣譲與ヲ受ケムトスル者前條ノ要件ヲ  
具備スルモ十四歳未満ノ者又ハ不安心ト認ムヘキ者ニハ之ヲ交付スルコト  
ヲ得ス

第十條 毒劇物業業者官署、官公立ノ學校及製造所等ニ對シ毒劇物ヲ販賣  
譲與スル場合ニハ第八條ノ手續ヲ要セス

毒劇物業業者ノ間ニ於テ販賣譲與スル場合ニハ第八條ノ證書ヲ要セス  
第十一條 卸賣用ノ毒劇物ニ付テハ其ノ容器又ハ被包ニ品名ヲ記シ若ハ錯  
誤ヲ來ササル文字又ハ記號ヲ使用スル限リ第四條ノ容器又ハ被包ノ記載ニ  
關スル規定ヲ適用セス  
前項ノ毒劇物ヲ貯藏スル場所ニ付テハ第五條第二項ノ規定ヲ適用セス

第二十條 法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令  
ニ違背シタル場合ニ於テハ本令ニ規定シタル罰則ノ法人ニ適用ス  
法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

附 則

本令ハ明治四十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス  
本令發布ノ際現ニ毒劇物ノ營業ヲ爲ス者ハ本令施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ  
地方長官ニ届出テ毒劇物ノ營業ヲ爲スコトヲ得  
但シ第五改正日本藥局方ニヨレハ毒劇藥ト稱スルモノハ左ノ如シ

第十七表 毒 藥 表

此種ノ藥品ハ猛烈ナル作用ヲ有シ所謂毒藥ニ屬ス黒地ニ白枠白字ヲ表  
ハセル藥名ヲ附シ他藥ト區別シ鎖鑰ヲ備ヘタル場所ニ藏メ最モ注意シ  
テ貯フベシ  
亞砒酸、鹽酸あほもるひね、あるぜのべんぞーる、あるぜのべんぞー  
るなとりらむ、硫酸あとりびん、鹽酸あせちるもるひね、鹽酸えめ  
ちん、さりちる酸えせりん、硫酸えせりん、ぶろむ水素酸ほまるとるび  
ん、昇水、赤色よーど水、おきしあん水銀、黃降氷、赤降氷、さり  
ちる酸水銀、亞砒酸かり液、鹽酸もるひね、ねおあるぜのべんぞーる、  
強ねおあるぜのべんぞーる、巴豆油、黃燐、鹽酸びるかるびん、亞砒  
酸丸、ぶろむ水素酸すこぼらみん、硝酸すとりきにーね、昇水錠、お  
きしあん水銀錠

第十八表 劇 藥 表

此種ノ藥品ハ劇藥ニ屬ス白地ニ赤枠赤字ヲ表ハセル藥名ヲ附シ他藥ト  
區別シ注意シテ貯フベシ  
あせとあにりど、無水くろむ酸鹽酸、硝酸、發煙硝酸、びくりん酸、  
硫酸、とりくろむ酸、あみの安息香酸えちる、ぶろむえちる、くろむ

第十二條 地方長官ハ吏員ヲシテ毒劇物ヲ製造、貯藏又ハ販賣スル場所ヲ  
巡視セシムルコトヲ得  
第十三條 地方長官ハ試験ノ用ニ供スル爲必要ナル分量ノ毒劇物ヲ收去ス  
ルコトヲ得  
前項ニ依リ收去ヲ執行スル場合ニ於テハ明治三十三年内務省令第十號第二  
條第三條規定ヲ準用ス  
第十四條 毒劇物業業者禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ又ハ其ノ業務ニ關  
シ不正ノ行爲アリタルトキハ地方長官ハ其ノ業務ヲ禁止シ又ハ停止スルコ  
トヲ得  
地方長官ハ毒劇物業業者ノ業務ヲ禁止又ハ停止ヲ解クコトヲ得  
第十五條 本令ノ執行ニ關シ當該吏員ノ尋問ニ對シ虚偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ其  
ノ職務執行ヲ拒ミ若ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ百圓以下ノ  
罰金ニ處ス  
毒劇物ノ容器又ハ被包ニ虚偽ノ記載ヲナシタル者若ハ第一條第二項第八條  
第一項又ハ第四項ニ違背シタル者ハ罰金前項ニ同シ  
第十六條 第二條ノ許可ヲ受ケス若ハ其ノ届出ヲ爲サスシテ毒劇物業業者ヲ爲  
シタル者、禁止又ハ停止中營業ヲ爲シタル者、第四條、第五條、第七條、  
第八條第五項、第九條ニ違背シタル者又ハ毒劇物ノ容器若ハ被包ニ誤記ヲ  
爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス  
第十七條 第六條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス  
第十八條 毒劇物業業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本令ニ依リ之ニ  
適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一  
ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス  
第十九條 毒劇物業業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ  
從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサ  
ルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルコトヲ得ス

えちる、鹽酸えちるもるひね、あがりちん、阿片あるかるいど鹽酸鹽、  
あみのびりん、亞硝酸あみる、あんちびりん、さりちる酸あんちびり  
ん、杏仁水、硝酸銀、硝酸銀加硝石、熔製硝酸銀、ばるびたーる、溶  
性ばるびたーる、ぶろむぢえちるあせちる尿素、ぶろむぶるわわれり  
る尿素、海葱、ぶろむかんふる、かんたりす、四鹽化炭素、萘酸せり  
らむ、抱水くろらーる、くろむほるむ、麻酔用くろらるむ、鹽酸こ  
かいん、機酸こでいん、かふえいん、安息香酸そーだかふえいん、さ  
りちる酸そーだかふえいん、かんたりすころぢおん、鹽化こたるにん、  
くれおそーと、銅鑼、くえん酸銅、硫酸銅、ぢうれちん、鹽酸えふえ  
どりん、印度大麻えきす、綿馬えきす、ひとらすちす流動えきす、ひ  
よすえきす、よーどほるむ、よーど、苛性かり、鹽素酸かり、よーど  
かり、らくちるふえねちぢん、鹽酸えびれなみん液、かり油液、るご  
ーる液、次醋酸鉛液、鹽酸ろべりん、めちるするほなるみぐれにん、  
鉛丹、亞硝酸そーだ、苛性なとろん、へのぼち油、阿片えきす、ろー  
とえきす、麥角えきす、麥角流動えきす、ほみかえきす、ぢぎたりす  
葉、ひよす葉、ろーと葉、まんだら葉、ほるまりん、乾燥甲狀腺、ぐ  
あやこーる、印度大麻草、甘菜、蒸氣製甘菜、黃色よーど水、おれい  
ん酸水銀、白降氷、揮發芥子油、阿片末、ふえなせちん、ふえのばる  
びたーる、溶性ふえのばるびたーる、ふえのーるふたれいん、石炭酸  
液狀石炭酸、防疫用石炭酸、醋酸鉛、一酸化鉛、鹽酸ぶるかいん、ど  
ーふる散、吐根、やらつば脂、牽牛子脂、綿馬根、ろーと根、さんと  
にん、麥角、すとろふあんつす子、ほみか、ぢふてりあ血清、破傷風  
血清、よーどかり錠、鹽酸もるひね錠、阿片吐根錠、ておふいりん、印  
度大麻ちんき、かんたりすちんき、ぢぎたりすちんき、吐根ちんき、  
阿片ちんき、阿片安息香ちんき、ろーとちんき、すとろふあんつすち



毒物劇薬物取締規則

んき、ほみかちんき、鹽酸とろばこかいん、やらつば根、つべるくりん、強發泡膏、鹽化亞鉛、硫酸亞鉛、吉草酸亞鉛

第一百十九表 極量表

大人ニ對スル製品内服一回及一日ノ極量  
醫師其極量ヲ超エテ處方スル場合ニハ處方箋中藥品分量ノ下ニ注意標ヲ附スベシ

藥品名	一回ノ極量	一日ノ極量
あせとあにりど	〇・三(瓦)	一・〇(瓦)
亞砒酸	〇・〇〇五	〇・〇一五
鹽酸えちるもるひね	〇・〇三	〇・一〇
あがりちん	〇・一	〇・一〇
阿片あるかるいど鹽酸鹽	〇・〇三	〇・一〇
あみのびりん	〇・三	一・〇
亞硝酸あみる	〇・二	〇・五
あんちびりん	一・〇	三・〇
さりちる酸あんちびりん	一・〇	三・〇
鹽酸あほもるひね	〇・二	六・〇
杏仁水	二・〇	六・〇
硝酸銀	〇・三	〇・一〇
酸硫あとりびん	〇・〇〇一	〇・〇〇三
ばるびたーる	〇・五	一・〇
溶性ばるびたーる	〇・五	一・〇
海葱	〇・三	一・〇
ぶるむかんふる	〇・三	一・〇
かんたりす	〇・三	一・〇

五二二

四鹽化炭素	四・〇(二・五cc)	一・〇
蓼酸せりらむ	〇・三	一・〇
抱水くららる	二・〇	六・〇
鹽性こかいん	〇・〇五	〇・一五
機酸こでいん	〇・一	〇・三
くれおそーと	〇・五	一・五
硫酸銅	一・〇	一・五
鹽酸あせちるもるひね	〇・〇〇五	〇・〇一五
ぢうれちん	一・〇	三・〇
鹽酸えめちん	〇・〇五	〇・一五
鹽酸えふえどりん(皮下注射)	〇・〇五	〇・一五
さりちる酸えぜりん	〇・〇〇一	〇・〇〇三
硫酸えぜりん	〇・〇〇一	〇・〇〇三
印度大麻えきす	〇・五	〇・一五
綿馬えきす	〇・五	〇・一五
ひよすえきす	〇・一	〇・三
阿片えきす	〇・一	〇・三
ろーとえきす	〇・五	〇・一五
麥角えきす	〇・三	一・〇
麥角流動えきす	一・〇	五・〇
ほみかえきす	〇・五	一・〇
ぢぎたりす葉	〇・二	〇・一〇
ひよす葉	〇・二	〇・一〇
ろーと葉	〇・一五	〇・五〇
まんだら葉	〇・二	〇・六
乾燥甲狀腺	〇・三	〇・六

ぐあやこーる	〇・三	一・〇
ぶるむ水素酸ほまろびん	〇・〇〇一	〇・〇〇三
昇水	〇・〇二	〇・〇六
赤色よーど水	〇・〇二	〇・〇六
甘朮	〇・一	〇・六
蒸氣製甘朮(皮下注射)	〇・一	〇・六
黄色よーど水(皮下注射)	〇・〇二	〇・〇六
おきししあん水銀	〇・〇一	〇・〇三
さりちる酸水銀	〇・〇二	〇・〇六
よーどほるむ	〇・二	〇・六
らくちるふえねちちん	〇・七	〇・二
鹽酸えるれなみん液	一・〇	〇・二
亞砒酸かり液(皮下注射)	〇・五	一・五
鹽酸ろべりん	〇・〇二	〇・一〇
めちるするほなーる	一・〇	二・〇
みぐれにん	一・〇	三・〇
鹽酸もるひね	〇・三	〇・一〇
亞硝酸そーだ	〇・三	〇・一〇
へのぼち油	一・〇	一・〇
巴豆油	〇・五	〇・一五
阿片末	〇・一五	〇・五
ふえなせちん	一・〇	三・〇
ふえのばるびたーる	〇・二五	〇・五
溶性ふえのばるびたーる	〇・二五	〇・五
石炭酸	〇・一	〇・三
黄燐	〇・〇〇一	〇・〇〇三

賣藥法

鹽酸びるかるびん	〇・二	〇・四
醋酸鉛	〇・一	〇・三
どーふる散	一・〇	三・〇
やらつば脂	〇・五	一・五
率半子脂	〇・五	一・五
ろーと根	〇・一	〇・三
さんとにん	〇・一	〇・三
ぶるむ水素酸すこぼちみん	〇・〇〇五	〇・〇一五
麥角	一・〇	五・〇
ほみか	〇・一	〇・二
よーどちんき	〇・二	〇・六
吐酒石	〇・一	〇・三
硝酸すとりきにーね	〇・〇〇五	〇・〇一〇
するほなーる	一・〇	二・〇
ておふいりん	〇・五	一・五
印度大麥ちんき	一・〇	三・〇
かんたりすちんき	〇・二	〇・六
ぢぎたりすちんき	一・五	五・〇
阿片ちんき	一・五	五・〇
ろーとちんき	一・〇	三・〇
すとりふあんつちんき	〇・五	一・五
ほみかちんき	一・〇	二・〇
鹽酸とろばこかいん	一・〇	〇・三
硫酸亞鉛	一・〇	〇・三

五二三



賣藥法(大正三年三月廿一日法律第十四號)

第四條 賣藥ニハ毒藥、劇藥及其ノ性状又ハ配伍ノ結果ニ由リ危害ヲ生スルノ虞アル藥品ヲ使用スルコトヲ得ス但シ毒藥、劇藥ハ其ノ用法、用量ニ依リ行政官廳ニ於テ危害ヲ生スルノ虞ナシト認メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六條 藥劑師、藥劑師ヲ使用スル者又ハ醫師ニ非サレハ賣藥ヲ調製シテ販賣スルコトヲ得ス但シ獸醫ニシテ家畜用ノ賣藥ヲ調製販賣スルハ此ノ限ニ在ラス(大正五年法律第四十一號ヲ以テ但書追加)

第九條 賣藥ニ關スル廣告、賣藥ノ容器若ハ被包又ハ賣藥ニ添附シ若ハ添附セシテ頒布スル文書ニハ左記ノ事項ヲ記載スルコトヲ得ス

- 一 猥褻ニ涉ル記事又ハ圖畫
- 二 避妊又ハ墮胎ヲ暗示スル記事
- 三 虛偽誇大ノ證明若ハ醫師其ノ他ノ者カ效能ヲ保證シタルモノト世人ヲシテ誤解セシムルノ虞アル記事
- 四 醫治ノ無效ヲ暗示シ或ハ暗ニ醫師ヲ誹謗スルカ如キ記事

何レノ藥局方ニモ記載セサル藥品又ハ製劑ハ容器又ハ包紙ニ其ノ成分

何レノ藥局方ニモ記載セサル藥品又ハ製劑ハ容器又ハ包紙ニ其ノ成分

何レノ藥局方ニモ記載セサル藥品又ハ製劑ハ容器又ハ包紙ニ其ノ成分

第一條 藥劑師、藥劑師又ハ製藥者何レノ藥局方ニモ記載セサル藥品又ハ製劑(藥局方ニ記載シタル藥品ヲ用ヒテ製造シタルモノヲ含ム以下之ニ做フ)ヲ新ニ製造發賣シ又ハ輸入發賣セムトスルトキハ見本品ヲ添ヘ其ノ成分(製劑ハ分量トモ以下之ニ做フ)成分不明ナルモノハ其ノ本質及製造法ノ要旨ヲ記載シ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ニ届出ヘシ

前項ノ藥品又ハ製劑ト同一品ニシテ名稱若ハ製造法又ハ製造元ヲ異ニスルモノニ關シテ亦前項ニ同シ

第二條 何レノ藥局方ニモ記載セサル藥品又ハ製劑ハ容器又ハ包紙ニ其ノ成分

テラ並ニ其各鹽類

- 四 ヂヒドロオキシコデイノン、ヂヒドロコデイノン、ヂヒドロモルヒニン、アセチルヂヒドロコデイノン、ヂヒドロモルヒネ及其ノ各エステル並ニ其ノ各鹽類
- 五 コデイン、エチルモルヒネ、ベンジンモルヒネ其ノ他ノ「モルヒネエーテル及其ノ各鹽類
- 六 モルヒネエヌオキシド其ノ他ノ五價窒素モルヒネ及其誘導體
- 七 ヂヒドロコデイン、テバイン並ニ其ノ各鹽類
- 八 モルヒネ、モルヒネエステル(ヂアセチルモルヒネヲ除ク)若ハ「モルヒネエーテル(コデイン及エチルモルヒネ)ヲ除ク)ヲ千分中二分以上檢出シ又ハ「ヂアセチルモルヒネ」ヲ檢出スル物
- 九 ヂヒドロオキシコデイノン、ヂヒドロコデイノン、ヂヒドロモルヒニンアセチルヂヒドロコデイノン、ヂヒドロモルヒネ若ハ其ノ各エステル又ハ五價窒素モルヒネ若ハ其ノ誘導體ヲ千分中二分以上檢出スル物
- 十 エクゴニン又ハ「コカイン」其ノ他ノ「エグゴニンエステル」ヲ千分中一分以上檢出スル物
- 十一 印度大麻草、其ノ樹脂及之ヲ含有スル物

同第十九條ノ二、醫師藥劑師ノ中毒患者ヲ診察シタル時ハソノ住所、氏名及中毒藥ノ種類ヲ十日以内ニ診察所ノ所在地又ハ醫師ノ住所ノ所轄警察署長ニ届出(シテ)轉歸ノ場合亦同シ

同第十九條ノ三、醫師藥劑師ノ慢性中毒患者ニ其ノ中毒ノ治療ノ目的ヲ以テ藥劑ヲ配伍スル處方箋ヲ交附シタル時ハ患者氏名、藥名、分量、用法用量、處方ノ年月日及使用期間ヲ具シ十日以内ニ診察所ノ所在地又ハ醫師ノ住所ノ所轄警察署長ニ届出(シ)

藥品巡視規則

第一條、衛生官吏、警察官吏及藥劑師ヲ以テ監視員トナシ藥局及藥品ヲ販賣

分、成分不明ナルモノハ其ノ本質及製造法ノ要旨ヲ記載スルニ非サレハ之ヲ販賣又ハ授與スルコトヲ得ス但シ名稱若ハ製造元ヲ異ニスル場合ヲ除ク

外本令施行前ヨリ發賣シ來レルモノニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第三條 令ニ違背シタル者ハ五十圓以上ノ罰金ニ處ス

附則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年十二月内務省令第二十八號ハ之ヲ廢止ス

阿片法施行規則

(大正八年六月二十五日内務省令第四號)

第八條 醫師、齒科醫師、獸醫、藥劑師又ハ製藥者ニ於テ醫藥用阿片ヲ要スルトキハ其ノ數量、使用ノ目的並業務所、職業、氏名及年月日ヲ記シ捺印シタル賣渡請求書ニ付數量五十「グラム」以下ナルトキハ所轄警察官署、五十「グラム」ヲ超ユルトキハ地方長官ノ證明ヲ受ケ其ノ道府縣内ノ醫藥用阿片販賣人ニ提出シ賣渡ヲ受クヘシ調劑用トシテ第一號(五「グラム」)一箇ヲ要スル場合ハ前項ノ證明ヲ受クルコトヲ要セス但シ一年ヲ通シ五箇ヲ越ユルコトヲ得ス

第九條 公立ノ病院若ハ學校又ハ法人ニ於テ調劑用トシテ醫藥用阿片ヲ要スルトキハ前條第一項ノ規定ヲ準用ス學術研究ヲ爲ス者ニ於テ醫藥用阿片ヲ要スルトキ亦同シ

尙前掲ノ普魯西ニ於ケル規定毒物採集ノ部ヲ參照スヘシ

麻藥取締規則

第一條 本令ニ於テ麻藥ト稱スルハ左ノ各號ニ掲グル物ヲ謂フ

- 一 モルヒネ及ヂアセチルモルヒネ其ノ他ノ「モルヒネエステル並ニ其ノ各鹽類
- 二 粗製モルヒネ、コカ葉及粗製コカイン
- 三 エクゴニン(比旋光度ノ如何ヲ問ハズ)及コカイン其ノエクゴニンニス

又ハ製造スル場所ヲ巡視セシムヘシ

我國ノ舊刑法ニハ明ニ毒物ナル文字ヲ使用シアリシガ、(舊刑法二百四十三條乃至二百四十五條、二百九十三條、三百七條、二百五十三條、二百五十五條參照)今日ノ學問ノ程度ニ於テハ、ソノ毒物ナル定義甚ダ漠然タルモノトナリシヲ以テ、現行刑法ニテハ一、二ヶ所ヲ除キ毒物ナル文字ヲ見出サザルニ至レリ。即毒物ヲ以テ人ヲ殺傷シタルモノハ他ノ兇器ヲ以テシタルモノト同ジク、殺人或ハ傷害罪ヲ以テ論ゼラルルニ至リシナリ(現行刑法百九十條乃至二百一十一條、百四十三條、百四十五條參照)。然レドモ藥品營業乃至取扱規則及第五藥局方等ニヨレバ、毒物或ハ劇藥物トハ大略第百十七及百十八表ニ示スガ如キモノヲ指示シ居レリ。

即チ毒物ナル言葉ニ對シ、今日ニ至ル迄満足ナル定義ナシト雖、

「Gifte sind solche, teils unorganische, teils organische, in Organismus entscheidende oder von aussen eingeführte nicht organische Stoffe, welche durch ihre chemische Natur unter gewissen Bedingungen irgend ein Organ(oder auch mehrere) lebender Wesen so beeinträchtigen, dass die Gesundheit oder das relative Wohlbefinden dieser Wesen dadurch vorübergehend oder dauernd schwer geschädigt wird.

「毒物トハ或ハ體內ニ生ジ或體外ヨリ輸入セラルル無生物ニシテ、



有機物ナルモ亦無機物ナルモアレド何レモ化學的作用ニヨリテ、生物ノ一或ハ數多ノ器官ヲ犯シ以テ一時的ニ或ハ永久的ニ其健康障礙ヲ來スモノヲ云フトアリ。

即チ一般ニ毒物トハソノ極少量ニテモ、化學的作用ニ依リテ人ノ健康ヲ害シ、甚シキトキハ人ヲ致死セシムルモノナリト解釋セラレタリ。然レドモソノ性質上、絕對ニ人ノ健康ヲ害スルモノトテナク何レモ其量關係ニ依リテ中毒ヲ來スモノナリ、尙ソノ他個人ノ性、年齢及體質、身體的狀況ニモ大ナル關係ヲ有シ、或人ニハ治療量ナルモ他ノ人ニハ已ニ中毒シ、同一人ニテモ或時ニハ中毒シ他ノ時ニハ中毒セザルコトアリ。法律家ハ如何ナル物質ニテモ、其作用ノ化學的或ハ機械的何レニ基因スルニ拘ハラズ、之ヲ施用シテ人ノ健康ヲ傷害スル物質ヲ毒物ト見做シ、體外ヨリ體內ニ輸入サレテ毒力ヲ發揮シ、且加害者ガソノ人ノ健康ヲ害スルモノナルコトヲ知りテ使用シタル時ハ、如何ナルモノモ皆毒物ト解釋セリ。即チ吾人ノ化學的毒物ト見做サザル細菌及硝子ノ細片等ヲモ、法律家ハ之ヲ毒物ト見做セリ。例ヘバ飲食物ニチフ菌或ハこれら菌ヲ混ジテ人ニ與ヘ、之ヲ發病セシムルモ又中毒トシテ取扱ヘドモ、以下予ノ述ブル所ハ化學的作用ニ依リテ人ヲ傷害スル毒物ノミニ制限セン、而シテ毒物

ニ就キテハ次ノ注意ヲナスベシ。

(イ)性質 即チ化學的性質、集成、純否、新古、濃度或ハソノ腐敗ノ有無等ニ就キ注意スベシ。例ヘバ或種ノあるかいどニテハ、ソノ新古、產地、採集時期等ニ依リテ、同量ニテモソノ作用度ニ大差アルガ如キ之レナリ。

(ロ)量 如何ナル藥物モ醫療量、中毒量及致死量ハ各國ノ藥局方ニ依リテ決定シ居リ、且コハ年齢、性ニ大關係ヲ有シ、又藥物ニ對スル個人特異性乃至習性ナルモノアリ、之ニヨリソノ中毒程度ヲ異ニス、例ヘバもるひねノ如キ、小兒ニハ極少量ヲ注意シテ用ユルモ尙中毒スルコトアルニ反シ之ニ習性ヲ有スルモノハ、ソノ數瓦ヲ使用シテ一向平氣ナルモノアルガ如キ之レナリ。

(ハ)使用法 毒物ハ一般ニ水ニ溶解シタル形トシテ直接ニ血行中ニ輸入スレバ、最モ早ク效ヲ現ハシ且其效偉大ナリ。皮下ニ與フルモノ之ニ次ギ、胃腸ニ與ルモノノ效果比較的遅クシテ弱シ。併シ時トシテ胃腸ヨリ與ヘテ却テ卓效ヲ奏スルモノアリ、例ヘバ砒素劑ノ如キ之レナリ。

(ニ)補助藥 ニ依リテソノ效ヲ異ニス、即チ藥品ガ補助藥乃至同時ニ用キタル飲食物ニソノ效ヲ妨ゲラルルモノニシテ、例ヘバある

かいどト單寧トヲ同時ニ用ユレバ、ソノ效少キガ如キ之レナリ。

(ホ)種屬特異性 ニ依リテ藥物ノ效用ニ差アリ、即チ或動物ニハ無毒ニシテ他ノ動物ハ有毒ナルコトアリ、例ヘバがんたりぢんハ人類ニハ有毒ナレドモ鷄ニハ無毒ナルガ如キ之レナリ。故ニ藥物ノ效用ヲ動物試驗ニ依リテ決定シ、直ニ之ヲ人類ニ應用スルハ甚ダ危険多キコトト云フベシ。

### 乙、中毒ノ診斷

中毒死ナル斷定ヲ下スニハソノ死直前ノ臨牀的症候、解剖所見及毒物ノ化學的證明及周圍ノ狀況等ニ據ルベキモノトス、今是等ニ就キテ略述セントス。

### 天、臨牀的症候

(イ)今迄健康ナリシ人ガ或食物或ハ某藥品ヲ攝取セシ後、又ハ或室内ニ入りシヤ否ヤ急ニ劇烈ナル症候ヲ呈シタル時ハ、接觸セル部分ヲ直ニ犯ス強キ腐蝕毒、或ハ血液毒等ノ中毒ニ非ラザルナキカヲ疑フベシ。例ヘバ腐蝕毒ハ重ニソガ接觸セシ局部ヲ犯シ中毒性急性胃腸炎ヲ起シ、苦悶、腹部ノ疼痛、嘔吐、下痢、下腹部ノ膨脹、心氣不安、裏急後重等ヲ來スガ如キ之レナリ。但シ此等ノ中

毒症候トこれら病等ノ急性傳染性胃腸病トハ錯誤スルノ恐レアレバ注意ヲ要ス。

(ロ)次ニ毒物ガ徐々ニ吸收サレテ體內ニ於ケル新陳代謝ヲ犯シ、又ハ神經ヲ刺戟シ或ハ麻痺セシメテ中毒死ヲ來スコトアリ。即チ一酸化炭素中毒ノ場合ニハ之ニ依リ徐々ニ血色素ヲ犯シ内窒息ヲ由來シ死ニ至ルコトアリ。或ハ磷砒素等ノ如キハ體內ノ新陳代謝ヲ犯シ、諸所ノ臟器ニ脂肪變性ヲ來スガ如キ之ナリ。時トシテ毒物ノ吸收ハ意外ニ早ク中毒症候モ亦早ク經過シ死ニ轉歸スルコトアリ、即チコハオトリキにーね、もるひね等ノ中毒ニ於テ見ルコトナリ、是等ト雖、腦出血、尿毒症、子癇等ト注意シテ鑑別スベキ必要アリ。

(ハ)次ニ毒物ノ接觸セシ局部ヲ犯シ、且吸收サレテ徐々ニ新陳代謝ノ障礙ヲ來ス毒物アリ、コハソノ中毒症候往々不明ニシテ、多クノ金屬性鹽類ハ此作用ヲ有ス。

(ニ)中樞神經或ハ心臟ヲ犯シテソノ方面ノ症狀甚シキモノアリ。今便宜上臨牀的症狀ヲ基礎トシテ、如何ナル毒物ノ中毒ナルヤヲ疑フベキカヲ表示セバ、大約百廿表ノ示ス所ノ如シ。(以下三表ハ黑岩武治氏ノ作成セルモノナリ)



第百廿表 中毒症狀ト毒物

Table with 3 columns: 臨床的症狀 (Clinical symptoms), 疑フベキ毒物 (Suspected poisons), and 毒物 (Poison). Rows include symptoms like 一 數秒數分以内に死亡スルモノ, 二 昏睡, 三 虛脱, etc.

Table with 3 columns: 臨床的症狀 (Clinical symptoms), 疑フベキ毒物 (Suspected poisons), and 毒物 (Poison). Rows include symptoms like 二二 毛髮脱落(毒ナキ時), 二三 頭髪ノ着色, 二四 毛髪ノ軟化, etc.

Table with 3 columns: 臨床的症狀 (Clinical symptoms), 疑フベキ毒物 (Suspected poisons), and 毒物 (Poison). Rows include symptoms like 四三 流涎(皮下注射後ニ於テモ), 四四 流涎(局處刺戟ニヨル), 四五 咽喉性咳嗽及失音, etc.

地、中毒症狀ノ經過

毒物ヲ攝取セシヨリ中毒症狀ノ起リ來ル時間ハ、其毒物ノ性狀、量、

中毒總論

個人的關係及胃腸ノ充虛等ニヨリテ差異アリ。毒物攝取後直ニ中毒  
症候來リテ、急ニ死ニ轉歸スルモノハ強キ腐蝕劑、青酸及ソノ化合  
物、ナトリウム等ニ見ルコトニシテ、金屬性鹽類ノ中毒ハソノ  
經過多クハ相當ノ時間ヲ要シ、一般ニあるかろいどノ中毒ノ際ハ少  
クトモ半時間以上ノ時間ヲ要シテ死ニ至リ、瓦斯狀毒物ノ中毒ハ多  
クハ非常ニ早く經過スルモノナレドモ、ソノ空氣中ニ含有セラルル  
濃度ニヨリテ異ナリ、含量少ナレバ少キ程長時間ヲ要スルヲ常トス  
即チ坑氣中毒ノ場合ハ殆ンド瞬間ニ死亡スルコト多キモ、一酸化炭  
素中毒ハ、ソノ含量少キ時ニハ徐々ニ經過スルモノナリ。  
中毒症狀ガ一旦次第ニ強ク來リ一定程度ニ達スレバ漸次症狀弱クナ  
リ、更ニ又症狀強クナルコトアリテ、之ヲ以テ再ビ新ニ毒物ヲ與ヘ  
タルニ非ラザルカノ疑ヲ起スコトアレドモ、コハ屢々神經毒ニ見ル  
コトニシテ、初メ攝取シタル毒物ノ一部ガ、食物ノ爲メニ胃腸粘膜ニ  
觸レズ從テ吸收サレザリシモノガ、更ニ偶々胃腸粘膜ニ接觸シテ吸  
收サレ、再ビソノ作用ヲ逞クスルニ至リシモノナリ、但シナトリウム  
にーねノ時ニ來ル痙攣ノ如キハ、全クソノ意味ヲ異ニシ長キ痙攣ノ  
爲メニ筋肉疲勞シ、爲メニ筋肉ノ弛緩來リ、更ニ新ラシキ刺戟ノ爲  
メニ再ビ痙攣ヲ來スモノナリ。



毒物ヲ適當ニ且多量ニ嘔吐、利尿、下痢乃至洗滌ニ依リテ排泄シ終ル時ハ、良好ノ轉歸ヲ來シトシテ快癒スルコトアリ。サレバ中毒ノ疑アル時ハ、此等ノ排出物ヨリ毒物ノ檢出シ得ラルルコトヲ忘ルベカラズ、例ヘバ金屬性毒物ノ如キハ一回ノ攝取後、數日間ソノ糞或ハ尿ヨリ排出シツツアルガ如キ之レナリ。

中毒症狀快癒後ニ來ル障礙ハ腐蝕劑ヲ用ヒバ食道ノ狹窄ヲ殘シ、全ク廢疾ニ陥ルコトアリ、又一酸化炭素中毒後ニハ、往々精神異常ヲ殘スヲ見、ソノ他中毒後種々雜多ノ障礙ヲ貽スモノナリ。

因ニ中毒時ノ手當ニ付略述スレバ、第百廿一表ニ記スル所ノ如シ。

第百二十一表

中毒ノ處置トシテハ物理的或ハ機械的療法、解毒療法對症療法アリ

A. 機械的療法

- (1) 創面ヨリ毒物排除。壓出、吸出、洗出、燒灼等ニヨツテ創面ヨリ毒物ヲ排除ス。
- (2) 胃内ヨリ毒物排除。胃消息子ニテ毒物ヲ洗出ス腐蝕性酸類特ニ硫酸、腐蝕性あるガリ、腐蝕性鹽類ノ場合ニハ胃破裂ノ恐レアルタメニ注意シテ行ハザルベカラズ、若シ局部腐蝕セラレ消息子ノ通過困難ナル場合ニハ吐劑(あほもるふいん、硫酸銅等)ヲ用ヒ、牙關緊急アリテ口ヲ開カザル時ハ細キ消息子ヲ鼻口ヨリ送入シテ胃内ヲ洗滌ス。洗滌料トシテハ温水ハ適クベキナリ。

胃洗滌料

- イ、過まんがん酸加里(〇・一〇・五%)
- ロ、過酸化水素水(一―三%)

- ヲ防グ(毒蟲、毒蛇、毒魚ニ咬マレ又ハ刺サレシ時)
- (5) 肺腫ヨリ新鮮ナル空氣ヲ呼吸スルコトニヨリテ毒物ヲ排除ス。
- (6) 膀胱ヨリかてーテニヨリテ毒物排除セシム
- (7) 體內洗滌 既ニ毒物ガ血液中ニ吸收セラレタル後ニ於テハ毒物ヲ排除スル腺ノ機能ヲ高メ或ハ瀉血ヲ行フ五〇〇乃至六〇〇ccm瀉血シ、次デ「リんげる」氏液(五〇〇・〇―一〇〇〇・〇ccm皮下注射)、生理的食鹽水又ハ葡萄糖液(一〇―二〇%靜脈内)等ノ靜脈内又ハ皮下注射ヲ行フ。

B. 解毒療法

- (1) 中和(酸ニ對シ、鹼性まぐねしあ、重曹、石灰、牛乳、卵白、石鹼末、「あるかり」ニ對シ稀醋酸、稀薄枸橼酸等)
  - (2) 不溶性化合物ニ變化セシム(銀ニ對シ食鹽ヲ用フルガ如シ)
  - (3) 無害ノ化合物トナス。
  - (4) 分解。
  - (5) 蛋白ヲ凝固セシムルモノニ對シテハ卵白ヲ用フ。
  - (6) 「あるかり」ニ對シテ「たん」酸等ニテ沈澱セシム。
  - (7) 骨炭末或ハ粘滑劑ハ多ク「あるかり」又ハ重金屬ヲ保留シ、毒物ノ吸收乃至腐蝕ヲ緩和又ハ防止ス。
- イ、骨炭末五〇・〇―一日數回一食匙宛水ニ和シテ飲マシム。
- ロ、あらびやごむ漿 二〇・〇―一日數回一食匙宛服用
- 單舍利別 二〇・〇―一日數回一食匙宛服用
- 蒸留水 二〇・〇―一日數回一食匙宛服用
- 通常解毒劑トシテ用ユルモノハ次表ノ如シ。

毒	抗毒藥
一 酸化炭素、青酸、青酸加里、クロール酸加里、硝酸、硝酸加里、硝酸水、ニトロペンツォール、焦性沒食子酸、酸素吸入	大亞硫酸普達
二 青酸、青酸加里	

- ハ、たんじん酸水(〇・五―二%)
- ニ、重曹(二―五%)
- 吐劑
- イ、吐根末 一〇〇
- 吐酒石 〇・二
- ロ、硫酸銅 一〇〇
- 蒸留水 五〇〇
- ハ、鹽酸あほもるふいん 〇・一
- 蒸留水 一〇〇
- (3) 腸内ヨリ毒物排除 腸管ヨリ毒物ヲ排除スルニハ下劑(芒硝、硫酸まぐねしあむ、蓖麻子油等)ヲ與ヘ浣腸、腸洗滌(水、食鹽水、たんじん酸水)注腸(炭末、白陶土、あどそるびん)等ヲ行フ。

下劑

- イ、硫酸まぐねしあむ 三〇〇
- 蒸留水 二〇〇
- ロ、硫酸ナトリウム 三〇〇
- 大黃舍利別 三〇〇
- 蒸留水 二〇〇
- ハ、蓖麻子油 三〇〇
- 薄荷油 一滴
- 腸洗滌用 一乃至二回ニ頓用
- たんじん酸水(一%) 直腸内注入用
- 骨炭末 一〇〇
- 水 一〇〇
- (4) 毒物吸收ノ遲緩 四肢ノ結紮又ハ繃帶ヲナシテ毒物ノ移動或ハ吸收

一 毒、青酸、酸化炭素、抱水クロール、パントボ	過酸化水素水、急救ノ場合ニハ身體ノ處カニ皮下注射
二 毒、モルフィン、其他呼吸及血液循環ヲ障害スル毒物	皮下注射
三 腐蝕酸、アルカリ、鹽	卵白
四 鉛毒、腐蝕毒	オリブ油
五 鉛毒、腐蝕毒	牛乳又ハ乳脂
六 腐蝕酸、クロロム酸、硝酸、砒素、昇汞、重	アラビヤゴム、トラガンタ
七 腐蝕酸、鹽酸、硝酸、砒素、昇汞、重	タンニン酸、コーヒー、茶
八 アルカリ、重金屬鹽、グリコシド	ヨードヨードカリ液
九 アルカリ、グリコシド	ヨードカリ(一日數回〇・二―〇・三)
一〇 鉛毒	二%大亞硫酸普達
一一 ヨード、ヨードカリ、クロール、クロール石灰	過マンガン酸加里外用
一二 中毒劑(毒蛇咬等)	〇・一%過マンガン酸加里胃洗滌
一三 蟻、青酸、イオウ、モルフィン、コデイン、ストリ	テルペンチン油
一四 蟻(已ニ呼吸セラレタル時)	芒硝
一五 パリット、鉛(急性)	硫酸銅
一六 蟻、パリット	硫酸アトロピン(少量皮下)
一七 ムスカリン、ニコチン、アトロピン、アトラスチグミン、モ	鹽酸モルフィン
一八 アトロピン(中樞刺激ニ對シ)	鹽酸ピロカルピン
一九 アトロピン、ヒオスチアミン、スコポラミン	抱水クロール、パロナルナトリウム
二〇 ストリキニン、ピクログニシン、アンモニア	硝酸ストリキニン(〇・〇〇五皮下)
二一 クロールヒドレート、アルコホール、ペロナー	炭酸普達、重曹
二二 メヂナール、アルコホール、トリオナール	酒石酸、林糖酸
二三 ヨード、プロム、抱水クロール、クロール酸	假性マグネシア乳(假性マグネシヤ一〇・〇(C.O.))
二四 腐蝕酸、酸性鹽、砒素	アンモニア吸入
二五 モルフィン、抱水クロール、アルコホール	クロロホルム吸入
二六 ストリキニン、ピクログニシン、アンモニア	一〇%カンフル油(皮下注射)
二七 抱水クロール、モルフィン、トリオナール、パ	



二八	水、クローラール、モルフィン、バントロ、オピオム、ペロナル、ズルフォナル、トリオナル	クローラール、バリウム(皮下0.01)
二九	瀉、番、マンガン、ニツケル、鐵ノ腐蝕性鹽	1%黄色血鹽
三〇	慢性アルコール中毒ニ於ケル電氣性讀安症	プロム水素酸スコボラミン(皮下)

C、對症療法

中毒時ノ症狀ニ應ジテ對症ノ療法ヲ行フ、或時ニハ酸素吸入ヲ行ヒ或ハ心臟衰弱ニ對シテ心臟劑(かんふる)ヲ與ヘ、昇汞腐蝕毒ノタメニ氣管入口ノ腫脹アレバ、插管法又ハ氣管切開ヲ行ヒ或ハ人工呼吸ヲ行フ。又毒物排除ヲ早ムルタメニ利尿劑ヲ用ヒ、症狀ニヨリテハ「まつさーじ」電氣刺戟ヲ行ヒ、又四肢ノ他動的運動ニヨリテ血液循環ヲヨクシ、腦麻痺ニ對シテハ酒精、珈琲ヲ與ヘ、痙攣ニ對シ「もるふいん」ヲ與フ。血液毒ニ對シテ瀉血、輸血、食鹽水注射ヲナス等總テ其症狀ノ如何ニ應ジテ臨機ニ之ヲ行フ。

玄、毒物ノ運命

人身内ニ入りシ毒物ハ一般ニ先ヅ血液内ニ入り一時肝臟ニ貯藏サレ、次デ腎臟、腸胃腸、唾液或ハ皮膚ヨリ排出サレ、又ハ中和サレテ無害トナリ、或ハ酸化サレ、還元サレ若クハばーれんシテ其作用ヲ弱メ、遂ニハ全ク無害トナルモノアリ、多クハ長時間肝脾等ニ蓄積スルヲ常トス、而シテ之等ノ事實ハ毒物檢索上甚ダ有用ナルコト

明トナシ、恰モ牛煮沸狀トナシタル上、胃腸壁ヲ甚ダ脆弱ナラシム、コハ酸類ノ中毒ニ於テ著明ニ顯ハルル所見ナリ。

崩解壞疽トハ粘膜或ハ筋層ヲ恰モ膠狀トナシ腫脹流下セシムルモノニシテ、壁質次第ニ薄弱トナリ遂ニ穿孔スルモノナリ、コハ強あるかり中毒ニ見ル所ノ所見ナリ。

(ロ)次ニ血色素ニ對スル作用、特ニ之ヲ溶解スルヤ否ヤニ關ス、即チ血色素ヲ溶解セシムル毒物、例ヘバ強あるかり性毒物ハ血色素ヲ溶解スルヲ以テ、直ニ粘膜ハ血色素ヲ以テ染色セラル。然ルニ血色素ヲ溶解セザルモノ、例ヘバ酸類ハ之ヲ以テ粘膜ヲ着色セシムルコト少シ。

(ハ)毒物自己ニ特有ナル色アルモノハ接觸セル粘膜ニソノ色ヲ附加ス、例ヘバ重くろむ酸加里中毒ノ際ハ黄色調ヲ粘膜ニ附與スルガ如キ之レナリ。

(ニ)、最後ニ毒物が蛋白質ニ對シ特有ナル呈色反應ヲ有スルヤ否ヤニ關ス、例ヘバ硝酸ハ蛋白質ニ對シきさんとぶろていんノ反應ヲ呈シ、黄色ヲ與フルヲ以テ硝酸中毒ノ際、諸所ノ粘膜ガ黄色調ヲブ帯ルガ如キ之レナリ。

此四條件ニ依リテ中毒ノ際局所所見ノ如何ニ變ズルカヲ實例ヲ

ナリ

黃、解剖所見

時トシテ屍體ノ外表檢査ニ於テ已ニ特有ナル變化ヲ見出スコトアリ。例ヘバ燐中毒死ニテハ諸所ノ粘膜ニ小溢血點アリ甚シキ黃疽ヲ見、一酸化炭素及青酸化化合物ノ中毒ノ際ハ死斑鮮紅色ヲ呈シ、鎳酸中毒ノ時ニハ口腔内灰白色乃至黑褐色ヲ呈シ、口角ヨリハ同色ノ條線頰部ニ向ヒ走下スルヲ認メ、あとろびん中毒時ニハ瞳孔甚シク散大シ、あるこほる、くろろほるむ中毒時ニハ、ソノ屍體ガ藥物ニ特有ナル臭氣ヲ有スルガ如キ之レナリ、内景所見トシテ神經毒及心臟毒等ニ於テハ殆ンド特有ナル所見ナク、實質毒ニ於テハ臟器ノ退化性變化ヲ見、血液數ニ於テハ血色素ノ變性ニヨル所見アリ、腐蝕毒ニテハ毒物ガ直接々觸セシ局部ニ於ケル變化ト、一般所見トノ別アリ。

毒物ガ接觸セシ局部ニ於ケル所見ハ重ニ次ノ條件ニ依リ種々ノ狀態ヲ呈スルモノナリ、此條件ヲ知ラバソノ動物ガ接觸セシ局部ニ如何ナル變化ヲ呈スルカヲ、略々察知スルコトヲ得ベシ。

(イ)毒物ガ蛋白質ニ對シ凝固壞疽、若クハ崩解壞疽ノ何レカヲ起スヤニ依リ差アリ、前者ハ粘膜或ハ筋層内ノ蛋白ヲ凝固セシメ不透以テ示セバ、稀硫酸ハ凝固壞疽ヲ起シソレ自身ハ無色ニシテ、蛋白質ニ對シ呈色反應ナク且血色素ヲ溶解セズシテ、硫酸へまぢんヲ作ルヲ以テ、稀硫酸中毒ノ際ハ胃腸粘膜ハ灰白色脆弱トナリ、黑褐色物ニテ掩ハレ、食道粘膜ハ灰白色不透明トナル、次ニ稀硝酸ハ硫酸ト略同作用ヲ有スレドモ、蛋白ニ對シきさんとぶろてんノ反應ヲ有スルヲ以テ、食道等ハ帶黄灰色ヲ帶ビ胃粘膜ハ帶黄灰色ニシテ黑褐色物ニ掩ハレ脆弱ナリ。之ニ反シ強あるかり類ハ自己ハ無色ニシテ蛋白質ニ對シ呈色反應ナシト雖、崩解壞疽ヲ來シ且血色素ヲあるかり性へちまぢんニ變ジ、尙之ヲ溶解スルヲ以テあるかり中毒ノ際ハ胃腸ノ粘膜ハ膠狀ヲ呈シ、腫脹シ且赤黑色ヲ帶ビ、之ニ觸ルレバ恰モ石鹼液様ノ感アリ。次ニ藥品自身有色ナルモノノ例ヲ舉グレバ、硫酸銅ハ青色ヲ呈シ、蛋白ヲ輕ク凝固セシメ、血色素ヲ溶解セズ且蛋白ニ對シ呈色反應ヲ呈セザルヲ以テ、ソガ中毒ノ際ハ胃腸粘膜ハ帶綠淡赤白色ヲ呈シ、重くろむ酸加里ハ黄色ヲ呈シ輕キ凝固作用アリ、且血色素ヲ溶解スルヲ以テソガ中毒ノ際ハ胃腸粘膜ハ帶褐黄色ヲ呈スルガ如キ之レナリ。

一般ニ腐蝕劑ハ口腔、食道、胃腸壁ノ粘膜ニ崩壞ヲ來シ、ソハ時トシテ粘膜層ニ止マリ或ハ筋層ニ達シ遂ニ穿孔スルコトアリ、金屬



性毒物ニ於テハ多クハ口腔食道ヲ犯スコト少ク、胃壁ノミヲ犯シ特ニ胃ノ最モ低位ニ在ル大彎部ニ於テ、最モ著明ナル變化ヲ見ル、即チソノ部ノ粘膜ハ引赤腫脹シ潰瘍ヲ作ル。モシ同時ニ血管壁ヲ犯サルレバ胃内容ハ血液ト混ジ汚血色ヲ呈ス。

胃内容ノミニ就テ云ヘバソガ暗赤色乃至黒褐色ヲ呈スルハ、酸類ノ中毒ニシテ強キ酸性ヲ呈シ、略同色ナレドモ膠狀ヲ呈スルハ、あるかりノ中毒ニシテ強あるかり性ヲ呈ス、次ニソガ鮮紅色ヲ呈スルハ青酸化化合物ノ中毒ナルコトヲ知ル。故ニ胃内容ノ臭、反應等ヲ檢スルコトヲ決シテ忘ルベカラズ。

胃内容ノ色ニ就テモ亦大ニ得ル所アルモノナリ、即チソガ藍色ヲ呈スルハ硫酸銅等ノ中毒ニ非ラザルカヲ疑ヒ、黄色ナルハ沃度或ハ重クロム酸加里中毒ノ疑ヒアリ、次ニ胃内容ヲ肉眼的或ハ顯微鏡的ニ檢シテ大ナル手係リヲ得ルコトアリ、例ヘバ内容物ヨリ麥角ノ一片、或ハ萆酸結晶ノ一部ヲ發見スル事方アルガ如キ之レナリ、故ニ剖檢ノ際ハ粘膜皺襞間等ヲモ注意シテ檢査スベシ。

吸收ニ依リテ中毒ヲ來スモノハ直接血液ヲ犯スカ、或ハ實質性臟器ヲ害スルモノニシテ、鹽素加里中毒ノ場合ノ如キハ、血液ハ甚シキ變化ヲ受ケ赤褐色トナルコトアリ、或ハ鮮紅色ヲ呈スト雖ソノ化

學的作用ニ障礙ヲ來セル一酸化炭素中毒ノ如キアリ。此等ノ血液毒ハ化學的ニ、或ハ吸收線ノ關係ニ依リテ鑑別スルモノナリ、吸收サレテ組織ノ新陳代謝ヲ犯シ、脂肪變性等ヲ招來スルモノハ燐、砒素等ナリ。

次ニあるかろいど中毒ノ際ハ、剖檢上特有ナル異常所見少ク、只窒息死ノ微標明ナルノミ、此ノ際ハ是非化學的檢査ニ依リテ其死因ヲ決定セザルベカラズ。

中毒死體剖檢ノ際尙注意スベキハ死體現象ニ就テナリ、已述ノ如ク胃粘膜ノ死後消化ト死後血色素ノ浸潤トハ中毒ニ似タル所見ヲ呈シ、又腐敗ノタメニ通常ノ組織ニテモ諸種ノ退行性變化ト相似タル所見ヲ呈スルコトアルガ如キ之レナリ。

今中毒死ノ疑アル際、ソノ死體ニ於ケル所見ト疑ハシキ毒物トノ關係ヲ示セバ、大約第百廿二表ノ如シ。

第百廿二表

左記 所見アラバ	左記 中毒ノ徵標
輕度ノ硬直、時トシテ硬直強度トナリ死ニ至ル	オトリビニン、アコニチン、びくろとましノ如キ毒物
死後暫時著明ナル瞳孔散大アルモノ	アトロピン、オトリビニン、ヒオスチリン、ベラドンナ、コカイン、トロンバコカイン、阿托品、毒物等
腸管性潰瘍性或ハ痙攣性皮膚變化ノ甚シキモノ	沃度、臭素、萆素、毒物等
死斑鮮紅	一酸化炭素、青酸化化合物、凍死
死斑褐色	鹽素加里、ホトリン

皮膚ニ於ケル多數ノ出血	燒中毒、蛇毒
手足ノ凍瘡	石炭酸、萆角
舌及口角ノ腐蝕	腐蝕性ノ強酸あるかり鹽類及同上瓦斯
鼻洞或ハ包皮ノ穿孔	クロール酸ノ慢性中毒
齒齦ノ黒色條紋	鉛、水銀、銀、萆角、銅、慢性中毒
口内炎、舌炎、齒牙動搖	水銀慢性中毒
下顎骨腫脹或ハ壞疽	燒中毒(吸入)
胃炎	燒、砒素、あんらん
胃腸内ニ毒性物質ノ發見	亞砒酸、砒素、あんらん、甘朮
白色結晶ヲ胃腸壁ニ發見	萆酸鹽
胃腸内ニ著色セル毒性物質ヲ發見	酸化砒素、酸化あんらん、クロール酸、沃化銀、銅化合物
綠色ノ小硬片	かんたけん
小木片(軸木)	燒中毒
身體及内臟ニ苦痛極臭	青酸化化合物、にとろべんそ
身體及内臟ニてるべらん種臭	さびな
身體及内臟ニ快臭	香水、あみりにとりつと
身體及内臟ニあせとん臭	糖尿病、あせとん
身體及内臟ニ固有臭	あるこほる、えーてる、くろろほるむ、あみりかんえん、あにりん等
胃腸壁及内容ガ暗所ニ發光	燒中毒
胃腸壁及内容ガ強酸性	強酸及同鹽類
胃腸壁及内容ガ強あるかり	強あるかり、青酸加里、萆酸あるかり、あるかり土類
胃腸壁及ソノ内容ガ酸化あんらんニテ黒變スルモノ	鉛、萆鉛、水銀、銅、及銀等ノ化合物
小腸壁ガ自然ニ黒色ヲ呈スルモノ	慢性銀中毒
胃腸壁及ソノ内容ガ黄色ヲ呈スルモノ	硝酸、ひくりん酸及ソノ化合物、くろーむ鉛
胃腸壁及ソノ内容ガ綠色ヲ呈スルモノ	硫酸銅及ビ綠色アル毒、しえーる綠

毒物ノ化學的證明

胃腸壁及ソノ内容ガ褐色或ハ黄色ヲ呈スルモノ	沃度、臭素、重クロール酸、萆ニアル萆角
大腸壁黒變ス	萆鉛化合物
小腸下部及大腸ガ赤痢種トナル	水銀、砒素、あんらん等或ハソノ化合物
全腸面赤痢種トナル	萆麻子油、くろとん
胃腸壁ニ多數ノ出血	燒、砒素、はりゆーむ
肝硬變	慢性酒精中毒
肝、心、腎等ノ脂肪變性	燒、砒素、あんらん、あんらにあ、沃度、酒精
肝臓ニへもびでりん沈着	血液毒、酒精
肝血管周囲ノ黒變	銀中毒
實質性腎臟炎	かんたけん、沃度、をすみーむ酸及ソノ鹽類
腎臟面ニ赤褐色圓柱ヲ見ル	燒
肝及ソノ他ノ臟器ニ黄疽	昇朮、萆酸、鉛
腎切斷ノ際嚙音アリ	慢性銀中毒
腎系器體黒變	あにりん瓦斯吸入
膀胱腫脹及血尿	むすかりん、びろあひん、にこらん、もららん、阿片、腐蝕性瓦斯
肺水腫	酒精及ビ肺嚙血ヲ來ス毒物
肺褐色硬變	めらるあるこほる、あときしる、綿馬浸ひにん
視神經退化	あどれなりん、すとりふあんらん、酒精
血管硬化	萆角
脊髄ノ系統性疾患	酒精、酸化炭素、砒素、水銀、萆角
腦脊髄ノ退化	

宇、化學的檢査

上、一般注意

中毒ノ疑アル際ソノ臨牀的症候及解剖所見ニハ種々ノ毒物ニ共通







酸、鹽酸硝酸或ハ他ノ有機酸ナルカヲ決定スベシ。

モシ透析液ガあるカリ性ヲ呈シふえのいるふたれんヲ赤變スル時ハ、コハ強あるカリ性毒物ノ存在スルコトヲ判定シ、ソノ方向ニ向ヒテ検査シなとろん濾汁ナルカ或ハかり濾汁ナルカ等ヲ決定スベシ。

其二 揮發性毒物

之ニ屬スル毒物ハ水蒸氣ト共ニ容易ニ揮發蒸溜シ得ベキモノニシテ、検査物ガ血液ナレバソノマ、臟器ナレバ細切シテ、凡一〇〇・〇瓦ヲ取り約一立容積ノこるべんニ移シ、約二倍量ノ蒸溜水ヲ加ヘテヨク混和シ、酒石酸ヲ以テ酸性トナシ徐々ニ分割蒸溜ヲ行フ時ハ濾液中ニあんもにあ、臭素、鹽素、磷、鹽酸、あせとん及諸種ノあるこほる、えーてる、くろゝほるむ、蟻酸、あみるにとりつと、べんじん、靑酸、醋酸、沃度ほるむ、くろらるひどらーと、石炭酸、くれをそーと、にとろぐりせりん、にとろべんぞーる、樟腦及あにりん等移行ス。有毒磷ノ存在スル場合ハ己ニ蒸溜中暗所ニテ之ヲ窺フ時ハ、冷却管ノ内側ニ磷光ヲ發スルヲ以テ知ルコトヲ得、是等ノ毒物ヲ含メル蒸溜液ハ更ニ再濾シ、或ハ精製法ヲ施シテ各毒物ニ對スル實性反應ヲ施行シ、如何ナル毒物ガ存在スルカヲ鑑定スベシ。

其三、植物性毒物(あるかろいと及苦味質)

ん酸、あせとあにりーど、ふえなせちん、ざりちーる酸、ぶえろなーる、あんちびりん、こつふえいん、かんたりぢん等ナリ。故ニ此えーてる分ヲ蒸發皿ニ取り、えーてるヲ蒸發シ殘渣ヲ更ニ温水ニ取り。精製法ヲ行ヒテ上記各毒物ニ對スル實性反應ヲ試ム、ベシ。

(ロ)前項ニテえーてるヨリ分離セル原液ニなとろん濾汁ヲ加ヘテあるカリ性トナシ、更ニえーてるヲ以テ振盪或ハ穿通スル時ハ、えーてる中ニこにいん、にこちん、あにりん、すとりひにん、ぶるちん、あとろびん、こかいん、こでいん、ひどらすちん、ひにん、あんちびりん、こつふえいん、なるこちん、てばいん等移行ス。即チえーてるヲ蒸散シテソノ殘渣ヲ温水ヲ以テ所置シ、或ハ更ニ精製法ヲ施シテ後、茲ニ來ルベキ毒物ニ對スル各實性反應ヲ試ミ、毒物ノ何ナルカヲ決定ス。

(ハ)次ニ原液ニ鹽酸ヲ加ヘテ弱酸性トナシ、更ニあるカリ性ヲ呈スル迄、あんもにあ水ヲ加ヘテ、更ニえーてるニテ前同様ニ所置スレバえーてる中ニあほもるひね移行ス、即チえーてるヲ蒸散シ、殘渣ニテあほもるひねノ存在ヲ檢スルコト前ノ如シ。

(ニ)原液ヲ靜ニ微熱シテ殘餘ノえーてるヲ去リ、之ニ約五倍量ノく

コハあるかろいと及苦味質ガあるこほる、えーてる等ニ溶解シ易キニ反シ、蛋白質ハ之ニ不溶解ナルヲ利用シテ案出シタル抽出法ニシテ、即チ夾雜物ヨリ毒物ノミヲ浸出分離スル法ナリ。此方法ニハすたあす、をつとー氏法、どらけんどるふ氏法、せんこすきー氏法或ハひるげる、丹波氏法等數多アレドモ、此中最モ多ク用ヒラル、ハすたあす、をつとー氏法ナレバ今之ヲ略述セン。

検査物一〇〇・〇瓦ヲ細切シ之ヲ五〇〇・〇珉入ノこるべんニ入レ、酒石酸ヲ以テ弱酸性トナセル七〇％ノあるこほる約三百珉ヲ加ヘ、冷却硝子管ヲ附セルこるくヲ以テ栓塞シ、約六十度ノ水溫上ニ時々振盪シツ、溫浸スルコト一晝夜ノ後、あるこほるヲ濾別シ、更ニ同様ニ殘渣ヲ新鮮あるこほるヲ以テ所置スル事數回ノ後、前後數回ノあるこほる浸出液ヲ合シテ減壓蒸溜ヲ行ヒ、或ハ水浴上ニテあるこほるヲ去リ、殘渣ニ純あるこほるヲ加ヘテ、溫浸濾過スルコトヲ去リ、今回ハ殘渣ヲ温水ヲ以テ浸出濾過シ、濾液(原液ト名ヅク)ヲ以テ次ノ振盪或ハ穿通操作ヲ行フ。

(イ)酸性原液ヲえーてるヲ以テ振盪或ハ穿通操作ヲ行フ時ハ、ソノえーてるニ移行スルモノハびくろときしん、こるひちん、びくろゝ、ほるむヲ加ヘテ振盪或ハ穿通スル時ハ、くろゝほるむ中ニもるひん、あんちびりん、こつふえいん、なるせいん等移行ス、即チくろゝ、ほるむヲ蒸發シ、ソノ殘渣ヨリ前記各毒物ノ實性反應ヲ試ムベシ。

其四、金屬性毒物

(ホ)最後ニ殘レル原液中ニハくらりん及なるせいん殘存ス。即チ原液ヲ乾燥シ、純あるこほるニテ所置シテ、くらりん、なるせいんヲ得テ實性反應ヲ試ム。

細切セル検査物一〇〇・〇珉ニ強鹽酸ヲ加ヘテ暫時放置後、相當量ノ水ヲ以テ稀釋シ、水浴上ニテ微熱シツツ、時々少許ノ鹽素酸加里粉末ヲ加ヘ所謂ふれせにゆす、ばぼー氏法ニテ有機物ヲ碎解シ去リ、含有セル金屬性毒物ヲ皆鹽化物トナシテ溶解セシメタル後、濾過シ濾液ト殘渣トニ分ツ、此殘渣中ニハ銀、鉛及ばりゆむガ不溶ノ形ニテ存在ス。即チ適當ナル方法ニテ此中ヨリ銀、鉛及ばりゆむヲ檢出スベシ。































ソノ他わづねる、ぞんねんじやいん、しやいぶれる、まいえる、どらーげん  
どるふ、でいとまーる等諸氏ノあるかろいと檢出用試薬アレドモ、茲ニハ之  
ヲ省略ス

下、化學的檢査ノ結果ニ對スル注意

此等ノ化學的一般檢査法ニ依レバ、或毒物ハ或一定ノ場所ニ檢出  
サル、事トナリ居レリ。故ニモシ其毒物ガ現出スベキ以外ノ所ニ於  
テ發見サレタルモノハ如何ニ類似ノ反應ヲ呈スルモ、該毒物ト直ニ  
決定スルコト能ハズ、例ヘバもるひね類似ノ反應ガすたゝす、左つ  
とウ氏法ノ酸性液ヨリえーてるニ移行シタルモノニ現ハルトモ、コ  
ハもるひねトハ信ズル能ハザルコト多キガ如キ之ナリ。

(イ) 毒物ノ證明ガ陽性ナリシ時ノ注意

假令上記化學的檢査ニヨリ毒物ノ證明ガ陽性ナリトモ、直ニソハ  
中毒ナリト斷定スルコト能ハズ、種々ノ情況ヲ綜合シテ後斷定ヲ下  
スベキモノナリ。即チ(1)藥物ガ生理的組成トシテ存在スルコト。例  
ヘバ鐵或ハ銅ノ少量ハ人體ノ生理的成分トシテ存在シ、鉛ハ往々食  
器等ヨリ混入シ來ルコトアリ、又(2)生前用ヒシ醫藥ヲ毒物トシテ見  
出スコト、即チもるひね、蒼鉛、砒素、水銀等ヲ發見シタリトテ、  
其人ガ生前治療ニ之ヲ用ヒ居リシモノナラバ、毒物學的ニハ意味甚  
ダ少クシテ只量ノ關係トナリ、非常ニ多量ヲ發見シタル場合ニ、ソ

ノ中毒ナラザリシカノ疑ヲ起スガ如キ之レナリ。(3)職業上體內ニ異  
常ノ毒物ヲ有スルコト、例ヘバ活字職工ガ體內ニ鉛ヲ有シ、鏡製造  
職工ガ水銀ヲ吸入シ居ルガ如キ之レナリ。

次ニ(4)毒物ガ死後體內ニ滲透シ來ルコト、例ヘバベンキ塗ノ棺桶  
ニ入レラレタル爲メ、元來鉛ヲ用キタルコトナキ死體中ニ鉛ガ浸入  
シ來リ、或ハ造花ト共ニ葬ラレタル死體内ニ色素中ノ砒素ガ浸入シ  
來ルガ如キ之レナリ。死後體內ニ入りシ毒物ト、生前ニ入りシモノ  
トヲ鑑別スルニハ、左右對稱ニアル臟器或ハ組織ヲ同量ニ取り、定  
量的ニ毒物ノ檢出ヲナシ、左右略同等ニ發見サルレバ、生前ニ入り  
シモノニシテ、其差甚キ時ハ、死後ニ入りシ疑アルモノナリ。

更ニ(5)使用藥品ノ純正ナルコトニ注意スベシ、例ヘバ多クノ酸類  
及硫化水素瓦斯ハ砒素ヲ含有スルモノナレバ、砒素證明ノ際ニハ、  
此點ニ付充分ナル注意ヲ拂フベシ。

(ロ) 毒物ノ證明ガ陰性ナリシ時ノ注意

他面ニハ化學的ニ毒物ヲ發見シ能ハザリシトテ、直チニ中毒ニ非  
ラズト斷定スルコト能ハズ、即チ左ニ掲グル如キ注意ヲ要ス。勿論  
技術上ノ拙劣ニ起因スル諸事ハ論外ナリ。

(1)、今日ノ學問上生物ノ體內ニ入りシ毒物ニシテ、化學的ニ證明不

能ナルモノアリ。例ヘバ梅毒及河豚毒ノ如キ之レナリ。

(2)、假令攝取セシ毒物ト雖體內ニ於テ分解サレ、或ハ排出サレテ證  
明出來ザルコトアリ、之レ複雑ナル構成ヲ有スル毒物、例ヘバあ  
るかろいとニ於テ見ルトコロナリ。

(3)、體內ニ攝取サレシ毒物ハ極メテ少量ニシテ而モ之レガ全身ニ分  
布シ、ソノ一小部分ヲ取りテ檢査ニ供スルモノナルヲ以テ、到底  
證明可能ナル程、多量吾人ノ手ニ入ラザルコトアリ。

(4)、毒物ガ體內ニ入りテ後變化シテ毒物トシテ證明シ能ハザルコト  
アリ、例ヘバ燐ノ如キ之レナリ。燐ハ體內ニ入り酸化サルレバ燐  
酸トナルモノニシテ、コハ吾人々類ノ生理的成分ナルヲ以テ、最  
早毒物トシテ證明スルコト能ハザルガ如キ之レナリ。

(5)、有機物ガ腐敗スレバ多クノ有機性毒物ハ同時ニ分解サレ證明不  
能トナルコトアリ、金屬性毒物ニハ此事ナシ、あるかろいと雖  
甚ダ永ク腐敗ニ抵抗スルモノアリテ、予ハもるひね中毒死後六ヶ  
月、ナとりきにーね中毒死後一ヶ年ニシテ、發掘セル死體ヨリ尙  
之ヲ證明シ得タルコトアリ。

(6)、分析精製困難ニシテ證明不可能ナルコトアリ、例ヘバあるかろ  
いと中毒ノ時ニ、ぶとまいんハ有機體ノ分解物トシテ自然ニ湧出

シ、ソノ反應あるかろいと酷似スルモノアリテ、鑑別困難ナル  
コトアリ、例ヘバ死體もるひね、死體ナとりきにーねノ如キハ、  
化學的反應ハ全ク眞性もるひね及ナとりきにーねト同様ナレバ、  
之ヲ鑑別スルニハ動物試驗ニヨルノ外ナシ。

丙、毒物證明ノ補助法

尙毒物ノ化學的檢出ノミニテ不十分ナル時ハ次ノ補助法ヲ併セ行ヒ  
ソノ成績ヲ正確ナラシムベシ。

イ、顯微結晶學上ノ證明法 毒物ヲ抽出精製シ結晶セシメ之ヲ  
顯微鏡的ニ窺ヒテ、如何ナル藥物ト結晶ト一致スルカヲ、結晶學  
ニ依リテ決定スルコトヲ得ルコトアリ。

ロ、吸收線檢査法 光像鏡ヲ以テ吸收線ヲ檢シ或ハソノ變遷ノ狀  
態ヲ追究シテ、如何ナル毒物ノ中毒ナルカヲ知ルヲ得ルコトアリ  
例ヘバ一酸化炭素中毒ノ際ニ於ケル血液ノ光像鏡檢査如キ之レ  
ナリ。

ハ、植物學的檢査 或毒物ノ一成形片ヲ得コレヲ植物學上如何  
ナルモノニ屬スルヤヲ檢定シ、毒物證明ニ大ナル利益ヲ得ルコト  
アリ。例ヘバ麥角ノ一片ヲ發見シテ、ソノ中毒ナルコトヲ知レル  
ガ如キ之レナリ。







ルコトヲ得左右肺ニ癒著ナク肋膜滑澤、左右胸腔内ニハ汚血色液各二〇・〇

以、頸胸臟器

- 一〇、心臟ノ大サ略本屍手拳ニ等シク筋質一般ニ軟ナリ表面帶黃紫色ヲ呈シ...

呂、腹腔臟器

- 一四、脾臟ハ其中央ニ於テ著ルシキ痕アリテ(自然ノモノ)殆ンド二葉ニ分...

三、右下腿骨ノ一部ヲ採集セリ

丙、化學的検査

前記解剖ノ際採取セル材料ニヨリ化學的検査ヲ行フ事左ノ如シ

(イ)胃腸及ソノ内容検査

- 二二、胃腸及ソノ内容ヲ納メタル硝子瓶ノ蓋ヲ開クニ腐敗臭ノ外特臭ナク...

天、揮發性毒物ノ検査

- 二三、今胃腸三百十二五中ヨリ 三一・二五 小腸壁五百六十二五中ヨリ 五六・二五 大腸壁四百四十五中ヨリ 一四・四瓦 胃腸内容三百六十六五中ヨリ 三六・六瓦 即總計一三八四瓦中ヨリ一三八・四瓦ヲ分取シ

胃腸壁ハ剪刀ヲ以テ細切シテ「コルベン」ニ移シ少許ノ蒸餾水ヲ加ヘ攪拌シ...

色ヲ呈シ一般ニ粘液ヲ蒙リ血管ニ沿ヒテ血色素ノ浸潤アリ粘膜ノ缺損溢血...

- 一二、指腸内ニハ淡灰色ノ乳様液少量ヲ存シ粘膜ノ性状ハ胃ニ同ジ...

下、頭腔剖檢

- 二一、頭皮ヲ式ノ如ク切開剝離シテ之ヲ前後ニ翻轉スルニ其内面一般ニ蒼白...

附記

本屍ハ中毒死ノ疑アルヲ以テ解剖ノ際化學的検査ノ材料トシテ...

硫化炭素等ノ反應ヲ檢スルニ之ヲ含有スルノ微ナシ

地、あるかいど等ノ検査

- 二五、前項ノ蒸餾液ハ明ニ酸性ニシテ多量ノ水分ヲ含有スルヲ以テ水浴上...

二八、前項ニテエーテルヨリ分離セル原液ニナトリウム試液ヲ加ヘテあるカリ...



二九、前項ニテ分離セル原液ニ鹽酸ヲ加ヘテ弱酸性トナシ暫時放置後あるかり性ヲ呈スル迄あんに水ヲ加ヘテ以テ前同様ニ浸出シ原液(次項ニ用ユ)トスル層トヲ分離シテ之ヲ硝子皿ニ集メ蒸散シテ得タル殘渣ヲ弱酸性ノ水ニ取り濾過シ濾液ヲ以テあほもるひねノ反應ヲ檢スルニソノ存在ヲ微セズ

三〇、前項ニテ分離セル原液ヨリえりて之ヲ驅逐シ之ヲくろるほむ浸出器ニ移シ數時間浸出後くろるほむト原液トヲ分離シ原液ハ金屬性毒物ノ檢査物(第二十五項)ニ追加シくろるほむハ硝子皿ニ集メ水浴上ニ蒸散シ得タル殘渣ヲ弱酸性ノ水ニ取り濾過シ濾液ヲ以テあほもるひねノ反應ヲ檢スルニソノ存在ヲ微セズ

玄、金屬性毒物ノ檢査

三一、第二十五項及前條ノ殘渣ヲ合シテ「こるべん」ニ取り無硫鹽酸(以下單ニ鹽酸ト呼ブ其他ノ藥品モ無硫ノモノヲ用ヒシ事ハ前述ノ如シ)五十託ヲ加ヘ水浴上ニ加温シツツ時々少許ノ酸液加里粉末ヲ加ヘ有機物ヲ碎新シ上清液ヲ淡黄色透明トナリ加温スルモ最モ褐色ニ變ゼザル程度ニ至リテ尙水浴上ニ加温シテくろるほむヲ驅逐後冷却シ少許ノあんに水ヲ以テ酸性ヲ減弱シ濾過シテ濾液(第三十七項ニ用ユ)トシ殘渣(第三十二項ニ用ユ)トニ分ツ殘渣ハ尙ホ可吸ニ水ヲ以テ洗滌シ洗滌液ノ中性トナルニ至リ止ミ此ノ濾液ト洗滌液ト合シテ第三十七項ニ用ユ

三二、前項ノ殘渣ハ帶黄褐色ニシテ粘稠ナルモノナリシヲ乾燥後強熱炭化シ更ニ硝石合劑ヲ加ヘテ坩埚内ニ加熱融解シ冷却後白色融解物ヲ温水ニ取り炭酸瓦斯ヲ通ズル事三十分次ニ十分間煮沸シ冷却後濾過シテ極メテ少許ノ白色殘渣ヲ得タリ

三三、前項ノ白色殘渣ヲ水ヲ以テ數回洗滌シ稀硝酸ニテ所置スルニ全ク溶解ス此溶液ヲ小磁皿ニ取り水浴上ニテ硝酸ヲ驅逐シ得タル殘渣ヲ温水ニ取り濾過シ濾液ヲ以テ第三十四項乃至第三十六項ノ檢査ヲ行フ

事數回殘渣(第四十三項ニ用ユ)ト濾液(第四十四項ニ用ユ)トニ分ツ

四三、前項ノ殘渣ハ淡褐色ニシテ稍多量アリ之ヲ濾紙ト共ニ鹽酸及鹽素酸加里ヲ以テ所置シ濾過シテ濾液ヲ小磁皿ニ取り水浴上ニ蒸散シ且空氣ヲ通ジテくろるほむヲ驅逐シ且鹽酸ノ過剩ヲ去リ適當量ノ水ヲ以テ稀釋シ飽和硫化水素水ヲ加ヘテ密閉放置スル事多時ナルニ何等ノ沈澱ヲ生ゼズ即チ水銀、銅、鉛、若鉛かどみゆいむ化合物ノ存在ヲ微セズ

四四、第四十二項ノ濾液ハ汚褐色ヲ呈ス之ヲ磁皿ニ取り水浴上ニテ乾燥シタル後少許ノ發煙硝酸ヲ加ヘテ再ビ水浴上ニ乾燥シ三回同様ニ硝酸ヲ以テ所置セル後少許ノなとるん滴汁ヲ以テ温シ硝石合劑ヲ加ヘテ佳ク混和シ白金坩埚内ニテ靜ニ溶解シ冷却後融解物ヲ温水ニ取り炭酸瓦斯ヲ通ズル事三十分極メテ微ニ潤濁ス濾過シテ濾液(第四十五項ニ用ユ)ト濾液(第四十六項ニ用ユ)トニ分ツ

四六、第四十四項ノ濾液ヲ二分シ

一、一分ハ第四十九項ニ用ヒ他ノ一部ハ硫酸ヲ加ヘテ煮沸シ炭酸瓦斯及硝酸ヲ驅逐シ硫酸ノ蒸氣ヲ發生スルニ至リ煮沸ヲ止メ冷却後此液ヲ以テ左ノ方法ニ依リ砒素ノ存否ヲ檢セリ

四七、即チ豫備檢査ヲ行フ事一時間ニシテ尙砒素鏡ヲ生ズル事ナキヲ確定セルまるしゆ氏裝置ニ該液ヲ送レバ數分ニシテ砒素鏡ヲ生ジ時間ヲ經過スルニ從ヒ益々著明トナリ遂ニ黑色ノ光澤アル顯著ナル砒素鏡ヲ得タリ

四八、前項まるしゆ氏裝置ニ於ケル還元管下ノ燈下ヲ滅シ還元硝子管ノ尖端ニ點火シソノ小焰上ニ冷却セル白色小磁皿ヲ保持セバ光澤アル黑色斑ヲ生ズ此斑ヲ次くるる酸なとりむノ濃厚液ニテ濕セバ直ニ消失ス即チ前項及本項ノ結果ニ依リ明ニ檢査物中砒素ノ存在スル事ヲ證明スル事ヲ得タリ

三四、前項ノ濾液ノ一部ニ硝酸及鹽酸ヲ加フルニ透明ナリ即銀化合物ノ存在ヲ微セズ

三五、第三十三項ノ濾液ノ一部ニ硫化水素水ヲ加ヘ放置スルニ何等ノ變化ナシ即鉛化合物ノ存在ヲ微セズ

三六、二十三項ノ濾液ノ一部ニ硫酸ヲ加フルニ透明ナリ即ばりうむ化合物ノ存在ヲ微セズ

三七、第三十一項ノ濾液及洗滌液ヲ合シタルモノハ淡黄色透明ニシテ弱酸性ナリ之ヲこるべんニ取り空氣ヲ以テ殘餘ノくろるほむヲ驅逐シ水浴上ニ微熱シツ、硫化水素瓦斯ヲ通ズル事三時間ソレヨリ一夜密栓靜置シ翌朝開栓シテ檢査スルニ尙硫化水素臭甚シシテこるべん内容ハ帶黄淡褐色ニ潤濁シ瓶底ニ同色ノ沈澱多量存在ス之ヲ濾過シテ濾液(第三十八項ニ用ユ)ト沈澱(第四十二項ニ用ユ)トニ分ツ

三八、前項ノ濾液ハ淡褐色透明ニシテ弱酸性ナリ之ヲびーかーニ取り加熱シテ硫化水素ヲ瓦斯驅逐シ更ニ析出セル硫黄ヲ濾別シ濾液ヲ三分シテ第三十九項乃至第四十一項ノ檢査ヲ施行セリ

三九、前項ノ濾液ノ第一分ニあんに水ヲ加フルニ淡褐色ノ沈澱少許ヲ生ズ之ヲ濾別シ濾液ヲ醋酸々性トナシ硫化水素水ヲ加フルニ白色ノ沈澱少許ヲ生ズ然ルニ此沈澱ハ容易ニ硫化炭素ニ溶解ス即チ亞鉛化合物ノ存在ヲ微セズ

四〇、第三十七項ノ濾液ノ第二分ニ鹽酸及硫酸ヲ加フルニ何等ノ沈澱ヲ生ズ即チばりうむ化合物ノ存在ヲ微セズ

四一、第三十七項ノ濾液ノ第三分ヲ水浴上ニ蒸散乾固シ得タル殘渣ニ硝石合劑ヲ加ヘテ坩埚内ニ靜ニ溶解シ白色ノ融解物ヲ得冷却後之ヲ温水ニ取り濾過シ清明ナル濾液ヲ得タリ此濾液ヲ醋酸々性トナシ中性醋酸鉛水溶液ヲ加フルニ白色ノ沈澱多量ヲ生ズ即チくろるほむ化合物ヲ微セズ

四二、第三十七項ノ沈澱ヲ硫化水素ニテ洗滌シ温酸化あんに浸出スル

黃、砒素ノ定量

四九、第四十六項ノ第二分ハ更ニこるべんニ移シ鹽素ト少許ノ鹽素酸加里ヲ以テ所置シ水浴上ニテくろるほむヲ驅逐シあんに水ヲ以テ酸性ヲ減弱シ以下第三十七項ノ如ク所置シ淡黄色ノ沈澱少許ヲ得タリ此沈澱ヲ重量已知ノ濾紙ニテ濾別シ硫化水素水、あるこるべん、硫化炭素ヲ以テ洗滌シ更ニあるこるべんヲ以テ殘餘ノ硫化炭素ヲ去リ百十度ノ乾燥器ニテ乾カシ硫酸乾燥器内ニテ室温トナシ後秤量シテ得タル重量ヨリ濾紙ノ重量ヲ減ジ五硫化砒素ノ重量ヲ得タリ

五〇、前記五硫化砒素あんに水ニテ可吸ニ溶解シ水浴上ニテ蒸散乾固シ硝酸ニテ酸化シ水浴上ニテ過剩ノ硝酸ヲ去リ温水ニ取り僅ニあんに酸性トナシまぐねしや混合液ヲ攪拌シツ、滴加シ一夜靜置後得タル沈澱ヲ小濾紙上ニ集メ約三(アロセント)ノあんにあニテ佳ク洗滌シ得タル沈澱ヲ比重一・二ノ硝酸ト水ト等分ノ混合液ヲ以テ溶解シ水浴上ニ靜ニ硝酸ヲ蒸散シ數託トナシ重量已知ノ坩埚ニ移シ全ク乾燥セシメタル後ぶんぜん燈上ニテ三十分間強熱シ冷却後秤量シテ得タル重量ヨリ坩埚ノ重量ヲ減ジ焦性砒酸まぐねしやトシテソノ重量ヲ得タリ

五一、一般ニ砒素化合物ハ毒性強クソノ毒度ハ該化合物中ニ含有サレタル砒素ヲ亞砒酸ノ形ニテ含有スルモノト見做シタル毒度ニ略相當スルヲ以テ第四十九項、第五十項ニテ見出シタル砒素化合物ノ量ヲ亞砒酸ニ換算シテソノ毒度ヲ示スヲ便宜トス此目的ノ爲メニハ得タル重量ニ〇・六四ナル係數ヲ乘ズベシ

五二、前記ノ結果ニ依リ檢査物一三八・四瓦中ニハ五硫化砒素或ハ焦性砒酸まぐねしやトシテ〇・〇〇九六瓦アリ之ヲ亞砒酸ニ換算スレバ〇・〇〇六一

四四ニシテ胃腸及ソノ内容ノ全量ニ換算スレバ〇・〇六一四四瓦アリ

五三、上記ノ化學檢査ニ依リテトノ内臟中ニハ毒物トシテ砒素ノ稍多量ヲ檢出シソノ他ニハ毒物ト認ムベキモノヲ發見セズ故ニ以下ノ化學的檢査ハ金



屬性毒物ノ検査ノミニ限リ且砒素ヲ目標トシテ検査ニ從事セリ尙解剖検査ニヨレバkハ強酸若クハ強あるかりノ中毒ニ非ラザル事明ラカナルヲ以テ此検査ヲ省略ス

(ろ)脾、肝、腎ノ検査

五四、脾、肝、腎ヲ納メタル瓶ヲ開クニ腐敗臭ノ他特臭ナク臟器ハ一般ニ帶綠汚赤褐色ヲ呈シ暗赤褐色濃稠液ヲ交エ弱あるかり性反應ヲ呈ス全量一二三〇〇瓦アリ各臟器ヲ先ヅ剪刀ニテ細切シ之ヲ碎肉器ニテ尙微細ニ破碎シ液ト共ニ攪拌シテヨク混和後一二三〇〇瓦ヲ精密ニ秤量分取シ前記第三十一項乃至第五十項ノ如ク所置スルニ略同様ノ結果ヲ得明ニ砒素ノ存在ヲ論明スル事ヲ得タリ

五五、砒素定量ノ結果ハ左ノ如シ即検査物一二五瓦中ニ五硫化砒素トシテ〇〇〇七〇〇七〇〇〇七〇〇七六ナリ故ニ平均〇〇〇七五トシ亞砒酸ニ換算スレバ〇〇〇四四八トナル之ヲ全量ニ引キ直セバ〇〇四四八瓦ナリ

(は)骨ノ検査

五六、採取セル脛骨七〇〇瓦ヲ取り鋸斷シテ細片トナシ強鹽酸ニテ之ヲ溶解シ更ニ適當ノ水ヲ以テ稀釋シ水浴上ニ熱シツ、鹽素酸加里ノ粉末ヲ加ヘ以下略第三十一項乃至四十七項ノ如ク所置シテ極メテ幽微ナル砒素鏡ヲ得タリ

丁、總、括

五七、kハ是迄健康無病ナリシガ、本年六月九日夕食後二、三十分ニシテ苦悶、劇甚ナル腹痛少許ノ嘔吐、下痢、意識濁濁等ヲ來シ四、五時間ノ後容體甚ダ檢恐トナリ四肢厥冷シ脈搏幽微、呼吸不正ニシテ心臟機能次第ニ衰弱シ遂ニ死亡セリ此等ノ簡單ナル生前症狀ノ記載ニ依リテハ如何ナル疾病ニテ彼女ガ死亡セシヤヲ知ルニ苦シムト雖其症狀ニ依リテ非ラザルヤノ疑ヲ起サシム然ルニソノ解剖所見ニハ稍著ルシキ腸胃加答兒ノ症候アルノミ

異ナル解剖所見ヲ殘ス事ナシ

六三、反之急性胃腸加答兒ヲ以テ始マルモノハ砒素劑中毒ニ其ダ屢々見ル所ニシテ服後二、三時間或ハ時ニ依リテハ之ヨリ運ク咽頭食道ニ熱灼ノ感アリ次デ嘔氣、頻回ノ嘔吐、下痢ヲ來シ糞便米泔汁様ヲ呈ス、ソノ他裏急後重、煩渴、頭重、食慾不振倦怠等ヲ訴ヘ尿ハソノ量ヲ減ジ蛋白及血液ヲ含有シ時々尿閉ス四肢厥冷シ顔面四肢蒼白、四肢端ハ紫藍色トナリ脈搏小ニシテ呼吸苦シク胸膈胸内苦悶等アリ意識ハ明瞭ナルモ虛脱ニ陥リ最モ急性ノモノハ服後十數時間ニシテ死ニ至ル

六四、毒物ノ吸收稍緩徐ナルモノニアリテハ劇甚ノ嘔吐及ソノ他ノ前記ノ如キ症候ハ一、二日ニシテ輕快スルモ衰弱次第ニ加ハリ皮膚ニ熱灼ノ覺エ脈搏細小、頻數ニシテ不正トナリ口渴蛋白尿黃疸等ヲ來シ發病後第三乃至第五日乃至リ皮膚ニ紫斑丘疹疹癩等ヲ來シ衰弱益々増加シ遂ニ虛脱ニ陥リ服後三日乃至十日ニシテ死ニ至ルカ或ハ幸ニシテ劇甚ナル嘔吐、下痢ノ爲メ毒物ヲ身體外ニ排出シ終ル時ハ前記ノ症狀五日乃至十日間繼續スト雖次第ニ輕快ニ赴キ遂ニ全快スルモノアリ

六五、死體解剖所見トシテハ嘔吐、下痢甚シクソノ經過稍長キモノニ在リテハ眼窩陷沒シ皮膚弾力無ク腸間膜及胃腸漿膜面ノ血管ハ充血シ胃中ニハ膠様ニシテ粘稠ナル粘液ヲ容レ噴門部、幽門部、粘膜濁腫脹シ一部ニハ充血シ一部ニハ溢血點ヲ見ル事アリ大小腸ニ於テ粘膜ハ腫脹、潤濁シ溢血アル事アリ膠様ノ粘液ヲ以テ掩ハレ乳汁様ノ内容アリ腎肝ハ腫脹シソノ斷面潤濁ス又胃腸粘膜、肝臟、心筋等ニ脂肪變性ヲ來ス

六六、砒素劑ノ慢性中毒トシテハ輕キ或ハ重キ胃腸加答兒、黃疸胸膜及腹膜ノ炎症、頭重、頭痛、倦怠、知覺異常、麻痺、震顫孱縮、視神經炎、亞砒酸黑皮症、同角化症、精神抑鬱、不眠、營養不良、衰弱ヲ來シ此症狀甚ダ久シキニ互ル時ハ遂ニ衰弱ノ爲メニ死ニ至ル事アリ

毒物化學的證明鑑定例

ニシテソノ他ニハ何等死因トナリ得ベキ程ノ病的變化ヲ發見スル事能ハズ又此胃腸加答兒トテモ直接直ニ死ヲ來ス程ノモノニ非ラズ然ラバ彼ノ死因ハ何レニアリヤ

五八、然ルニ化學的毒物ノ檢索ニ依リテ予ハ彼ノ内臟ヨリ多量ノ砒素ヲ發見シ之ヲ亞砒酸ニ換算スレバ合計凡ソ〇・一〇六二四瓦トナル(第五十二項、五十五項參照)尙此毒物ハ全身ニ分布シ居リ彼ガ骨ノ一部ヨリスラモ予ハ之ヲ證明スル事ヲ得タル位ヒナレバ(第五十六項)ソノ全身ニ分布スルモノヲ捕集スル事ヲ得バ尙多量ノモノタルヤ疑ナシ而シテ亞砒酸ノ人ニ對スル致死量ハ〇・一一〇・二瓦ナレバkハソノ致死量以上ヲ攝取シ以テ中毒死ニ至リシモノナラム

五九、然ラバ砒素劑ガ中毒ニシテ此ノ如ク短時間ニテ死ニ至リ且何等特有ナル解剖所見ヲ殘サザルモノアリヤ予ハ次ニ砒素劑ガ一般ニ人身ニ及ボス作用換言スレバ中毒症狀解剖所見等ヲ成書ヨリ摘記シクソノ相對照セント欲ス

戊、砒素劑ノ一般人身ニ及ボス作用

六〇、砒素劑ト雖ソノ少量ハ毒物ニ非ラズ藥物トシテ使用セラルル凡ソ〇・一乃至〇・五瓦ヲ用ユル時ハ始メテ中毒症狀ヲ來シ約〇・一乃至〇・二瓦ヲ用ユル時ハ通常人ヲ死ニ致スモノナリ

六一、砒素劑ノ人身ニ及ボス作用ハ之ヲ溶解セル形ニ於テ服用セシト或ハ不溶ノモノヲソノマ、攝取セシトニ依リテ中毒症候ヲ來ス時間ニ遲速アリ或ハ中毒者ノ年齢、男女ノ別、胃ノ狀態、個人特異性等ニ依リテ中毒ノ症候ノ勝レルモノトノ二種アリ

六二、神經症狀ノ重キモノニ於テハ服後一、二時間ニシテ頭重、頭痛、眩暈、意識濁濁、失神、譫語、痙攣、麻痺等ヲ來シ數時間乃至十數時間ノ後ニ死ニ至ル砒素劑中毒ガ此形式ヲ取ルハ稍稀ニシテ甚ダ急性ニ經過スル爲メ特

攝取サレタル砒素劑ノ大部ハ嘔吐下痢等ニ依リテ排出サル、トキト雖一部ハ吸收サレテ血行内ニ移行シ全國各臟器ニ分布貯藏サレテ中毒者ガ幸ヒソノ

再ビ血行内ニ移行シ徐々ニ胃腸壁及腎臟等ヨリ(即大便及尿中)ニ排出サレ此ニヨリテ更ニ輕キ砒素中毒症狀ヲ惹起シ所謂慢性中毒ニ移行スルモノニシテ一度攝取セシ砒素劑ガ大便尿等ニ排出セラル、ハソノ攝取セシ量ニ依リ多少差異アリト雖數日乃至二、三ヶ月ニ互ル事アリト云フ

六七、多量ノ砒素劑ヲ取リ中毒セルモノ、豫後トシテハ急性ニ經過シ且神經性症狀甚ダシキモノニ於テハ中毒後數時間乃至十數時間ニシテ死ニ至リ次ニ胃腸症狀ノ甚ダシキモノニ於テ數日中ニ死亡シ或ハ吐瀉ノ爲メ幸ニ毒物ノ大部分ヲ體外ニ排出スル時ハ漸次輕快ニ赴クト雖所謂慢性砒素中毒ニ陥リ衰弱ノ爲メ一、二ヶ月後死ニ至ルカ或ハ全快ス即チ豫後ニ付テハソノ中毒症候ノ強弱、攝取セル方法、毒物ノ量、年齢、男女ノ別、胃ノ狀態、治療ノ如何、個人特異性等ニ大ナル關係アルモノナレバ一概ニ之ヲ論定スル事能ハズ

己、結 論

六八、kハ是迄健康ナリシガ六月九日夕食後急ニ胃腸加答兒及神經性症狀ヲ起シ心臟衰弱ニ依リ四、五時間後死亡セリ(第一、二項)今ソノ死因ヲ究ムルニ解剖検査上稍著シキ胃腸加答兒アルノミニシテソノ他ニハ死因トナルベキ程ノ病變ヲ發見スル事能ハズ(第三項乃至二十一項)然ルニ一面化學的檢査ニ於テ彼ノ死體内ヨリ砒素劑ヲソノ致死量以上ニ發見セル事(第二十二項乃至五十六項)他面ニ彼ガ生前ニ於ケル症狀及解剖所見(第一乃至二十一項)ト第六十二項ニ記載セル一般ニ砒素劑ノ人身ニ及ボス作用中ソノ神經症狀ノ重キモノト比較スル時ハ甚ダ相似タルモノアル事ヲ併セ考レバkハ砒素劑ノ中毒ニ依リテ死ニ至リシモノナリ

第二、K、K検査記録



〇〇〇〇郡〇〇町大字〇〇

K、 K

二十八歳

甲、既往歴及今回ノ病歴

六九、Kハ生來健康ニシテ脚氣ヲ經過セル事無ク且下輕快セル眼病ノ他著患無シ

七〇、大正〇年六月九日午後七、八時頃母(K)ト共ニ夕食トシテ米ノ粉ノ團子入ノ茶粥三碗(一碗 容量約二百託)ヲ食ヒタルガ内ニ二碗ハ團子ノ混在セザル部ニシテ不快ヲ感ゼザリシモ第三碗ハ團子塊ヲ混在シテ腐敗臭ヲ帯ビ居タル爲メ少シク嘔氣ヲ催セリト云フ食後約三十分ニシテ胸部ニ苦悶ヲ覺エ腹痛甚シク執拗ニ反復スル激烈ナル嘔吐ヲナセリ吐物ハ全體薄桃色ニ血液ヲ以テ染メラレタリト云フ但シ醫師ハ之ヲ檢セザリシト此時同醫師ノ與ヘシ處方中ニ次硝酸蒼鉛アリ

七一、同日午後八、九時頃I醫師ノ診セシ處ニ依レバ症狀殆ド母ト同ジク(第一、二項唯嘔吐ノミハ著シク夥多ナリシモノ、如シ面シテ比較的元氣ヨク醫師ニ病況等ヲ物語レリ

七二、同日午前一時頃同醫師ノ再診セシ時ニハ稍輕快ニ向ヒ腹痛少シク減退ノ兆アリシモ此時ヨリ意識稍濁濁セルノ觀アリ顔面少シク潮紅シ居タル様ニシテ全ク睡眠スルコトヲ得ザリシト云フ、同醫師ハ樟腦油一筒ノ皮下注射ヲナシ且興奮劑ヲ與ヘ置キ中毒ノ疑ヒ有ルニヨリ同日午前八時頃K I醫師ノ立會ヲ求ムルニ至レリ

七三、同日午前八時頃K、I醫師ノ診スル處ニヨレバ猶安眠シ得ズ苦悶狀態ニアリ口唇紫藍色ヲ呈シ脈搏毎分約百、不整ナレ共結滯セズ心窩部ニ自發痛並ニ壓痛アリ時々嘔吐ス吐物ハ胆汁様物ノミニシテ食物ノ殘餘ヲ見ズ又血液様物ノ混入ヲ見ズ顔面ノ潮紅及表皮剝脫無シ瞳孔ノ大サ尋常、視力障礙無シ、渴甚ク強ク不斷ニ「水々」ト絶叫スルモ食思ハ殆ド皆無、腹部膨

滿ヲ見ズ頭重アレドモ頭痛ヲ缺ク、咽頭部ハ之ヲ檢セズ、四肢ノ麻痺ハ之ヲ檢セズ、又麻痺ノ訴無シ下痢一回モ無キ爲メI醫師ハ十日午前九時頃約五百瓦ノ食鹽水注射ヲ行ヒシニ後間モナク水様便二回瀉出セリ(注射物ノ逆流)爾後又便通ヲ缺ク

七四、嘔吐ハ九日發病當時ヨリ翌十日正午頃間斷ナク持續シテ殆ド入口ノ間(此處ヨリ頭ヲ伸シテ前ノ土間ニ吐セリ)ヲ離ル、ノ暇無ク内服藥モ嚥下後多クハ直ニ吐出セリト云フ吐物ハ九日中ハ食物ノ殘物ニシテ血液ノ爲ニ全體淡紅色ヲ呈セシモノ十日ニ至リテハ腹已ニ空虚トナリテ又食物ノ殘物ヲ混ゼズ唯苦キ液(胆汁)ノミニシテ中ニ所々血液ニヨル點狀ノ桃色ノ部分ヲ見タリト云フ此時ノ吐物ヲ化學檢査ノ爲ニ交附セラレリ

七五、十一日ノ病狀ハ已ニ腹痛無ク唯嘔吐時々有ルノミ、嘔吐中ニ一回一疋ノ生存セル蠅蟲ヲ出セリ食慾全ク無ク猶睡眠障礙アリキ二日ノ症狀ハ十一日ト大差無ク更ニ稍輕快ニ赴ケリ

發病以來持續セシ睡眠障礙ハ十二日ノ夜ヨリ少シク減退シ稍就眠スルコトヲ得食慾モ亦其頃ヨリ少シク生ジタルニヨリ薄粥少許ヲ與ヘシガ直ニ嘔吐シタリ

七六、十三日朝空腹ヲ感ジ再粥ヲ食セシニ大部分ハ收マリシモ少許ハ之ヲ嘔吐セリI醫師ノ處方ニ依レバ今日迄砒素劑ヲ處方セシ事一度モ之レナシト云フ予ハ此日I醫師ト共ニKノ住所ニ至リ親シク患者ヲ視ヒI醫師ヲシテKヲ診察セシメタリソノ現在徵候ハ左ノ如シ

乙、大正〇年六月十三日午前十時ニ於ケル現在症候

七七、體格營養共ニ中等ノ男子ニシテ皮下脂肪層及筋間ノ發育中等ナリト雖元氣無ク不安ノ狀アリ牀上ニ臥セリ右側位ヲ好ム(コハ差明ノ爲ニシテ左側ヨリ光線ノ入レル室ニ在リシ故ナリ)呻吟ヲ聞カズ意識殆明瞭ナルモノ、如シ顔面皮膚紅潮シ頓、鼻及上下顎骨ニ於テ所々表皮ノ剝脫セルヲ見ル顯幹、四肢ハ稍蒼白ナレドモ棒ヲ以テ輕ク擦過スレバ暫時ノ後其痕ニ強度

ノ充血ヲ生ズ(「でもぐらふい」)發疹ヲ認メズあの一ゼ及浮腫無シ脈搏毎分七十五擊ニシテ稍弱ナリ

七八、頭部毛髮濃ク脫毛及外傷無シ自發痛並ニ壓痛ヲ訴ヘズ前額ニ蠶豆大ノ古キ傷痕アリ眼閉チ強ヒテ開カシムルモ又直ニ閉ジ(羞明)眼脂及涙液ノ分泌過多充血モ亦著明ナリト雖視力及聽力異常無キモノ、如シ左耳ニ膿漏アリト雖之ハ發病前ヨリモノニ屬ス舌ハ灰白黃色ノ厚キ苔ニ掩ハレ口腔臭氣強シ口腔並ニ咽頭ノ粘膜發赤シ咽頭ニ於テハ輕度ノ腫脹ヲ伴フ扁桃腺腫大セズ咽頭部ノ熱ノ灼感無シ頸部壓痛無シ

七九、胸廓ハ左右平等ニシテ胸部外面ニ特記スベキ異常ナク心尖搏動ハ見エザルモ左乳頭ノ内下方ニ之ヲ觸レ心臓ノ濁音界、上ハ第三肋間、右ハ胸骨左緣、左ハ左側ノ乳頭ヨリ半裡内方(肥大ナシ)ニアリ心管各部ニ於テ微弱ナリト雖明瞭ニシテ濁音ヲ伴ハズ右鎖骨上高ニ於テ著明ナル獨樂音ヲ聞ク肺臟打及聽診上異常ナシ

八〇、腹部尋常、胃部ニ輕度ノ壓痛ヲ存スルモ自發痛無シ肝臟下緣ハ右乳線ニ於テ肋骨弓ノ下緣ニ在リ(肥大無シ)脾臟及腎臟ヲ觸レズ又其部及膀胱部ニモ壓痛無シ

八一、兩上肢ノ手關節ヨリ以下全部及左下腿ニ知覺異常アリ何時頃ヨリ始マリシモノカ不明ニシテ共ニ觸覺甚シク減退ス(痛覺及溫覺ハ之ヲ檢セズ)運動障礙ヲ見ズ右下腿ニハ異常ナシ(兩下腿ノ浮腫無シ、腹皮反射提舉筋反射、膝腱反射等異常ヲ見ズ

右拇趾ばびんすき一位置ヲ探リシばびんすき一現象ヲ缺ク

丙、尿檢査

(六月十三日午後ニ排泄セル尿ヲ同日午前九時ヨリ十五日正午ニワタリ京都醫科大學法醫學教室ニ於テ檢査ス)

上、化學的一般檢査

八二、黃褐色ニテ輕度ノ濁濁ヲ帶ビ弱酸性反應ヲ呈ス(健者ノ尿ハ透明ナリ蛋白尿ノ時ニ通常濁濁ス)

葡萄糖ヲ檢スルニとるんめる氏法ニテ陰性ナリ次ニ尿ニ同量ノ鹽酸ヲ加ヘ更ニ石灰水微量ヲ滴下スルモ青藍色ヲ呈セズ更ニくるゝふおるむヲ加ヘテ振盪スルモ其青藍色ニ染ムヲ見ズ即チいんぢかんノ存在ヲ檢セズ更ニ尿中ノ蛋白ヲ檢スルニ(一)「ゆるる」氏法ニテ陽性(但輕度ニ)、(二)「煮沸法」ニテ陽性(但同輕度ニ)、(三)「濾過シテ透明トナレル少許ニ鹽酸ノ僅微量ヲ加ヘシモノ」ニ三倍ニ稀釋セルふえろちあん加里ヲ滴下スルニ忽ニシテ微弱ナル濁濁ヲ生ズ(陽性)

即チ蛋白存在スル事明ニシテコハ腎臟炎ノ際ニ見ル現象ナリ

中、顯微鏡的檢査

八三、依テ尿ノ少量ヲ取リテ遠心器ヲ以テ浮遊物ヲ集メ之ヲ顯微鏡下ニ檢セリニ其結果左ノ如シ

(一)白血球陽性(腎臟炎ノ尿中ニ多ク出ヅ)

(二)赤血球 陰性(腎臟炎ノ尿ニ比較的ニ稀ニ出ヅ)

(三)顆粒狀及硝子樣圓柱、共ニ陽性但小數(腎臟炎ノ尿中ニ屢出ヅ)

(四)腎臟其他尿道上皮細胞陰性 慢性(腎臟炎ニ屢々檢出ヅ)

(五)黃色ニシテ光輝アル砂時計形ノ尿酸結晶ニ似ル結晶陽性(急性ノ下痢又ハ腎臟炎ノ時ニ多ク見ラルモノ)

(六)多數ノ細菌 陽性(之ハ尿ヲ空中ニ放置セシ爲メ發生セルモノナリ)

下、化學的毒物檢査

八四、尿百瓦ヲ探リ第三十一項乃至第四十八項ノ如ク所置シテ檢査スルニ極メテ幽微ノ砒素鏡ヲ得タリ但シ其他ノ金屬性毒物ノ存在ヲ檢セズ

丁、嘔吐物(六月十日午前一時吐出)檢査

上、一般檢査

八五、檢査物ハ汚黃綠色ノ液ニシテ不快ナル腐敗臭強ク弱酸性反應ヲ微ス内ニ鑑別シ難キ微細不定形ノ汚黑色ノ沈澱少許アリ吐物ヲ顯微鏡下ニ檢査スルニ表面ノ近キ部分ニ於テハ(上清液)細菌(後日發育セルモノ)多數ノ他何



等有形物ヲ認メズ底部ノ沈澱ハ少許ノ有形物アリト雖腐敗高度ノ爲メソノ何タルヤヲ鑑別スル事能ハズ但結晶物ノ存在ヲ認メズ

下、金屬性毒物検査

八六、検査物ノ一〇〇〇瓦ヲ取り第二十一項乃至第四十八項ノ如ク所置スルニ砒素ノ存在ヲ微セズシテ若鉛稍多量ニ存在スル事ヲ知レリ念ノ爲メ同様ノ所置ヲ更ニ一回繰返スモ同様ノ結果ヲ得タリ

戊、診斷(中毒ノ原因、種類、作用ノ説明)

八七、僅ニ一回ノ診察ノミニ依リテKノ病因ヲ確定スル事困難ナルヲ以テ上記既往歴及今回ノ病歴(第六十九項乃至七十六項)現在症候(第七十七項乃至八十二項)尿及吐物ノ検査(第八十二項乃至八十六項)ヲ綜合シテ考察スルニKノ病症ハ急性砒素中毒症ノ經過中ニ在リソノ理由左ノ如シ

作用中胃腸症狀ノ偏勝セルモノトヲ對照スル時ハ其ダ相類似スルモノアルヲ知ルベシ

己、本病ノ豫後

九〇、Kハ胃腸症狀ノ偏勝セル急性砒素劑中毒ニ罹リタレ共幸ニシテ毒物ノ大部ハ其シキ嘔吐ニヨリ排出シタル爲メ生命ニハ別條ナク只一部分吸收サレ血行内ニ移行シ臟器ニ貯藏サレタル砒素ガ再ビ胃腸壁ニ析出スル爲メ急性ノ砒素劑中毒症狀ノ後ニ亞急性次慢性中毒症狀ヲ來シ(第六十五項參照)Kノ平常ノ體質ニシテ強壯ナルモノナレバ十數日乃至一、二ヶ月ノ後ニ全快スベク若シ彼ノ體質ニシテ羸弱ナルモノナレバ頗ル長期ニ亙リ或ハ衰弱ニ依リテ死ニ至ル事アルベシ余ガ見タル彼ノ體質ヨリ考フレバ恐ラクハ一、二ヶ月中ニ次第ニ輕快ニ赴クナルベシ但シ己ニ第六十七項ニ述ベタルガ如ク總ベテ中毒症ノ豫後ハ、ソノ症候ノ強弱、毒物ヲ攝取セシ方法、量中毒者ノ年齢、男女ノ別、胃腸ノ状態、治療ノ如何等ニ依リテ一定ナラズ又假令此等ノ原因ヲ同フスルトモ個人特異性ニ依リテ大ナル徑庭ヲ生ズ

ルモノナレバ豫後ヲ確定スル事ハ甚ダ困難ナリ

第三 K、k兩名ガ共ニ砒素劑中毒ニシテ而モソノ結果同ジカラザリシ理由

九一、己ニ第六十一、六十七、第九十項ニ於テ述ベタル如ク一般ニ中毒ノ症狀、豫後ハ假令同毒物ヲ同時ニ同量攝取スルト雖ソノ中毒者ノ年齢、男女ノ別、胃腸ノ状態、個人特異性ニ依リテ甚シキ差異アルモノナレバ己ニ類齡ニ傾ケル老女k(六十三年)ト年尙壯ナル男子K(二十八年)トノ間ニ同ジク砒素劑ヲ取りナガラソノ中毒ノ症候、豫後即チ中毒ノ結果ニ大差ヲ來シ一ハ死亡シ他ハ相當ノ時日後輕快ストモ敢テ怪ムニ足ラズ況ンテ攝取セシ毒物ノ量、兩人ノ胃腸ノ状態等必ズシモ同様ニ非ラザリシト思ハル、點アルニ於テオヤ

第四 第一號證(米粉)検査

甲、一般検査

九二、第一號證ハ白色ノ粉末ニシテ無臭、無味、全量六十六瓦アリ一少部分ヲ載物硝子板上ニ取り蓋硝子板ヲ被セ水ヲ注加シ鏡檢スルニ無數ノ白色顆粒内ニ稍多數ノ無色多角形ノ結晶形物ヲ認メ注意シテ檢スレバ此結晶形物ノ内ニハ正整ナル八面體ヲナスモノアリ

乙、化學的検査

九三、検査物六〇瓦ヲ取り適量ノ水ト鹽酸ヲ加ヘ水浴上ニ加温シツ、時々鹽酸加里ノ粉末少許ヲ加ヘ有機物ヲ碎解シ以下第三十一項乃至第五十二項ノ如ク處置シテ金屬性毒物ヲ檢シ砒素ノ頗ル多量ヲ檢出シ且之ヲ定量シ焦性砒酸まぐねしヤトシテ〇・四〇一五ヲ得タリ

九四、檢出セル砒素劑ハ(第九十二項ニ據レバ無色多角形ノ結晶性物ニシテ内ニ正整ナル八面體アルヲ以テ)亞砒酸ナル事確實ナリ故ニ之ヲ亞砒酸ニ換算スレバ検査物六〇五中ニ〇・二五六六瓦アリ即チ全量六十六瓦中ニハ亞砒酸二・五六六ヲ含有シ尙本検査物約三瓦以上ヲ攝取セシムル時ハ人ヲ

毒物化學的證明鑑定例

死ニ致ス事ヲ得ルモノナリ(亞砒酸ノ致死量ハ〇・一五二瓦)

第五 第二號證(菓子)検査

甲、一般検査

九五、本検査物ハ白色ノ粉塊二個ニシテ脆ク表面ハ淡黑色ニシテ稗粒大乃至罌粟粒大ノ微簇多數存在ス特異味ナシソノ剝離セル小粉末ヲ載物硝子板上ニ取り蓋硝子板ヲ被セ少許ノ水ヲ加ヘ鏡檢スルニ數多ノ白色顆粒ト共ニ稀ニ正形或ハ不正形ノ八面體ヲ認ム全量三三・〇瓦アリ

乙、化學的検査

九六、ソノ各個ヨリ略同量ヲ剝取シ五瓦ヲ得之ヲ以テ第三十九項ニ於ケルガ如ク處置シ其ダ多量ノ砒素ノ存在ヲ證明スル事ヲ得タリ即チ亞砒酸ノ存在スル事明ナリ定量ノ結果、硫化砒素トシ〇・三二六〇瓦焦性砒酸まぐねしヤトシテ〇・三二二〇瓦ヲ得タリ即チ之ヲ亞砒酸ニ換算スレバ検査物五・〇瓦中平均〇・二〇七〇瓦トナル之ヲ全量ニ換算スレバ一・三四五五瓦アリ故ニ本検査物約三・〇瓦以上ヲ攝取セシムル時ハ人ヲ死ニ致ス事アリ

第六 第四號證(米粉)検査

甲、一般検査

九七、本検査物ハ純白ノ粉末ニシテ無臭無味ナリ全量五十五瓦アリソノ一少部分ヲ取り第九十二項ノ如ク鏡檢スルニ澱粉顆粒ノ多數ト共ニ無色多角形ノ結晶物及八面體稍々多量混在セリ

乙、化學的検査

九八、本検査物ノ五瓦ヲ取り第九十三項ニ於ケルガ如ク處置シ明ニ砒素ノ存在ヲ證明スル事ヲ得タリ即チ亞砒酸ノ存在確實ナリ定量ノ結果焦性砒酸まぐねしヤ或ハ五硫化砒素トシテ〇・三八〇瓦アリ之ヲ亞砒酸ニ換算スレバ〇・二四四二瓦ナリ故ニ全量中ニハ亞砒酸二・四四二瓦アリ故ニ本證據品約三瓦以上ヲ攝取スル時ハ人ヲ死ニ致ス事アリ

第七 第六號證粥検査







鹽酸(かいん)	女	男	五	石	五
亞硝酸(青毒)	女	男	五	五	五
合計	二	二	四	五	五

第百二十六表 中毒藥品類別表(内務大臣官房文書課調)

種別	昭和二年		昭和元年		大正十四年	
	患者	死亡	患者	死亡	患者	死亡
河豚	二九	九	一〇	六	一〇	六
毒草類	一八	一	一	一	一	一
腐敗食物	一六	一	一	一	一	一
阿片及も	五九	三	一	一	一	一
すとりき	三三	一	一	一	一	一
石炭酸	一七	一	一	一	一	一
硫酸	四六	一	一	一	一	一
硝酸	一〇	一	一	一	一	一
苛性アルカリ	二六	一	一	一	一	一
水銀及汞	一五	一	一	一	一	一
格魯酸	一〇	一	一	一	一	一
その他	一五	一	一	一	一	一
合計	二四九	一七	二一	一三	二一	一三

第百二十七表 昭和三年中ニ顯レシ中毒統計

中毒物質	患者		死亡		合計	
	患者	死亡	患者	死亡	患者	死亡
石炭酸	四七	二	四	一	五一	三
ふおるまりん	六五	一	一	一	六六	二
青酸及ビ其鹽類	二五	一	一	一	二六	二
硝酸	五九	一	一	一	六〇	二
硫酸	七九	一	一	一	八〇	二
苛性アルカリ	一〇	一	一	一	一一	二
毒草類	一五	一	一	一	一六	二
腐敗食物	一五	一	一	一	一六	二
阿片及も	一五	一	一	一	一六	二
すとりき	一五	一	一	一	一六	二
石炭酸	一五	一	一	一	一六	二
硫酸	一五	一	一	一	一六	二
硝酸	一五	一	一	一	一六	二
苛性アルカリ	一五	一	一	一	一六	二
水銀及汞	一五	一	一	一	一六	二
格魯酸	一五	一	一	一	一六	二
その他	一五	一	一	一	一六	二
合計	二一七	一三	二一	一三	二三八	二六

第百二十八表 昭和九年ニ於ケル飲食物及藥品中毒

中毒物質	患者		死亡		合計	
	患者	死亡	患者	死亡	患者	死亡
石炭酸	一八	一	一	一	一九	二
ふおるまりん	一八	一	一	一	一九	二
青酸及ビ其鹽類	一八	一	一	一	一九	二
硝酸	一八	一	一	一	一九	二
硫酸	一八	一	一	一	一九	二
苛性アルカリ	一八	一	一	一	一九	二
毒草類	一八	一	一	一	一九	二
腐敗食物	一八	一	一	一	一九	二
阿片及も	一八	一	一	一	一九	二
すとりき	一八	一	一	一	一九	二
石炭酸	一八	一	一	一	一九	二
硫酸	一八	一	一	一	一九	二
硝酸	一八	一	一	一	一九	二
苛性アルカリ	一八	一	一	一	一九	二
水銀及汞	一八	一	一	一	一九	二
格魯酸	一八	一	一	一	一九	二
その他	一八	一	一	一	一九	二
合計	一四九	一〇	一四	一〇	一六三	二〇

種別	昭和二年		昭和元年		大正十四年	
	患者	死亡	患者	死亡	患者	死亡
河豚	二九	九	一〇	六	一〇	六
毒草類	一八	一	一	一	一	一
腐敗食物	一六	一	一	一	一	一
阿片及も	五九	三	一	一	一	一
すとりき	三三	一	一	一	一	一
石炭酸	一七	一	一	一	一	一
硫酸	四六	一	一	一	一	一
硝酸	一〇	一	一	一	一	一
苛性アルカリ	二六	一	一	一	一	一
水銀及汞	一五	一	一	一	一	一
格魯酸	一〇	一	一	一	一	一
その他	一五	一	一	一	一	一
合計	二四九	一七	二一	一三	二一	一三

第百二十九表 英國ニ於ケル中毒自殺表

種別	自殺		兇死	
	患者	死亡	患者	死亡
石炭酸	一八〇	七	二〇〇	一
リゾール及石炭酸	四二	九	一〇〇	一
青酸及ソノ化合物	八七	二	一〇〇	一
硫酸	五四	二	一〇〇	一
アンモニア	三三	一	一〇〇	一
苛性アルカリ	三三	一	一〇〇	一
水銀及汞	二九	一	一〇〇	一
格魯酸	二二	一	一〇〇	一
その他	一一	一	一〇〇	一
合計	二八	一	一〇〇	一

此ノ如ク中毒ニ用キラル、毒物ノ種類甚ダ多キヲ以テ、通常之ヲ次ノ分類法ニ從ヒテ區分シ、相似ノ毒物ハ互ニ相關連シテ説明スルヲ便利トス。

(甲) 腐蝕毒、重ニソノ接觸セシ局部ヲ犯スモノ。

(乙) 實質毒、主トシテ吸收サレ遠隔ニアル臟器ノ實質ヲ犯スモノ。

(丙) 血液毒、重ニ血液ヲ犯シテ中毒ヲ來スモノ。

(丁) 心臓及神經毒、主トシテ吸收ニヨリ心臓及神經系統ヲ犯スモノ。

今此等ノ分類法ニ從ヒ、吾人ガ最モ屢々遭遇スル藥劑ニ付、順次ソノ作用、中毒症狀、剖檢所見、致死量及化學的證明ノ大要ヲ述ベント欲ス。但シ稀有ナル毒物ニ就テハ、此ノ如キ小冊子ノ記載スベキ範圍ニ非ラズト信ジ省略スルコト、セリ。

**甲、腐蝕毒**

腐蝕毒トハ已述ノ如ク重ニ接觸部位ニ凝固或ハ崩解壞疽ヲ來スモノニシテ、之ヲ分子テ次ノ五種トナス。

(イ) 腐蝕性酸類、硫酸、鹽酸、硝酸、石炭酸等。

(ロ) 腐蝕性あるカリ、なとろん或ハかり滴汁等。

(ハ) 腐蝕性鹽類、昇汞、硝酸銀等。